函館短期大学
保育学科
シラバス 2019
（授業計画等）



保育学科			
教育目標	アドミッション・ポリシー(AP)	カリキュラム・ポリシー(CP)	ディプロマ・ポリシー(DP)
保育学科の教育目標	保育学科の入学者受け入れの方針	保育学科の教育課程編成・実施の方針	保育学科の学位授与の方針
以下の人材を養成することが保育学科の教育目標である。 1. 子供の利益を尊重し、人として尊敬される豊かな人間性を身に付けた人材 2. 子供の発達や心の動きに合わせた保育と保護者に対する相談支援ができる確かな専門性を身に付けた人材 3. 子育ての環境について、地域と食育を関連付け考えることができる人材	保育学科の教育目標を理解し、以下の資質を有することを期待したい。 **【知識・技能】** 1. 高等学校卒業相当の知識を有し、幼児教育や保育分野の専門的な学習に必要な基礎学力を身に付けている人 **【思考力・判断力・表現力】** 2. 幅広い教養と専門知識、高いコミュニケーション力を身に付けようとする人 3. 本学の学園訓をよく理解し、自らがなすべきことを見出してボランティアなどの学外活動に積極的に参加しようとする人 4. 自分の将来に向けて具体的な目標を持ち、他者に自分の考えを的確に表現できる人 **【主体的に協働する態度】** 5. 人の長所を大切にして、明るくコミュニケーションできる人 6. 子供が好きで、子供と子供を取り巻く環境の課題に関心を持ち、それらの解決に向けて主体的に他者と協働して学ぶ態度を有している人	保育学科の教育目標及びディプロマ・ポリシーを達成するために、以下のようにカリキュラム(教育課程)を編成する。 1. 短期大学士の学位に相応しい幅広い教養を身に付ける「基礎教育科目」並びに保育者に必要な専門的知識・技術を身に付ける「専門教育科目」を基盤とし、主体的、能動的に課題に取り組もうとする態度や意欲を形成する。 2.「基礎教育科目」の「社会人基礎論」及び「教養ゼミナール(S・L)」を基軸として、「専門教育科目」の実習・演習を通して、コミュニケーション力と総合的な「社会人力」を形成する。特にS・LⅡでは、地域課題解決型学習(PBL)にも取り組み、地域社会に貢献しようとする資質を養う。 3.「専門教育科目」では、講義・演習の学びと併せて各種実習のほか、フィールド学習などを通して1つの課題を多面的に把握して考察できる能力を培う。 4. 食育と音楽表現に重点を置き、より高い目標を持つ多様な学生が自ら学修計画を立て主体的な学びを実践できるように、保育士資格に加えて以下の資格取得も可能とする。 ○幼稚園教諭二種免許 ○レクリエーション・インストラクター　○食育指導士® ○保健児童ソーシャルワーカー　○准学校心理士 ○マイクロソフト　オフィス　スペシャリスト(Word, Excel, PowerPoint) ○社会福祉主事任用資格　○介護職員初任者研修	保育学科の教育目標を達成し、卒業認定に必要な所定の単位を修得して、以下の資質と能力を持つ者に短期大学士(保育学)を授与する。 **［知識・技能］** 1. 保育と子育て支援に必要な専門的知識と技術、とりわけ食育知識と音楽表現技術を有し、子供の成長を促すことができる。 2. 地域の特性を的確に把握し、保育に反映させることができる。 3. 保育者の社会的使命を理解することができる。 **［思考力・判断力・表現力］** 4. 子育て環境を深く分析して、課題や問題を見つけ出し、その解決に向けて計画的に考え、答えを導き出す能力を身に付けている。 5. 身に付けた知識と技能を生かし、物事を的確に認識して評価できる能力を身に付けている。 6. 生涯にわたって学び続け、身に付けた知識や技能並びに経験を分かりやすく他者に伝えることができる。 **［コミュニケーション力・社会人力］** 7. 専門職業人としての高い倫理観を保持し、社会に貢献しようとすることができる。 8. コミュニケーション力を身に付け、他者と協働して課題を解決しようとすることができる。 9. 他者への思いやりと柔軟な対応力を持つことができる。

函館短期大学 2019年度 行事予定表【学生用】

2019年度

		2019年 10月	11月	12月	2020年 1月	2月	3月	
1	火	（保2）保育実習Ⅰ（保）事前指導	金 総合型選抜合格発表	日 短大閉鎖	元旦 水 短大閉鎖	土 《入学試験》推薦Ⅱ期,一般Ⅰ期,社会人Ⅰ期	日	1
2	水		月曜日授業実施 土 総合型選抜入学手続～3/25(金)	月 特別奨学生・推薦Ⅰ期合格発表	木 短大閉鎖	日 短大閉鎖	月	2
3	木		文化の日 日 短大閉鎖	火 特別奨学生・推薦Ⅰ期入学手続～12/17(火)	金 短大閉鎖	月 【食1,2】【保1,2】試験対策日	火	3
4	金	（保2）保育実習	振替休日 月 短大閉鎖	水	土 短大閉鎖	火 【食1,2】【保1,2】追再試験	水	4
5	土	月曜日授業実施	火	【保2】国内研修旅行（文化交流） 木 推薦Ⅱ期・一般Ⅰ期・社会人Ⅰ期願書受付開始～1/24（金）	日 短大閉鎖	【食1,2】【保1,2】追再試験 水 【保1】実習事前訪問オリエンテーション 推薦II期・一般Ⅰ期・社会人I期合格発表	木	5
6	日	短大閉鎖	水	金 【保2】国内研修旅行（文化交流）	[教職員]短大業務開始 月 後期授業再開	MOS講習日 木 【食2:P】【保1:W】【保2:E,P】 推薦Ⅱ期・一般Ⅰ期・社会人Ⅰ期入学受付～2/20（木）	金	6
7	月		木	【保2】国内研修旅行（文化交流） 土 【食2】土曜日授業実施/PM補講 【食1】【保1】*補講日	火	成績提出締切日 金 MOS講習日 【食2:P】【保1:W】【保2:E,P】	土 短大閉鎖	7
8	火		金 特別奨学生願書受付締切	日大通信[施設貸出] 日 栄養士実力認定試験（予定）	木	MOS試験日 土 【食2:P】【保1:W】【保2:E,P】	日 短大閉鎖	8
9	水		土 火曜日授業実施	月	木	日 短大閉鎖	月	9
10	木		日 短大閉鎖	火	金	月 （食）栄養教育実習事前事後指導	火	10
11	金		月	水	【保2】月曜日授業実施 土 【保2】PM:保健児童ソーシャルワーカー認定試験	建国記念の日 火 短大閉鎖	水 一般Ⅱ期・社会人Ⅱ期願書受付締切	11
12	土	（函短）大学祭前夜祭（予定）	火	木	日 短大閉鎖	水 （保）保育実習Ⅰ（保育所）	木	12
13	日	函短　大学祭（予定）	水	金	成人の日 月 短大閉鎖	木 （保）保育実習Ⅰ（保育所）	金 【食2】【保2】卒業式予行練習 2年次最終SL	13
14	月	体育の日 短大閉鎖	木	【食2】土曜日授業実施 土 【保1,2】火曜日授業実施 【食1】補講日	火	金	土 第66回卒業証書・学位記授与式	14
15	火		金 推薦Ⅰ期願書受付締切	日大通信[施設貸出]9:00～16:00 日 ﾌｰﾄﾞﾌｧﾍﾞｼﾘｽﾄ資格認定試験（予定）	水 【食1,2】【保1】補講日	土 【保1】保育実習Ⅰ(保)事中指導	日 短大閉鎖	15
16	水		土 《入学試験》特別奨学生	月	木	日 短大閉鎖	月	16
17	木		日 短大閉鎖	火 特別奨学生・推薦Ⅰ期入学手続締切	金	月 （食）中学校教育実習Ⅰ期	火 《入学試験》一般Ⅱ期・社会人Ⅱ期 総合型選抜面談期間終了	17
18	金	【保2】保健児童ソーシャルワーカー受験申込締切（協会宛）	月	水	土 【保2】補講予備日	火 卒業判定会議	水	18
19	土		火	木	日 短大閉鎖	水	木 一般Ⅱ期・社会人Ⅱ期合格発表	19
20	日		水	金	月	木 推薦Ⅱ期・一般Ⅰ期・社会人Ⅰ期入学受付締切	金 春分の日・短大閉鎖 一般Ⅱ期・社会人Ⅱ期　入学手続～3/25(水) 総合型選抜出願締切	20
21	月	●防災消防訓練 特別奨学生願書受付開始～11/8（金） 推薦Ⅰ期願書受付～11/15（金）	木	土 【保2】金曜日授業実施	火 【食1,2】【保1,2】補講日	【食1】【保1】成績発送(予定) 金 【食2】【保2】最終成績発表,発送(予定)	土 短大閉鎖	21
22	火	即位礼正殿の儀 短大閉鎖	金	日 短大閉鎖	【食1,2】【保1】補講日 水 【保2】水曜日授業実施	土	日 短大閉鎖	22
23	水		勤労感謝の日 土 《入学試験》推薦Ⅰ期 【保2】PM:保健児童ソーシャルワーカー認定試験	月	【食1,2】【保1】補講日 木 【保2】木曜日授業実施	天皇誕生日 日 短大閉鎖	月	23
24	木		〔外部向け〕 日 教員免許状更新試験(KAGAC eﾗｰﾆﾝｸﾞ)	火	【食1,2】【保1】定期試験 金 【保2】金曜日授業実施 推薦Ⅱ期・一般Ⅰ期・社会人Ⅰ期願書受付締切	振替休日 月 短大閉鎖	火	24
25	金		月	水	土 【食2】ADI試験日	【食1】【保1】2年次履修内容検討期間（再履修手続・特別履修手続・履修変更手続等）※2/25～3/1 火	総合型選抜入学受付締切 水 一般Ⅱ期・社会人Ⅱ入学受付締切	25
26	土	【食2】AM土曜日授業実施 【保2】月曜日授業実施 同窓会総会（柏友会）	火	木 【保2】木曜日授業実施	日 短大閉鎖	水	木	26
27	日	短大閉鎖	水	〈学生〉冬季休業～1月3日（金） 金 短大閉鎖～1月5日（日）	月 【食1,2】【保1,2】定期試験	木	金	27
28	月		木	土 短大閉鎖	火 【食1,2】【保1,2】定期試験	金	13:30～15:30 土 学科別キャンパス見学会	28
29	火	【保1】施設見学（授業なし）	金	日 短大閉鎖	【食1,2】【保1】試験対策日 木 【保2】定期試験 一般II期・社会人II期願書受付～3/11（水）	土 短大閉鎖	日 短大閉鎖	29
30	水		土 学友会スポーツ大会（予定）	月 短大閉鎖	木 【食1,2】【保1,2】試験対策日		月 新2年生　オリエンテーション 【食1】【保1】2年次履修内容検討期間（再履修手続・特別履修手続・履修変更手続等）	30
31	木			火 短大閉鎖	【食1,2】【保1,2】 金 追再試験対象者発表日/試験対策日 【食1】給食管理実習Ⅲ説明会		火	31
備考				海外研修（国際交流）予定				

函館短期大学　2019年度　行事予定表【学生用】

2019年

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	
1	月		新天皇即位 水 短大閉鎖	【食1,2】AM:土曜日授業実施 土 【保2】金曜日授業実施	月	木 【食1,2】【保1,2】定期試験	日 短大閉鎖	1
2	火	第67回　入学式	休日 木 短大閉鎖	日 短大閉鎖	火	金 【食1,2】【保1,2】定期試験	月 総合型選抜出願開始～3/20（金）	2
3	水	【食1】【保1】オリエンテーション	憲法記念日 金 短大閉鎖	月	木	土 MOS講習日	火	3
4	木	【食1】【保1】オリエンテーション 【保2】前期授業開始	みどりの日 土 短大閉鎖	火	木	日 食育指導士講習会予定	水	4
5	金	【食1】【保1】オリエンテーション	こどもの日 日 短大閉鎖	●春季献血協力 水 高等学校教員向け説明会(16:00～17:00)	金	月 【食1,2】【保1,2】試験対策日	木	5
6	土	【食2】【保2】AM健康診断	振替休日 月 短大閉鎖	木	【食1,2】AM：土曜日授業実施 土 【保2】月曜日授業実施	【食1,2】【保1,2】 火 追再試験対象者発表日	金	6
7	日	短大閉鎖	火 総合型選抜面談期間～3/17（火）	金	日 短大閉鎖	水 【食1,2】【保1,2】試験対策日	土	7
8	月	【食1,2】【保1】前期授業開始	水	【食1,2】AM:土曜日授業実施 土 【保2】木曜日授業実施	月	木 【食1,2】【保1,2】追再試験日	日 短大閉鎖	8
9	火		木	日 短大閉鎖	火	金 【食1,2】【保1,2】追再試験日	月	9
10	水		金	月	水	土 MOS講習試験日	火	10
11	木		土 月曜日授業実施	火	木	山の日 日 短大閉鎖	水	11
12	金		日 短大閉鎖	水	金	振替休日 月 短大閉鎖	木	12
13	土	【食1,2】AM:土曜日授業実施 【食1,保1】システム履修登録 【保2】月曜日授業実施	月	木	学友会企画旅行（予定） 土 短大閉鎖	火 〈学生〉夏季休業～9/18(水)	金	13
14	日	短大閉鎖	火	金	日 短大閉鎖	水	土	14
15	月		水	土 短大閉鎖	海の日 月 ◆レク現場実習◆ 短大閉鎖	木	日 短大閉鎖	15
16	火		木	11:30～14:25 日 第1回 キャンパス見学会	火	金 成績提出締切日	敬老の日 日 短大閉鎖	16
17	水		金	月	木	〔外部向け〕 土 教員免許状更新試験(KAGAC eラーニング)	火	17
18	木		【食1】【保1】健康診断 土 【食1,2】土曜日授業実施 【保2】火曜日授業実施	火	木	日 短大閉鎖	水 〈学生〉夏季休業終了	18
19	金	PM:全国保育士国家試験会場準備	13:30～15:30 日 第1回保育学科キャンパス見学会	水	金	月	木 学園創立記念日	19
20	土	全国保育士国家試験（施設貸出）	月	木	土 月曜日授業実施	火	金 代休日（短大祭）	20
21	日	全国保育士国家試験（施設貸出）	火	金	日 短大閉鎖	水	土	21
22	月		水	土 【食1,2】AM：土曜日授業実施	月	木	日 短大閉鎖	22
23	火		木	日 日大通信[施設貸出] 9:00～16:00	火	金	秋分の日 日 短大閉鎖	23
24	水		金	月	木	11:30～14:25 土 第2回 合同キャンパス見学会	【食1,2】【保1】 登校日 成績配布・履修内容確認・ポートフォリオ 火 【食2】AM：給食管理実習Ⅲ実習発表会 【保2】保健児童ソーシャルワーカー受験申込受付～10/18(金)	24
25	木		土 AM学友会春季スポーツ大会	火	木	日 【食物】卒業生のつどい	水	25
26	金		日 短大閉鎖	水	金	月	木	26
27	土	【食1,2】AM:土曜日授業実施 【保2】水曜日授業実施	月	木	土 【食1,2】【保1,2】補講予備日	火	金	27
28	日	短大閉鎖	火	金	13:30～15:30 日 学科別キャンパス見学会	水 【食1,2】【保1,2】前期成績確定・発送	【食2】AM土曜日授業実施 土 【食1,2】PM：給食管理実習Ⅲ報告会	28
29	月	昭和の日 短大閉鎖	水	土	月 【食1,2】【保1,2】補講日（補習日）	木 【食1,2】【保1】履修内容検討期間	11:30～14:25 日 第3回 合同キャンパス見学会	29
30	火	天皇陛下退位 短大閉鎖	木	日 短大閉鎖	【食1,2】【保1】補講日（補習日） 火 【保2】火曜日授業実施	金 【食1,2】【保1】履修内容検討期間	月	30
31			金		【食1,2】【保1】定期試験 木 【保2】水曜日授業実施	土		31
備考								

(2019年度入学生)保育学科　カリキュラムマップ

定義	学修到達度に関わらず，短期大学士に相応しい教養を身につける科目		当該領域および系列を学修するための基礎・総論的位置付けの科目		当該領域および系列の各論，1の科目の応用的内容を含む科目		当該領域および系列の発展的内容の科目		既習科目を複合させて，学修の集大成として取り組むべき科目		ディプロマ・ポリシー	教育目標
水準	0		1		2		3		4			
領域名	科目名	DP	科目名	DP	科目名	DP	科目名	DP	科目名	DP		
保育の本質・目的に関する科目			保育原理	DP1,2,3,4,5,7							［知識・技能］ DP1. 保育と子育て支援に必要な専門的知識と技術、とりわけ食育知識と音楽表現技術を有し、子供の成長を促すことができる。 DP2.地域の特性を適格に把握し、保育に反映させることができる。 DP3.保育者の社会的使命を理解することができる。 ［思考力・判断力・表現力］ DP4. 子育て環境を深く分析して、課題や問題を見つけ出し、その解決に向けて計画的に考え、答えを導き出す能力を身に付けている。 DP5.身に付けた知識と技能を生かし、物事を的確に認識して評価できる能力を身に付けている。 DP6. 生涯にわたって学び続け、身に付けた知識や技能並びに経験を分かりやすく他者に伝えることができる。 ［コミュニケーション力・社会人力］ DP7.専門職業人としての高い倫理観を保持し、社会に貢献しようとすることができる。 DP8.コミュニケーション力を身に付け、他者と協働して課題を解決しようとすることができる。 DP9.他者への思いやりと柔軟な対応力を持つことができる。	1. 子供の利益を尊重し、人として尊敬される豊かな人間性を身に付けた人材 2. 子供の発達や心の動きに合わせた保育と保護者に対する相談支援ができる確かな専門性を身に付けた人材 3. 子育ての環境について地域と食育を関連付け考えることができる人材
			教職概論	DP3,7					保育現場の幼児教育	DP4,7,8		
			教育原理	DP1,3,6,7								
			社会福祉	DP1,2,3,4,7,9	子ども家庭福祉	DP1,2,3,4,7						
					社会的養護Ⅰ	DP2,3,4,7						
					子ども家庭支援論	DP1,2,3,4,6,7						
保育の対象の理解に関する科目			教育心理学	DP1,5,9	子ども家庭支援の心理学	DP1,5,7,9						
					幼児理解	DP1,4,5						
			子どもの保健	DP1,4,5			子どもの医療	DP1,4,5,6				
			食育の基礎知識	DP1,4	子どもの食と栄養	DP1,6						
保育の内容・方法に関する科目			健康	DP1,4	保育内容(健康)指導法	DP1,4			子どもの生活や遊びA 子どもの生活や遊びB 子どもの生活や遊びC	DP1～9		
			人間関係	DP1,4,8	保育内容(人間関係)指導法	DP1,4,8						
			環境	DP1,4	保育内容(環境)指導法	DP1,4						
			言葉	DP1,4,8	保育内容(言葉)指導法	DP1,4,8						
			表現	DP1,4,8	保育内容(表現)指導法	DP1,4,5,8,9	総合表現指導法	DP1,4,5,6,8,9				
			保育内容総論	DP1,2,3,5,6,8	コミュニケーション・スキルⅠ	DP2,3,5,6,8,9	コミュニケーション・スキルⅡ	DP2,3,5,6,8,9	保育の記録と伝え合い	DP1～9		
					教育課程総論	DP4						
					子どもの健康と安全	DP1,2,3						
			乳児保育Ⅰ	DP1,4,5	乳児保育Ⅱ	DP1,2,4,5,6						
							社会的養護Ⅱ	DP2,3,4,7				
					特別支援教育	DP1,2,4,6						
							教育相談	DP3,4,9				
保育実習			保育実習指導Ⅰ	DP1,2,3,4,5,7,9	保育実習Ⅰ	DP1,2,3,4,5,7,8						
					保育実習指導Ⅱ	DP1,2,3,4,5,7,9	保育実習Ⅱ	DP1,2,3,4,5,7,8				
					保育実習指導Ⅲ	DP1,2,3,4,5,7,9	保育実習Ⅲ	DP1,2,3,4,5,7,8				
総合演習									保育・教職実践演習	DP1～9		
保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開設されている教科目			教育経営論	DP1,4								
					教育の方法と技術	DP4,5,6						
					幼稚園教育実習事前指導	DP1,2,3,4,5,7,8	幼稚園教育実習	DP1,2,3,4,5,7,8				
							幼稚園教育実習事後指導	DP1,2,3,4,5,7,8				
			レクリエーション指導法	DP5,8			レクリエーション現場実習	DP5,8				
教養科目	教養ゼミナール(S・L)Ⅰ	DP4,5,6,7,8,9	教養ゼミナール(S・L)Ⅱ	DP4,5,6,7,8,9								
	社会人基礎論Ⅰ	DP4,7	社会人基礎論Ⅱ	DP4,6,7,8								
	情報機器の操作Ⅰ	DP1	情報機器の操作Ⅱ	DP1								
							コンピュータリテラシーW	DP1				
							コンピュータリテラシーE	DP1				
							コンピュータリテラシーP	DP1,6				
					ボランティア実習Ⅰ	DP4,5,7,8,9	ボランティア実習Ⅱ	DP4,5,6,7,8,9				
	音楽基礎	DP1,6,8	保育者のための音楽Ⅰ	DP1,3,4,6,8	保育者のための音楽Ⅱ	DP1,2,3,4,5,6,8						
			保育者のための図画工作	DP1,5,6								
	日本国憲法	DP1,3,7										
	外国語(英語・仏語・中国語)	DP8										
	体育実技(球技・フィットネス)	DP1,8,9										
	保健体育	DP1										
	国際交流	DP8	函館グローカル・コミュニケーション	DP6,7,8,9								
	文化交流	DP8										
	コンソーシアム基礎教養Ⅰ	DP8	コンソーシアム基礎教養Ⅲ	DP8								
	コンソーシアム基礎教養Ⅱ	DP8	コンソーシアム基礎教養Ⅳ	DP8								
	コンソーシアム函館教養Ⅰ	DP8	コンソーシアム函館教養Ⅳ	DP8								
	コンソーシアム函館教養Ⅱ	DP8	コンソーシアム函館教養Ⅴ	DP8								
	コンソーシアム函館教養Ⅲ	DP8	コンソーシアム函館教養Ⅵ	DP8								

（2019年度入学生）保育学科　ナンバリング科目コード

保育学科コード（10000番台）を「3」として5桁

↓領域（1000番台）	3桁目の数字→100番台《水準》	0		1		2		3		4	
	定義	学修到達度に関わらず，短期大学士に相応しい教養を身につける科目		当該領域および系列を学修するための基礎・総論的位置付けの科目		当該領域および系列の各論，1の科目の応用的内容を含む科目		当該領域および系列の発展的内容の科目		既習科目を複合させて，学修の集大成として取り組むべき科目	
	領域名	科目名	下2桁	科目名	下2桁	科目名	下2桁	科目名	下2桁	科目名	下2桁
1	保育の本質・目的に関する科目			保育原理	10						
				教職概論	20					保育現場の幼児教育	20
				教育原理	30						
				社会福祉	40	子ども家庭福祉	40				
						社会的養護Ⅰ	41				
						子ども家庭支援論	42				
2	保育の対象の理解に関する科目			教育心理学	10	子ども家庭支援の心理学	10				
						幼児理解	20				
				子どもの保健	30			子どもの医療	30		
				食育の基礎知識	40	子どもの食と栄養	40				
3	保育の内容・方法に関する科目			健康	10	保育内容（健康）指導法	10			子どもの生活や遊びA 子どもの生活や遊びB 子どもの生活や遊びC	14
				人間関係	11	保育内容（人間関係）指導法	11				
				環境	12	保育内容（環境）指導法	12				
				言葉	13	保育内容（言葉）指導法	13				
				表現	14	保育内容（表現）指導法	14	総合表現指導法	14		
				保育内容総論	20	コミュニケーション・スキルⅠ	20	コミュニケーション・スキルⅡ	20	保育の記録と伝え合い	20
						教育課程総論	30				
						子どもの健康と安全	40				
				乳児保育Ⅰ	50	乳児保育Ⅱ	50				
								社会的養護Ⅱ	60		
						特別支援教育	70				
								教育相談	80		
4	保育実習			保育実習指導Ⅰ	10	保育実習Ⅰ	10				
						保育実習指導Ⅱ	20	保育実習Ⅱ	20		
						保育実習指導Ⅲ	30	保育実習Ⅲ	30		
5	総合演習									保育・教職実践演習	10
6	保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開設されている教科目			教育経営論	10						
						教育の方法と技術	20				
						幼稚園教育実習事前指導	30	幼稚園教育実習	30		
								幼稚園教育実習事後指導	31		
				レクリエーション指導法	40			レクリエーション現場実習	40		
0	教養科目	教養ゼミナール（S・L）Ⅰ	10	教養ゼミナール（S・L）Ⅱ	10						
		社会人基礎論Ⅰ	20	社会人基礎論Ⅱ	20						
		情報機器の操作Ⅰ	30	情報機器の操作Ⅱ	30						
								コンピュータリテラシーW	31		
								コンピュータリテラシーE	32		
								コンピュータリテラシーP	33		
						ボランティア実習Ⅰ	40	ボランティア実習Ⅱ	40		
		音楽基礎	50	保育者のための音楽Ⅰ	50	保育者のための音楽Ⅱ	50				
				保育者のための図画工作	60						
		日本国憲法	70								
		外国語（英語・仏語・中国語）	71								
		体育実技（球技・フィットネス）	72								
		保健体育	73								
		国際交流	74	函館グローカル・コミュニケーション	74						
		文化交流	75								
		コンソーシアム基礎教養Ⅰ	80	コンソーシアム基礎教養Ⅲ	80						
		コンソーシアム基礎教養Ⅱ	81	コンソーシアム基礎教養Ⅳ	81						
		コンソーシアム函館教養Ⅰ	90	コンソーシアム函館教養Ⅳ	90						
		コンソーシアム函館教養Ⅱ	91	コンソーシアム函館教養Ⅴ	91						
		コンソーシアム函館教養Ⅲ	92	コンソーシアム函館教養Ⅵ	92						

保育学科　　函館短期大学（平成31年度入学生）授業科目一覧

1年次開講科目

系列	授業科目	期間	形態	単位数	必修区分	fGPA	掲載ページ
基礎教育科目	教養ゼミナール（S・L）Ⅰ	通年	演習	1	卒		2
	社会人基礎論Ⅰ	後期	講義	1	卒	G	4
	音楽基礎	前期	演習	1			6
	保育者のための音楽Ⅰ	通年	演習	2	卒　レ	G	8
	保育者のための図画工作	通年	演習	2	卒　レ	G	10
	日本国憲法	後期	講義	2	幼	G	12
	外国語（英語・仏語・中国語）	前期	演習	2	保　幼	G	14-19
	体育実技（球技・フィットネス）	前期	実技	1	保　幼　レ*	G	20-23
	保健体育	後期	講義	1	保　幼	G	24
	情報機器の操作Ⅰ	前期	演習	1	卒　幼	G	26
	情報機器の操作Ⅱ	後期	演習	1	卒　幼	G	28
	コンピュータリテラシーW	後期	演習	1	MW		30
	ボランティア実習Ⅰ	その他	実験・実習	1			32
	コンソーシアム基礎教養Ⅰ	その他	その他	2			34
	コンソーシアム基礎教養Ⅱ	その他	その他	1			36
	コンソーシアム函館教養Ⅰ	その他	その他	2			38
	コンソーシアム函館教養Ⅱ	その他	その他	2			40
	コンソーシアム函館教養Ⅲ	その他	その他	1			42

2年次開講科目

系列	授業科目	期間	形態	単位数	必修区分	fGPA	掲載ページ
基礎教育科目	教養ゼミナール（S・L）Ⅱ	通年	演習	1	卒		44
	社会人基礎論Ⅱ	前期	講義	1	卒	G	46
	保育者のための音楽Ⅱ	前期	演習	2			48
	コンピュータリテラシーE	後期	演習	1	ME		50
	コンピュータリテラシーP	後期	演習	1	MP		52
	函館グローカル・コミュニケーション	後期	演習	1			54
	国際交流	後期	演習	1			56
	文化交流	後期	演習	1			58
	ボランティア実習Ⅱ	その他	実験・実習	1			60
	コンソーシアム基礎教養Ⅲ	その他	その他	2			62
	コンソーシアム基礎教養Ⅳ	その他	その他	1			64
	コンソーシアム函館教養Ⅳ	その他	その他	2			66
	コンソーシアム函館教養Ⅴ	その他	その他	2			68
	コンソーシアム函館教養Ⅵ	その他	その他	1			70

系列	授業科目	期間	形態	単位数	必修区分	fGPA	掲載ページ
専門教育科目	保育原理	前期	講義	2	保　主	G	74
	教育原理	前期	講義	2	卒保　幼　主	G	76
	子ども家庭福祉	後期	講義	2	保　ソ　主	G	78
	社会福祉	前期	講義	2	保　ソ　主	G	80
	子ども家庭支援論	後期	講義	2	保　ソ	G	82
	社会的養護Ⅰ	後期	講義	2	保　ソ	G	84
	教職概論	前期	講義	2	保　幼	G	86
	教育心理学	後期	講義	2	保　幼　心	G	88
	子どもの保健	前期	講義	2	保	G	90
	食育の基礎知識	前期	講義	2	[保選]　食	G	92
	保育内容総論	前期	演習	1	保　幼	G	94
	健康	前期	演習	1	保　幼	G	96
	人間関係	前期	演習	1	保　幼	G	98
	環境	前期	演習	1	保　幼	G	100
	言葉	前期	演習	1	保　幼	G	102
	表現	前期	演習	1	保　幼	G	104
	保育内容（健康）指導法	後期	演習	1	保　幼	G	106
	保育内容（人間関係）指導法	後期	演習	1	保　幼	G	108
	保育内容（環境）指導法	後期	演習	1	保　幼	G	110
	保育内容（言葉）指導法	後期	演習	1	保　幼	G	112
	保育内容（表現）指導法	後期	演習	1	保　幼	G	114
	乳児保育Ⅰ	前期	講義	2	保	G	116
	乳児保育Ⅱ	後期	演習	1	保	G	118
	子どもの健康と安全	後期	演習	1	保	G	120
	コミュニケーション・スキルⅠ	後期	演習	1	[保選]	G	122
	保育実習指導Ⅰ	通年	演習	2	保	G	124

系列	授業科目	期間	形態	単位数	必修区分	fGPA	掲載ページ
専門教育科目	保育現場の幼児教育	後期	演習	2	[保選]	G	126
	子ども家庭支援の心理学	後期	講義	2	保　心	G	128
	幼児理解	前期	演習	1	保　幼	G	130
	子どもの食と栄養	前期	演習	2	卒保	G	132
	子どもの医療	前期	演習	1	[保選]　ソ	G	134
	教育課程総論	前期	講義	2	保　幼	G	136
	総合表現指導法	後期	演習	1	保　幼	G	138
	特別支援教育	前期	演習	2	保　幼　心	G	140
	社会的養護Ⅱ	前期	演習	1	保	G	142
	教育相談	後期	演習	1	保　幼　心	G	144
	コミュニケーション・スキルⅡ	前期	演習	1	[保選]	G	146
	子どもの生活や遊びA	後期	演習	2	[保選]	G	148
	子どもの生活や遊びB	後期	演習	2	[保選]	G	150
	子どもの生活や遊びC	後期	演習	2	[保選]	G	152
	保育の記録と伝え合い	後期	演習	2	[保選]	G	154
	保育実習Ⅰ	その他	実験・実習	4	保	G	156
	保育実習Ⅱ	その他	実験・実習	2	[保実習選]	G	158
	保育実習Ⅲ	その他	実験・実習	2	[保実習選]	G	160
	保育実習指導Ⅱ	その他	演習	1	[保実習選]	G	162
	保育実習指導Ⅲ	その他	演習	1	[保実習選]	G	164
	教育経営論	前期	講義	1	幼	G	166
	教育の方法と技術	前期	講義	2	幼	G	168
	幼稚園教育実習事前指導	その他	演習	1	幼	G	170
	幼稚園教育実習事後指導	その他	演習	1	幼	G	172
	幼稚園教育実習	その他	実験・実習	4	幼	G	174
	保育・教職実践演習	後期	演習	2	保　幼	G	176
	レクリエーション指導法	後期	講義	2	レ		178
	レクリエーション現場実習	その他	実験・実習	1	レ		180

【注】：（1）履修登録を申告する授業科目に関しては自身で印を記入し、単位数の合計を確認すること。

（2）必修区分欄の「卒」「保」「保選」「保実習選」「幼」「レ」「レ*」「食」「ソ」「心」「MW」「ME」「MP」「主」は次のとおりである。

卒･･･本学における卒業必修科目
保･･･保育士資格必修科目
〇但し、[保実習選]･･･「保育実習Ⅱ」と「保育実習指導Ⅱ」又は「保育実習Ⅲ」と「保育実習指導Ⅲ」を修得
[保選]･･･「食育の基礎知識/2単位」,「コミュニケーション・スキルⅠ/1単位」,「保育現場の幼児教育/2単位」,「子どもの医療/1単位」,「コミュニケーション・スキルⅡ/1単位」,
「子どもの生活や遊びA/2単位」,「子どもの生活や遊びB/2単位」,「子どもの生活や遊びC/2単位」,「保育の記録と伝え合い/2単位」の中から6単位を修得
幼 ･･･幼稚園教諭二種免許必修科目
レ ･･･レクリエーション・インストラクター資格必修科目
レ*･･･体育実技（球技・フィットネス）のうち体育実技（球技）のみレクリエーション・インストラクター資格必修科目
食 ･･･食育指導士®資格必修科目
ソ ･･･保健児童ソーシャルワーカー資格必修科目
心 ･･･准学校心理士資格必修科目
MW ･･･マイクロソフト オフィス スペシャリスト（Word）資格必修科目
ME ･･･マイクロソフト オフィス スペシャリスト（Excel）資格必修科目
MP ･･･マイクロソフト オフィス スペシャリスト（PowerPoint）資格必修科目
主 ･･･社会福祉主事任用資格取得にかかわる科目---これらの科目のうち3科目以上を修得することが資格取得の条件となる

（3）G･･･fGPA算出対象科目

【 基礎教育科目 】

１年次配当科目

教養ゼミナール（S・L）Ⅰ …… 2
社会人基礎論Ⅰ …… 4
音楽基礎 …… 6
保育者のための音楽Ⅰ …… 8
保育者のための図画工作 …… 10
日本国憲法 …… 12
外国語（英語）…… 14
外国語（仏語）…… 16
外国語（中国語）…… 18
体育実技（球技）…… 20
体育実技（フィットネス）…… 22
保健体育 …… 24
情報機器の操作Ⅰ …… 26
情報機器の操作Ⅱ …… 28
コンピュータリテラシーW …… 30
ボランティア実習Ⅰ …… 32
コンソーシアム基礎教養Ⅰ …… 34
コンソーシアム基礎教養Ⅱ …… 36
コンソーシアム函館教養Ⅰ …… 38
コンソーシアム函館教養Ⅱ …… 40
コンソーシアム函館教養Ⅲ …… 42

２年次配当科目

教養ゼミナール（S・L）Ⅱ …… 44
社会人基礎論Ⅱ …… 46
保育者のための音楽Ⅱ …… 48
コンピュータリテラシーE …… 50
コンピュータリテラシーP …… 52
函館グローカル・コミュニケーション …… 54
国際交流 …… 56
文化交流 …… 58
ボランティア実習Ⅱ …… 60
コンソーシアム基礎教養Ⅲ …… 62
コンソーシアム基礎教養Ⅳ …… 64
コンソーシアム函館教養Ⅳ …… 66
コンソーシアム函館教養Ⅴ …… 68
コンソーシアム函館教養Ⅵ …… 70

年度	2019	学科	保育学科	ナンバリング科目コード	30010	ICT活用	―
授業科目名	教養ゼミナール(S・L) Ⅰ					実務教員	○
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	1年	期間	通年	必修区分	卒		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	複数		
教員	保育学科教員						
該当ディプロマ・ポリシー ＤＰ項目番号	DP4,5,6,7,8,9 知識・技能(DP1～3)、思考力・判断力・表現力(DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力(DP7～9)						

授業のテーマ及び到達目標

1.日常生活において、感謝の念を抱き、自己の行動に責任を持ちつつ他者をいたわる人間性を備えることができる。
2.社会生活全般において、協調する姿勢を示し、健康な判断と正義を尊重し、円滑な人間関係を築くことができる。
3.専門職業人として、自律した生活を実践することができる。

授業の概要

本学の建学の精神である学園三訓に則り、学生生活及び将来の進路に関して、学生と教員が相互に交流し学ぶことによって、社会が望む質の高い保育者の養成を目指す。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

各担当教員と良くコミュニケーションを図り、指示された必要な準備をして参加すること。

標準学修時間の目安

1回の講義あたり予習・復習を含め1時間の学修が必要である。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

・読解力向上については「保育の基本用語」のテキストで実施する。
・コース別、合同S・Lでは感想文の提出があり、S・L担当教員が点検し返却する。

使用教科書

	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	改訂版　保育の基本用語	長島和代　編	わかば社	978-907270-04-9
2				
3				

使用教科書備考

なし

参考書・参考資料等

なし

実務経験のある教員の略歴と教育内容

岡崎圭子先生は、長く函館市役所に勤務され、子ども未来部長の経験があり、その観点から保育者養成についてのアドバイスは的確である。

その他

必要な事項は、担当教員の指示に従う事。

授業計画

第 1回　合同S・L(建学の精神について)
第 2回　個別S・L(前期ガイダンス/S・L長決定)
第 3回　個別S・L(学内施設見学)
第 4回　コース別S・L(地域課題の発見)
第 5回　クラス合同S・L(スポーツ大会について)
第 6回　合同S・L(献血理解について)
第 7回　コース別S・L(地域課題の発見)
第 8回　個別S・L(読解力向上)
第 9回　クラス合同S・L(つどいの広場見学)
第10回　合同S・L(夏の交通安全講習)
第11回　コース別S・L(地域課題解決情報収集)
第12回　個別S・L
第13回　個別S・L(読解力向上)
第14回　コース別S・L(地域課題解決情報収集)
第15回　合同S・L(性教育講座)
第16回　クラス合同S・L(短大祭準備)
第17回　合同S・L(秋の交通安全講習)
第18回　クラス合同S・L(短大祭準備)
第19回　合同S・L(学生生活について)
第20回　個別S・L
第21回　コース別S・L(地域課題解決に向けた実践の検討)
第22回　個別S・L(読解力向上)
第23回　コース別S・L(地域課題解決に向けた実践の検討)
第24回　クラス合同S・L(スポーツ大会について)
第25回　合同S・L(護身術について)
第26回　コース別S・L(地域課題解決にむけた実践内容の発表)
第27回　合同S・L(冬の交通安全講習)
第28回　合同S・L(就職について1)
第29回　合同S・L(就職について2)
第30回　個別S・L

成績評価の方法(試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（%）	0	0	50	0	50	100

成績評価の基準（ルーブリック）

到達度	秀逸	優秀	良好	最低限
授業の到達目標に対する到達度の目安	コース別、合同S・L、読解力向上、個別S・Lという形で進んでいきますが、専門的職業人に向かっての自覚と行動をもって、様々な角度から物事を考え適切な対処法を検討できる。	コース別、合同S・L、読解力向上、個別S・Lという形で進んでいきますが、専門的職業人に向かっての自覚と行動をもって、さまざまな角度から物事を理解し、他者に適切に伝えることができる。	コース別、合同S・L、読解力向上、個別S・Lという形で進んでいきますが、専門的職業人に向かっての自覚と行動をもって、さまざまな角度から物事を理解できる。	コース別、合同S・L、読解力向上、個別S・Lという形で進んでいきますが、専門的職業人に向かっての自覚と行動をもって、さまざまな角度から物事を断片的に理解している。
該当DPに対する到達度の目安	コース別、合同S・L、読解力向上、個別S・Lという形で進んでいきますが、専門的職業人に向かっての自覚と行動を通して、社会人力・コミュニケーション力を身に付けている。	コース別、合同S・L、読解力向上、個別S・Lという形で進んでいきますが、専門的職業人に向かっての自覚と行動を通して、課題解決に向けて努力することができる。	コース別、合同S・L、読解力向上という形で進んでいきますが、専門的職業人に向かっての自覚と行動を通して、課題解決に向けての他者への発信ができる。	コース別、合同S・L、読解力向上という形で進んでいきますが、専門的職業人に向かっての自覚と行動を通して、課題解決にむけての発信を行うことがほとんどできない。

年度	2019	学科	保育学科	ナンバリング科目コード	30020	ICT活用	―
授業科目名	社会人基礎論Ⅰ					実務教員	○
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	1年	期間	後期	必修区分	卒		
授業形態	講義	単位数	1	担当形態	オムニバス		
教員	堀田　寿生／林原　和哉／能城　ひろみ						
該当ディプロマ・ポリシー ＤＰ項目番号	DP4,5,6,7,8,9 知識・技能(DP1～3)、思考力・判断力・表現力(DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力(DP7～9)						

授業のテーマ及び到達目標

授業のテーマ
①高校から大学への円滑な接続。
②期待される社会人・職業人を目指す。
③働く意義を考える。
④コミュニケーション能力などを身につける。
到達目標
①レポート・論文の書き方、学生生活における時間管理、プレゼンテーション等の技法を習得する。
②コミュニケーションの基本となるあいさつ、「ホウレンソウ」、ビジネスマナー等を身につける。
③新聞、テレビのニュースや報道番組等に関心を持ち、情報を自分で集め考えることができるようにする。
④就職活動で必要なエントリーシート等が書け、就職試験等で自分の意見を言えるようにする。
⑤職業人として必要な教養を身につける。

授業の概要

この授業は、短大生として必要な総合教育プログラムで、学問修得に向けた動機付けなどを目標とする。
①短大で学ぶ上で必要なレポート等の書き方、学生生活における時間管理などの学修方法を習得する。
②「知識・技能」のみならず「思考力・判断力・表現力」、「協働して働く態度」の重要性を理解する。
③地域社会が求める思いやり、優しさ、協調性、マナー、コミュニケーション能力などを身につける。
④現代社会を自分で捉える能力と職業人としての教養、社会的常識、就職の基礎知識を身につける。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

普段から新聞を読み、テレビの報道番組等をみて現代社会が抱える課題について考え、配布資料の下調べをしておく。日記などを書くことで、書くことに対する苦手意識を克服しよう。地域社会が自分に何を望んでいるのか、日々の生活を通して考えてみよう。授業前にはテキストの該当箇所を読み、分からない箇所を自分でノートにまとめておく。授業後は、配布プリントなどを読んで復習し、授業テーマについて学生同士でディスカッションしてみよう。

標準学修時間の目安

1回の講義あたり0.5時間の予習と1.5時間の復習を行うこと。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

小テストに関しては、採点後、返却します。レポート、作文などに関しては、模範例を授業中に紹介します。

使用教科書

	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	2019Ｂ検3級公式テキスト	職業教育キャリア教育財団	日本能率協会	978-4-8207-2689
2				
3				

使用教科書備考

2019年版　Ｂ検ビジネス能力検定ジョブパス3級公式テキスト　職業教育・キャリア教育財団 監修　日本能率協会マネジメントセンター出版

参考書・参考資料等

なし

実務経験のある教員の略歴と教育内容

堀田寿生：金融機関、本学園本部勤務の経歴を活かし、文章の書き方、情報の集め方、考え方などを指導。
林原和哉：大手電機メーカー勤務・ＩＴ系専門学校教員、短大就職支援部長の経歴を活かし、就職活動支援等を行う。
能城ひろみ：秘書経験、短大職員としての経歴を活かし、社会人として必要なマナー等を担当。

その他

実務経験者などの外部講師による特別講話を行う場合がある。ディスカッションやプレゼンテーションなど必要に応じてアクティブ・ラーニングを行う。

授業計画

第 1回　高校生と短大生の違い。社会人とは。なぜ働くのか。キャリアをどう形成するのか。（堀田、林原）
第 2回　地域社会が求める能力は何か。やさしさや思いやり等「人間的な力」の重要性について。（林原）
第 3回　情報モラルについて。ＳＮＳ等で実際に起こったトラブルなどを解説。（林原）
第 4回　「時間意識・目標意識・協調意識」など仕事の基本となる８つの意識。（能城）
第 5回　チームワークのためのコミュニケーションを支えるビジネスマナーの基本について。（能城）
第 6回　指示の受け方と報告・連絡・相談、わかりやすい話し方と聞き方のポイント。（能城）
第 7回　わかりやすいプレゼンテーション技法とは何か。パワーポイントを使ったプレゼンテーションについて。（林原）
第 8回　課題解決のための情報収集の仕方。短大で学ぶ上で必要な読む能力と書く能力。わかりやすい文章はどう書くのか。(堀田)
第 9回　作文・レポートの書き方。「起承転結」の構成で作文を書いてみよう。思考力、表現力をどう養うか。（堀田）
第10回　現代社会とは何か。新聞の読み方、情報の収集の仕方、考え方。現在の政治課題、国際問題等の基本を理解する。（堀田）
第11回　「起承転結」の構成で作文を書いてみよう。思考力、表現力を養う。（堀田）
第12回　法人・企業へのアプローチ方法。ネットの活用、電話のかけ方、説明会への参加の仕方など。（林原）
第13回　個人面接における基本的マナーと会話力について。伝える力（林原）
第14回　集団面接とグループディスカッションの留意点。グループディスカッションにおける役割分担（林原）
第15回　グループディスカッションの実践とプレゼンテーション資料の作成。プレゼンテーションの実践（林原）

成績評価の方法 (試験項目)	筆記 (定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文 (レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（%）	40	20	40	0	0	100

成績評価の基準（ルーブリック）

到達度	秀逸	優秀	良好	最低限
授業の到達目標に対する到達度の目安	レポート等が書ける。時間管理、ビジネスマナー等を身につけ、周囲から信用・信頼されている。プレゼンテーション等の技法を習得し、優れたプレゼンができる。新聞等で現代社会が抱える課題を見出し、自分で考え、解決策を打ち出すことができる。職業人として必要な目標・教養を身につけ就職試験に対応できる。	レポート等が書け、時間管理、ビジネスマナー等を身につけている。プレゼンテーション等の技法を習得しプレゼンができる。新聞等で現代社会が抱える課題を見出し、自分で考えることができる。就職活動で必要なエントリーシート等が書け、就職試験等で自分の意見を言える。職業人として必要な教養を身につける努力を続けている。	レポート等の書き方を理解している。時間管理、ビジネスマナー等の重要性を理解している。プレゼンテーション等の技法を習得している。新聞等で現代社会が抱える課題を見出すことができる。就職活動で必要なエントリーシート等が書ける。職業人として必要な教養を身につける努力を続けている。	レポート・論文の書き方、学生生活における時間管理プレゼンテーション等の技法を習得しようという意欲がある。コミュニケーションの基本となるあいさつ「ホウレンソウ」、ビジネスマナー等を身につけようと努力している。新聞、テレビのニュースに関心を持っている。就職活動に取り組む意欲がある。
該当DPに対する到達度の目安	専門職業人としての高い倫理観を持ち、生涯にわたって学び続け、身に付けた知識や技能及び経験を創造力を持って分かりやすく他者に伝えることができる。子育て環境を深く分析して課題や問題を見つけ出し、その解決に向けて計画的に考え、答えを導き出す能力を身に付けている。	専門職業人としての高い倫理観を保持し社会に貢献しようとすることができる。子育て環境について日ごろから深く考えており、身に付けた知識と技能を生かし物事を的確に認識して評価できる能力がある。	他者への思いやりや柔軟な対応力、コミュニケーション力があり、他者と協働して課題を解決しようとすることができる。子育て環境について日ごろから考え専門職業人として社会に貢献しようという意欲がある。	他者への思いやりや柔軟な対応力がある。子育て環境を理解しようという意欲がある。専門職業人となる意欲がある。

年度	2019	学科	保育学科	ナンバリング科目コード	30050	ICT活用	○
授業科目名	音楽基礎					実務教員	○
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	1年	期間	前期	必修区分			
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	複数		
教員	山下　真由美／高橋　セリカ						
該当ディプロマ・ポリシー ＤＰ項目番号	DP1.6.8 知識・技能(DP1～3)、思考力・判断力・表現力(DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力(DP7～9)						

授業のテーマ及び到達目標

保育所保育指針・幼稚園教育要領に基づき、保育・幼児教育における指導者に必要とされる基礎的音楽理論の理解、ソルフェージュ力楽譜を読み記されている内容を理解して歌う力、音楽を表現する力などの音楽の基礎力を培う。
1.単旋律の楽譜を見て階名唱ができる。（♯♭各2つまでの長・短調）
2.大譜表と鍵盤との位置関係を学び、楽譜の書写、音名や基礎的なリズムを理解できる。
3.楽譜上の音符や休符の種類，調やテンポ，音程、速度標語や音楽記号を理解する。
4.主要三和音やコード、根音や和音を基にする簡易伴奏について理解し伴奏付けを行うことができる。
5.声や発声のしくみを理解し、童謡や子どもの歌を歌唱できる。

授業の概要

・単旋律の楽譜を見て階名唱をおこなう。（♯♭各2つまでの長・短調）
・大譜表と鍵盤との位置関係を学び、楽譜の書写、音名や基礎的なリズムを理解する。
・楽譜上の音符や休符の種類、調やテンポ、音程、速度標語や音楽記号を学ぶ。
・主要三和音やコード、根音や和音を基にする簡易伴奏について理解し伴奏付けを行う。
・声や発声のしくみを理解し、童謡や子どもの歌を歌唱する。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

予習・復習の課題については、授業において明示する。予習では、次回授業内容のテキスト該当箇所を読んでくること。復習では、楽典（音楽基礎理論）とソルフェージュ（音楽基礎技能）を相互に関連付け理解が深まるよう、楽譜を書いたり、楽譜を見て歌唱（階名唱）したり、リズム打ちを行ったり、楽譜に示された音を弾いてみる等、理論と実践の融合により学びの定着を図るよう努めること。

標準学修時間の目安

次の授業までに、予習・復習を含めて2時間の学修が望ましい。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

定期試験後（追・再試験対象者発表日）に模範解答を研究室前に掲示する。再試験対象者に答案用紙を返却する。各自理解不十分である箇所については、テキスト・資料を再度確認し、理解を深めること。

使用教科書

	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	はじめての楽典ブック	長沼由美、二藤弘美　著	備考欄記載	978-4636885422
2				
3				

使用教科書備考

「はじめての楽典ブック　ミッキーといっしょ」　長沼由美、二藤弘美　著　出版社：ヤマハミュージックメディア

参考書・参考資料等

幼稚園指導要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、その他に授業中に適宜資料を配布する。

実務経験のある教員の略歴と教育内容

・山下真由美：実務経験のある教員に該当しない
・高橋セリカ：ピアノ教室における個人指導（指導歴15年）及び、私立高等学校「音楽」授業の非常勤講師を担当（4年）する。函館を中心としたピアノ演奏活動の経験を生かし、保育・幼児教育における「音楽基礎」理論及び実技の指導を行う。

その他

保育・幼児教育に必要とされる「音楽基礎力」の獲得と伸長を目指す。楽典（音楽基礎理論）とソルフェージュ（音楽の基礎技能）を相互に関連付け、段階的に学習を進めていく。ML教室（第2音楽室）及び第1音楽室において、ICTを活用した双方向型授業を実施する。

授業計画

第 1回　オリエンテーション、幼児教育における音楽基礎力とは、校歌・学園歌歌唱練習
第 2回　楽典基礎（音符と休符，リズムと拍子）①ソルフェージュ基礎（リズム打ち）、校歌
第 3回　楽典基礎（音符と休符，リズムと拍子）②ソルフェージュ基礎（リズム打ち）、学園歌
第 4回　楽典基礎（音名，変化記号）①ソルフェージュ基礎（階名唱）、声のしくみ
第 5回　楽典基礎（音名，変化記号）②ソルフェージュ基礎（階名唱）、発声の理解
第 6回　楽典基礎（音階）　①ソルフェージュ基礎（音階の理解）、発声
第 7回　楽典基礎（音階）　②ソルフェージュ基礎（音階の実技）、歌唱
第 8回　楽典基礎（音程）　①ソルフェージュ演習（音程の理解）、歌唱
第 9回　楽典基礎（音程）　②ソルフェージュ演習（音程の実技）、歌唱
第10回　楽典（調と調号）　①移動ドの理解ソルフェージュ演習（調号理解の実技）
第11回　楽典（調と調号）　②移動ドの理解と歌唱ソルフェージュ演習（調号理解の実技）
第12回　楽典（和音・主要三和音）①コダーイシステムの理解
第13回　楽典（和音・主要三和音）②コダーイハンドサインの理解・歌唱
第14回　楽典（コード）ソルフェージュ演習、歌唱ハーモニーの理解
第15回　音楽基礎の総合的理解と幼児教育への活用
定期試験

【学生に対する評価】
楽典（筆記試験・小テスト）及びソルフェージュ（実技）、課題レポート、学習意欲等を評価対象とする。

成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（%）	60	30	5	0	5	100

成績評価の基準（ルーブリック）

到達度	秀逸	優秀	良好	最低限
授業の到達目標に対する到達度の目安	保育所保育指針・幼稚園教育要領に基づき、保育・幼児教育の指導者に必要とされる基礎的音楽理論（音階調性、リズム、和音）及びソルフェージュを総合的に理解している。正確な読譜を基に階名唱やリズムを表現して他者に分かりやすく伝えることができる。他者と協働して、音楽表現の基礎力をもとに保育を構想・提示できる。	保育所保育指針・幼稚園教育要領に基づき、保育・幼児教育の指導者に必要とされる基礎的音楽理論（音階調性、リズム、和音）及びソルフェージュを理解している。正確な読譜を基に階名唱やリズムを表現して他者に伝えることができる。他者と協働して、音楽表現の基礎力をもとに保育を構想できる。	保育所保育指針・幼稚園教育要領に基づき、保育・幼児教育の指導者に必要とされる基礎的音楽理論（音階調性、リズム、和音）及びソルフェージュを概ね理解している。読譜を基に階名唱やリズムを表現して他者に伝える試みに取り組むことができる。他者と協働して、音楽表現の基礎力をもとに保育を構想するよう努めている。	保育所保育指針・幼稚園教育要領に基づき、保育・幼児教育の指導者に必要とされる基礎的音楽理論（音階調性、リズム、和音）及びソルフェージュについて断片的に理解している。読譜を基に階名唱やリズムを表現して他者に伝えることは概ねできる。他者と協働し音楽表現の基礎力をもとに保育を構想することは、今後の課題である。
該当DPに対する到達度の目安	保育・幼児教育の指導者に必要とされる基礎的音楽理論を充分理解しソルフェージュの力を統合して音楽を表現することができる。身につけた基礎知識や技能及び音楽的経験を活用して、音楽や音楽表現を他者に分かりやすく伝えることができる。他者と協働してコミュニケーション力を生かし保育実践の課題解決に取り組むことができる。	保育・幼児教育の指導者に必要とされる基礎的音楽理論を理解しソルフェージュの力を活用して音楽を表現することができる。身につけた音楽基礎知識や技能及び音楽的経験を活用して音楽や音楽表現を他者に伝えることができる。他者と協働してコミュニケーションを育み保育実践の課題解決に取り組むことができる。	保育・幼児教育の指導者に必要とされる基礎的音楽理論を理解し、ソルフェージュの基礎力をもとに音楽の概要を表現することができる。身につけた音楽基礎知識や技能及び音楽的経験を基に、音楽や音楽表現を他者に伝える試みに取り組むことができる。他者と協働してコミュニケーションを育み、保育実践の課題解決に努めることができる。	保育・幼児教育の指導者に必要とされる基礎的音楽理論を概ね理解し、ソルフェージュの基礎力を断片的に用いて音楽を表現することができる。音楽基礎知識や技能及び音楽的経験をふまえ音楽や音楽表現を他者に伝えることは概ねできる。他者と協働して保育実践の課題解決に取り組むことは今後の課題である。

年度	2019	学科	保育学科	ナンバリング科目コード	30150	ICT活用	○
授業科目名	保育者のための音楽Ⅰ					実務教員	○
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	1年	期間	通年	必修区分	卒レ		
授業形態	演習	単位数	2	担当形態	複数		
教員	山下　真由美／伊藤　亜希子／高橋　セリカ						
該当ディプロマ・ポリシー ＤＰ項目番号	DP1.3.4.6.8 知識・技能(DP1～3)、思考力・判断力・表現力(DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力(DP7～9)						

授業のテーマ及び到達目標

保育所保育士指針、幼稚園教育要領の領域「表現」のねらいに則し、幼児教育に必要とされる音楽基礎実技の習得を目指す。具体的には、音楽基礎（音楽理論・ソルフェージュ）の知識を基に、基礎的なピアノ技術や歌唱技術の向上を目指すとともに、保育の内容を理解し、子どもの発達に応じた豊かな音楽表現活動を構想できる力を培う。
1．保育及び幼児教育に必要とされる音楽基礎技術（ピアノ実技・歌唱方法）を習得する。
2．保育・幼児教育で必要とされる子ども歌の「弾き歌い」ができる。
3．身に付けた音楽表現力を活用し、様々な保育の場を想定した発表会等の表現活動の企画・構想ができる。

授業の概要

・保育及び幼児教育に必要とされる音楽基礎技術（ピアノ実技・歌唱方法）を習得する。
・保育・幼児教育で必要とされる子ども歌の「弾き歌い」ができる音楽的基礎力・表現力を培う。
・身に付けた音楽表現力を活用し、様々な保育の場を想定した発表会等の表現活動の企画・構想を行う。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

予習・復習は、授業毎各自の基礎技術の習得段階に合わせて内容を示す。次の授業までに、保育・幼児教育に必要とされる技能習得に向け、「ピアノ実技練習、歌唱練習、弾き歌い練習」に計画的・継続的に取り組む。その際、必ず自己目標を設定し、次の授業で確認・自己評価を行う。ピアノ技術は毎日の練習によって上達が期待されることから、毎日30分以上は、自主的に練習する時間を自ら設けること。

標準学修時間の目安

ピアノ実技は毎日の練習によって上達することから、「毎日30分」は継続的・計画的に練習に取り組む。また、次回の授業までに予習・復習を含め2時間の学修が望ましい。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

再試験対象者のみ、試験内容（演奏及び弾き歌い）のアドバイスを行う。

使用教科書

	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	幼児の音楽教育	音楽教育研究協会	朝日出版社	978-4-255-15556-2
2				
3				

使用教科書備考

・幼稚園指導要領、保育所保育指針、幼稚連携型認定こども園教育・保育要領、その他に授業中に適宜資料を配布する。
・「幼児教育・保育士養成のための新編幼児の音楽教育－音楽的表現の指導－」　音楽教育研究協会　著

参考書・参考資料等

『短期修了バイエル教本』ドレミ楽譜出版
『ブルグミュラー』全音楽譜出版
その他適宜資料を配布する

実務経験のある教員の略歴と教育内容

・山下真由美：実務経験のある教員に該当しない。・伊藤亜希子：ピアノ教室個人指導（指導歴24年）、函館、東京等での演奏活動等の経験を生かし、実技指導を行う。・高橋セリカ：ピアノ教室個人指導（指導歴15年）、私学高等学校「音楽」授業非常勤を担当（4年）。函館を中心とした演奏活動等の経験を生かし、実技指導を行う。

その他

・実技（ピアノ、歌唱、弾き歌い）は、グレードまたはグループ別に行う。また、必要に応じて一斉指導を行う。
・実技で取り組む楽曲については、授業内で適宜説明を行う。
・授業は、ML教室（第2音楽室）及び第1音楽室にてICTを活用した双方向型授業を実施する。その他、ピアノ個人指導室を使用する。

授業計画

第 1回　オリエンテーション（指導内容、年間計画）保育・幼児教育における音楽表現活動ねらい
第 2回　保育・幼児教育における音楽の基礎力とは、各自の音楽体験の省察、自己目標設定
第 3回　歌唱、発声、グレードの確認、弾き歌いとは
第 4回　グレードによる基礎実技力習得の計画、弾き歌いの練習方法
第 5回　グレード実技練習（各自の基礎力向上①）弾き歌い　基礎　前半
第 6回　グレード実技練習（各自の基礎力向上②）弾き歌い　基礎　後半
第 7回　グレード実技練習（各自の基礎力の確認）弾き歌い　確認　前半
第 8回　グレード実技練習（各自の基礎力の確認）弾き歌い　確認　後半
第 9回　幼児教育における音楽表現・保育の現状・情報機器の活用
第10回　グレード実技練習（各自の基礎力の定着）弾き歌い　自己分析　前半
第11回　グレード実技練習（各自の基礎力の定着）弾き歌い　自己分析　後半
第12回　グレード実技練習（各自の基礎力の定着）弾き歌い　省察と改善
第13回　グレード実技練習（各自の基礎力の定着）弾き歌い　省察と改善
第14回　前期まとめ：　学習発表会（前半）取組の省察と改善
第15回　前期まとめ：　学習発表会（後半）取組の省察と改善
第16回　前期の課題確認、後期の計画　課題・実技発表
第17回　グレードによる基礎実技力の向上　弾き歌い、発声　基礎①
第18回　グレードによる基礎実技力の向上　弾き歌い、合唱　基礎②
第19回　グレードによる基礎実技力の向上　弾き歌い、発声　応用①
第20回　グレードによる基礎実技力の向上　弾き歌い、合唱　応用②
第21回　グレードによる基礎実技力の向上　弾き歌い、発声　実践①
第22回　グレードによる基礎実技力の向上　弾き歌い、合唱　実践②
第23回　音楽表現と小学校音楽教育とのかかわり
第24回　子どもの発達をふまえた音楽表現活動とは　グレードによる実技課題（前半グループ）
第25回　子どもの発達を踏まえた音楽表現活動の実際グレードによる実技課題（後半グループ）
第26回　学習発表会の計画立案　保育所保育指針・幼稚園教育要領を踏まえて
第27回　学習発表会の準備
第28回　学習発表会（前半）　評価　保育構想に基づく音楽表現活動の視点から
第29回　学習発表会（後半）　改善　保育構想に基づく音楽表現活動の視点から
第30回　実技試験に向けた準備・試験の心得
定期試験

【学生に対する評価】
実技（ピアノ、歌唱、弾き歌い等）、課題・レポート（手書き楽譜）、その他の試験（試演会等）予習・復習の学習意欲等を評価対象とする。

成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（%）	0	70	10	10	10	100

成績評価の基準（ルーブリック）

到達度	秀逸	優秀	良好	最低限
授業の到達目標に対する到達度の目安	保育所保育士指針、幼稚園教育要領の領域「表現」のねらいに則して幼児教育に必要な音楽実技（ピアノ実技・歌唱技術・弾き歌い）を充分習得し応用できる。身につけた技能を他者に分かりやすく示すと共に、子どもの発達に応じた豊かな表現活動の課題や改善策を考えることができる。他者と協働し豊かな表現活動を計画的に構想できる。	保育所保育士指針、幼稚園教育要領の領域「表現」のねらいに則して幼児教育に必要な音楽実技（ピアノ実技・歌唱技術・弾き歌い）を充分に習得している。身につけた技能を他者に示すと共に、子どもの発達に応じた表現活動の課題や改善策を考えることができる。他者と協働した表現活動を構想できる。	保育所保育士指針、幼稚園教育要領の領域「表現」のねらいに則して幼児教育に必要な音楽実技（ピアノ実技・歌唱技術・弾き歌い）を習得している。身につけた技能を他者に示すと共に子どもの発達に応じた表現活動の課題や改善策を考えるよう努力することができる。他者と協働した表現活動のイメージをもつことができる。	保育所保育士指針、幼稚園教育要領の領域「表現」のねらいに則して幼児教育に必要な音楽実技（ピアノ実技・歌唱技術・弾き歌い）を充分ではないが習得している。身につけた技能の一部を他者に示すことはできるが、子どもの発達を考えた表現活動の課題考察や他者との協働による表現活動の構想は、今後の課題である。
該当DPに対する到達度の目安	保育者の社会的使命を理解し、保育・幼児教育に必要な音楽知識や表現技術を充分習得し、保育に関する課題について、具体的な解決策を考えることができる。発達段階に配慮し、子どもの成長を促すことを目的として身につけた知識・技能を分かりやすく他者に伝えることができる。他者と協働して音楽表現活動を計画的に構想できる。	保育者の社会的使命を理解し、保育・幼児教育に必要な音楽知識や表現技術を習得し、保育に関する課題について解決策を考えることができる。子どもの成長を促すことを目的として身につけた知識・技能を他者に伝えることができる。他者と協働して音楽表現活動を構想できる。	保育者の社会的使命を理解し、保育・幼児教育に必要な音楽知識や表現技術を概ね習得し、保育に関する課題について解決策を考えようと試みることができる。子どもの成長を促すことを目的として身につけた知識・技能を他者に伝えようと努力できる。他者と協働して音楽表現活動のイメージをもつことができる。	保育者の社会的使命を知り保育・幼児教育に必要な音楽知識や表現技術を充分ではないが習得し、継続学習の必要性を認識できる。保育に関する課題の解決策や子どもの成長を目的として身につけた知識・技能を他者に伝えること、他者と協働して音楽表現活動のイメージをもつこと等は、今後の課題である。

年度	2019	学科	保育学科	ナンバリング科目コード	30160	ICT活用	―
授業科目名	保育者のための図画工作					実務教員	―
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	1年	期間	通年	必修区分	卒レ		
授業形態	演習	単位数	2	担当形態	単独		
教員	輪島　進一						
該当ディプロマ・ポリシー ＤＰ項目番号	DP1,5,6 知識・技能(DP1～3)、思考力・判断力・表現力(DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力(DP7～9)						

授業のテーマ及び到達目標

保育所保育指針、幼稚園教育要領、認定こども園教育・保育要領の領域「表現」のねらいに即し、保育者に必要とされる造形基礎知識・技術の習得を目指す。絵画、彫刻、工芸、デザイン等の各領域を横断的かつ総合的に演習し、平面・立体の表現力を高める。
到達目標は以下の３つである。
１．色彩と形の様々な演習を通して、視覚的イメージ力や表現力を高めることができる。
２．立体イメージを平面上に再現することができる。
３．平面イメージに沿って、具象的・抽象的立体物を木片等様々な素材を駆使しながら表現できる

授業の概要

保育者に必要とされる造形基礎知識・技術の習得をねらいとして授業を進める。様々な造形表現の経験により、形や色彩等視覚的イメージを伸ばす。さらに手間や時間を掛けて造形作品を完成させることにより、自ら達成感を味わい、抽象的かつ具体的思考を培い、図画工作（造形表現活動）に対する興味・関心を高める。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

講義用資料（プリント類－担当者作成）を随時配付する。授業後には復習し、日頃より人間の造形文化活動や自然の形態や人工的デザインに関心を持ち、美術展等の鑑賞を続ける。
実技演習中心であることから、完成までの時間に個人差も見られるため、授業外制作時間を必ず確保し、作品を完成させること。各自放課後制作及び自宅へ持参し、制作時間の個別調整（遅延の場合等）は各自もうける。

標準学修時間の目安

1回の講義・演習あたり、復習（作品の補足・遅延時）に重点を置き、4時間程度の学修時間が望ましい。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

課題提出期限後の授業や展示で模範的な課題を紹介する。

使用教科書

	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	なし	なし	なし	なし
2				
3				

使用教科書備考

なし

参考書・参考資料等

なし

実務経験のある教員の略歴と教育内容

実務経験のある教員に該当しない。

その他

予定の計画で行うが、ほとんど実技演習であるため、時間配分に延長・短縮が出てくる場合もあるので随時調整して進める。
絵の具セット、その他の道具類は指示に従い、持参・保管する。

授業計画

第 1回　ガイダンス　授業の目的・内容等、教材の配布・確認
第 2回　言葉と色彩による表現①～俳句の作成(クラフトⅢ)
第 3回　言葉と色彩による表現②～説明文の下書き（クラフトⅣ）
第 4回　言葉と色彩による表現③～説明文清書
第 5回　言葉と色彩による表現④～ちぎり絵・色選出
第 6回　言葉と色彩による表現⑤～切り貼り・完成
第 7回　構成デザインの基本・造形要素の理解（クラフトⅡ）
第 8回　構成デザインの基本・基本デザインの実際
第 9回　壁面デザイン制作①～アイディアスケッチ
第10回　壁面デザイン制作②～具体的形象の完成
第11回　壁面デザイン制作③～配色・構成の計画
第12回　壁面デザイン制作④～素材から形の抽出
第13回　壁面デザイン制作⑤～形と構成の定着
第14回　壁面デザイン制作⑥～仕上げへ向けて
第15回　壁面デザイン制作⑦～完成・自己評価と合評
第16回　立体オブジェ①～導入
第17回　立体オブジェ②～コンセプト（意図・目的）
第18回　立体オブジェ③～平面図作成
第19回　立体オブジェ④～正面・側面図作成
第20回　立体オブジェ⑤～立体イメージ図（鳥瞰図）
第21回　立体オブジェ⑥～平面土台作り（クラフトⅠ）
第22回　立体オブジェ⑦～木材等素材の選択
第23回　立体オブジェ⑧～素材の加工と構成（クラフトⅤ）
第24回　立体オブジェ⑨～素材の追加・組立
第25回　立体オブジェ⑩～組立制作から接着
第26回　立体オブジェ⑪～彩色
第27回　立体オブジェ⑫～粘土細工の配置と追加
第28回　立体オブジェ⑬～オブジェ周辺の整頓
第29回　立体オブジェ⑭～仕上げと完成
第30回　立体オブジェ⑮～自己評価カード・合評

【学生に対する評価】
（試験やレポートの評価基準など）
実技作品・授業における課題等（配分得点80%）、授業参加態度（20%）

成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（%）	0	80	0	0	20	100

成績評価の基準（ルーブリック）

到達度	秀逸	優秀	良好	最低限
授業の到達目標に対する到達度の目安	保育で用いられる様々な教材の特性を理解し、活用することができ、自己の持つイメージの言語的把握ができ、そのイメージを色彩と形態に変換・再現することができる。さらにより創造的な具象的・抽象的造形表現力を身につけ保育者として乳幼児に寄り添いながら教材を扱うことが出来る。	保育で用いられる様々な教材の特性を理解し活用することができ、自己の持つイメージの言語的把握とそのイメージを色彩と形に変換・再現することができる。また創造的な視覚イメージ力や造形表現力を高めることができる。	保育で用いられる様々な教材の特性を理解し、活用することができる。またイメージの言語的把握とそのイメージを色彩と形に変換・再現することができる。	保育で用いられる様々な教材の特性を十分に理解し、活用することができない。またイメージの言語的把握とそのイメージを色彩と形に変換・再現する力や完成度に乏しい。さらに具象的・抽象的表現の概念を明確に理解できない。
該当DPに対する到達度の目安	自然環境や生活環境においてその多様な美的で造形的な課題に感動でき、機能性を理解し、創造的かつ想像的に豊かな日常を送ることができる。またその自然的・人工的環境より得た心の豊かさ・美に対する感受性や専門的知識を保育者として後継する幼児へ伝達・実践することができる。	自然環境や生活環境においてその造形的な美しさに感動でき、また機能性を理解し、日常を送ることができる。また身の回りの環境より得た心の豊かさ・美に対する感受性や専門的知識を保育者として後継する幼児へ伝達することができる。	自然環境や生活環境においてその造形的な美しさに感動することができ、またその環境より得た心の豊かさ・美に対する感受性や専門的知識を保育者として後継する幼児へ伝達することができる。	自然環境や生活環境においてその造形的な美しさに無関心・無感動の度合いが大きく、ものの見方・態度などが型にはまって固定的で多様な見方に乏しい。またその環境より得た心の豊かさ・美に対する感受性や専門的知識を周囲の人々に伝えることに乏しい。

年度	2019	学科	保育学科	ナンバリング科目コード	30070	ICT活用	―
授業科目名	日本国憲法					実務教員	○
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等	66条の6に定める科目						
配当年次	1年	期間	後期	必修区分	幼		
授業形態	講義	単位数	2	担当形態	単独		
教員	小林　美紗						
該当ディプロマ・ポリシー ＤＰ項目番号	DP1,3,7 知識・技能(DP1～3)、思考力・判断力・表現力(DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力(DP7～9)						

授業のテーマ及び到達目標

①それぞれの人権規定が何を保障しているのか、なぜ保障しなければならないのかを理解する。
②憲法は個人の人権を保障するために公権力を制限する法であることを理解する。
③権力分立の仕組みや必要性を理解する。

授業の概要

日本国憲法の原理・原則を理解する。
様々な人権問題についての学習を通じ、人権意識・感覚を身につける。
現代的な人権感覚を身につけることは、多様な子どもや保護者と関わる保育者にとって必須である。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

予習は、授業日までに教科書の指定箇所を読み、関連する資料の下調べを行うこと。
復習は、授業時間内に配布するレジュメに示された問題を授業内容を振り返しながら解くことにする。

標準学修時間の目安

１回の講義あたり、２時間の予習と２時間の復習が必要である。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

定期試験後に再試験対象者にのみ答案用紙を返却する。

使用教科書

	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	「伊藤真の憲法入門」第6版	伊藤真	日本評論社	978-4-535-52304-3
2				
3				

使用教科書備考

「伊藤真の憲法入門」第６版（講義再現版）を使用する。

参考書・参考資料等

なし

実務経験のある教員の略歴と教育内容

実務経験のある教員に該当しない。

その他

日本国憲法の全条文をプリントアウトしたものを初回の講義で配布する。
講義毎にレジュメを配布する。

授業計画

第 1回　立憲主義
第 2回　国民主権と民主主義
第 3回　平和主義
第 4回　権力分立と立法権（国会）
第 5回　行政権（内閣）と司法権（裁判所）
第 6回　人権総論と人権享有主体性
第 7回　平等原則
第 8回　精神的自由権①（思想・良心の自由、信教の自由、学問自由）
第 9回　精神的自由権②（表現の自由）
第10回　参政権
第11回　経済的自由権
第12回　人身の自由
第13回　社会権
第14回　受益権と新しい人権
第15回　地方自治、憲法改正、憲法の私人間効力

成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（%）	70	0	0	0	30	100

成績評価の基準（ルーブリック）

到達度	秀逸	優秀	良好	最低限
授業の到達目標に対する到達度の目安	憲法が個人の人権を保障し公権力を制限する法であること、憲法が保障する個別の人権や権力分立の概要について理解しており、それらを他者に説明することができるとともに憲法に関する問題について自らの考えを表現することができる。	憲法が個人の人権を保障し公権力を制限する法であること、憲法が保障する個別の人権や権力分立の概要について理解しており、それらを他者に説明することができる。	憲法が個人の人権を保障し公権力を制限する法であること、憲法が保障する個別の人権や権力分立の概要について理解している。	憲法が個人の人権を保障し公権力を制限する法であること、憲法が保障する個別の人権や権力分立の概要について断片的であるが理解している。
該当DPに対する到達度の目安	現実社会における人権問題と身に付けた知識を関連付けることができ、関連する情報を収集・分析し、他者へ相当説得的な意見表明をすることができる。	現実社会における人権問題と身に付けた憲法の知識を関連付けることができ、ある程度の情報の収集と他者への発信ができる。	現実社会における人権問題と身に付けた憲法の知識を関連付けることができる。	現実社会における人権問題と身に付けた憲法の知識を関連付けることがほとんどできない。

年度	2019	学科	保育学科	ナンバリング科目コード	30071	ICT活用	―
授業科目名	外国語(英語)					実務教員	○
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等	66条の6に定める科目						
配当年次	1年	期間	前期	必修区分	保幼		
授業形態	演習	単位数	2	担当形態	単独		
教員	シマダ　レナーテ						
該当ディプロマ・ポリシー ＤＰ項目番号	DP8 知識・技能(DP1～3)、思考力・判断力・表現力(DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力(DP7～9)						

授業のテーマ及び到達目標

1.テキストの英文を正しく読むことができ、内容を把握できる。
2.教員が話す英語の内容を正しく聞き取ることができる。
3.テキストの文章を正しいイントネーションで発音することができる。
4.学生同士で簡単な日常会話ができる。

授業の概要

この講義では、英語の4つの主要スキルである、リーディング、ライティング、ヒアリング、スピーキングの能力を養う。特に、英語でのコミュニケーション能力を高めるために、ヒアリングとスピーキングを正しいイントネーションで行えるようにすることに重点を置く。簡単な日常会話、ダイアログ形式の練習、置き換えや変形の練習などを行い、学生から、これらの練習のアイデアを出してもらうことも行う。また、実際に英語を話す時間が多くなるように、学生同士での会話の練習も行う。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

授業で学習した内容について、確認し、考えて、次の授業に出席すること。

標準学修時間の目安

次回の講義までに予習・復習を含めて4時間の学修が望ましい。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

定期試験後、再試験対象者にのみ解答を開示する。

使用教科書

	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	なし	－	－	－
2				
3				

使用教科書備考

なし

参考書・参考資料等

英語辞書（高校時代等に使用した英和辞典で良い）

実務経験のある教員の略歴と教育内容

昭和51年10月　ＩＭＬ外国語会話スクール　ドイツ語・英会話教師
昭和62年4月　野又学園函館短期大学　英会話教師　現在に至る
平成24年4月　北海道教育大学函館校ドイツ語会話講師現在に至る

その他

テキストは、プリントで対応する。

授業計画

第 1回　オリエンテーション、筆記課題、自己紹介
第 2回　クラスで親密になる（1）（クラスメートにインタビュー）
第 3回　クラスで親密になる（2）（前回のインタビューの報告、ディクテーション）
第 4回　形容詞、否定形
第 5回　はい・いいえで答える（肯定形の質問、否定形の質問）
第 6回　単数形・複数形・反意語、クイズ（自然な組み合わせ）
第 7回　仕事で（1）（a・anの意味）
第 8回　仕事で（2）（ディクテーション、反意語）
第 9回　ハンドアウトクイズ（自然な組み合わせ、家族関係）
第10回　家族の写真を持参して、クラスに紹介する
第11回　英語での地理（1）（国の名前、国民の名前）
第12回　英語での地理（2）（市の名前、話される言語）
第13回　ディクテーション、気象について話す
第14回　職業、否定の回答
第15回　ナオミはビルと出会う（教材の意味を読み取る、教材の内容を書き取る）

成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（%）	100	0	0	0	0	100

成績評価の基準（ルーブリック）

到達度	秀逸	優秀	良好	最低限
授業の到達目標に対する到達度の目安	student can read and speak very well with correct intonation	student can speak and read well with good intonation	student is able to express him-or herself in English and read fairly well, sometimes intonation errors	student is able to express him- or herself in broken English, reading with errors
該当DPに対する到達度の目安	enable student to conduct simple conversation patterns naturally and read the text properly	enable student to conduct simple conversation patterns somewhat naturally and read the text with good intonation	enable student to conduct simple patterns of conversation and read a text, correct errors by making the student repeat after me individually.	enable student to conduct simple conversation patterns and read in somewhat broken English; have them repeat, until their English is more fluent

年度	2019	学科	保育学科	ナンバリング科目コード	30071	ICT活用	―
授業科目名	外国語(仏語)					実務教員	○
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等	66条の6に定める科目						
配当年次	1年	期間	前期	必修区分	保幼		
授業形態	演習	単位数	2	担当形態	単独		
教員	竹花 和晴						
該当ディプロマ・ポリシー ＤＰ項目番号	DP8 知識・技能(DP1～3)、思考力・判断力・表現力(DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力(DP7～9)						

授業のテーマ及び到達目標

1.フランス語独特の発音を習い、実際に発音できる。
2.フランス語独特の表記を習い、書く事ができる。
3.フランス語で簡単な会話ができる。
4.フランス料理のレシピを読むことができる。

授業の概要

フランス語はヨーロッパ諸語の中で最も重要な言語の一つであります。また、全世界的な学術と外交用語でもあります。文化や経済等の国際交流が発展するなかで、フランス語は益々その重要性を増しつつあります。本授業は食物栄養学科の学生を対象としており、フランス、カナダ、スイス、ベルギー、アフリカ等のフランス語圏諸国で現在話されている生きた会話を学習すると共に、調理レシピ（recipe）や文献の読解への道筋を開くことの契機にしたいと考えております。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

授業で学習した内容について、繰り返し声をだして練習するとともにその内容を覚える。次の授業に出席する前に次の単元の分からない単語を調べてくること。

標準学修時間の目安

1回の講義あたり2時間の予習と2時間の復習が必要となる。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

定期試験後に、模範解答を掲示する。

使用教科書

	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	やさしく学ぶ旅のフランス語	中村敦子	第三書房	978-4-8086-2200-8
2				
3				

使用教科書備考

「LE FRANCAIS POUR LE VOYAGE」（やさしく学ぶ旅のフランス語）３訂版

参考書・参考資料等

「仏和辞書」中または小辞典（出版社は随意）

実務経験のある教員の略歴と教育内容

1985年、フランス国立自然史博物館博士課程前期（DEA：修士課程相当）資格取得。1991年同上博士課程学位取得(仏国大学省認定統一博士号)。1995年から現在、函館短期大学仏語非常勤講師。2014年から現在、フランス自然史博物館人類古生物学研究所通信会員（日本担当）。仏語論文、国際学会発表複数あり。

その他

外国語習得の要諦は、第一にたゆまざる学習の継続であるとおもわれる。そして、学習したことを、理解し、応用できることであると考えられる。必要に応じて、フランス語での簡単なプレゼンテーションを実施する。

授業計画

第 1回　フランス語の歴史、現在のフランス語、日本におけるフランス語等について
第 2回　フランス語独特の発音や表記等について
第 3回　フランス語独特の発音や表記、数字の発音
第 4回　教科書第1課の規則動詞と助動詞を伴う会話
第 5回　教科書第２課の 「旅先のホテルでの会話」　(疑問文の文例等)
第 6回　教科書第２課の 「旅先のホテルでの会話」　(フロントでの会話例等)
第 7回　教科書第3課の「フランスの生活」 と不規則動詞等について
第 8回　教科書第3課の「フランスの生活」と数を伴う会話
第 9回　教科書第4課の「観光と乗り物」 に伴う会話
第10回　教科書第4課の「観光と乗り物」と否定文等について
第11回　副教材「フランス料理のレシピ」１（原文の読解、料理の材料と分量）
第12回　副教材「フランス料理のレシピ」２（原文の読解、料理の下準備文例）
第13回　副教材「フランス料理のレシピ」３（原文の読解、調理の指示・命令形例）
第14回　副教材「フランス料理のレシピ」４（原文の読解、料理のテーブルセッティング）
第15回　教科書と副教材を活用した全て学習の点検（まとめ）

成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（%）	40	0	0	0	60	100

成績評価の基準（ルーブリック）

到達度	秀逸	優秀	良好	最低限
授業の到達目標に対する到達度の目安	仏語学習において、初級コミュニケーション力の習得で秀逸な到達度に達している。	仏語学習において、初級コミュニケーション力の習得で優秀な到達度に達している。	仏語学習において、初級コミュニケーション力の習得で良好な到達度に達している。	仏語学習において、初級コミュニケーション力の習得で最低限の到達度に達している。
該当DPに対する到達度の目安	初級仏語コミュニケーション力を身に付け、当該言語話者と協力して、課題を解決しょうとすることができる可能性を学習したことにおいて秀逸な到達度に達している。	初級仏語コミュニケーション力を身に付け、当該言語話者と協力して、課題を解決しょうとすることができる可能性を学習したことにおいて優秀な到達度に達している。	初級仏語コミュニケーション力を身に付け、当該言語話者と協力して、課題を解決しょうとすることができる可能性を学習したことにおいて良好な到達度に達している。	初級仏語コミュニケーション力を身に付け、当該言語話者と協力して、課題を解決しょうとすることができる可能性を学習したことにおいて最低限の到達度に達している。

年度	2019	学科	保育学科	ナンバリング科目コード	30071	ICT活用	―
授業科目名	外国語(中国語)					実務教員	○
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等	66条の6に定める科目						
配当年次	1年	期間	前期	必修区分	保幼		
授業形態	演習	単位数	2	担当形態	単独		
教員	東出 隆司						
該当ディプロマ・ポリシー ＤＰ項目番号	DP8 知識・技能(DP1～3)、思考力・判断力・表現力(DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力(DP7～9)						

授業のテーマ及び到達目標

この授業を選択された殆どの方にとっては、初めてふれる外国語だと思います。隣国のコトバである中国語を学びます。この中国語の学習を通して、日本文化の源である中国文化に触れながら学んだ中国語を使っての自分の紹介ができる、語彙・表現力・発音を身につけることを目指します。自分の日常や家族、好みなどを表現し、相手に伝えられるレベルの習得を目標とします。

授業の概要

中国語は双方が漢字を使用している点で身近な外国語と言えます。この中国語の授業では、日本語と異なった、発音や文法、中国で新しく使われている簡単字等を学びます。「聞く、話す、読む、書く、訳す」の外国語学習の基本的習得を目指します。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

中国語は書き表すと大体意味が通じますが、「音」で伝えることが大切です。できるだけ多く中国語の「音」に接する機会を自ら持つようにしましょう。その為には、NHKの中国語講座（ラジオ・テレビ）の視聴をしてください。またテキスト付属のCDは、会話部分を２つの速度で録音されていますのでとても便利です。繰り返し視聴してください。音声ダウンロードURLもありますので、ダウンロードして活用して下さい。

標準学修時間の目安

はじめての言語ですので、予習は難しいと思いますが、授業でその都度習った単語を自分のものにできるよう、後ろに３０分程度、習ったものを確実に自分のものにする時間を持って下さい。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

中国語は漢字で表記される言語ですので、その表記には大きな戸惑いはないと思います。問題は「音」・「発音」です。この点は、授業の中で個別に発音を求められることが多くあります。「発音」の確認です。その都度、指導します。わからない点は、その都度投げかけていただくか、授業の始めや終わりの時間も利用してください。

使用教科書

	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	楽しい中国語	山下輝彦	朝日出版社	978-255-45271-5
2				
3				

使用教科書備考

授業の最初は発音に３コマほどとられます。そのあと、課文の勉強に入り、語彙を少しづつ増やします。中国語の「音」を学習する為には、付属のCDを活用して下さい。

参考書・参考資料等

NHKラジオ中国語テキスト「まいにち中国語」テレビ中国語テキスト「テレビで中国語」，小学館刊「日中辞典」「中日辞典」。辞書は図書館にあります。

実務経験のある教員の略歴と教育内容

「函館日中友好協会」会長として、市内で年間を通しての一般社会人向け「中国語講座」を運営、講義。函館市・裁判所・検察庁・海保・等の、中国語（北京語）通訳人登録。ヘルプデスク（外国人緊急医療サポート）団員。

その他

言語は、コミュニケーションの手段ですから、その言語を表記できる、書けることも大切ですが、話せることがより試されます。筆記試験の他に授業最終日（１５回目授業）には口試（話すテスト）があります。習った言葉を組み合わせ、自分のことを表現してください。

授業計画

第 1回　中国語全体の特徴と構成（プリント）
第 2回　発音練習、四声（テキスト発音編）
第 3回　発音、ピンインと音（テキスト発音編）
第 4回　発音のまとめ、注意点（DVD等映像を使って学習）
第 5回　自分の名前や学校の紹介（テキスト第１課）
第 6回　単語の正しい発音を身につける（テキスト２・３課）
第 7回　場所・方位・存在を表す文（テキスト第３課）
第 8回　年・月・日や時間など数字に関する表現（テキスト第４課）
第 9回　数字を使っての表現②
第10回　家族の紹介の仕方など
第11回　趣味や自分の好みを伝える（テキスト第７課）
第12回　思っていることや希望を伝える表現（テキスト第７課）
第13回　進行形や比較の表現（テキスト第８課）
第14回　補語や受け身の表現（テキスト第１０課）
第15回　まとめ、これまで学んだ語彙を使い自分の紹介を中国語で話してみる

成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（%）	45	45	0	5	5	100

成績評価の基準（ルーブリック）

到達度	秀逸	優秀	良好	最低限
授業の到達目標に対する到達度の目安	表記（書く）意味を理解する（語彙）話せる（発音）の三点が均衡よく理解できている。語彙を組み合わせ自分を表現できること。こちらの簡単な問いに、そのまま中国語で応じることができる。	表記（書く）意味を理解する（語彙）話せる（発音）の三つを持ったうえで、聞き取りなどに一部問題がある。	表記・語彙・発音が一定程度こなせてはいること。しかし、いずれかに問題があるものの、自覚して補おうとしていること。	表記・語彙・発音の何れかに、或いは、その何点かに問題を抱えてる場合。
該当DPに対する到達度の目安	多言語社会を迎え、亜細亜の言語の一つとして中国語を学び、身につけた単語を使い、簡単な会話ができるようになる。	地域や或いは学内での留学生との交流などで学んだ中国語が生かせる。	簡単なこちらの意思を伝える。直接会話が困難であっても、筆談などを交えて、意思の疎通ができる。	相手にも書いてもらうことで、筆談を通して意思疎通ができる。この場合、「簡体字」が使えることが授業での勉強が役立つ。

年度	2019	学科	保育学科	ナンバリング科目コード	30072	ICT活用	―
授業科目名	体育実技(球技)					実務教員	○
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等	66条の6に定める科目						
配当年次	1年	期間	前期	必修区分	保幼レ		
授業形態	実技	単位数	1	担当形態	単独		
教員	小越　康雄						
該当ディプロマ・ポリシー ＤＰ項目番号	DP1,8,9 知識・技能(DP1～3)、思考力・判断力・表現力(DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力(DP7～9)						

授業のテーマ及び到達目標

3種類の球技(バドミントン、バスケットボール、バレーボール)を通して、技術と体力向上を目指す
1. 多種目特有の動きを身に付けることができる
2. 各種目のルールを説明することができる
3. 積極的に参加することにより運動量を増やすことができる
4. コミュニケーション能力を高めることができる

授業の概要

本講義では、球技3種類を実践し、それぞれの球技の技術と体力の向上を図り、さらには他者とのコミュニケーション能力を養う。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

バトミントン・バスケットボール・バレーボールについて普段から関心を持ち、インターネットや新聞・テレビ等、様々なものに目を通すこと。

標準学修時間の目安

1回の講義にあたり1～2時間の自主学修が望ましい。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

個々人の重熟度により、目標に達していない場合は、課題を課し、積極的にクリアーするように技術向上に努めさせる。

使用教科書

	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	なし	－	－	－
2				
3				

使用教科書備考

必要な資料等、プリントを配布する

参考書・参考資料等

なし

実務経験のある教員の略歴と教育内容

北海道公立高等学校8校で36年間保健体育を指導。

その他

運動靴、ジャージ着用

授業計画

第 1回　オリエンテーション(アイスブレイキングのプログラム、アイスブレイキングの効果を高める技術、レクリエーション活動の相互作用促進するためのコミュニケーション技術、暖かくもてなす意識と配慮)
第 2回　楽しむ力を高める技術、気持ちをひとつにするコミュニケーション技術、スポーツレクリエーション、レクリエーション支援活動の手段の習得
第 3回　身体活動①(バドミントン:ラケットの持ち方、シャトルの打ち方等)
第 4回　バドミントン(ストローク、ミニゲーム等)
第 5回　バドミントン(シングルスのゲーム、ダブルスのゲーム)
第 6回　教育・福祉分野の現場でのレクリエーション支援の立案、立案したプログラムを利用しての身体活動の実施
第 7回　身体活動②バスケットボール(ボール慣れ、パス、ドリブル、シュート等)
第 8回　バスケットボール(ドリブルシュート、ハーフコートのゲーム)
第 9回　バスケットボール（リーグ形式によるゲームの計画と運営)
第10回　身体活動③(バレーボール:-ボール慣れ、パス、レシーブ、サーブ)
第11回　バレーボール(パス、レシーブ、アタック)
第12回　バレーボール(チーム戦術をもとにしたゲーム)
第13回　バレーボール（リーグ形式によるゲーム計画と運営)
第14回　対象者に合わせた表現の立案
第15回　総合的な表現活動(ダンスを含む)の実施、まとめ

【学生に対する評価】
・実技試験及び授業参加態度等を総合的に評価する。

成績評価の方法(試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（%）	0	80	0	0	20	100

成績評価の基準（ルーブリック）

到達度	秀逸	優秀	良好	最低限
授業の到達目標に対する到達度の目安	3種目の球技に必要な知識と技術を向上させる方法を理解し、他者に詳細な方法を伝えることができるとともに、新たな技術向上を目指したトレーニング方法を考えることができる。	3種目の球技に必要な知識と技術を向上させる方法について理解し、それらを他者に適切な方法として伝えることができる。	3種目の球技に必要な知識と技術を向上させる方法について理解している。	3種目の球技に必要な知識と技術を向上させる方法について断片的にしか理解していない。
該当DPに対する到達度の目安	体育実技における技術向上の課題や問題を自ら発見し身に付けた知識で的確に認識して解決に結びつけるとともに、関連する情報の継続的な収集と他者へ発信するコミュニケーション能力を身に付けている。	体育実技における技術向上の課題や問題と身に付けた知識を関連付けることができ、より詳細な情報の収集と他者へ発信、課題解決に向けて努力することができる。	体育実技における技術向上の課題や問題と身に付けた知識を関連付けることができ、ある程度の情報の収集と他者へ発信ができる。	体育実技における技術向上の課題や問題と身に付けた知識を結び付けることができず、関連する情報の収集や他者へ発信を行うことができない。

年度	2019	学科	保育学科	ナンバリング科目コード	30072	ICT活用	―
授業科目名	体育実技(ﾌｨｯﾄﾈｽ)					実務教員	○
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等	66条の6に定める科目						
配当年次	1年	期間	前期	必修区分	保幼		
授業形態	実技	単位数	1	担当形態	単独		
教員	原崎 千鶴子						
該当ディプロマ・ポリシー ＤＰ項目番号	DP1,8,9 知識・技能(DP1～3)、思考力・判断力・表現力(DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力(DP7～9)						

授業のテーマ及び到達目標

1.立位、座位などでの良い姿勢を身に付け、運動時に活用する。
2.安全で効果的な有酸素運動（エアロビックダンスなど）の基本動作を学び、心肺機能の向上を図る。
3.目的に合ったレジスタンス運動を安全で効果的に実践し、障害予防に役立てる。
4.柔軟性向上のための基本動作を学び柔軟運動を実践する。
5.平衡感覚の維持向上を真剣しバランス運動の基本を学ぶ。

授業の概要

有酸素運動で心臓や肺の働きを改善し運動不足を解消させる。正しいフォームでレジスタンス運動やストレッチング、バランス運動を行い、骨や筋、関節の働きを改善し、安全で効果が得られるような動きを学習する。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

復習： 運動習慣を身に付けるために、授業で体験した運動を各自のライフスタイルにあわせて適時取り入れること。

予習：習得したい自身に合ったエクササイズをあらかじめ決めて提出すること。

標準学修時間の目安

1回の講義にあたり2時間程度の自主学修が望ましい。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

各自の習得度に合わせ、課題を課し積極的にサポートしクリアできるよう努めさせる。

使用教科書

	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	なし	－	－	－
2				
3				

使用教科書備考

なし

参考書・参考資料等

なし

実務経験のある教員の略歴と教育内容

日本における健康・体力づくりの運動指針の基盤になっているACSM（アメリカスポーツ医学会）上級資格を取得し、予防医学的な側面からも運動処方を行い、運動プログラムを開発し30年以上にわたり現場での指導を行っている。ADI、REI、SEIなどの資格認定テスト、教習ワークショップにおいて、理論・実技ワークショップの講師及び実技テストの試験官を担当している。

その他

ジャージを着用
シューズを履く
身だしなみを整える

授業計画

第 1回　簡単なフィットネス体力テストで今の自分の体力を知る。動きながら自分の体に触れ、骨や筋、関節の仕組みを学ぶ。
第 2回　悪い姿勢が及ぼす影響を理解し、良い姿勢について学び日常生活動作、運動に活用する。
第 3回　レジスタンス運動と柔軟運動の基本を学び、関節、靭帯に負担をかけない正しく姿勢での演習。
第 4回　安全で効果的なウォーキングとジョギングのフォームの習得＆運動後に適したストレッチングを学ぶ。
第 5回　エアロビックダンスエクササイズの基本ステップ（ローインパクト＆ハイインパクト）を学ぶ。
第 6回　エアロビックダンスエクササイズの基本ステップのバリエーションを演習。
第 7回　エアロビックダンスエクササイズのコンビネーションを学ぶ。
第 8回　エアロビックダンスエクササイズプログラムの実際
第 9回　グループで振付にチャレンジ＆レジスタンス運動＆柔軟運動
第10回　グループで振付にチャレンジ（下肢と上肢のスムーズな動き）＆レジスタンス運動＆柔軟運動
第11回　グループで振付にチャレンジ（リズムチェンジ）＆レジスタンス運動＆柔軟運動
第12回　グループで振付にチャレンジ（面の変化とターン）＆レジスタンス運動＆柔軟運動＆バランス運動
第13回　グループで振付にチャレンジ（フォーメーション）＆レジスタンス運動＆柔軟運動＆バランス運動
第14回　グループで振付けのまとめ＆レジスタンス運動＆柔軟運動＆バランス運動
第15回　グループ別発表

成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（%）	0	80	5	5	10	100

成績評価の基準（ルーブリック）

到達度	秀逸	優秀	良好	最低限
授業の到達目標に対する到達度の目安	健康・体力づくりから生活習慣病予防のために必要な基礎知識を理解し、自分の体力レベルの改善点を見つけ、集団、個人でも安全で効果的な運動に取り組み継続していくことができる。	健康・体力づくりから生活習慣病予防のために必要な基礎知識を理解し、自分の体力レベルの改善点を見つけ、集団において安全で効果的な運動に取り組むことができる。	健康・体力づくりから生活習慣病予防のために必要な基礎知識を理解し、自分の体力レベルの改善点を見つけ、実践できている。	健康・体力づくりから生活習慣病予防のために必要な基礎知識を理解しが不十分で、自分の体力レベルの改善点を見つけられない。
該当DPに対する到達度の目安	有酸素運動、レジスタンス運動、柔軟運動、バランス運動などの基本の動きを身に付け、正しい姿勢で実践し、個人でも日常生活に活用できている。グループワークでの課題プログラムに取り組む際に、集団をまとめる力と協調性を身に付けている。	有酸素運動、レジスタンス運動、柔軟運動、バランス運動などの基本の動きを身に付け、正しい姿勢で実践し、個人でも日常生活に活用できている。グループワークでの課題プログラムに取り組む際に、積極的な意見や行動を示すことができる。	有酸素運動、レジスタンス運動、柔軟運動、バランス運動などの基本の動きを身に付け、正しい姿勢で実践し、個人でも日常生活に活用できている。	有酸素運動、レジスタンス運動、柔軟運動、バランス運動などの基本の動きを正しい姿勢で動けない。

年度	2019	学科	保育学科	ナンバリング科目コード	30073	ICT活用	―
授業科目名	保健体育					実務教員	○
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等	66条の6に定める科目						
配当年次	1年	期間	後期	必修区分	保幼		
授業形態	講義	単位数	1	担当形態	単独		
教員	小越　康雄						
該当ディプロマ・ポリシー ＤＰ項目番号	DP 1 知識・技能 (DP1～3)、思考力・判断力・表現力 (DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力 (DP7～9)						

授業のテーマ及び到達目標

・現代社会がかかえる健康課題について説明できる。
・健康増進の取り組みについて説明できる。
・健康づくりのための運動や栄養について説明できる。
・健康管理の具体的方法について説明できる。

授業の概要

健康を維持するためには、日々の生活習慣が重要である。本講義では健康の概念をはじめ、健康に影響を与える様々な生活習慣や環境要因について学び、自らの健康の維持に役立てる能力を養うことを目標とする。また、現代の日本がかかえている健康の問題点や国民の健康増進の推進に関する基本的な方向、目標等を理解するため、健康管理に関連のある最新情報を紹介し、生涯にわたり心と体を健康に保つための知識を広く解説する。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

教科書、ノート及び授業内で配布するプリントを見返して、授業内容についての理解を深めること。さらに、授業で取り上げる関連内容について普段から関心を持ち、インターネットや新聞・テレビ等、様々なものに目を通したり、関連する資料を調べておくこと。

標準学修時間の目安

次回の講義までに予習・復習を含めて２時間の学修が必要である。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

定的試験後に再試験対象者にのみ、課題（試験やレポート等）を返却する。

使用教科書

	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	健康増進科学概論	今村 裕行ほか	東京教学社	978-4-8082-6024-8
2				
3				

使用教科書備考

イラスト健康増進科学概論 －運動・栄養・休養－

参考書・参考資料等

なし

実務経験のある教員の略歴と教育内容

北海道公立高等学校8校で36年間保健体育を指導。

その他

必要に応じてプリント資料を配布する。
必要に応じて、授業に関連した内容について調べたことをプレゼンテーションしてもらう。

授業計画

第 1回　健康のとらえ方
第 2回　平均寿命と死亡率
第 3回　健康づくりのこれまで
第 4回　ライフステージと健康
第 5回　現代社会がかかえる健康の課題
第 6回　健康と体力の関係
第 7回　健康とスポーツを支える筋肉
第 8回　運動を正しく安全に行うために
第 9回　有酸素性運動
第10回　栄養と食生活
第11回　体重管理のための食事と栄養
第12回　嗜好品と健康
第13回　メタボリックシンドロームの運動・食事療法
第14回　精神的ストレスと運動
第15回　これまでの学習のまとめ

成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（%）	80	0	10	0	10	100

成績評価の基準（ルーブリック）

到達度	秀逸	優秀	良好	最低限
授業の到達目標に対する到達度の目安	健康を維持するために必要な知識について理解し、他者に詳細な情報を伝えることができるとともに、新たに発生した健康問題に対して適切な対処法を検討できる。	健康を維持するために必要な知識について理解し、それらを他者に適切な情報として伝えることができる。	健康を維持するために必要な知識について理解している。	健康を維持するために必要な知識について断片的にしか理解していない。
該当DPに対する到達度の目安	現代が抱えている健康問題や課題を自ら発見し、身に付けた知識で的確に認識して解決に結び付けるとともに、関連する情報の継続的な収集と他者への発信力を身に付けている。	現代が抱えている健康問題や課題と身に付けた知識を関連付けることができ、より詳細な情報の収集と他者への発信、課題解決に向けて努力することができる。	現代が抱えている健康問題や課題と身に付けた知識を関連付けることができ、ある程度の情報の収集と他者へ発信ができる。	現代が抱えている健康問題や課題と身に付けた知識を結び付けることができず、関連する情報の収集や他者へ発信を行うことができない。

年度	2019	学科	保育学科	ナンバリング科目コード	30030	ICT活用	○
授業科目名	情報機器の操作Ⅰ					実務教員	○
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等	66条の6に定める科目						
配当年次	1年	期間	前期	必修区分	卒幼		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	単独		
教員	渡辺 真保						
該当ディプロマ・ポリシー ＤＰ項目番号	DP1 知識・技能(DP1～3)、思考力・判断力・表現力(DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力(DP7～9)						

授業のテーマ及び到達目標

Microsoft Wordの基本～中級レベルの操作方法を習得し、社会で幅広く活用できる技術を身につけることを目標とする。
・Windowsの基本的な操作を行うことができる。
・データを正確に、ある一定以上のスピードで入力できる
・表、図、イラスト、写真を含めた文書を体裁よく作成できる
・ビジネス文書の体裁を覚え、適切な社内文書・社外文書を作成できる
・インターネットを利用して情報の検索・収集ができ、安全に利用することができる

授業の概要

多くの職場、学校、家庭で利用されているMicrosoft Wordの操作方法を習得すると同時に、ビジネス文書の体裁を覚え、パソコンを使用して、社会人として適切な文書・資料を作成する技術を身につける。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

・授業で学習した操作を復習し、質問がある場合は、次回の授業までにまとめておくこと。
・毎回課題を出すので、完成させておくこと。
・効率よく文書を作成するには、ある程度の文字入力のスピードが必要なので、各自タイピング練習をすること。
・次回の授業でカバーする箇所に目を通しておくこと。

標準学修時間の目安

1回の講義にあたり予習・復習を含めて4時間の学修が望ましい。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

課題提出後の授業でコメントを付した課題を返却する。

使用教科書

	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	30時間Word2016	-	実教出版	978-4-407-34020-4
2				
3				

使用教科書備考

30時間でマスター Word2016

参考書・参考資料等

リファレンス動画付き!実践ドリルで学ぶ Office活用術2016対応　演習問題全173　NOA出版

実務経験のある教員の略歴と教育内容

大文堂外語・パソコンスクール　マネージング・ディレクター、インストラクター
個人対象や、文化センター、企業、官公庁での初級から上級のパソコン講習を担当

その他

学習内容を定着させるために、ほぼ毎回課題を出します。
わからないところがある場合は、授業の時だけではなく、電子メールでの質問も受け付けますので、積極的に質問し解決するようにしてください。

授業計画

第 1回　Windows基本操作、タッチタイピングの基本
第 2回　インターネット検索、文字変換、辞書機能、保存
第 3回　文章の入力
第 4回　印刷、文字・文の複写・削除・移動
第 5回　表の作成と編集
第 6回　画像・テキストボックスの挿入と編集
第 7回　演習問題
第 8回　オンライン画像・ワードアートの挿入と編集
第 9回　図形描画、スクリーンショットの挿入と編集
第10回　スマートアートの挿入と編集、演習問題
第11回　段組み、ドロップキャップ、ページ罫線
第12回　はがき印刷・差し込み印刷
第13回　グラフの挿入、ページ区切り、PDF変換
第14回　総復習・演習問題
第15回　総復習・演習問題

成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（%）	80	0	15	0	5	100

成績評価の基準（ルーブリック）

到達度	秀逸	優秀	良好	最低限
授業の到達目標に対する到達度の目安	ワードの各機能を良く理解し、目的に合わせて適切なレイアウトで、文章、図、表等を組み入れて見栄えの良い文書を作成することができる。また、素早く正確に文字入力ができる。	ワードの各機能を理解し、目的に合わせて、文章、図表等を組み入れた文書を作成することができる。また一定のスピード以上で正確に文字入力ができる。	ワードの主要な機能を理解し、文章、図、表等を組み入れた文書を作成することができる。また、一定のスピード以上で文字入力ができる。	ワードのごく基本的な機能を理解し、資料等を作成することができるが、図や表を入れた場合、レイアウト調整に時間がかかる。
該当DPに対する到達度の目安	保育と子育て支援を行う上で、ワードを活用して効果的な情報の発信や記録をする力を身につけており、事務作業も効率化させることができる。	保育と子育て支援を行う上でワードを活用して情報の発信や記録をする力を身につけており、事務作業も効率化させることができる。	保育と子育て支援を行う上で、ワードを活用して情報の発信や記録をする基礎力を身につけており、事務作業もある程度効率化させることができる。	保育と子育て支援を行う上で、ワードを活用して情報の発信や記録をする最低限の力を身につけている。

年度	2019	学科	保育学科	ナンバリング科目コード	30130	ICT活用	○
授業科目名	情報機器の操作Ⅱ					実務教員	○
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等	66条の6に定める科目						
配当年次	1年	期間	後期	必修区分	卒幼		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	単独		
教員	山崎 幸路						
該当ディプロマ・ポリシー ＤＰ項目番号	DP1 知識・技能(DP1～3)、思考力・判断力・表現力(DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力(DP7～9)						

授業のテーマ及び到達目標

エクセル操作による資料作成、分析、加工することが学習テーマです。
到達目標は以下になります。
1. データの編集、表示形式と罫線などのレイアウト編集ができる。
2. 絶対参照を使った式の作成と論理関数の条件複合を理解し、関数作成ができる。
3. 適切なグラフを選択し、効果的で訴求効果のあるグラフを作成できる。
4. データ抽出と集計の方法を学習し、データベースの基本を理解し、簡単な集計ができる。
5. VLOOKUP関数、データベース関数を利用して資料分析ができる。

授業の概要

情報利活用能力を養う科目です。エクセル操作の考え方と実務で要求されていることを理解し、実社会で役立つ技術を学ぶことが授業の概要です。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

【予習】事前配布するプリントとテキストの該当部分を併読し、テキストに必要事項を書き込みます。操作内容と用語をおおまかに理解します。
【復習】テキストと書き込みを読み、パソコンを操作し授業と同じ操作ができるかを確認します。また授業で指定された操作演習して課題を作成します。

標準学修時間の目安

1回の講義あたり予習・復習を含めて４時間の学修が必要です。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

課題提出期限後の授業で模範的な課題を紹介します。

使用教科書

	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	30時間Excel2016	-	実教出版	978-4-407-34021-1
2				
3				

使用教科書備考

30時間でマスターExcel2016

参考書・参考資料等

実践ドリルで学ぶ Office活用術 Word・Excel・PowerPoint 2016対応

実務経験のある教員の略歴と教育内容

指導教員はマイクロソフト公式トレーナーを取得し、現在パソコンスクールでマイクロソフトオフィススペシャリスト(MOS)等の資格試験のレッスンを実施している。実務経験にもとづいた最新の情報リテラシー教育を行う。

その他

まだパソコンに慣れていない学生から十分に操作知識とスキルのある学生まで、ゆっくりな速度で高度な内容を含めて学習していきます。ICTを活用し授業および課題取り組みのアンケートを行います。またICTを活用し、入力練習の状況と入力スキルの成果について確認します。これらのICT活用により、クラス全体の学習状況を分析理解し各自の学習の動機づけと目標設定をします。

授業計画

第 1回　ファイル管理、データ入力、情報整理◇入力測定
第 2回　数式入力、グラフ作成とレイアウト
第 3回　連続データ、多種のグラフ作成とレイアウト
第 4回　基本的関数の効率的入力と編集レイアウト
第 5回　日付と時刻入力、オートカルク、データベース活用
第 6回　IF関数など、セル番地の絶対参照
第 7回　セルの絶対参照、文字の属性◇入力測定
第 8回　ROUND関数、端数処理の問題点
第 9回　小テスト、論理関数の条件複合、情報モラル
第10回　スパークライン、グラフ作成、軸ラベル設定
第11回　条件付き書式、データバーのルール設定
第12回　円グラフ複合グラフ等グラフレイアウト設定
第13回　フィルタ、VLOOKUP関数
第14回　実務的複合資料作成演習◇入力測定
第15回　実務的複合資料作成のまとめ及び小テスト

成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（%）	0	70	20	0	10	100

成績評価の基準（ルーブリック）

到達度	秀逸	優秀	良好	最低限
授業の到達目標に対する到達度の目安	エクセル操作に必要な知識について理解し、編集機能の操作のスキルを身に着けるとともに、獲得したスキルをもとに複数の機能を組み合わせて素早く実務データとして通用する見栄えのよいデータ編集ができる。	エクセル操作に必要な知識について理解し、編集機能の操作のスキルを身に着けるとともに、獲得したスキルをもとに複数の機能を組み合わせて一定のスピードで、実務データとして通用するデータ編集ができる。	エクセル操作に必要な知識について理解し、編集機能の操作のスキルを身に着けるとともに、獲得したスキルをテキストを参照しながら複数の機能を組み合わせて一定のスピードで、実務データとして通用するデータ編集ができる。	エクセル操作に必要な知識について理解し、編集機能の操作のスキルを身に着けるとともに、獲得したスキルをテキストを参照しながら複数の機能を組み合わせて時間をかけて実務データとして通用するデータ編集ができる。
該当DPに対する到達度の目安	保育と子育て支援に必要な専門的知識と技術、とりわけ食育知識について子供の成長を促す保育を展開するために獲得した情報を自在に編集し説得力あるデータとなるよう見栄えのよい編集作業が素早くできる。	保育と子育て支援に必要な専門的知識と技術、とりわけ食育知識について子供の成長を促す保育を展開するために獲得した情報をテキスト等を参照しながらも自在に編集し説得力あるデータとなるよう見栄えのよい編集作業が素早くできる。	保育と子育て支援に必要な専門的知識と技術、とりわけ食育知識について子供の成長を促す保育を展開するために獲得した情報をテキスト等を参照しながらも編集し説得力あるデータとなるよう見栄えのよい編集作業が一定の速さでできる。	保育と子育て支援に必要な専門的知識と技術、とりわけ食育知識について子供の成長を促す保育を展開するために獲得した情報をテキスト等を参照しながらも編集し効果的となるようデータの編集作業ができる。

年度	2019	学科	保育学科	ナンバリング科目コード	30331	ICT活用	○
授業科目名	コンピュータリテラシーW					実務教員	○
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	1年	期間	後期	必修区分	MW		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	単独		
教員	山﨑 幸路						
該当ディプロマ・ポリシー ＤＰ項目番号	DP1,3 知識・技能(DP1～3)、思考力・判断力・表現力(DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力(DP7～9)						

授業のテーマ及び到達目標

パソコン操作による実務的な文書作成することが授業テーマです。
到達目標は以下の内容です。
文字列や段落の書式設定、段落の並べ替え、グループ化ができる。
表の作成と変更、リストの作成と変更ができる。
グラフィック要素およびSmartArtの挿入と書式設定ができる。
リーフレットの内容が効果的に伝わる文書編集できる。
画像を挿入したり、文字の効果を設定してレイアウト編集できる。

授業の概要

総合的な操作の考え方と何が実務で要求されているかを理解し、実社会で役立つ技術を学びます。
マイクロソフトオフィススペシャリスト ワード2016の試験内容に沿って学習し合格する力をつけます。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

【予習】事前配布するプリントとテキストとを併読し、操作内容と用語をおおまかに理解します。
【復習】テキストとプリントを見ながらパソコンを操作し授業と同じ操作ができるかを確認します。また授業で指定された課題演習をします。

標準学修時間の目安

1回の講義あたり予習・復習を含めて4時間の学修が必要です。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

課題指定前または提出期限後の授業で模範的な課題を紹介します。

使用教科書

	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	MOS Word 2016	佐藤薫	日経BP社	978-4822253141
2				
3				

使用教科書備考

MOS攻略問題集 Word 2016

参考書・参考資料等

30時間でマスター Word2016

実務経験のある教員の略歴と教育内容

指導教員はマイクロソフト公式トレーナーを取得しパソコンスクールでマイクロソフトオフィススペシャリスト(MOS)等の資格試験のレッスンをしています。

その他

実務で役立ち、マイクロソフトオフィススペシャリスト2016の試験に対応する学習をします。ICTを活用し授業および課題取り組みのアンケートを行います。またICTを活用し、入力練習の状況と入力スキルの成果について確認します。これらのICT活用により、クラス全体の学習状況を分析理解し各自の学習の動機づけと目標設定をします。

授業計画

第 1回　文書の作成、文書書式の設定
第 2回　文書のオプションと表示をカスタマイズする
第 3回　文字列や段落を挿入する
第 4回　文字列や段落の書式設定、段落の並べ替え、グループ化
第 5回　表の作成と変更
第 6回　リストの作成と変更
第 7回　参照のための情報や記号を作成する
第 8回　標準の参考資料を作成する、管理する
第 9回　グラフィック要素の挿入と書式設定
第10回　SmartArtの挿入と書式設定
第11回　文書の体裁を整えたり、複数ページを表示、編集する
第12回　リーフレットの内容が効果的に伝わる文書編集をする
第13回　他の文書から情報を引用して効率よく文書を仕上げる
第14回　画像を挿入、文字の効果設定してレイアウト編集する
第15回　まとめと総合試験演習

成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（%）	70	0	20	0	10	100

成績評価の基準（ルーブリック）

到達度	秀逸	優秀	良好	最低限
授業の到達目標に対する到達度の目安	ワード操作に必要な知識について理解し、編集機能の操作のスキルを身に着けるとともに、獲得したスキルをもとに複数の機能を組み合わせて素早く、実務文書として通用する見栄えのよい文書編集ができる。	ワード操作に必要な知識について理解し、編集機能の操作のスキルを身に着けるとともに、獲得したスキルをもとに複数の機能を組み合わせて一定のスピードで実務文書として通用する文書編集ができる。	ワード操作に必要な知識について理解し、編集機能の操作のスキルを身に着けるとともに、獲得したスキルをテキストを参照しながら複数の機能を組み合わせて一定のスピードで、実務文書として通用する文書編集ができる。	ワード操作に必要な知識について理解し、編集機能の操作のスキルを身に着けるとともに、獲得したスキルをテキストを参照しながら複数の機能を組み合わせて時間をかけて実務文書として通用する文書編集ができる。
該当DPに対する到達度の目安	保育と子育て支援に必要な専門的知識と技術、とりわけ食育知識について子供の成長を促す保育を展開するために獲得した情報を自在に編集し説得力ある文書となるよう見栄えのよい編集作業が素早くできる。	保育と子育て支援に必要な専門的知識と技術、とりわけ食育知識について子供の成長を促す保育を展開するために獲得した情報をテキスト等を参照しながらも自在に編集し説得力ある文書となるよう見栄えのよい編集作業が素早くできる。	保育と子育て支援に必要な専門的知識と技術、とりわけ食育知識について子供の成長を促す保育を展開するために獲得した情報をテキスト等を参照しながらも編集し説得力ある文書となるよう見栄えのよい編集作業が一定の速さでできる。	保育と子育て支援に必要な専門的知識と技術、とりわけ食育知識について子供の成長を促す保育を展開するために獲得した情報をテキスト等を参照しながらも編集し効果的となるよう文書をの編集作業ができる。

年度	2019	学科	保育学科	ナンバリング科目コード	30240	ICT活用	―
授業科目名	ボランティア実習Ⅰ					実務教員	―
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	1年	期間	その他	必修区分			
授業形態	実験・実習	単位数	1	担当形態	-		
教員	松田　賢一						
該当ディプロマ・ポリシー ＤＰ項目番号	DP4,5,7,8,9 知識・技能(DP1～3)、思考力・判断力・表現力(DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力(DP7～9)						

授業のテーマ及び到達目標

保育所・幼稚園・認定こども園・福祉施設などで地域活動を支援することを実際に体験することにより、将来、社会の担い手となることの自覚を深めるとともに、協力協働、地域連携などが重要であることの意識を高める。

授業の概要

現代社会においては、協働協力の精神を培うことがますます重要となっている。保育所・幼稚園・認定こども園・福祉施設などのボランティア活動を通して、地域の構成員が互いに協力し、助け合うことの大切さを学ぶ。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

実習先のパンフレットやホームページで予め必要な情報を収集し、予備知識を増やすこと。

標準学修時間の目安

1回のボランティアにつき、報告書の作成に1時間程度必要

課題（試験やレポート等）のフィードバック

1回のボランティア終了後、報告書をこまめに提出すること。

使用教科書

	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	なし	-	-	-
2				
3				

使用教科書備考

なし

参考書・参考資料等

なし

実務経験のある教員の略歴と教育内容

実務経験のある教員に該当しない。

その他

・担当教員から承認されたボランティア活動の累計時間数が30時間以上となった場合に単位を認定する。
・評価は、活動終了後に学生が提出する活動内容などを記した報告書により行う。

授業計画

第 1回　オリエンテーション
第 2回　例年のボランティア活動の説明
第 3回　報告書のまとめ方
第 4回　「学外授業出席証明書」「学外実習報告書」を配布・説明
第 5回　ボランティア学外実習
第 6回　ボランティア学外実習
第 7回　ボランティア学外実習
第 8回　ボランティア学外実習
第 9回　ボランティア学外実習
第10回　ボランティア学外実習
第11回　ボランティア学外実習
第12回　ボランティア学外実習
第13回　ボランティア学外実習
第14回　ボランティア学外実習
第15回　ボランティア学外実習
第16回　ボランティア学外実習
第17回　ボランティア学外実習
第18回　ボランティア学外実習
第19回　ボランティア学外実習
第20回　ボランティア学外実習
第21回　ボランティア学外実習
第22回　ボランティア学外実習
第23回　ボランティア学外実習
第24回　ボランティア学外実習
第25回　ボランティア学外実習
第26回　ボランティア学外実習
第27回　ボランティア学外実習
第28回　ボランティア学外実習
第29回　ボランティア学外実習
第30回　学外授業出席証明書・学外実習報告書提出

成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（%）	0	0	80	0	20	100

成績評価の基準（ルーブリック）

到達度	秀逸	優秀	良好	最低限
授業の到達目標に対する到達度の目安	各園、福祉施設でのボランティア活動を通して、社会人力・コミュニケーション力を養い、社会の担い手となることへの自覚を身に付けることができる、その場その場の適切な対処法を検討できる。	各園、福祉施設でのボランティア活動を通して、社会人力・コミュニケーション力を養い、社会の担い手となることへの自覚を身に付け、それらを他者に情報として伝えることができる。	各園、福祉施設でのボランティア活動を通して、社会人力・コミュニケーション力をを養い、社会の担い手となることへの自覚が理解できている。	各園・福祉施設でのボランティア活動を通して、社会人力・コミュニケーション力をを養い、社会の担い手としての自覚が断片的であるが理解している。
該当DPに対する到達度の目安	各園・福祉施設でのボランティア活動を通して、社会人力・コミュニケーション力をを養い、社会の担い手となることへの自覚を身に付けている。さらにそれらを他者への発信力を身に付けてる。	各園・福祉施設でのボランティア活動を通して、社会人力・コミュニケーション力を養い、社会の担い手となることへの自覚を身に付け、課題解決に向けての努力することができる。	各園・福祉施設でのボランティア活動を通して、社会人力・コミュニケーション力を養い、社会の担い手となることへの自覚と他者への発信が出来る。	各園・福祉施設でのボランティア活動を通して、、社会人力・コミュニケーション力をを養い、社会の担い手となることへの自覚と他者への発信がをおこなうことがほとんどできない。

年度	2019	学科	保育学科	ナンバリング科目コード	30080	ICT活用	―
授業科目名	コンソーシアム基礎教養Ⅰ					実務教員	―
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	1年	期間	その他	必修区分			
授業形態	その他	単位数	2	担当形態	-		
教員	保育学科教員						
該当ディプロマ・ポリシー ＤＰ項目番号	DP8 知識・技能(DP1～3)、思考力・判断力・表現力(DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力(DP7～9)						

授業のテーマ及び到達目標

各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された到達目標を確認すること。

授業の概要

当該科目は、毎年度（前期・後期）、キャンパス・コンソーシアム函館が提供する単位互換科目である。キャンパス・コンソーシアム函館のホームページで単位互換対象科目を確認することができる。受講を希望する場合、各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された授業目標を確認すること。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。

標準学修時間の目安

1回の講義あたり予習・復習を含めて4時間の学修が必要である。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。

使用教科書

	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	受講科目シラバスに従う	-	-	-
2				
3				

使用教科書備考

各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。

参考書・参考資料等

各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。

実務経験のある教員の略歴と教育内容

受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う。

その他

履修には、本学教務課にて単位互換システムによる履修手続きが必要となる。本学での授業日程が最優先となるため、受講には、単位互換科目を開講している高等教育機関までの往復の時間等を考慮すること。

授業計画

第 1回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第 2回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第 3回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第 4回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第 5回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第 6回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第 7回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第 8回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第 9回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第10回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第11回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第12回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第13回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第14回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第15回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う

成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（%）	0	0	0	100	0	100

成績評価の基準（ルーブリック）

到達度	秀逸	優秀	良好	最低限
授業の到達目標に対する到達度の目安	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標を十分に理解し、その内容を超越するとともに、学びの内容を他者に正確に説明できる。	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標を理解し、その内容に到達するとともに、学びの内容を他者に説明できる。	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標をおおよそ理解し、その内容にある程度(4/5程度)到達するとともに、学びの内容をある程度、他者に説明できる。	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標を最低限理解し、その内容に最低限(3/5程度)到達するとともに、学びの内容を断片的ではあるが、他者に説明できる。
該当DPに対する到達度の目安	各高等教育機関での授業において、積極的にコミュニケーションを図り、多くの知識と技能を身に付ける。他者と協働して課題を解決し、学んだ知識と技能を生かして適切に情報を発信できる。	各高等教育機関での授業において、コミュニケーションを図り、知識と技能を身に付ける。他者と協働して課題を解決し、学んだ知識と技能を生かして情報を発信できる。	各高等教育機関での授業において、ある程度コミュニケーションを図り、ある程度の知識と技能を身に付ける。他者と協働して課題を解決し、学んだ知識と技能を生かして断片的ではあるが、情報を発信できる。	各高等教育機関での授業において、最低限のコミュニケーションを図り、知識と技能を最低限身に付ける。学んだ知識と技能を生かして他者と協働して課題を解決できる。

年度	2019	学科	保育学科	ナンバリング科目コード	30081	ICT活用	―
授業科目名	コンソーシアム基礎教養Ⅱ					実務教員	―
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	1年	期間	その他	必修区分			
授業形態	その他	単位数	1	担当形態	-		
教員	保育学科教員						
該当ディプロマ・ポリシー ＤＰ項目番号	DP8 知識・技能(DP1～3)、思考力・判断力・表現力(DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力(DP7～9)						

授業のテーマ及び到達目標

各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された到達目標を確認すること。

授業の概要

当該科目は、毎年度（前期・後期）、キャンパス・コンソーシアム函館が提供する単位互換科目である。キャンパス・コンソーシアム函館のホームページで単位互換対象科目を確認することができる。受講を希望する場合、各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された授業目標を確認すること。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。

標準学修時間の目安

1回の講義あたり予習・復習を含めて2時間の学修が必要である。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。

使用教科書

	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	受講科目シラバスに従う	-	-	-
2				
3				

使用教科書備考

各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。

参考書・参考資料等

各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。

実務経験のある教員の略歴と教育内容

受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う。

その他

履修には、本学教務課にて単位互換システムによる履修手続きが必要となる。本学での授業日程が最優先となるため、受講には、単位互換科目を開講している高等教育機関までの往復の時間等を考慮すること。

授業計画

第 1回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第 2回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第 3回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第 4回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第 5回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第 6回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第 7回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第 8回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第 9回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第10回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第11回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第12回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第13回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第14回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第15回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う

成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（%）	0	0	0	100	0	100

成績評価の基準（ルーブリック）

到達度	秀逸	優秀	良好	最低限
授業の到達目標に対する到達度の目安	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標を十分に理解し、その内容を超越するとともに、学びの内容を他者に正確に説明できる。	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標を理解し、その内容に到達するとともに、学びの内容を他者に説明できる。	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標をおおよそ理解し、その内容にある程度(4/5程度)到達するとともに、学びの内容をある程度、他者に説明できる。	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標を最低限理解し、その内容に最低限(3/5程度)到達するとともに、学びの内容を断片的ではあるが、他者に説明できる。
該当DPに対する到達度の目安	各高等教育機関での授業において、積極的にコミュニケーションを図り、多くの知識と技能を身に付ける。他者と協働して課題を解決し、学んだ知識と技能を生かして適切に情報を発信できる。	各高等教育機関での授業において、コミュニケーションを図り、知識と技能を身に付ける。他者と協働して課題を解決し、学んだ知識と技能を生かして情報を発信できる。	各高等教育機関での授業において、ある程度コミュニケーションを図り、ある程度の知識と技能を身に付ける。他者と協働して課題を解決し、学んだ知識と技能を生かして断片的ではあるが、情報を発信できる。	各高等教育機関での授業において、最低限のコミュニケーションを図り、知識と技能を最低限身に付ける。学んだ知識と技能を生かして他者と協働して課題を解決できる。

年度	2019	学科	保育学科	ナンバリング科目コード	30090	ICT活用	―
授業科目名	コンソーシアム函館教養Ⅰ					実務教員	―
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	1年	期間	その他	必修区分			
授業形態	その他	単位数	2	担当形態	-		
教員	保育学科教員						
該当ディプロマ・ポリシー ＤＰ項目番号	DP8 知識・技能(DP1～3)、思考力・判断力・表現力(DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力(DP7～9)						

授業のテーマ及び到達目標

各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された到達目標を確認すること。

授業の概要

毎年度（前期・後期）、キャンパス・コンソーシアム函館が提供する単位互換科目の中で、函館地域に関連が深い科目を当該科目として設定する。キャンパス・コンソーシアム函館のホームページで単位互換対象科目を確認することができる。受講を希望する場合、各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された授業目標を確認すること。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。

標準学修時間の目安

1回の講義あたり予習・復習を含めて4時間の学修が必要である。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。

使用教科書

	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	受講科目シラバスに従う	-	-	-
2				
3				

使用教科書備考

各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。

参考書・参考資料等

各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。

実務経験のある教員の略歴と教育内容

受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う。

その他

毎年度（前期・後期）、キャンパス・コンソーシアム函館が提供する単位互換科目の中で、函館地域に関連が深い科目を当該科目として設定する。履修には、本学教務課にて単位互換システムによる履修手続きが必要となる。本学での授業日程が最優先となるため、受講には、単位互換科目を開講している高等教育機関までの往復の時間等を考慮すること。

授業計画

第 1回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第 2回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第 3回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第 4回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第 5回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第 6回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第 7回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第 8回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第 9回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第10回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第11回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第12回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第13回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第14回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第15回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う

成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（%）	0	0	0	100	0	100

成績評価の基準（ルーブリック）

到達度	秀逸	優秀	良好	最低限
授業の到達目標に対する到達度の目安	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標を十分に理解し、その内容を超越するとともに、学びの内容を他者に正確に説明できる。	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標を理解し、その内容に到達するとともに、学びの内容を他者に説明できる。	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標をおおよそ理解し、その内容にある程度(4/5程度)到達するとともに、学びの内容をある程度、他者に説明できる。	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標を最低限理解し、その内容に最低限(3/5程度)到達するとともに、学びの内容を断片的ではあるが、他者に説明できる。
該当DPに対する到達度の目安	各高等教育機関での授業において、積極的にコミュニケーションを図り、多くの知識と技能を身に付ける。他者と協働して課題を解決し、学んだ知識と技能を生かして適切に情報を発信できる。	各高等教育機関での授業において、コミュニケーションを図り、知識と技能を身に付ける。他者と協働して課題を解決し、学んだ知識と技能を生かして情報を発信できる。	各高等教育機関での授業において、ある程度コミュニケーションを図り、ある程度の知識と技能を身に付ける。他者と協働して課題を解決し、学んだ知識と技能を生かして断片的ではあるが、情報を発信できる。	各高等教育機関での授業において、最低限のコミュニケーションを図り、知識と技能を最低限身に付ける。学んだ知識と技能を生かして他者と協働して課題を解決できる。

年度	2019	学科	保育学科	ナンバリング科目コード	30091	ICT活用	―
授業科目名	コンソーシアム函館教養Ⅱ					実務教員	―
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	1年	期間	その他	必修区分			
授業形態	その他	単位数	2	担当形態	-		
教員	保育学科教員						
該当ディプロマ・ポリシー ＤＰ項目番号	DP8 知識・技能(DP1～3)、思考力・判断力・表現力(DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力(DP7～9)						

授業のテーマ及び到達目標

各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された到達目標を確認すること。

授業の概要

毎年度（前期・後期）、キャンパス・コンソーシアム函館が提供する単位互換科目の中で、函館地域に関連が深い科目を当該科目として設定する。キャンパス・コンソーシアム函館のホームページで単位互換対象科目を確認することができる。受講を希望する場合、各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された授業目標を確認すること。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。

標準学修時間の目安

1回の講義あたり予習・復習を含めて4時間の学修が必要である。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。

使用教科書

	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	受講科目シラバスに従う	-	-	-
2				
3				

使用教科書備考

各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。

参考書・参考資料等

各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。

実務経験のある教員の略歴と教育内容

受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う。

その他

毎年度（前期・後期）、キャンパス・コンソーシアム函館が提供する単位互換科目の中で、函館地域に関連が深い科目を当該科目として設定する。履修には、本学教務課にて単位互換システムによる履修手続きが必要となる。本学での授業日程が最優先となるため、受講には、単位互換科目を開講している高等教育機関までの往復の時間等を考慮すること。

授業計画

第 1回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第 2回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第 3回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第 4回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第 5回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第 6回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第 7回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第 8回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第 9回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第10回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第11回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第12回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第13回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第14回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第15回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う

成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（%）	0	0	0	100	0	100

成績評価の基準（ルーブリック）

到達度	秀逸	優秀	良好	最低限
授業の到達目標に対する到達度の目安	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標を十分に理解し、その内容を超越するとともに、学びの内容を他者に正確に説明できる。	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標を理解し、その内容に到達するとともに、学びの内容を他者に説明できる。	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標をおおよそ理解し、その内容にある程度(4/5程度)到達するとともに、学びの内容をある程度、他者に説明できる。	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標を最低限理解し、その内容に最低限(3/5程度)到達するとともに、学びの内容を断片的ではあるが、他者に説明できる。
該当DPに対する到達度の目安	各高等教育機関での授業において、積極的にコミュニケーションを図り、多くの知識と技能を身に付ける。他者と協働して課題を解決し、学んだ知識と技能を生かして適切に情報を発信できる。	各高等教育機関での授業において、コミュニケーションを図り、知識と技能を身に付ける。他者と協働して課題を解決し、学んだ知識と技能を生かして情報を発信できる。	各高等教育機関での授業において、ある程度コミュニケーションを図り、ある程度の知識と技能を身に付ける。他者と協働して課題を解決し、学んだ知識と技能を生かして断片的ではあるが、情報を発信できる。	各高等教育機関での授業において、最低限のコミュニケーションを図り、知識と技能を最低限身に付ける。学んだ知識と技能を生かして他者と協働して課題を解決できる。

年度	2019	学科	保育学科	ナンバリング科目コード	30092	ICT活用	―
授業科目名	コンソーシアム函館教養Ⅲ					実務教員	―
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	1年	期間	その他	必修区分			
授業形態	その他	単位数	1	担当形態	-		
教員	保育学科教員						
該当ディプロマ・ポリシー ＤＰ項目番号	DP8 知識・技能(DP1～3)、思考力・判断力・表現力(DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力(DP7～9)						

授業のテーマ及び到達目標

各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された到達目標を確認すること。

授業の概要

毎年度（前期・後期）、キャンパス・コンソーシアム函館が提供する単位互換科目の中で、函館地域に関連が深い科目を当該科目として設定する。キャンパス・コンソーシアム函館のホームページで単位互換対象科目を確認することができる。受講を希望する場合、各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された授業目標を確認すること。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。

標準学修時間の目安

1回の講義あたり予習・復習を含めて2時間の学修が必要である。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。

使用教科書

	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	受講科目シラバスに従う	-	-	-
2				
3				

使用教科書備考

各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。

参考書・参考資料等

各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。

実務経験のある教員の略歴と教育内容

受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う。

その他

毎年度（前期・後期）、キャンパス・コンソーシアム函館が提供する単位互換科目の中で、函館地域に関連が深い科目を当該科目として設定する。履修には、本学教務課にて単位互換システムによる履修手続きが必要となる。本学での授業日程が最優先となるため、受講には、単位互換科目を開講している高等教育機関までの往復の時間等を考慮すること。

授業計画

第 1回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第 2回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第 3回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第 4回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第 5回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第 6回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第 7回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第 8回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第 9回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第10回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第11回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第12回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第13回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第14回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第15回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う

成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（%）	0	0	0	100	0	100

成績評価の基準（ルーブリック）

到達度	秀逸	優秀	良好	最低限
授業の到達目標に対する到達度の目安	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標を十分に理解し、その内容を超越するとともに、学びの内容を他者に正確に説明できる。	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標を理解し、その内容に到達するとともに、学びの内容を他者に説明できる。	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標をおおよそ理解し、その内容にある程度(4/5程度)到達するとともに、学びの内容をある程度、他者に説明できる。	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標を最低限理解し、その内容に最低限(3/5程度)到達するとともに、学びの内容を断片的ではあるが、他者に説明できる。
該当DPに対する到達度の目安	各高等教育機関での授業において、積極的にコミュニケーションを図り、多くの知識と技能を身に付ける。他者と協働して課題を解決し、学んだ知識と技能を生かして適切に情報を発信できる。	各高等教育機関での授業において、コミュニケーションを図り、知識と技能を身に付ける。他者と協働して課題を解決し、学んだ知識と技能を生かして情報を発信できる。	各高等教育機関での授業において、ある程度コミュニケーションを図り、ある程度の知識と技能を身に付ける。他者と協働して課題を解決し、学んだ知識と技能を生かして断片的ではあるが、情報を発信できる。	各高等教育機関での授業において、最低限のコミュニケーションを図り、知識と技能を最低限身に付ける。学んだ知識と技能を生かして他者と協働して課題を解決できる。

年度	2019	学科	保育学科	ナンバリング科目コード	30110	ICT活用	―
授業科目名	教養ゼミナール(S・L)Ⅱ					実務教員	―
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	２年	期間	通年	必修区分	卒		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	複数		
教員	保育学科教員						
該当ディプロマ・ポリシー ＤＰ項目番号	DP4,5,6,7,8,9 知識・技能(DP1～3)、思考力・判断力・表現力(DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力(DP7～9)						

授業のテーマ及び到達目標

1.日常生活において感謝の念を常に抱き、自己の行動に責任を持ちつつ他者を労わる人間性を備えることができる。
2.社会生活全般において、協調する姿勢を示し、健康な判断と正義を尊重し、円満な人間関係を築くことができる。
3.専門的職業人としての自律した生活を実践できる。

授業の概要

本学の建学の精神である学園三訓の理念に則り、学生生活及び将来の進路に関して、学生と教員が相互に交流し学ぶことによって、社会が望む質の高い保育者の養成を目指す。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

各担当教員と良くコミュニケーションを図り、指示された必要な準備をして参加すること。

標準学修時間の目安

1回の講義に予習・復習を含めて1時間の学修が望ましい。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

・合同S・Lでは、感想文を記載してもらいS・L担当教員が点検後返却する。
・課題解決型授業では、担当教員とコミュニケーションをとり解決に導くこと。

使用教科書

	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	なし	－	－	－
2				
3				

使用教科書備考

なし

参考書・参考資料等

1年次に使用した「保育の基本用語」を参考書として使う場合がある。

実務経験のある教員の略歴と教育内容

実務経験のある教員に該当しない。

その他

その他必要な事項・課題提出日等は、担当教員の指示に従う事。

授業計画

第 1回　個別S・L(1年間の振り返り)
第 2回　個別S・L(2年時の目標等について)
第 3回　合同S・L(先輩たちの就職について)
第 4回　合同S・L(具体的な就職試験について)
第 5回　地域課題解決授業1(周りにどのような課題があるか検証)
第 6回　個別S・L(読解力向上)
第 7回　合同S・L(スポーツ大会について)
第 8回　地域課題解決型授業2(課題解決するための方法)
第 9回　個別S・L
第10回　個別S・L
第11回　合同S・L(夏の交通安全講習)
第12回　地域課題解決型授業3(テーマ・内容・方法の決定)
第13回　個別S・L
第14回　地域課題解決型授業4(解決学習の中間発表)
第15回　個別S・L
第16回　クラス合同S・L(短大祭について)
第17回　合同S・L(学生生活について)
第18回　合同S・L(秋の交通安全講習)
第19回　合同S・L(保育士・幼稚園教諭に関する説明)
第20回　地域課題解決型授業5(問題と目的)
第21回　合同S・L(保育士登録申請用紙記入)
第22回　クラス合同S・L(スポーツ大会に向けて)
第23回　地域課題解決型授業6(レポート指導)
第24回　個別S・L
第25回　個別S・L
第26回　合同S・L(冬の交通安全講習)
第27回　地域課題解決型授業発表1
第28回　地域課題解決型授業発表2
第29回　地域課題解決型授業発表3
第30回　個別S・L

成績評価の方法(試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（%）	0	0	80	0	20	100

成績評価の基準（ルーブリック）

到達度	秀逸	優秀	良好	最低限
授業の到達目標に対する到達度の目安	2年時のS・Lでは、コミュニケーション力と社会人力向上に力をいれながら、専門的職業人に向かっての課題解決型授業に真摯に取り組み、問題解決に対しての適切な対処法について他者に詳細かつ適切に伝えることができる。	2年時のS・Lでは、コミュニケーション力と社会人力向上に力を入れながら、専門的職業人に向かっての課題解決型授業に真摯に取り組み、問題解決に対して他者に適切に伝えることができる。	2年時のS・Lでは、コミュニケーション力と社会人力向上に力を入れながら、専門的職業人に向かっての課題解決型授業に真摯に取り組み、その内容を理解している。	2年時のS・Lでは、コミュニケーション力と社会人力向上に力を入れながら、専門的職業人に向かってのの課題解決型授業に真摯に取り組んだが、それらを断片的であるが理解している。
該当DPに対する到達度の目安	2年時のS・Lでは、コミュニケーション力と社会人力向上に力を入れながら、専門的職業人に向かっての課題解決型授業に真摯に取り組み、関連する情報の継続的な収集と他者への発信力が身についている。	2年時のS・Lでは、コミュニケーション力と社会人力向上に力をいれながら、専門的職業人に向かっての課題解決型授業に真摯に取り組み、課題解決に向けての努力することができる。	2年時のS・Lでは、コミュニケーション力と社会人力向上に力を入れながら、専門的職業人に向かっての課題解決型授業に真摯に取り組み、情報の収集他者への発信ができる。	2年時のS・Lでは、コミュニケーション力と社会人力向上に力を入れながら、専門的職業人に向かっての課題解決型授業に真摯に取り組んだが、他者への発信を行うことがほとんどできない。

年度	2019	学科	保育学科	ナンバリング科目コード	30120	ICT活用	―
授業科目名	社会人基礎論Ⅱ					実務教員	○
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	２年	期間	前期	必修区分	卒		
授業形態	講義	単位数	1	担当形態	オムニバス		
教員	堀田　寿生／林原　和哉／海野　真樹						
該当ディプロマ・ポリシー ＤＰ項目番号	DP4,5,6,7,8,9 知識・技能(DP1～3)、思考力・判断力・表現力(DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力(DP7～9)						

授業のテーマ及び到達目標

授業のテーマ
①期待される社会人・職業人を目指す。
②働く意義を考える。
③就職先を決めるために考え、行動する。
④コミュニケーション能力、マナー、情報リテラシーを身につける。
到達目標
①社会人としての基礎・基本である「読んで書く能力」を身につける。
②電話対応、来客対応、クレーム対応など社会人として必要なコミュニケーションができるようにする。
③新聞、テレビの報道番組などを通して情報を収集し、現代社会が抱える課題を考え、表現できるようにする。
④就職活動で必要となる履歴書等の書き方、面接試験等に対応できる力を身につける。
⑤職業人として必要な教養を身につける。

授業の概要

学生生活と異なる社会人・職業人としての自覚と教養を育て、社会に出ていくための準備を行う。
①地域社会が求める「人間的な力」「社会人力」を身につけ、人生を自分の力で切り開く。
②実社会で生きてゆくためのマナー、社会常識、コミュニケーション能力等を身につける。
③現代社会とは何か、どんな問題があるか自分で考え、表現できるようにする。
④就職活動で必要となる力を身につける。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

普段から新聞を読み、テレビの報道番組等をみて現代社会が抱える課題について考えておく。日記などを書くことで、書くことに対する苦手意識を克服しよう。地域社会が自分に何を望んでいるのか、日々の生活を通して考えてみよう。配布プリントを読んで復習をする。配布された資料の下調べをしておく。

標準学修時間の目安

1回の講義あたり0.5時間の予習と1.5時間の復習を行うこと。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

小テストに関しては、採点後、返却します。レポート、作文などに関しては、模範例を授業中に紹介します。

使用教科書

	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	2018Ｂ検3級公式テキスト	職業教育キャリア教育財団	日本能率協会	978-4-8207-2628-9
2				
3				

使用教科書備考

2018年版Ｂ検ビジネス能力検定ジョブパス3級公式テキスト　職業教育・キャリア教育財団 監修　日本能率協会マネジメントセンター出版　（1年次に購入したテキストを使用）

参考書・参考資料等

キャリタス就活　就活支援ブック「大学生の就活編」（前半の授業で配布）

実務経験のある教員の略歴と教育内容

堀田寿生：金融機関、本学園本部勤務の経歴を活かし、文章の書き方、情報の集め方、考え方などを指導。
林原和哉：大手電機メーカー勤務・ＩＴ系専門学校教員、短大就職支援部長の経歴を活かし、就職活動支援等を行う。
海野真樹：航空業界での勤務経験を活かし、社会人として必要なマナー等を担当。

その他

実務経験者など外部講師（ゲストスピーカー）による特別講話を行う場合がある。

授業計画

第 1回　前年度の就職活動統計データから、今年度の就職活動を予測する。（林原）
第 2回　求人票の見方と情報収集について。実際の求人票を具体的に読み解く。（林原）
第 3回　自己分析。自身の強みと弱みを把握する。プログレスシートの活用。（林原）
第 4回　自己ＰＲを考えよう。弱みを強みに転換する。（林原）
第 5回　書類選考の突破。履歴書・エントリーシート等作成の留意点について。（林原）
第 6回　応募書類の送付と到着のフォロー。確実に届けるための留意点について。（林原）
第 7回　面接試験に備える。良く聞かれる質問ランキングなど。（林原）
第 8回　ビジネス文書の書き方。社内文書、社外文書、報告書等の書き方。（堀田）
第 9回　政治、経済問題など現代日本が抱える課題を考える。新聞を読んで考えてみよう。（堀田）
第10回　分かりやすい文章とは何か。他者をどう説得するか。自分の意見をどうまとめるか。（堀田）
第11回　就職試験の作文でどう対応するのか。「起承転結」で作文を書いてみよう。（堀田）
第12回　会社の仕組みと仕事。ＰＤＣＡサイクルで仕事を改善する。（堀田）
第13回　良好な人間関係を築くための、来客対応と訪問時の基本マナーについて。（海野）
第14回　電話の受け方、かけ方のマナーと、電話対応の重要性について。（海野）
第15回　不満を信頼に変えるトラブル・クレーム対応力を身につけるには。（海野）

成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（%）	50	0	50	0	0	100

成績評価の基準（ルーブリック）

到達度	秀逸	優秀	良好	最低限
授業の到達目標に対する到達度の目安	社会人として必要な、「読んで書く能力」が秀でている。クレーム対応など難しいコミュニケーション力を備えている。新聞等から情報を収集し、現代社会が抱える課題を見つけ出し、自ら解決策を打ち出し、他者を説得して解決へと導くことができる。就職活動に積極的で、職業人として必要な教養を身につけている。	レポート等が書け、時間管理、ビジネスマナー等を身につけている。新聞等で現代社会が抱える課題を見出し、自分で考え、解決策を見出すことができる。就職活動で必要なエントリーシート等が書くことができ、就職試験等で自分の意見を言える。職業人として必要な教養を身につける努力を続けている。	社会人としての基礎・基本である「読んで書く能力」を身につけている。さらに社会人として必要なコミュニケーション力がある。新聞、テレビの報道番組などを通して情報を収集し、現代社会が抱える課題を考えている。就職活動で必要となる履歴書等の書き方、面接試験等に対応できる力を身につけている。	社会人としての基礎・基本である「読んで書く能力」を身につけている。電話対応、来客対応、クレーム対応の仕方を理解している。新聞、テレビの報道番組などに日頃から関心がある。就職活動で必要となる履歴書等の書き方、面接試験等に対応できる力を身につけている。
該当DPに対する到達度の目安	専門職業人としての高い倫理観を持ち、生涯にわたって学び続け、身に付けた知識や技能及び経験を創造力を持って分かりやすく他者に伝えることができる。 子育て環境を深く分析し、課題や問題を見つけ出し、その解決に向けて計画的に考え、答えを導き出し、他者を説得する能力を身に付けている。	専門職業人としての高い倫理観を保持しており、社会に貢献しようとすることができる。子育て環境について日ごろから深く考えており、身に付けた知識と技能を生かし、物事を的確に認識して評価できる能力がある。	他者への思いやりや柔軟な対応力、コミュニケーション力があり、他者と協働して課題を解決しようとすることができる。子育て環境について日ごろから考え専門職業人として社会に貢献しようという意欲がある。	他者への思いやりや柔軟な対応力がある。子育て環境について理解しようという意欲がある。専門職業人となる意欲がある。

年度	2019	学科	保育学科	ナンバリング科目コード	30250	ICT活用	○
授業科目名	保育者のための音楽Ⅱ					実務教員	○
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	２年	期間	前期	必修区分			
授業形態	演習	単位数	2	担当形態	複数		
教員	山下　真由美／髙　実希子						
該当ディプロマ・ポリシー ＤＰ項目番号	DP1.2.3.4.5.6.8 知識・技能(DP1～3)、思考力・判断力・表現力(DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力(DP7～9)						

授業のテーマ及び到達目標

保育所保育指針・幼稚園教育要領の領域「表現」の内容を踏まえて、幼児教育において必要とされる音楽基礎力・音楽表現力の向上を目指す。具体的には、音楽基礎実技力の向上と保育・幼児教育の現場で必要とされる「弾き歌い」の力、また、保育・幼稚園実習先からの「課題曲」、「弾き歌い曲」、「ピアノ伴奏」等の課題曲を分析し、主体的に取り組むことができる力を培う。さらに、発表会等の表現活動の企画・実施の取組を通して保育構想に展開する力を養う。
1.C-durの主要三和音の基礎的理解および音楽基礎実技力の向上と保育・幼児教育で必要とされる「弾き歌い」の力を身につける。
2.保育・幼稚園実習先からの「課題曲」、「弾き歌い曲」、「ピアノ伴奏」等の課題曲を分析し、主体的に取り組むができる。
3.身に付けた音楽表現力を活用し、様々な保育の場を想定した発表会等の表現活動の企画・構想ができる。

授業の概要

・C-durの主要三和音を用いて、鍵盤楽器による簡易伴奏に取組む。（弾き歌い）。
・実習先の課題曲（弾き歌い、ピアノ伴奏等）に取り組むために、自らが伴奏可能な楽譜にアレンジを行う
・発表会等による保育を構想し、音楽表現技術を工夫して活用できる。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

予習・復習については、毎回の授業において、個人レッスンまたはグループレッスン時に課題を示す。次の授業までに、各自でピアノ実技・歌唱・弾き歌い等の練習に取り組んでくること。実習先からの課題曲については、実習先ごとに課題が違うことから、実習に向けて各自が主体的に取り組むこと。

標準学修時間の目安

次回の講義までに、予習・復習を含めて4時間の学修が望ましい。ピアノ実技や歌唱技術等の音楽基礎技術の習得は個人差が大きい実態から自己目標を設定し、自己目標の達成に向けて主体的に取り組むこと。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

再試験該当者のみ、実技に関する助言を行う。

使用教科書

	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	幼児の音楽教育	音楽教育研究協会編	朝日出版社	987-4-255-15556-2
2				
3				

使用教科書備考

幼稚園指導要領、保育所保育指針、幼稚連携型認定こども園教育・保育要領、その他に授業中に適宜資料を配布する。
「幼児教育・保育士養成のための新編幼児の音楽教育－音楽的表現の指導－」　音楽教育研究協会編

参考書・参考資料等

・実習園からの課題曲等については、資料を配布する。
・その他、適宜資料を配布する。

実務経験のある教員の略歴と教育内容

・山下真由美：実務経験のある教員に該当しない
・高実希子：ピアノ教室での個人指導（指導歴9年）及び函館、東京、海外での演奏活動を生かして、実技指導を行う。

その他

「保育者のための音楽Ⅱ」では、実習園からの課題曲に対応する指導を含める。各自が実習に備えて本授業を有効活用し、保育・幼児教育に必要な音楽表現の力を身につけるとともに、保育実践力を養う。授業は、ML教室（第2音楽室）及び第1音楽室にて、ICTを活用した双方向型授業を実施する。

授業計画

第 1回　オリエンテーション、（授業のねらい、到達目標）発声法の基礎、歌唱、読譜
第 2回　実技（歌唱、弾き歌い、ピアノ）幼児教育における音楽：主要三和音①
第 3回　実技（歌唱、弾き歌い、ピアノ）幼児教育における音楽：主要三和音②・活用
第 4回　実技（歌唱、弾き歌い、ピアノ）幼児教育における音楽：主要三和音展開形①
第 5回　実技（歌唱、弾き歌い、ピアノ）幼児教育における音楽：主要三和音展開形②・活用
第 6回　実技（歌唱、弾き歌い、ピアノ）幼児教育における音楽：展開形①
第 7回　実技（歌唱、弾き歌い、ピアノ）幼児教育における音楽：展開形②・活用
第 8回　実技（歌唱、弾き歌い、ピアノ）指導上の留意点・情報機器の活用の工夫
第 9回　楽曲分析①　基礎理論（保育・幼児教育活動に必要な保育課題曲の分析）
第10回　楽曲分析②　応用理論（保育・幼児教育活動に必要な保育課題曲の分析）
第11回　音楽による協働的取組とは：保育構想
第12回　保育構想に基づく発表会の練習①（考察）
第13回　保育構想に基づく発表会の練習②（改善）
第14回　保育構想に基づく発表会①（前半グループ）（まとめ・考察・改善）
第15回　保育構想に基づく発表会②（後半グループ）（まとめ・考察・改善）
定期試験

【学生に対する評価】
実技試験（80%）、レポート課題（10%）、学習意欲等（10%）を評価対象とする。

成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（%）	0	80	10	0	10	100

成績評価の基準（ルーブリック）

到達度	秀逸	優秀	良好	最低限
授業の到達目標に対する到達度の目安	保育所保育指針・幼稚園教育要領を踏まえて、保育者として必要な実践的表現技術（歌唱、ピアノ実技、弾き歌い、主要三和音、コード、楽曲分析）を充分に習得し、それらの音楽表現を他者に分かりやすく伝えることができる。自己課題を的確に把握して実習先の課題曲練習に取り組むとともに他者と協働して保育を構想することができる。	保育所保育指針・幼稚園教育要領を踏まえて、保育者として必要な実践的表現技術（歌唱、ピアノ実技、弾き歌い、主要三和音、コード、根音伴奏法）を習得しそれらの音楽表現を他者に伝えることができる。自己課題を把握して実習先の課題曲練習に取り組むとともに他者と協働して保育を構想することができる。	保育所保育指針・幼稚園教育要領を踏まえて、保育者として必要な実践的表現技術（歌唱、ピアノ実技、弾き歌い、主要三和音、コード、根音伴奏法）を概ね習得し、それらの音楽表現の概要を他者に伝えることができる。自己課題を把握して実習先の課題曲練習に取り組むとともに、断片的であるが他者と協働して保育を構想できる。	保育所保育指針・幼稚園教育要領を踏まえて、保育者として必要な実践的表現技術（歌唱、ピアノ実技、弾き歌い、主要三和音、コード）を部分的に習得し、それらの音楽表現の一部を他者に伝えることができる。自己課題に気づき、実習先の課題曲練習に取り組み、断片的であるが他者と協働した保育構想のイメージをもつことができる。
該当DPに対する到達度の目安	保育者の社会的使命を理解して保育・幼児教育に必要な実践的な表現技術を習得し、他者に分かりやすく伝えることができる。実習先の実態を鑑み自己課題を把握し、実習に向け計画的取り組みができる。課題を的確に認識し、保育実践の自己評価の改善・工夫ができる。他者への思いやりや柔軟な対応に配慮した協働的保育を構想・実践できる。	保育者の社会的使命を理解して保育・幼児教育に必要な実践的な表現技術を習得し、他者に伝えることができる。実習先の実態を鑑み自己課題に気づき、実習に向け計画的取り組みができる。課題を認識し、保育実践の自己評価の改善・工夫ができる。保育実践に向け他者への思いやりや柔軟な対応に配慮した協働的保育を構想できる。	保育者の社会的使命を理解して保育・幼児教育に必要な実践的な表現技術を概ね習得し、他者に伝えることができる。実習に向けて自己課題に気づき、保育実践の自己評価と改善について考察できる。保育実践に向けて他者への思いやりと柔軟な対応に配慮した協働的保育を概ね構想できる。	保育者の社会的使命を知り保育・幼児教育に必要な実践的な表現技術を充分ではないが習得し断片的に他者に伝えることができる。実習に取り組む際の自己課題に気づき、保育実践の自己評価と改善について知る。保育実践に向けて他者への思いやりに配慮した協働的保育を断片的であるが構想しようと努めることができる。

年度	2019	学科	保育学科	ナンバリング科目コード	30332	ICT活用	○
授業科目名	コンピュータリテラシーE					実務教員	○
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	２年	期間	後期	必修区分	ME		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	単独		
教員	山﨑 幸路						
該当ディプロマ・ポリシー ＤＰ項目番号	DP1,2,3 知識・技能(DP1～3)、思考力・判断力・表現力(DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力(DP7～9)						

授業のテーマ及び到達目標

授業のテーマはパソコン操作によるエクセルのデータ作成です。
到達目標は以下の内容です。
テーブルを管理し、フィルター、並べ替え、スタイルの管理ができる。
関数を使用してデータ集計と条件付きの計算を実行できる。
グラフを作成かつオブジェクトを挿入し、書式を変更できる。
売上データを集計するために、データを追加し分析することができる。
請求書データを作成し、テキストボックスや画像を挿入することができる。

授業の概要

総合的な操作の考え方と何が実務で要求されているかを理解し、実社会で役立つ技術を学びます。
マイクロソフトオフィススペシャリスト エクセル2016の試験内容に沿って学習し合格する力をつけます。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

【予習】事前配布するプリントとテキストとを併読し、操作内容と用語をおおまかに理解します。
【復習】テキストとプリントを見ながらパソコンを操作し授業と同じ操作ができるかを確認します。また授業で指定された課題演習をします。

標準学修時間の目安

1回の講義あたり予習・復習を含めて4時間の学修が必要です。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

課題指定前または提出期限後の授業で模範的な課題を紹介します。

使用教科書

	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	MOS Excel 2016	土岐順子	日経BP社	978-4822253158
2				
3				

使用教科書備考

MOS攻略問題集 Excel 2016

参考書・参考資料等

30時間でマスター Excel2016

実務経験のある教員の略歴と教育内容

指導教員はマイクロソフト公式トレーナーを取得しパソコンスクールでマイクロソフトオフィススペシャリスト(MOS)等の資格試験のレッスンをしています。

その他

実務で役立ち、マイクロソフトオフィススペシャリスト2016の試験に対応する学習をします。ICTを活用し授業および課題取り組みのアンケートを行います。またICTを活用し、入力練習の状況と入力スキルの成果について確認します。これらのICT活用により、クラス全体の学習状況を分析理解し各自の学習の動機づけと目標設定をします。

授業計画

第 1回　ワークシートとブックの作成
第 2回　ワークシートとブックの管理、設定
第 3回　セルやセル範囲にデータを挿入、書式設定する
第 4回　セルやセル範囲にデータをまとめる、整理する
第 5回　テーブルを作成し、スタイルと設定オプションを管理する
第 6回　テーブルを管理し、フィルター、並べ替えをする
第 7回　関数を使用してデータ集計と条件付きの計算を実行する
第 8回　関数を使用して文字列を整形し、変更する
第 9回　グラフを作成し、グラフの書式を設定する
第10回　オブジェクトを挿入し、書式を変更する
第11回　営業記録を集計し、ブックのデータを整理する
第12回　売上データを集計するために、データを追加し分析する
第13回　請求書データを作成し、テキストボックスや画像を挿入する
第14回　表や表示印刷を設定し、受講リストを作成する
第15回　実務的エクセルデータ作成方法のまとめと小テスト

成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（%）	70	0	20	0	10	100

成績評価の基準（ルーブリック）

到達度	秀逸	優秀	良好	最低限
授業の到達目標に対する到達度の目安	エクセル操作に必要な知識について理解し、編集機能の操作のスキルを身に着けるとともに獲得したスキルをもとに複数の機能を組み合わせて素早く、実務データとして通用する見栄えのよいデータ編集ができる。	エクセル操作に必要な知識について理解し、編集機能の操作のスキルを身に着けるとともに、獲得したスキルをもとに複数の機能を組み合わせて一定のスピードで、実務データとして通用するデータ編集ができる。	エクセル操作に必要な知識について理解し、編集機能の操作のスキルを身に着けるとともに、獲得したスキルをテキストを参照しながら複数の機能を組み合わせて一定のスピードで、実務データとして通用するデータ編集ができる。	エクセル操作に必要な知識について理解し、編集機能の操作のスキルを身に着けるとともに、獲得したスキルをテキストを参照しながら複数の機能を組み合わせて時間をかけて実務データとして通用するデータ編集ができる。
該当DPに対する到達度の目安	保育と子育て支援に必要な専門的知識と技術、とりわけ食育知識について子供の成長を促す保育を展開するために獲得した情報を自在に編集し説得力あるデータとなるよう見栄えのよい編集作業が素早くできる。	保育と子育て支援に必要な専門的知識と技術、とりわけ食育知識について子供の成長を促す保育を展開するために獲得した情報をテキスト等を参照しながらも自在に編集し説得力あるデータとなるよう見栄えのよい編集作業が素早くできる。	保育と子育て支援に必要な専門的知識と技術、とりわけ食育知識について子供の成長を促す保育を展開するために獲得した情報をテキスト等を参照しながらも編集し説得力あるデータとなるよう見栄えのよい編集作業が一定の速さでできる。	保育と子育て支援に必要な専門的知識と技術、とりわけ食育知識について子供の成長を促す保育を展開するために獲得した情報をテキスト等を参照しながらも編集し効果的となるようデータの編集作業ができる。

年度	2019	学科	保育学科	ナンバリング科目コード	30333	ICT活用	○
授業科目名	コンピュータリテラシーP					実務教員	○
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	２年	期間	後期	必修区分	MP		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	単独		
教員	山﨑 幸路						
該当ディプロマ・ポリシー ＤＰ項目番号	DP1,6 知識・技能(DP1～3)、思考力・判断力・表現力(DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力(DP7～9)						

授業のテーマ及び到達目標

パソコン操作によるプレゼンテーション文書作成が授業のテーマです。
到達目標は、以下の内容です。
1.テキスト、図形、テキストボックスを挿入しスライドを作成することができる。
2.表、グラフ、SmartArt、メディアをを挿入し書式設定することができる。
3.スライドのコンテンツにアニメーションを設定することができる。
4.アンケートの結果などをプレゼンテーション資料を作成することができる。
5.社内文書として提案書のフォーマットを作成することができる。

授業の概要

総合的な操作の考え方と何が実務で要求されているかを理解し、実社会で役立つ技術を学びます。マイクロソフトオフィススペシャリスト パワーポイント2016の試験内容に沿って学習し合格する力をつけます。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

【予習】事前配布するプリントとテキストの該当部分を併読し、操作内容と用語をおおまかに理解します。
【復習】テキストとプリントを見ながらパソコンを操作し授業と同じ操作ができるかを確認します。また授業で指定された課題演習をします。

標準学修時間の目安

1回の講義あたり予習・復習を含めて2時間の学修が必要です。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

課題指定前または提出期限後の授業で模範的な課題を紹介します。

使用教科書

	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	MOS PP 2016	市川洋子	日経BP社	978-4822253165
2				
3				

使用教科書備考

MOS攻略問題集 PowerPoint 2016

参考書・参考資料等

30時間でマスター Word2016
30時間でマスター プレゼンテーション+PowerPoint2016

実務経験のある教員の略歴と教育内容

指導教員はマイクロソフト公式トレーナーを取得しパソコンスクールでマイクロソフトオフィススペシャリスト(MOS)等の資格試験のレッスンをしています。

その他

実務で役立ち、マイクロソフトオフィススペシャリスト2016の試験に対応する学習をします。ICTを活用し授業および課題取り組みのアンケートを行います。またICTを活用し、入力練習の状況と入力スキルの成果について確認します。これらのICT活用により、クラス全体の学習状況を分析理解し各自の学習の動機づけと目標設定をします。

授業計画

第 1回　スライド、配布資料、ノートを変更する
第 2回　スライドショーを設定し、実行する
第 3回　テキスト、図形、テキストボックスを挿入する
第 4回　図形を挿入し、並べ替え、グループ化する
第 5回　表、グラフを挿入し書式設定する
第 6回　SmartArt、メディアを挿入し、書式設定と管理する
第 7回　スライドのコンテンツにアニメーションを設定する
第 8回　画面切り替えとアニメーションのタイミングを設定する
第 9回　数のプレゼンテーションのコンテンツを結合する
第10回　プレゼンテーションを保護する、共有する
第11回　プレゼンテーションのフォーマットを作成する
第12回　アンケート結果などをプレゼンテーション資料にまとめます
第13回　社内文書として提案書のフォーマットを作成します。
第14回　新商品のキャンペーンをするための資料を作成します。
第15回　実務的プレゼン資料作成のまとめと小テスト

成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（%）	70	0	20	0	10	100

成績評価の基準（ルーブリック）

到達度	秀逸	優秀	良好	最低限
授業の到達目標に対する到達度の目安	パワーポイント操作に必要な知識について理解し、編集機能の操作のスキルを身に着けるとともに、獲得したスキルをもとに複数の機能を組み合わせて素早く、実務データとして通用する見栄えのよいデータ編集ができる。	パワーポイント操作に必要な知識について理解し、編集機能の操作のスキルを身に着けるとともに、獲得したスキルをもとに複数の機能を組み合わせて一定のスピードで、実務データとして通用するデータ編集ができる。	パワーポイント操作に必要な知識について理解し、編集機能の操作のスキルを身に着けるとともに、獲得したスキルをテキストを参照しながら複数の機能を組み合わせて一定のスピードで実務データとして通用するデータ編集ができる。	パワーポイント操作に必要な知識について理解し、編集機能の操作のスキルを身に着けるとともに、獲得したスキルをテキストを参照しながら複数の機能を組み合わせて時間をかけて実務データとして通用するデータ編集ができる。
該当DPに対する到達度の目安	身につけた知識や技能並びに経験を分かりやすく他者に伝えるためにプレゼンテーションデータを自在に編集し、説得力ある見栄えのよい編集作業が素早くできる。	身につけた知識や技能並びに経験を分かりやすく他者に伝えるためにプレゼンテーションデータをテキスト等を参照しながらも自在に編集し説得力あるデータとなるよう見栄えのよい編集作業が素早くできる。	身につけた知識や技能並びに経験を分かりやすく他者に伝えるためにプレゼンテーションデータをテキスト等を参照しながらも、自在に編集し説得力あるデータとなるよう見栄えのよい編集作業が一定の速さでできる。	身につけた知識や技能並びに経験を分かりやすく他者に伝えるためにプレゼンテーションデータをテキスト等を参照しながらも自在に編集し説得力あるデータとなるよう見栄えのよい編集作業ができる。

年度	2019	学科	保育学科	ナンバリング科目コード	30174	ICT活用	―
授業科目名	函館グローカル・コミュニケーション					実務教員	○
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	２年	期間	後期	必修区分			
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	オムニバス		
教員	澤辺　桃子／榊　ひとみ／土井岡　眞理子／渡辺 真保						
該当ディプロマ・ポリシー ＤＰ項目番号	DP6,7,8,9 知識・技能(DP1～3)、思考力・判断力・表現力(DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力(DP7～9)						

授業のテーマ及び到達目標

国家資格取得を目指し学んだ知識・技能をグローカル（地球規模で考えながら、自分の地域で活動する）に生かすために必要となる、外国人とのコミュニケーションスキルを学ぶ。

1.外国人とのコミュニケーションの心構えを理解することができる。
2.調理作業に必要な英単語を理解し、他者に伝えることができる
3.他者に人柄を理解してもらえる英語の自己紹介ができる
4.観光案内、食文化及び道案内を平易な英語で説明できる。
5.子どもと平易な英語でコミュニケーションをとることができる。
6.英語以外の言語によるコミュニケーションの注意点を理解することができる。

授業の概要

保育士の国家資格取得を目指し学んだ知識・技能をグローカル（地球規模で考えながら、自分の地域で活動する）に生かすために必要となるスキルを認識する。言語的・非言語的コミュニケーションを用いて、個人の発信力を高めることで、多様な人々と柔軟に連携するための素養を養う。本授業は、TOEIC対策を含めた構成とし、インタラクティブなアクションラーニング型の授業として実施する。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

予習は、各授業回に必要と思われる英単語や資料の下調べを行い、会話のシミュレーションをしておくこと。復習は、授業回で習った単語や表現をノートに記録し、使えるように繰り返し音読する。また、友人同士の会話に積極的に英語表現を取り入れるように心がける。TOEIC対策練習問題は、自分で翻訳し正解を導けるようにする。

標準学修時間の目安

次回の授業までに予習・復習を含めて2時間の学修が望ましい。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

TOEIC対策の練習問題は、翌週に解答を配付する。
その他の課題は、その都度、教員と意見交換することで完成度を上げる。

使用教科書

	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	なし	－	－	－
2				
3				

使用教科書備考

なし

参考書・参考資料等

授業回ごとに、資料等を配付する。

実務経験のある教員の略歴と教育内容

土井岡：日系アメリカ人で、音楽、スポーツ業界で通訳、翻訳等、英語を使う仕事を経て、現在の市内で飲食店経営経験を生かし、英語の指示による調理実習を担当する。渡辺：市内で外語スクールを経営している経験からTOEIC対策と英語コミュニケーションの内容を担当する。

その他

調理実習は、調理室を使用するため、衛生管理に関するルールを守り、教職員からの指示に従うこと。学修成果を実感するために、自主学習を重ね、TOEIC試験を受験することを強く推奨する。

授業計画

第 1回　オリエンテーション　（授業の進め方説明）、次回の調理実習の準備（澤辺）
第 2回　英語の指示で料理をつくる：調理実習（土井岡）
第 3回　料理を英語で説明する（土井岡）
第 4回　生活における英語コミュニケーションの必要性（澤辺、渡辺）
第 5回　仕事における英語コミュニケーションの必要性（榊）
第 6回　シチュエーションで学ぶ英語「自己紹介」：TOEIC対策（渡辺）
第 7回　シチュエーションで学ぶ英語「道案内・観光」：TOEIC対策（渡辺）
第 8回　シチュエーションで学ぶ英語「買い物」：TOEIC対策（渡辺）
第 9回　シチュエーションで学ぶ英語「食事」：TOEIC対策（渡辺）
第10回　シチュエーションで学ぶ英語「子どもとのコミュニケーション（手遊び、リズム遊び等）」（渡辺）
第11回　シチュエーションで学ぶ英語「子どもとのコミュニケーション（折り紙等）」（渡辺）
第12回　英語以外の言語でのコミュニケーション方法（澤辺、渡辺）
第13回　発表会準備（澤辺、榊）
第14回　発表会：調理実習報告（澤辺、榊、渡辺）
第15回　発表会：ロールプレイ披露（澤辺、榊、渡辺）

成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（%）	0	0	0	50	50	100

成績評価の基準（ルーブリック）

到達度	秀逸	優秀	良好	最低限
授業の到達目標に対する到達度の目安	外国人とのコミュニケーションの心構えを十分に理解し英語、英語以外を問わず意思の疎通を図ることができる。以下の内容について積極的に学び、実践できる確固たる自信をもつことができる。①調理作業に必要な英単語②人柄を理解してもらえる英語の自己紹介③英語による観光案内、食文化及び道案内④子どもとの英語コミュニケーション	外国人とのコミュニケーションの心構えを理解し英語、英語以外を問わず意思の疎通を図ることができる。以下の内容について学び、実践できる自信をもつことができる。①調理作業に必要な英単語②人柄を理解してもらえる英語の自己紹介③英語による観光案内、食文化及び道案内④子どもとの英語コミュニケーション	外国人とのコミュニケーションの心構えを概ね理解し英語、英語以外を問わず意思の疎通をある程度図ることができる。以下の内容について、実践を試みることができる。①調理作業に必要な英単語②人柄を理解してもらえる英語の自己紹介③英語による観光案内、食文化及び道案内④子どもとの英語コミュニケーション	外国人とのコミュニケーションの心構えを最低限理解し英語、英語以外を問わず意思の疎通を図る努力ができる。以下の内容について最低限の努力ができる。①調理作業に必要な英単語②人柄を理解してもらえる英語の自己紹介、③英語による観光案内、食文化及び道案内④子どもとの英語コミュニケーション
該当DPに対する到達度の目安	生涯にわたって学び続け、身に付けた知識や技能及び経験を創造力をもって分かりやすく他者に伝えることができる。専門職業人としての高い倫理観、他者への思いやりと柔軟な対応力をもって高度に社会に貢献できる。高いコミュニケーション力を身に付け、他者と協働して積極的に課題を解決できる。	生涯にわたって学び続け、身に付けた知識や技能及び経験を創造力をもって他者に伝えることができる。専門職業人としての倫理観、他者への思いやりと柔軟な対応力をもって社会に貢献できる。コミュニケーション力を身に付け、他者と協働して課題を解決できる。	生涯にわたって学び続ける意思をもち、身に付けた知識や技能及び経験を他者に伝えることができる。専門職業人としての倫理観、他者への思いやりをもって社会に貢献できる。ある程度のコミュニケーション力を身に付け、他者と協働して課題解決に取組むことができる。	生涯にわたって学び続ける意味を理解し、身に付けた知識や技能及び経験を他者に伝える努力ができる。専門職業人としての倫理観と他者への思いやりをもって社会にある程度貢献できる。最低限のコミュニケーション力を身に付け、他者と協働して課題解決に取組む努力ができる。

年度	2019	学科	保育学科	ナンバリング科目コード	30074	ICT活用	―
授業科目名	国際交流					実務教員	―
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	２年	期間	後期	必修区分			
授業形態	実験・実習	単位数	1	担当形態	–		
教員	保育学科教員						
該当ディプロマ・ポリシー ＤＰ項目番号	DP8 知識・技能(DP1～3)、思考力・判断力・表現力(DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力(DP7～9)						

授業のテーマ及び到達目標

海外研修旅行を通して、国際交流について深く学び、自己の成長につなげる。

1.見聞・体験を通して得たことを報告書に表現できる。
2.集団での行動を通して、協調性を身に付け、今後の社会生活に役立てる。
3.外国での体験に基づく価値観の違いを理解し、豊かな人間性を身に付け、行動で示すことができる。
4.自分で作り上げる研修を通して、能動的な学習能力を身に付け、普段の学習に役立てる。

授業の概要

本学科で学んだ講義や実習を通して修得した知識を基に、海外における食文化が土地柄や歴史とどのように関わっているかという実情を見聞・体験して、自分の進むべき分野に対する一層の認識を深める。
また、そのときの感動および幅広い視野から判断できる新たな自分の基準を持つことを目標とする。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

出発前に個人及びグループ毎のテーマを決め、それに沿った準備学習を行う。関連する資料の下調べ、グループワーク、グループディスカッションを行い、理解を深める。

標準学修時間の目安

事前の各種手続き、渡航準備および帰国後の報告書作成等を合わせて、合計３０時間の自主学習が必要となる。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

参加者全員の研修報告書を取りまとめ、冊子として配布する。

使用教科書

	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	なし	–	–	–
2				
3				

使用教科書備考

なし

参考書・参考資料等

訪問国の観光ガイド並びに関連書籍

実務経験のある教員の略歴と教育内容

実務経験のある教員に該当しない。

その他

渡航費用が別途必要である。学内掲示等で参加者の募集を行う。１年次に履修することも可能である。現地研修に際しては、特に体調管理に努めること。履修者数によっては、旅行会社が提供するパッケージツアーに研修内容を組み入れる場合がある。研修報告のプレゼンテーションを実施する。

授業計画

第 1回　事前研修（オリエンテーション、パスポートの取得方法）
第 2回　事前研修（渡航先情報の確認、旅行準備指導）
第 3回　事前研修（自主研修計画の作成、旅のしおり作成）
第 4回　事前研修（出発式、事前学習発表会）
第 5回　現地研修（国際線搭乗手続き、時差体験、地球の大きさの実感）
第 6回　現地研修（日本の常識と海外の常識）
第 7回　現地研修（生活文化の違いを知る）
第 8回　現地研修（海外の食文化を体験する）
第 9回　現地研修（日本と海外の教育の違いを知る）
第10回　現地研修（海外でのコミュニケーション体験）
第11回　現地研修（集団行動における自分の役割を知る）
第12回　現地研修（訪問国の歴史、建造物、芸術、エンターテインメントを学ぶ）
第13回　事後研修（研修報告書の作成）
第14回　事後研修（研修報告会の資料作成）
第15回　事後研修（研修報告会での発表）

成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（%）	0	0	0	50	50	100

成績評価の基準（ルーブリック）

到達度	秀逸	優秀	良好	最低限
授業の到達目標に対する到達度の目安	外国での見聞・体験を通して価値観の違い、多様性を深く理解し、豊かな人間性と能動的な学習姿勢を身に付けている。 学びの成果は、 報告書に十分にまとめ、報告会の発表で他者に適切な説明をすることができる。また、集団での行動を通して、高い協調性を身に付け、今後の社会生活に役立てていく意識が非常に高い。	外国での見聞・体験を通して価値観の違い、多様性を理解し、豊かな人間性と能動的な学習姿勢を身に付けている。学びの成果は、報告書にまとめ、報告会の発表で他者に説明をすることができる。また、集団での行動を通して、協調性を身に付け、今後の社会生活に役立てていく意識が高い。	外国での見聞・体験を通して価値観の違い、多様性をある程度理解し、豊かな人間性と能動的な学習姿勢を身に付けている。学びの成果は、報告書にある程度まとめることができる。また集団での行動を通して、協調性を身に付け、今後の社会生活に役立てていく意識がある。	外国での見聞・体験を通して価値観の違い、多様性を最低限理解し、豊かな人間性と能動的な学習姿勢を身に付けている。学びの成果は、報告書に最低限まとめることができる。また、集団での行動を通して、協調性を身に付け、今後の社会生活に役立てていく意識が最低限ある。
該当DPに対する到達度の目安	自分たちで組み立てる研修内容において、事前事後研修へ積極的に参加し、 制作物等の完成度が非常に高い。海外研修中の様々な場面で高いコミュニケーション力を身に付け、帰国後もそれらを役立てている。また、他者と協働して課題を解決するために、特に能動的な姿勢で取り組むことができる。	自分たちで組み立てる研修内容において事前事後研修に参加し、制作物等の完成度が高い。海外研修中の様々な場面でコミュニケーション力を身に付け、帰国後もそれらを役立てている。また、他者と協働して課題を解決するために、能動的な姿勢で取り組むことができる。	自分たちで組み立てる研修内容において、事前事後研修に参加し、制作物を作成できる。海外研修中は、必要な場面でコミュニケーション力を身に付け、帰国後もそれらを役立てる努力をしている。また、他者と協働して課題を解決する取り組みに参加することができる。	自分たちで組み立てる研修内容において、事前事後研修に参加し、最低限の制作物を作成できる。海外研修中は、最低限のコミュニケーション力を身に付ける努力をしている。また、他者と協働して課題を解決する取り組みに参加する努力ができる。

年度	2019	学科	保育学科	ナンバリング科目コード	30075	ICT活用	―
授業科目名	文化交流					実務教員	―
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	２年	期間	後期	必修区分			
授業形態	実験・実習	単位数	1	担当形態	―		
教員	保育学科教員						
該当ディプロマ・ポリシー ＤＰ項目番号	DP8 知識・技能(DP1～3)、思考力・判断力・表現力(DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力(DP7～9)						

授業のテーマ及び到達目標

1. 集団行動を通して、協調性を身に付け、今後の社会生活に役立てる。
2. 他地域との距離感や気候・風土などの違いに興味を持ち、自ら調べることができる。
3. 現地の保育所を見学し、気候・風土・文化・歴史等が異なる地域の保育環境や子どもの特徴について学ぶ。
4. 自主研修の内容を自ら計画し、実行することができる。
5. 旅行の運営や進行に意欲的に参加し、学生同士や教職員との親睦を深め、積極的に思い出作りを行う。

授業の概要

国内研修旅行を通して、異なる地域の人や文化・歴史などに触れることで、やがて社会へと旅立つ学生諸君が見聞を広め、さらには自分達の住む地域への郷土愛を深めることを目標とする。また、現地の保育所を訪問し、子ども達や保育士と交流を図る。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

個人あるいは、グループ毎にテーマを決め、それに沿った準備学習を行う。

標準学修時間の目安

1回の講義当たり1時間の予習を行う事。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

研修成果をレポートにまとめ参加学生に配布する。

使用教科書

	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	なし	－	－	－
2				
3				

使用教科書備考

なし

参考書・参考資料等

現地の観光ガイド並びに関連書籍

実務経験のある教員の略歴と教育内容

実務経験のある教員に該当しない。

その他

・別途費用がかかる
・現地研修に際しては、十分体調管理に気を配ること。
・自主研修に際しては、自覚をもって行動すること。特に安全面に注意をすること。

授業計画

第 1回　事前オリエンテーション
第 2回　研修に向けての役割分担を決める
第 3回　保育所での交流計画を作成する
第 4回　保育所の子ども達へのプレゼントを考える
第 5回　保育所の子ども達へのプレゼント作成
第 6回　現地研修1(現地の文化に触れる)
第 7回　現地研修2(現地の歴史に触れる)
第 8回　現地研修3(現地の食文化に触れる)
第 9回　現地研修4(現地の保育環境に触れる)
第10回　現地研修5(現地の保育所にて子ども達と交流)
第11回　現地研修6(自主研修を行う)
第12回　研修の成果について報告会
第13回　研修成果レポート準備
第14回　研修成果レポート作成
第15回　研修のまとめと課題の整理

成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（%）	0	0	60	0	40	100

成績評価の基準（ルーブリック）

到達度	秀逸	優秀	良好	最低限
授業の到達目標に対する到達度の目安	国内研修旅行を通して異なる地域の人や文化・歴史なとに触れることで、やがて社会に旅立つ学生たちが見聞を広め、それを理解し、他者に詳細かつ適切な情報を伝えることが身についている。	国内研修旅行を通して、異なる地域の人や文化・歴史などに触れることで、やがて社会に旅立つ学生たちが見聞を広め、それらを他者に適切な情報として伝えることができる。	国内研修旅行を通して、異なる地域の人や文化・歴史などに触れることで、やがて社会に旅立つ学生たちが見聞を広め、それらについて理解している。	国内研修旅行を通して、異なる地域の人や文化・歴史などに触れることで、やがて社会に旅立つ学生たちが見聞を広め、それらを断片的に理解している。
該当DPに対する到達度の目安	国内研修旅行を通して、異なる地域の人や文化・歴史などに触れることで、やがて社会に旅立つ学生たちが見聞を広め、関連する情報の継続的な収集と他者への発信力を身に付けている。	国内研修旅行を通して異なる地域の人や文化・歴史などに触れることで、やがて社会に旅立つ学生たちが見聞を広め、他者への発信、課題解決に向けて努力することができる。	国内研修旅行を通して、異なる地域の人や文化・歴史などに触れることで、やがて社会に旅立つ学生たちが見聞を広め、それらをある程度の情報と収集とむ他者への発信ができる。	国内研修旅行を通して、異なる地域の人や文化・歴史などに触れることで、やがて社会に旅立つ学生たちが見聞を広めたが、関連する情報の収集と他者への発信を行うことがほとんどできない。

年度	2019	学科	保育学科	ナンバリング科目コード	30340	ICT活用	―
授業科目名	ボランティア実習Ⅱ					実務教員	―
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	２年	期間	その他	必修区分			
授業形態	実験・実習	単位数	1	担当形態	―		
教員	保育学科教員						
該当ディプロマ・ポリシー ＤＰ項目番号	DP4,5,6,7,8,9 知識・技能(DP1～3)、思考力・判断力・表現力(DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力(DP7～9)						

授業のテーマ及び到達目標

保育所・幼稚園・認定こども園・福祉施設などで地域活動を支援することを実際に体験することにより、将来、社会の担い手となることの自覚を深めるとともに、協働協力、地域連携などが重要であることの意識を高める。

授業の概要

現代社会においては、協働協力の精神を培うことがますます重要となったている。保育所・幼稚園・認定こども園・福祉施設などのボランティア活動を通して、地域の構成員が互いに協力し、助け合うことの大切さを学ぶ。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

実習先のパンフレットやホームページで予め必要な情報を収集して、予備知識を増やすこと。

標準学修時間の目安

1回のボランティア終了後、報告書の作成に1時間程度必要である。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

1回のボランティア終了後、報告書をこまめに提出すること。

使用教科書

	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	なし	－	－	－
2				
3				

使用教科書備考

なし

参考書・参考資料等

なし

実務経験のある教員の略歴と教育内容

実務経験のある教員に該当しない。

その他

・担当教員から承認されたボランティア活動の累積時間数が30時間となった場合に単位認定をする。
・評価は、活動終了後に学生が提出する活動内容などを記した報告書により行う。

授業計画

第 1回　オリエンテーション
第 2回　例年のボランティア活動の説明
第 3回　報告書のまとめ方を説明
第 4回　「学外授業出席証明書」「学外実習報告書」を配布・説明
第 5回　ボランティア学外実習
第 6回　ボランティア学外実習
第 7回　ボランティア学外実習
第 8回　ボランティア学外実習
第 9回　ボランティア学外実習
第10回　ボランティア学外実習
第11回　ボランティア学外実習
第12回　ボランティア学外実習
第13回　ボランティア学外実習
第14回　ボランティア学外実習
第15回　ボランティア学外実習
第16回　ボランティア学外実習
第17回　ボランティア学外実習
第18回　ボランティア学外実習
第19回　ボランティア学外実習
第20回　ボランティア学外実習
第21回　ボランティア学外実習
第22回　ボランティア学外実習
第23回　ボランティア学外実習
第24回　ボランティア学外実習
第25回　ボランティア学外実習
第26回　ボランティア学外実習
第27回　ボランティア学外実習
第28回　ボランティア学外実習
第29回　ボランティア学外実習
第30回　学外授業出席証明書・学外実習報告書提出

成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（%）	0	0	80	0	20	100

成績評価の基準（ルーブリック）

到達度	秀逸	優秀	良好	最低限
授業の到達目標に対する到達度の目安	各園・福祉施設などでのボランティア活動を通して、社会人力・コミュニケーション力を養い、社会の担い手となることへの自覚を備えていると同時に、協力協働・地域貢献への精神が身についている。	各園・福祉施設などでのボランティア活動を通して、社会人力・コミュニケーション力を養い、社会の担い手となることへの自覚を備えていると同時に他者に適切な情報として伝えることができる。	各園・福祉施設などでのボランティア活動を通して、社会人力・コミュニケーション力を養い、社会の担い手となることへの自覚を備えている。	各園・福祉施設などでのボランティア活動を通して社会人力・コミュニケーション力を養い、社会の担い手となることへの自覚について断片的に理解している。
該当DPに対する到達度の目安	各園・福祉施設などでのボランティア活動を通して、社会人力・コミュニケーション力を養い、社会の担い手となることへの自覚と他者への発信力を身に付けている。	各園・福祉施設などでのボランティア活動を通して、社会人力・コミュニケーション力を養い、社会の担い手となることへの自覚と課題解決に向けれて努力することができる。	各園・福祉施設などでのボランティア活動を通して、社会人力・コミュニケーション力を養い、社会の担い手となることへの自覚と他者への発信ができる。	各園・福祉施設などでのボランティア活動を通して社会人力・コミュニケーション力を養ったが、社会の担い手への理解と自覚ががほとんど出来ていない。

年度	2019	学科	保育学科	ナンバリング科目コード	30180	ICT活用	―
授業科目名	コンソーシアム基礎教養Ⅲ					実務教員	―
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	２年	期間	その他	必修区分			
授業形態	その他	単位数	2	担当形態	－		
教員	保育学科教員						
該当ディプロマ・ポリシー ＤＰ項目番号	DP8 知識・技能(DP1～3)、思考力・判断力・表現力(DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力(DP7～9)						

授業のテーマ及び到達目標

各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された到達目標を確認すること。

授業の概要

当該科目は、毎年度（前期・後期）、キャンパス・コンソーシアム函館が提供する単位互換科目である。キャンパス・コンソーシアム函館のホームページで単位互換対象科目を確認することができる。受講を希望する場合、各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された授業目標を確認すること。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。

標準学修時間の目安

1回の講義あたり予習・復習を含めて4時間の学修が必要である。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。

使用教科書

	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	受講科目シラバスに従う	－	－	－
2				
3				

使用教科書備考

各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。

参考書・参考資料等

各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。

実務経験のある教員の略歴と教育内容

受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う。

その他

履修には、本学教務課にて単位互換システムによる履修手続きが必要となる。本学での授業日程が最優先となるため、受講には、単位互換科目を開講している高等教育機関までの往復の時間等を考慮すること。

授業計画

第 1回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第 2回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第 3回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第 4回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第 5回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第 6回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第 7回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第 8回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第 9回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第10回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第11回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第12回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第13回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第14回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第15回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う

成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（%）	0	0	0	100	0	100

成績評価の基準（ルーブリック）

到達度	秀逸	優秀	良好	最低限
授業の到達目標に対する到達度の目安	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標を十分に理解し、その内容を超越するとともに、学びの内容を他者に正確に説明できる。	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標を理解し、その内容に到達するとともに、学びの内容を他者に説明できる。	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標をおおよそ理解し、その内容にある程度(4/5程度)到達するとともに、学びの内容をある程度、他者に説明できる。	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標を最低限理解し、その内容に最低限(3/5程度)到達するとともに、学びの内容を断片的ではあるが、他者に説明できる。
該当DPに対する到達度の目安	各高等教育機関での授業において、積極的にコミュニケーションを図り、多くの知識と技能を身に付ける。他者と協働して課題を解決し、学んだ知識と技能を生かして適切に情報を発信できる。	各高等教育機関での授業において、コミュニケーションを図り、知識と技能を身に付ける。他者と協働して課題を解決し、学んだ知識と技能を生かして情報を発信できる。	各高等教育機関での授業において、ある程度コミュニケーションを図り、ある程度の知識と技能を身に付ける。他者と協働して課題を解決し、学んだ知識と技能を生かして断片的ではあるが、情報を発信できる。	各高等教育機関での授業において、最低限のコミュニケーションを図り、知識と技能を最低限身に付ける。学んだ知識と技能を生かして他者と協働して課題を解決できる。

年度	2019	学科	保育学科	ナンバリング科目コード	30181	ICT活用	―
授業科目名	コンソーシアム基礎教養Ⅳ					実務教員	―
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	２年	期間	その他	必修区分			
授業形態	その他	単位数	1	担当形態	－		
教員	保育学科教員						
該当ディプロマ・ポリシー ＤＰ項目番号	DP8 知識・技能(DP1～3)、思考力・判断力・表現力(DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力(DP7～9)						

授業のテーマ及び到達目標

各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された到達目標を確認すること。

授業の概要

当該科目は、毎年度（前期・後期）、キャンパス・コンソーシアム函館が提供する単位互換科目である。キャンパス・コンソーシアム函館のホームページで単位互換対象科目を確認することができる。受講を希望する場合、各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された授業目標を確認すること。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。

標準学修時間の目安

1回の講義あたり予習・復習を含めて2時間の学修が必要である。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。

使用教科書

	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	受講科目シラバスに従う	－	－	－
2				
3				

使用教科書備考

各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。

参考書・参考資料等

各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。

実務経験のある教員の略歴と教育内容

受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う。

その他

履修には、本学教務課にて単位互換システムによる履修手続きが必要となる。本学での授業日程が最優先となるため、受講には、単位互換科目を開講している高等教育機関までの往復の時間等を考慮すること。

授業計画

第 1回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第 2回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第 3回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第 4回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第 5回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第 6回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第 7回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第 8回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第 9回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第10回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第11回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第12回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第13回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第14回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第15回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う

成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（%）	0	0	0	100	0	100

成績評価の基準（ルーブリック）

到達度	秀逸	優秀	良好	最低限
授業の到達目標に対する到達度の目安	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標を十分に理解し、その内容を超越するとともに、学びの内容を他者に正確に説明できる。	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標を理解し、その内容に到達するとともに、学びの内容を他者に説明できる。	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標をおおよそ理解し、その内容にある程度(4/5程度)到達するとともに、学びの内容をある程度、他者に説明できる。	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標を最低限理解し、その内容に最低限(3/5程度)到達するとともに、学びの内容を断片的ではあるが、他者に説明できる。
該当DPに対する到達度の目安	各高等教育機関での授業において、積極的にコミュニケーションを図り、多くの知識と技能を身に付ける。他者と協働して課題を解決し、学んだ知識と技能を生かして適切に情報を発信できる。	各高等教育機関での授業において、コミュニケーションを図り、知識と技能を身に付ける。他者と協働して課題を解決し、学んだ知識と技能を生かして情報を発信できる。	各高等教育機関での授業において、ある程度コミュニケーションを図り、ある程度の知識と技能を身に付ける。他者と協働して課題を解決し、学んだ知識と技能を生かして断片的ではあるが、情報を発信できる。	各高等教育機関での授業において、最低限のコミュニケーションを図り、知識と技能を最低限身に付ける。学んだ知識と技能を生かして他者と協働して課題を解決できる。

年度	2019	学科	保育学科	ナンバリング科目コード	30190	ICT活用	―
授業科目名	コンソーシアム函館教養Ⅳ					実務教員	―
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	２年	期間	その他	必修区分			
授業形態	その他	単位数	2	担当形態	－		
教員	保育学科教員						
該当ディプロマ・ポリシー ＤＰ項目番号	DP8 知識・技能(DP1～3)、思考力・判断力・表現力(DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力(DP7～9)						

授業のテーマ及び到達目標

各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された到達目標を確認すること。

授業の概要

毎年度（前期・後期）、キャンパス・コンソーシアム函館が提供する単位互換科目の中で、函館地域に関連が深い科目を当該科目として設定する。キャンパス・コンソーシアム函館のホームページで単位互換対象科目を確認することができる。受講を希望する場合、各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された授業目標を確認すること。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。

標準学修時間の目安

1回の講義あたり予習・復習を含めて4時間の学修が必要である。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。

使用教科書

	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	受講科目シラバスに従う	－	－	－
2				
3				

使用教科書備考

各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。

参考書・参考資料等

各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。

実務経験のある教員の略歴と教育内容

受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う。

その他

毎年度（前期・後期）、キャンパス・コンソーシアム函館が提供する単位互換科目の中で、函館地域に関連が深い科目を当該科目として設定する。履修には、本学教務課にて単位互換システムによる履修手続きが必要となる。本学での授業日程が最優先となるため、受講には、単位互換科目を開講している高等教育機関までの往復の時間等を考慮すること。

授業計画

第 1回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第 2回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第 3回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第 4回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第 5回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第 6回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第 7回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第 8回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第 9回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第10回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第11回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第12回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第13回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第14回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第15回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う

成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（%）	0	0	0	100	0	100

成績評価の基準（ルーブリック）

到達度	秀逸	優秀	良好	最低限
授業の到達目標に対する到達度の目安	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標を十分に理解し、その内容を超越するとともに、学びの内容を他者に正確に説明できる。	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標を理解し、その内容に到達するとともに、学びの内容を他者に説明できる。	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標をおおよそ理解し、その内容にある程度(4/5程度)到達するとともに、学びの内容をある程度、他者に説明できる。	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標を最低限理解し、その内容に最低限(3/5程度)到達するとともに、学びの内容を断片的ではあるが、他者に説明できる。
該当DPに対する到達度の目安	各高等教育機関での授業において、積極的にコミュニケーションを図り、多くの知識と技能を身に付ける。他者と協働して課題を解決し、学んだ知識と技能を生かして適切に情報を発信できる。	各高等教育機関での授業において、コミュニケーションを図り、知識と技能を身に付ける。他者と協働して課題を解決し、学んだ知識と技能を生かして情報を発信できる。	各高等教育機関での授業において、ある程度コミュニケーションを図り、ある程度の知識と技能を身に付ける。他者と協働して課題を解決し、学んだ知識と技能を生かして断片的ではあるが、情報を発信できる。	各高等教育機関での授業において、最低限のコミュニケーションを図り、知識と技能を最低限身に付ける。学んだ知識と技能を生かして他者と協働して課題を解決できる。

年度	2019	学科	保育学科	ナンバリング科目コード	30191	ICT活用	―
授業科目名	コンソーシアム函館教養Ⅴ					実務教員	―
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	２年	期間	その他	必修区分			
授業形態	その他	単位数	2	担当形態	－		
教員	保育学科教員						
該当ディプロマ・ポリシー ＤＰ項目番号	DP8 知識・技能(DP1～3)、思考力・判断力・表現力(DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力(DP7～9)						

授業のテーマ及び到達目標

各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された到達目標を確認すること。

授業の概要

毎年度（前期・後期）、キャンパス・コンソーシアム函館が提供する単位互換科目の中で、函館地域に関連が深い科目を当該科目として設定する。キャンパス・コンソーシアム函館のホームページで単位互換対象科目を確認することができる。受講を希望する場合、各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された授業目標を確認すること。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。

標準学修時間の目安

1回の講義あたり予習・復習を含めて4時間の学修が必要である。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。

使用教科書

	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	受講科目シラバスに従う	－	－	－
2				
3				

使用教科書備考

各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。

参考書・参考資料等

各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。

実務経験のある教員の略歴と教育内容

受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う。

その他

毎年度（前期・後期）、キャンパス・コンソーシアム函館が提供する単位互換科目の中で、函館地域に関連が深い科目を当該科目として設定する。履修には、本学教務課にて単位互換システムによる履修手続きが必要となる。本学での授業日程が最優先となるため、受講には、単位互換科目を開講している高等教育機関までの往復の時間等を考慮すること。

授業計画

第 1回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第 2回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第 3回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第 4回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第 5回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第 6回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第 7回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第 8回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第 9回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第10回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第11回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第12回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第13回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第14回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第15回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う

成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（%）	0	0	0	100	0	100

成績評価の基準（ルーブリック）

到達度	秀逸	優秀	良好	最低限
授業の到達目標に対する到達度の目安	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標を十分に理解し、その内容を超越するとともに、学びの内容を他者に正確に説明できる。	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標を理解し、その内容に到達するとともに、学びの内容を他者に説明できる。	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標をおおよそ理解し、その内容にある程度(4/5程度)到達するとともに、学びの内容をある程度、他者に説明できる。	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標を最低限理解し、その内容に最低限(3/5程度)到達するとともに、学びの内容を断片的ではあるが、他者に説明できる。
該当DPに対する到達度の目安	各高等教育機関での授業において、積極的にコミュニケーションを図り、多くの知識と技能を身に付ける。他者と協働して課題を解決し、学んだ知識と技能を生かして適切に情報を発信できる。	各高等教育機関での授業において、コミュニケーションを図り、知識と技能を身に付ける。他者と協働して課題を解決し、学んだ知識と技能を生かして情報を発信できる。	各高等教育機関での授業において、ある程度コミュニケーションを図り、ある程度の知識と技能を身に付ける。他者と協働して課題を解決し、学んだ知識と技能を生かして断片的ではあるが、情報を発信できる。	各高等教育機関での授業において、最低限のコミュニケーションを図り、知識と技能を最低限身に付ける。学んだ知識と技能を生かして他者と協働して課題を解決できる。

年度	2019	学科	保育学科	ナンバリング科目コード	30192	ICT活用	―
授業科目名	コンソーシアム函館教養VI					実務教員	―
科目	基礎教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	２年	期間	その他	必修区分			
授業形態	その他	単位数	1	担当形態	-		
教員	保育学科教員						
該当ディプロマ・ポリシー ＤＰ項目番号	DP8 知識・技能(DP1～3)、思考力・判断力・表現力(DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力(DP7～9)						

授業のテーマ及び到達目標

各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された到達目標を確認すること。

授業の概要

毎年度（前期・後期）、キャンパス・コンソーシアム函館が提供する単位互換科目の中で、函館地域に関連が深い科目を当該科目として設定する。キャンパス・コンソーシアム函館のホームページで単位互換対象科目を確認することができる。受講を希望する場合、各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された授業目標を確認すること。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。

標準学修時間の目安

1回の講義あたり予習・復習を含めて2時間の学修が必要である。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。

使用教科書

	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	受講科目シラバスに従う	-	-	-
2				
3				

使用教科書備考

各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。

参考書・参考資料等

各科目の内容は、各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従うので、そこに記載された内容を確認すること。

実務経験のある教員の略歴と教育内容

受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う。

その他

毎年度（前期・後期）、キャンパス・コンソーシアム函館が提供する単位互換科目の中で、函館地域に関連が深い科目を当該科目として設定する。履修には、本学教務課にて単位互換システムによる履修手続きが必要となる。本学での授業日程が最優先となるため、受講には、単位互換科目を開講している高等教育機関までの往復の時間等を考慮すること。

授業計画

第 1回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第 2回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第 3回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第 4回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第 5回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第 6回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第 7回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第 8回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第 9回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第10回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第11回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第12回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第13回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第14回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う
第15回　受講科目を提供する高等教育機関のシラバスに従う

成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（%）	0	0	0	100	0	100

成績評価の基準（ルーブリック）

到達度	秀逸	優秀	良好	最低限
授業の到達目標に対する到達度の目安	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標を十分に理解し、その内容を超越するとともに、学びの内容を他者に正確に説明できる。	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標を理解し、その内容に到達するとともに、学びの内容を他者に説明できる。	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標をおおよそ理解し、その内容にある程度(4/5程度)到達するとともに、学びの内容をある程度、他者に説明できる。	各高等教育機関のホームページ等で公表されるシラバスに従う科目であるため、そこに記載された到達目標を最低限理解し、その内容に最低限(3/5程度)到達するとともに、学びの内容を断片的ではあるが、他者に説明できる。
該当DPに対する到達度の目安	各高等教育機関での授業において、積極的にコミュニケーションを図り、多くの知識と技能を身に付ける。他者と協働して課題を解決し、学んだ知識と技能を生かして適切に情報を発信できる。	各高等教育機関での授業において、コミュニケーションを図り、知識と技能を身に付ける。他者と協働して課題を解決し、学んだ知識と技能を生かして情報を発信できる。	各高等教育機関での授業において、ある程度コミュニケーションを図り、ある程度の知識と技能を身に付ける。他者と協働して課題を解決し、学んだ知識と技能を生かして断片的ではあるが、情報を発信できる。	各高等教育機関での授業において、最低限のコミュニケーションを図り、知識と技能を最低限身に付ける。学んだ知識と技能を生かして他者と協働して課題を解決できる。

【 専門教育科目 】

１年次配当科目

保育原理 …… 74
教育原理 …… 76
子ども家庭福祉 …… 78
社会福祉 …… 80
子ども家庭支援論 …… 82
社会的養護Ⅰ …… 84
教職概論 …… 86
教育心理学 …… 88
子どもの保健 …… 90
食育の基礎知識 …… 92
保育内容総論 …… 94
健康 …… 96
人間関係 …… 98
環境 …… 100
言葉 …… 102
表現 …… 104
保育内容（健康）指導法 … 106
保育内容（人間関係）指導法 108
保育内容（環境）指導法 … 110
保育内容（言葉）指導法 … 112
保育内容（表現）指導法 … 114
乳児保育Ⅰ …… 116
乳児保育Ⅱ …… 118
子どもの健康と安全 …… 120
コミュニケーション・スキルⅠ 122
保育実習指導Ⅰ …… 124

２年次配当科目

保育現場の幼児教育 …… 126
子ども家庭支援の心理学 … 128
幼児理解 …… 130
子どもの食と栄養 …… 132
子どもの医療 …… 134
教育課程総論 …… 136
総合表現指導法 …… 138
特別支援教育 …… 140
社会的養護Ⅱ …… 142
教育相談 …… 144
コミュニケーション・スキルⅡ 146
子どもの生活や遊びＡ …… 148
子どもの生活や遊びＢ …… 150
子どもの生活や遊びＣ …… 152
保育の記録と伝え合い …… 154
保育実習Ⅰ …… 156
保育実習Ⅱ …… 158
保育実習Ⅲ …… 160
保育実習指導Ⅱ …… 162
保育実習指導Ⅲ …… 164
教育経営論 …… 166
教育の方法と技術 …… 168
幼稚園教育実習事前指導 … 170
幼稚園教育実習事後指導 … 172
幼稚園教育実習 …… 174
保育・教職実践演習 …… 176
レクリエーション指導法 … 178
レクリエーション現場実習 180

年度	2019	学科	保育学科	ナンバリング科目コード	31110	ICT活用	―
授業科目名	保育原理					実務教員	○
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	1年	期間	前期	必修区分	保主		
授業形態	講義	単位数	2	担当形態	単独		
教員	岡﨑　圭子						
該当ディプロマ・ポリシー ＤＰ項目番号	DP1,2,3,4,5,7 知識・技能(DP1～3)、思考力・判断力・表現力(DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力(DP7～9)						

授業のテーマ及び到達目標

保育所、幼稚園、認定こども園、学童保育等の保育施設における保育実践のあり方と理論を探求し、「保育」の基本を包括的に理解することを目的とする。
1. 保育の意義及び目的について説明できる
2. 保育に関する法令及び制度について説明できる
3. 保育所保育指針における保育の基本について説明できる
4. 保育の思想と歴史的変遷について説明できる
5. 保育の現状と課題について説明できる

授業の概要

本講義では、保育所保育指針における保育の原理原則を基本とし、保育の内容と方法、保育の思想と歴史的変遷、保育の現状と課題等について理解することとする。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

授業は配布プリントで行う。保育所保育指針の学習に際しては、保育指針、教科書を事前に読んでおくこと。

標準学修時間の目安

1回の講義あたり予習・復習を含めて4時間の学修が望ましい。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

授業のなかで実施する確認テストや課題レポートについては、提出後、回答内容をチェックし返却する。

使用教科書

	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	保育所保育指針ハンドブック	汐見稔幸（監修）	学研教育みらい	978-4-0580-0809-6
2				
3				

使用教科書備考

保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

参考書・参考資料等

なし

実務経験のある教員の略歴と教育内容

社会福祉、子どもの育ちと子育て支援分野に関する行政職の経験を生かし授業を行っていきたい。

その他

なし

授業計画

第 1回　保育の理念と概念
第 2回　子どもの最善の利益と保育
第 3回　子ども家庭福祉と保育
第 4回　保育の社会的役割と責任
第 5回　子ども家庭福祉の法体系における保育の位置づけと関係法令
第 6回　子ども・子育て支援新制度
第 7回　保育の実施体系
第 8回　保育所保育指針における保育の基本
第 9回　保育所保育に関する基本原則
第10回　保育における養護
第11回　保育の目標・内容
第12回　保育の環境・方法
第13回　子どもの理解に基づく保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）とその循環
第14回　保育の思想と歴史的変遷(諸外国の保育の思想と歴史、日本の保育の思想と歴史)
第15回　保育の現状と課題(諸外国の保育の現状、日本の保育の現状と課題)

【学生に対する評価】
・学期末にノート提出と課題に取り組んでもらい、総合的に評価する。

成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（%）	40	5	40	0	15	100

成績評価の基準（ルーブリック）

到達度	秀逸	優秀	良好	最低限
授業の到達目標に対する到達度の目安	保育所保育指針の基本原則や歴史的変遷など保育の基本事項を理解し、他者に適切に説明できるとともに、新たな課題への対処を検討できる。	保育所保育指針の基本原則や歴史的変遷など保育の基本事項を理解し、他者に適切に説明できる。	保育所保育指針の基本原則や歴史的変遷など保育の基本事項を理解している。	保育所保育指針の基本原則や歴史的変遷など保育の基本事項について、断片的にしか理解していない。
該当DPに対する到達度の目安	保育者の倫理観や社会的役割、保育の基本事項を理解し、身に付けた知識をもって保育への反映が見込めるとともに新たな課題を発見し解決への的確なプロセスを組み立てを検討できる。	保育者の倫理観や社会的役割、保育の基本事項を理解し、身に付けた知識をもって保育への反映が見込めるとともに、新たな課題を発見し解決へのプロセスを組み立てる努力ができる。	保育者の倫理観や社会的役割，保育の基本事項を理解し、身に付けた知識をもって、保育への反映が見込める。	保育者の倫理観や社会的役割、保育の基本事項の理解が断片的であるため、身に付けた知識による保育への反映が十分とは言えない。

年度	2019	学科	保育学科	ナンバリング科目コード	31130	ICT活用	―
授業科目名	教育原理					実務教員	―
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等	教育の基礎的理解に関する科目						
配当年次	1年	期間	前期	必修区分	卒保幼主		
授業形態	講義	単位数	2	担当形態	単独		
教員	榊　ひとみ						
該当ディプロマ・ポリシー ＤＰ項目番号	DP1,3,6,7 知識・技能(DP1～3)、思考力・判断力・表現力(DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力(DP7～9)						

授業のテーマ及び到達目標

本授業のテーマは、教育の基本的概念を学び、歴史的な視点から教育の理念を捉え、教育観、教育制度の変遷を理解することです。到達目標は以下の５つです。
1. 教育の意義、目的及び教育を成立させる諸要因と諸関係、教育と子ども家庭福祉との関わりについて説明できる。
2. 教育思想の歴史的変遷について学び、教育に関する基礎的な理論について論述できる。
3. 教育制度の歴史的変遷について説明することができる。
　すなわち、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを理解できる。
4. さまざまな教育実践について論述できる。
5. 現代社会における教育の現状と課題を歴史的な視点から論述できる。

授業の概要

本授業では、まず、「教育とは何か」「人間にとってなぜ教育は必要なのか」といった教育の基本的概念、教育の本質について検討していきます。その上で、教育に関する歴史、教育に関する思想についての理解を深めていきます。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

授業が始まる前に必ず、学習用のノートを準備しておいて下さい。
予習は、授業日までに教科書該当ページを読み、質問や感想、自分のなりの考えをノートに整理して下さい。復習は、学習した内容をノートに分かりやすく整理しておいて下さい。

標準学修時間の目安

1回の講義あたり、2時間の予習と2時間の復習が必要です。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

定期試験後（追・再試験対象者発表日）に模範解答を掲示します。

使用教科書

	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	教育原理	矢藤誠慈郎・北野幸子編	中央法規出版	978-4-8058-5782-3
2				
3				

使用教科書備考

新基本保育シリーズ②　教育原理

参考書・参考資料等

幼稚園指導要領、保育所保育指針、幼稚連携型認定こども園教育・保育要領、その他に授業中に適宜資料を配布する。

実務経験のある教員の略歴と教育内容

実務経験のある教員に該当しない。

その他

教科書の内容理解を深め、論点を整理するために、毎時レジュメを配布します。
※毎回の授業の流れは、①教科書の論点整理（講義）⇒②論点に関する議論（グループワーク）⇒③議論の共有と「学習のまとめシート」への記入（授業のふり返り）を基本とします。

授業計画

第 1回　教育の意義　―　教育の基本的概念の理解（教育学の諸概念の理解）
第 2回　教育の目的　―　教育の本質及び目的の理解
第 3回　教育を成立させる学校・家庭・地域の相互関係　―　教育と子ども家庭福祉の関連性（子供・教員・家庭・学校を中心に）
第 4回　人間形成と家庭・地域社会　―　乳幼児期の教育の特質をふまえて
第 5回　諸外国の教育思想の系譜　―　代表的な教育家の思想を紐解く
第 6回　諸外国の教育の歴史　―　家族と社会による教育の歴史を中心に
第 7回　日本の教育の思想と歴史的変遷　―　家族と社会による教育の歴史を中心に
第 8回　諸外国における子ども観と教育観の変遷　―　家庭や子供に関わる教育の思想の理解
第 9回　諸外国の教育制度の展開過程　―　近代教育制度の成立と展開を中心に
第10回　わが国の教育制度の展開過程　―　近代教育制度の成立と展開を中心に
第11回　わが国の現在の教育に関する法律と行政制度
第12回　現代社会における諸外国の教育制度
第13回　さまざまな教育実践　―　諸外国の教育実践（内容・方法・計画と評価）に学ぶ、教育実践の多様な取り組み
第14回　生涯学習社会と教育の現状と課題　―　学校や学習に関わる教育の思想及び理論を中心に
第15回　現代社会における教育課題　―　歴史的な視点から理解を深める
定期試験

【学生に対する評価】
授業への積極性(10%）、毎授業後の「学習のまとめシート」への記入状況（10%）、ノート提出（40%）、定期試験（40%）

成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（%）	40	0	40	10	10	100

成績評価の基準（ルーブリック）

到達度	秀逸	優秀	良好	最低限
授業の到達目標に対する到達度の目安	教育の基本的概念、歴史的な視点からの教育理念、教育観、教育制度の変遷について構造的に理解し、他者にわかりやすく、詳細かつ正確に説明できるすることができる。	教育の基本的概念、歴史的な視点からの教育理念、教育観、教育制度の変遷について理解し、他者に正確に説明できるすることができる。	教育の基本的概念、歴史的な視点からの教育理念、教育観、教育制度の変遷について理解している。	教育の基本的概念、歴史的な視点からの教育理念、教育観、教育制度の変遷について部分的な理解にとどまっている。
該当DPに対する到達度の目安	保育者の社会的使命を理解し、保育と子育て支援に必要な専門的知識と技術及び倫理観を有し、その知識や技術を他者にわかりやすく伝えることができ、尚且つ自らが学び続けることで、地域社会に貢献しようとする姿勢を身に付けている。	保育者の社会的使命を理解し、保育と子育て支援に必要な専門的知識と技術及び倫理観を有し、その知識や技術を他者に発信することができ、自らが学び続けようと努力している。	保育者の社会的使命を理解し、保育と子育て支援に必要な知識と技術及び倫理観を身に付けている。	必要最低限、保育者の社会的使命を理解し保育と子育て支援に必要な知識と技術及び倫理観を保持しているが、それらは自己成長と地域社会への貢献に関連づけられて理解されていない。

年度	2019	学科	保育学科	ナンバリング科目コード	31240	ICT活用	―
授業科目名	子ども家庭福祉					実務教員	○
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	1年	期間	後期	必修区分	保ソ主		
授業形態	講義	単位数	2	担当形態	単独		
教員	岡崎　圭子						
該当ディプロマ・ポリシー ＤＰ項目番号	DP1,2,3,4,7 知識・技能(DP1～3)、思考力・判断力・表現力(DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力(DP7～9)						

授業のテーマ及び到達目標

子どもや家庭を取り巻く社会情勢と実態を踏まえ、課題を把握し、子どもの育ちと子育て家庭の支援のあり方を学ぶ。
1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について説明できる
2. 子どもの人権擁護について説明できる
3. 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について説明できる
4. 子どもの家庭福祉と現状と課題について説明できる
5. 子ども家庭福祉の動向と展望について説明できる

授業の概要

本講義では、現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷、子どもの人権擁護、子ども家庭福祉の制度や現状と課題について学ぶ。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

授業は配付プリントで行うので，配付プリントで復習をすること。子どもや子育て家庭に関する新聞やニュースに目を通すこと。

標準学修時間の目安

1回の講義あたり予習・復習を含めて4時間の学修が望ましい。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

授業のなかで実施する確認テストや課題レポートについては，提出後，回答内容をチェックし返却する。

使用教科書

	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	なし	なし	なし	なし
2				
3				

使用教科書備考

必要に応じてプリントを配布する。

参考書・参考資料等

子ども家庭福祉　　伊藤嘉余子、澁谷昌史　　ミネルヴァ書房

実務経験のある教員の略歴と教育内容

社会福祉，子どもの育ちと子育て支援分野に関する行政職の経験を生かし授業を行っていきたい。

その他

なし

授業計画

第 1回　子ども家庭福祉の理念と概念
第 2回　子ども家庭福祉の歴史的変遷
第 3回　子ども家庭福祉の歴史的変遷
第 4回　子どもの人権擁護の歴史的変遷
第 5回　児童の権利に関する条約
第 6回　子どもの人権擁護と現代社会における課題
第 7回　子ども家庭福祉の制度と法体系
第 8回　子ども家庭福祉の実施体系
第 9回　児童福祉施設
第10回　子ども家庭福祉の専門職
第11回　少子化と地域子育て支援
第12回　母子保健と子どもの健全育成
第13回　多様な保育ニーズへの対応
第14回　子ども虐待・DV(ドメスティツクバイオレンス)とその防止、社会的養護、障害のある子どもへの対応、少年非行等への対応
第15回　貧困家庭、外国籍の子どもとその過程への対応、次世代育成支援と子ども家庭福祉への対応、地域における連携・協働ネットワーク、諸外国の動向

【学生に対する評価】
・定期試験、ミニレポートを、総合的に評価する。

成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（%）	40	5	40	0	15	100

成績評価の基準（ルーブリック）

到達度	秀逸	優秀	良好	最低限
授業の到達目標に対する到達度の目安	子どもや子育て家庭を取り巻く課題や支援のあり方などの基本事項を理解し，他者に適切に説明できるとともに，新たな課題への対処を検討できる。	子どもや子育て家庭を取り巻く課題や支援のあり方などの基本事項を理解し，他者に適切に説明できる。	子どもや子育て家庭を取り巻く課題や支援のあり方などの基本事項を理解している。	子どもや子育て家庭を取り巻く課題や支援のあり方などの基本事項を断片的にしか理解していない。
該当DPに対する到達度の目安	子どもや子育て家庭に対する支援のあり方などの基本事項を理解し，身に付けた知識をもって実際の支援が見込めるとともに，新たな課題を発見し解決への的確なプロセスを組み立てを検討できる。	子どもや子育て家庭に対する支援のあり方などの基本事項を理解し，身に付けた知識をもって実際の支援が見込めるとともに，新たな課題を発見し解決への的確なプロセスを組み立てる努力ができる。	子どもや子育て家庭に対する支援のあり方などの基本事項を理解し，身に付けた知識をもって実際の支援が見込める。	子どもや子育て家庭に対する支援のあり方などの基本事項の理解が断片的であるため，身に付けた知識による実際の支援が十分には見込めない。

年度	2019	学科	保育学科	ナンバリング科目コード	31140	ICT活用	―
授業科目名	社会福祉					実務教員	○
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	1年	期間	前期	必修区分	保ソ主		
授業形態	講義	単位数	2	担当形態	単独		
教員	岡崎　圭子						
該当ディプロマ・ポリシー ＤＰ項目番号	DP1,2,3,4,7,9 知識・技能(DP1～3)、思考力・判断力・表現力(DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力(DP7～9)						

授業のテーマ及び到達目標

社会福祉は、現代社会に生活する私たちにとってはなくてはならないものです。しかし、その意義や内容等は、必ずしも正しく理解されていません。社会福祉の歴史的な変遷、制度、動向、課題等を学び、社会福祉の現状について理解を深めることを目的とします。
1．現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について論述できる。
2．社会福祉の制度や実施体系等について論述できる。
3．社会福祉における相談援助について論述できる。
4．社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて論述できる。
5．社会福祉の動向と課題について論述できる。

授業の概要

社会福祉の意義と歴史的変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点、社会福祉の制度や実態体系等、社会福祉における相談援助利用者の保護に係る仕組み、そして、社会福祉の動向と課題について理解を深める。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

授業は配付プリントで行うので，配付プリントで復習をすること。社会福祉に関する新聞やニュースに目を通すこと。

標準学修時間の目安

1回の講義あたり予習・復習を含めて4時間の学修が望ましい。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

授業のなかで実施する確認テストや課題レポートについては，提出後，回答内容をチェックし返却する。

使用教科書

	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	なし	なし	なし	なし
2				
3				

使用教科書備考

資料は適宜配布する。

参考書・参考資料等

新保育士養成講座第4巻　社会福祉　新保育士養成講座編纂委員会編　全国社会福祉協議会

実務経験のある教員の略歴と教育内容

社会福祉、子どもの育ちと子育て支援分野に関する行政職の経験を生かし授業を行っていきたい。

その他

なし

授業計画

第 1回　現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷①（社会福祉の理念と概念 ）
第 2回　現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷②（社会福祉の歴史的変遷）
第 3回　現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷③（子ども家庭支援と社会福祉）
第 4回　社会福祉の制度と実施体系①（社会福祉の制度と法体系）
第 5回　社会福祉の制度と実施体系②（社会福祉行財政と実施機関）
第 6回　社会福祉の制度と実施体系③（社会福祉施設と社会福祉の専門職）
第 7回　社会福祉の制度と実施体系④（社会保障及び関連制度の概要）
第 8回　社会福祉における相談援助①（相談援助の理論）
第 9回　社会福祉における相談援助②（相談援助の意義と機能）
第10回　社会福祉における相談援助③（相談援助の対象と過程）
第11回　社会福祉における相談援助④（相談援助の方法と技術）
第12回　社会福祉における利用者の保護に関わる仕組み①（情報提供と第三者評価）
第13回　社会福祉における利用者の保護に関わる仕組み②（利用者の権利擁護と苦情解決）
第14回　社会福祉の動向と課題①（少子高齢化社会における子育て支援、共生社会の実現と障害者施策）
第15回　社会福祉の動向と課題②（在宅福祉・地域福祉の推進、諸外国の動向）
定期試験

【学生に対する評価】
（試験やレポートの評価基準など）
毎時間のミニレポート、課題レポート、受講態度などにより総合的に評価する。

成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（%）	40	5	40	0	15	100

成績評価の基準（ルーブリック）

到達度	秀逸	優秀	良好	最低限
授業の到達目標に対する到達度の目安	社会福祉の歴史、法制度、相談援助などの基本事項を理解し、他者に適切に説明できるとともに、新たな課題への対処を検討できる。	社会福祉の歴史、法制度,相談援助などの基本事項を理解し、他者に適切に説明できる。	社会福祉の歴史、法制度、相談援助などの基本事項を理解している。	社会福祉の歴史、法制度、相談援助などの基本事項を断片的にしか理解していない。
該当DPに対する到達度の目安	社会福祉の基本事項を理解し、身に付けた知識をもって子どもや子育て家庭への支援が見込めるとともに、新たな課題を発見し解決への的確なプロセスを組み立てを検討できる。	社会福祉の基本事項を理解し、身に付けた知識をもって子どもや子育て家庭への支援が見込めるとともに、新たな課題を発見し解決への的確なプロセスを組み立てる努力ができる。	社会福祉の基本事項を理解し、身に付けた知識をもって子どもや子育て家庭への支援が見込めるとともに、新たな課題を発見し解決への的確なプロセスを組み立てる努力ができる。	社会福祉の基本事項の理解が断片的であるため、身に付けた知識による子どもや子育て家庭への支援が十分には見込めない。

年度	2019	学科	保育学科	ナンバリング科目コード	31242	ICT活用	―
授業科目名	子ども家庭支援論					実務教員	―
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	1年	期間	後期	必修区分	保ソ		
授業形態	講義	単位数	2	担当形態	単独		
教員	榊　ひとみ						
該当ディプロマ・ポリシー ＤＰ項目番号	DP1,2,3,4,6,7 知識・技能(DP1～3)、思考力・判断力・表現力(DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力(DP7～9)						

授業のテーマ及び到達目標

この授業では、現代の子育ての実態や家庭の現状を踏まえた家庭支援のあり方を学びます。子供の健やかな成長・発達を守るためには養育の主な担い手である子育て家庭への支援が鍵となります。また、親が主体性をもって子育てに関われるようにするには、どのような支援が必要か検討することを目的とする。
1．子育て家庭に対する支援の意義・目的を説明できる。
2．保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について説明できる。
3．子育て家庭に対する支援の体制について説明できる。
4．子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について説明できる。

授業の概要

現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷、子どもの人権擁護、子ども福祉の制度や実施体系、さらには、子ども家庭福祉の現状と課題、子ども福祉の動向と展望について理解を深める。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

授業が始まる前に必ず、学習用のノートを準備しておいて下さい。
予習は、授業日までに配布資料の当該ページを読み、資料の下調べを行い、質問や感想、自分なりの考えをノートに整理して下さい。
復習は、学習した内容をノートに分かりやすく整理しておいて下さい。また、授業後に学生同士のディスカッション等により、学習した内容をさらに掘り下げてください。

標準学修時間の目安

1回の講義あたり、2時間の予習と2時間の復習が必要です。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

定期試験後（追・再試験対象者発表日）に模範解答を掲示します。

使用教科書

	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	なし	－	－	－
2				
3				

使用教科書備考

資料は適宜配布する。

参考書・参考資料等

なし

実務経験のある教員の略歴と教育内容

実務経験のある教員に該当しない。

その他

配布資料の内容理解を深め、論点を整理するために、毎時レジュメを配布します。
※毎回の授業の流れは、①教科書の論点整理（講義）⇒②視聴覚教材等を用いた授業内容の具体的理解⇒③グループワーク、ディスカッションによる議論の共有⇒④「学習のまとめシート」への記入（授業のふり返り）を基本とします。

授業計画

第 1回　子ども家庭支援の意義と役割①（子ども家庭支援の意義と必要性）
第 2回　子ども家庭支援の意義と役割②（子ども家庭支援の目的と機能）
第 3回　保育士による子ども家庭支援の意義と基本①
（保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義）
第 4回　保育士による子ども家庭支援の意義と基本②（子どもの育ちの喜びの共有）
第 5回　保育士による子ども家庭支援の意義と基本③
（保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援）
第 6回　保育士による子ども家庭支援の意義と基本④（受容的関わり・自己決定の尊重・秘密保持等）
第 7回　保育士による子ども家庭支援の意義と基本⑤（家庭の状況に応じた支援）
第 8回　保育士による子ども家庭支援の意義と基本⑥
（地域の資源の活用と自治体・関係機関等の連携・協力）
第 9回　子育て家庭に対する支援の体制①（子育て家庭の福祉を図るための社会資源）
第10回　子育て家庭に対する支援の体制②（子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進）
第11回　多様な支援の展開と関係機関との連携①（子ども家庭支援の内容と対象）
第12回　多様な支援の展開と関係機関との連携②（保育所等を利用する子どもの家庭への支援
第13回　多様な支援の展開と関係機関との連携③（地域の子育て家庭への支援）
第14回　多様な支援の展開と関係機関との連携④（要保護児童等及びその家庭に対する支援）
第15回　多様な支援の展開と関係機関との連携⑤（子ども家庭支援に対する現状と課題）
定期試験

【学生に対する評価】
（試験やレポートの評価基準など）
授業への積極性（10%）、ノート提出（40%）、定期試験（50%）により評価する。

成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（%）	50	0	40	0	10	100

成績評価の基準（ルーブリック）

到達度	秀逸	優秀	良好	最低限
授業の到達目標に対する到達度の目安	子育て家庭に対する支援の意義と目的、保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義、育て家庭に対する支援の体制、及び子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状・課題について、構造的に理解し、他者にわかりやすく、詳細かつ正確に説明することができる。	子育て家庭に対する支援の意義と目的、保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義、育て家庭に対する支援の体制、及び子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状・課題について、理解し、他者に正確に説明することができる。	子育て家庭に対する支援の意義と目的、保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義、育て家庭に対する支援の体制、及び子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状・課題について、理解している。	子育て家庭に対する支援の意義と目的、保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義、育て家庭に対する支援の体制、及び子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状・課題について、部分的に理解している。
該当DPに対する到達度の目安	保育者の社会的使命を理解し、子育て支援に必要な専門的知識と技術及び高い倫理観を保持し、且つ地域の子育て環境を鋭く分析し、その解決に向けた実践について他者とともに構想できる。また、当該授業で得た知識や技術を他者にわかりやすく伝えることができ、自らが学び続けることで、地域社会に貢献しようとする姿勢を身に付けている。	保育者の社会的使命を理解し、子育て支援に必要な専門的知識と技術及び倫理観を保持し、且つ地域の子育て環境を分析し、その解決に向けた実践について検討できる。また、当該授業で得た知識や技術を他者に発信することができ、自らが学び続けることで、地域社会に貢献しようとする姿勢を身に付けようと努力している。	保育者の社会的使命を理解し、子育て支援に必要な知識と技術及び倫理観を身に付け、地域の特性を把握し保育に反映させて考察することができる。	子育て支援に必要な最低限の知識と技術及び倫理観を保持してはいるが、それらを、地域の特性との関連で考察することはできない。

年度	2019	学科	保育学科	ナンバリング科目コード	31241	ICT活用	―
授業科目名	社会的養護Ⅰ					実務教員	○
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	1年	期間	後期	必修区分	保ソ		
授業形態	講義	単位数	2	担当形態	単独		
教員	家村　昭矩						
該当ディプロマ・ポリシー ＤＰ項目番号	DP2,3,4,7 知識・技能(DP1～3)、思考力・判断力・表現力(DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力(DP7～9)						

授業のテーマ及び到達目標

社会的養護は、大別すると、児童福祉施設における養護(施設養護)と社会的養護を必要とする子どもの養育が委託された家庭(里親または養育家庭)における養護(家庭養護)に分類される。社会的養護を必要としている子どもの置かれている環境と取り組みの現状や課題について学ぶことを目的とする。
1．現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について説明できる。
2．子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について説明できる。
3．社会的養護の制度や実施体系等について説明できる。
4．社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について説明できる。
5．社会的養護の現状と課題について説明できる。

授業の概要

現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷、子どもの人権擁護をふまえた社会的養護の基本、社会的養護の制度や実施体系等、社会的養護の対象や形態、関係する専門職、社会的養護の現状と課題について理解を深める。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

授業前には、あらかじめテキストの当該箇所を読み、関連する事柄につて下調べも行うこと。
授業後には、授業の内容について振り返り、当該箇所のテキストを読み返し、理解を深めること。

標準学修時間の目安

1回の講義あたり、予習・復習を含めて４時間の学修が必要である。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

成績確定後、コメントを付した課題レポートを返却する。

使用教科書

	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	社会的養護・第2版	相澤仁・林浩康	中央法規	978-4-8058-5603-1
2				
3				

使用教科書備考

基本保育シリーズ６　社会的養護第2版

参考書・参考資料等

資料は適宜配布する。

実務経験のある教員の略歴と教育内容

児童自立支援施設（10年間）、児童相談所、心身障害者総合相談所等（22年間）、保育士養成校（短大）教員の勤務経験を活かし、保育士に必要な社会的養護の各種制度やその背景などに関する授業をおこなう。

その他

なし

授業計画

第 1回　現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷①（社会的養護の理念と概念）
第 2回　現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷②（社会的養護の歴史的変遷）
第 3回　社会的養護の基本①（子どもの人権擁護と社会的養護）
第 4回　社会的養護の基本②（社会的養護の基本原則）
第 5回　社会的養護の基本③（社会的養護における保育士等の倫理と責務）
第 6回　社会的養護の制度と実施体系①（社会的養護の制度と法体系）
第 7回　社会的養護の制度と実施体系②（社会的養護の仕組みと実施体系）
第 8回　社会的養護の対象・形態・専門職①（社会的養護の対象）
第 9回　社会的養護の対象・形態・専門職②（家庭養護と施設養護）
第10回　社会的養護の対象・形態・専門職③（社会的養護に関わる専門職）
第11回　社会的養護の現状と課題①（社会的養護に関する社会的状況）
第12回　社会的養護の現状と課題②（施設等の運営管理）
第13回　社会的養護の現状と課題③（被措置児童等の虐待防止）
第14回　社会的養護の現状と課題④（社会的養護と社会福祉）
第15回　全体のまとめ
定期試験

【学生に対する評価】
試験やレポートの評価基準など)
定期試験、課題、受講態度を考慮して総合的に評価する。

成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（%）	—	—	80	—	20	100

成績評価の基準（ルーブリック）

到達度	秀逸	優秀	良好	最低限
授業の到達目標に対する到達度の目安	社会的養護を必要としている子どもの置かれている環境と、児童福祉施設における養護(施設養護)と社会的養護を必要とする子どもの養育が委託された家庭(里親または養育家庭)の現状や課題について十分に理解し、子どもの人権擁護の視点で社会的養護の基本について説明できる。	社会的養護を必要としている子どもの置かれている環境と、児童福祉施設における養護(施設養護)と社会的養護を必要とする子どもの養育が委託された家庭(里親または養育家庭)の現状や課題について理解し、子どもの人権擁護の視点で社会的養護を考えることができる。	社会的養護を必要としている子どもの置かれている環境と、児童福祉施設における養護(施設養護)と社会的養護を必要とする子どもの養育が委託された家庭(里親または養育家庭)の現状について理解している。	社会的養護を必要としている子どもの置かれている環境と児童福祉施設における養護(施設養護)と社会的養護を必要とする子どもの養育が委託された家庭(里親または養育家庭)の現状について不十分ながら把握している。
該当DPに対する到達度の目安	社会的養護を必要としている子どもに対する人権擁護の視点での理解と、課題解決に向けて、高い倫理観を備えた保育士として十分な知識、能力を備え、主体的に取り組むことができる。	社会的養護を必要としている子どもに対する人権擁護の視点での理解と、課題解決に向けて、高い倫理観を備えた保育士として取り組む努力ができる。	社会的養護を必要としている子どもに対する人権擁護の視点での理解と、課題解決に向けて、高い倫理観を備えた保育士として取り組む基礎的な知識を有している。	社会的養護を必要としている子どもに対する人権擁護の視点での理解と、課題解決に向けて、保育士としての高い倫理観や知識を備える努力が必要である。

年度	2019	学科	保育学科	ナンバリング科目コード	31120	ICT活用	―
授業科目名	教職概論					実務教員	―
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等	教育の基礎的理解に関する科目						
配当年次	1年	期間	前期	必修区分	保幼		
授業形態	講義	単位数	2	担当形態	単独		
教員	三橋　功一						
該当ディプロマ・ポリシー ＤＰ項目番号	DP3,7 知識・技能(DP1～3)、思考力・判断力・表現力(DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力(DP7～9)						

授業のテーマ及び到達目標

(1) 教職の意義、教員の役割どのような職業か説明できる。
(2) 教員に求められる専門性・実践的能力，資質・能力，職務内容等について説明できる。
(3) 自らめざす教師・保育士とそのための自己課題について具体的に説明できる。
(4) 教員の資質向上＜成長する教師・学び続ける教師＞，協働，キャリア形成について説明できる。
(5) 教師教員の服務・倫理，および制度的位置づけ等について説明できる。

授業の概要

教員の職務は、人間の心身の発達に直接関わり人格形成に大きな影響を及ぼすもので、高い専門性と実践的指導力が要求される。教職概論は、教師・保育者の職務と備えるべき条件を概括的に取り上げ教職の全体像を把握し、専門職としての基礎を確立するものである。この授業では、公教育の目的、教職の意義、教師・保育者の役割･資質・能力、職務内容、服務など教職等に必要な知識及び技能等に関する学習を通して、教職の魅力や教職への意欲、適性、教員等の資質能力の向上を図る研修などの必要性・重要性について理解を深めることを目標としている。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

授業前に、(1)資料等を読み、重要語・注目語等にマーキングします。(2)重要語・注目語等の語彙・意味を辞書・事典等で調査し、予習ノートに記述します。(3)併せて資料の主張等を整理し概要をまとめるとともに疑問点等をもとに予習ノートに作成し、授業に持参します。授業後に、(4)授業における学びをノートにまとめます。

標準学修時間の目安

1回の講義あたり予習・復習を含めて4時間の学修が必要である。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

定期試験後に再試験対象者にのみ、課題（試験やレポート等）を返却する。

使用教科書

	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	－	－	－	－
2				
3				

使用教科書備考

授業中に適宜資料を配布する。

参考書・参考資料等

新教職概論、赤星晋作(編著)、学文社、
教職概論、佐藤晴雄、学陽書房

実務経験のある教員の略歴と教育内容

実務経験のある教員に該当しない。

その他

・「教室授業の学びと教室外の学びの学習成果」を集成した「学習ポートフォリオ（総合報告書）」を作成してもらい、評価対象とします。
・毎時間授業終了時に、学習の振り返りを記述（「せんせい あのね！」）

授業計画

第 1回　オリエンテーション
第 2回　公教育の目的と教職・保育者の意義・職業的特徴と教職観の変遷、保育者の役割、職務内容、倫理
第 3回　理想の教師・保育士像（専門家への学び）と教員免許法・児童福祉法における規定，資格・要件
第 4回　今日の教師に求められている役割・専門性・実践的指導力・資質能力と専門職として実践的指導力向上の学び
第 5回　幼児への指導及び指導以外の校務を含めた教員の職務内容の全体像、保育士の資質・能力
第 6回　教員･保育者の役割・職務内容・職業的特徴と教員の任用と服務上・身分上の倫理・義務（守秘義務・信用失墜行為等），欠格事由及び身分保障、保育士の制度的位置づけ
第 7回　校内の教職員や多様な専門性を持つ人材と効果的に連携・分担し、チームとして組織的に諸課題への対応
第 8回　保育の専門職間・専門機関そして家庭・保護者との連携・協働
第 9回　発達の気になる子に寄り添う教師・保育者と家庭・保護者との連携・支援
第10回　地域における自治体や関係機関等・家庭との連携・協働・支援における教師・保育者
第11回　教師・保育士の資質・能力向上＜成長する教師・学び続ける教師＞とキャリア形成・研修の制度上の位置づけ・組織的取り組みとリーダーシップ、生涯学び続ける必要性
第12回　養護と教育の一体的展開
第13回　計画に基づく実践と省察・評価と保育の質の向上
第14回　これからの保育と教師・保育者と進路選択・教員採用選考・準備等
第15回　まとめ（振り返り等）

【学生に対する評価】
「教室授業の学びと教室外の学びの学習成果」を集成した「学習ポートフォリオ（総合報告書）」を作成してもらい、評価対象とする

成績評価の方法 (試験項目)	筆記 (定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文 (レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（%）	0	0	90	0	10	100

成績評価の基準（ルーブリック）

到達度	秀逸	優秀	良好	最低限
授業の到達目標に対する到達度の目安	教職の魅力や教職への意欲適性、教員等の資質能力の向上を図る研修などの必要性・重要性について理解し学び続ける保育者として自己学習を進める計画を検討できる。	教職の魅力や教職への意欲適性、教員等の資質能力の向上を図る研修などの必要性・重要性について理解しそれらを他者に伝えることができる。	教職の魅力や教職への意欲適性、教員等の資質能力の向上を図る研修などの必要性・重要性について理解している。	教職の魅力や教職への意欲適性、教員等の資質能力の向上を図る研修などの必要性・重要性について断片的であるが理解している。
該当DPに対する到達度の目安	保育者の社会的使命を理解し、専門的職業人としての高い倫理観を保持し、子どもの成長を促し社会に貢献しようとする。	保育者の社会的使命を理解し、専門的職業人としての高い倫理観を保持し、子どもの成長を促し社会に貢献しようとするとともに他者への情報発信力を身につけている。	保育者の社会的使命を理解し、専門的職業人としての倫理観を身につけ、子どもの成長を促し社会に貢献しようとするとともに情報発信力にむけ努力することができる。	保育者の社会的使命を理解し、専門的職業人としての倫理観を身につけ、子どもの成長を促し社会に貢献しようとするが難しい。

年度	2019	学科	保育学科	ナンバリング科目コード	32110	ICT活用	―
授業科目名	教育心理学					実務教員	―
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等	教育の基礎的理解に関する科目						
配当年次	1年	期間	後期	必修区分	保幼心		
授業形態	講義	単位数	2	担当形態	単独		
教員	赤坂　和哉						
該当ディプロマ・ポリシー ＤＰ項目番号	DP1,5,9 知識・技能(DP1～3)、思考力・判断力・表現力(DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力(DP7～9)						

授業のテーマ及び到達目標

人間の発達と学習諸理論の心理学的ベースと幼稚園教育
1．教育心理学の基礎的な理論や概念を理解し、説明できる。
2．乳幼児期の各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解し、説明できる。
3．教育、保育に関する様々な事象を心理学的な観点から理解できる。
4．学習意欲、動機付け等について臨床例をもとに理解できる。

授業の概要

発達、学習、人格・適応、測定、評価など教育心理学の基礎的な理論を学び、教育に関する様々な事象を心理学的な観点から理解できるようになること、特に乳幼児の心身の発達や学習について理解を深め、教育・保育の実践や支援に必要となる心理学的な基礎を身につけることをめざす。さらに、幼児の心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

・予習や準備学習：図書館にある「教育心理学」という言葉が入っている図書等で、シラバスに示されている各回の内容を一読して、資料の下調べをしておくこと。
・復習：毎回様々な心理学用語が出てくるので、それが何を意味するのか理解し、資料の下調べにて理解を深めること。

標準学修時間の目安

1回の講義につき、2時間の予習と2時間の復習が望ましい。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

定期試験後、追試代わりのレポート対象者のみに問題解答用紙を返却する。
尚、解答は研究室前の掲示板に掲示する。

使用教科書

	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	なし	―	―	―
2				
3				

使用教科書備考

授業中に適宜資料を配布する。

参考書・参考資料等

服部環・外山美樹『スタンダード教育心理学』（サイエンス社、2015年）
古川聡『教育心理学をきわめる10のチカラ』（福村出版、2018年）

実務経験のある教員の略歴と教育内容

実務経験のある教員に該当しない。

その他

・中間試験は口述試験に類する形で実施予定。
・授業の進行状況に応じて、グループディスカッションやグループワークを行う。

授業計画

第 1回　オリエンテーション（教育心理学とは何か）、子どもの発達を理解することの意義、発達の概念、教育における発達理解の意義
第 2回　発達①（遺伝と環境、発達の原理、諸理論、外的及び内的要因の相互作用）、子どもの発達と環境
第 3回　発達②（乳幼児期から児童期の運動発達・言語発達・認知発達･社会性の発達とその具体的内容）、乳幼児期の学びに関わる理論
第 4回　発達③（思春期から青年期の運動発達・言語発達・認知発達･社会性の発達とその具体的内容）
第 5回　発達④（子どもの発達に関する代表的理論と発達概念の整理）、発達理論と子ども観・保育観
第 6回　様々な学習の形態・概念とその理論（学習に関する基礎的理解とその過程を説明する代表的理論）
第 7回　記憶
第 8回　動機づけ（主体的学習を支える動機づけと発達の特徴の関連で）
第 9回　言語・社会情動的発達、認知の発達
第10回　知能の発達と個人差
第11回　パーソナリティ、適応
第12回　乳幼児期の学びの過程と特性、乳幼児期の学びを支える保育
第13回　測定・尺度、学習評価（主体的学習を支える学習評価の在り方と発達の特徴との関連で）
第14回　幼稚園、保育園での発達に即した援助の基本と実践的活用（主体的学習を支える集団づくりとの関連で）
第15回　主体的な学習活動を支える指導のあり方―幼児の心身の発達を踏まえて
定期試験

【学生に対する評価】
授業への参加態度（授業内の課題、発言、ノート等）45％、中間試験25％、期末試験30％

成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（％）	30	0	0	25	45	100

成績評価の基準（ルーブリック）

到達度	秀逸	優秀	良好	最低限
授業の到達目標に対する到達度の目安	教育心理学の基礎的な理論や概念を理解すると共に、人間の各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を十分に理解し教育、保育に関する様々な事象を心理学的な観点から説明でき、実践に応用できる。	教育心理学の基礎的な理論や概念を理解すると共に、人間の各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を十分に理解し教育、保育に関する様々な事象を心理学的な観点から説明できる。	教育心理学の基礎的な理論や概念を理解すると共に、人間の各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解し教育、保育に関する様々な事象を心理学的な観点から考えることができる。	教育心理学の基礎的な理論や概念、人間の各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を、言葉の上で理解している。
該当DPに対する到達度の目安	保育と子育て支援に必要な知識と技術を有すると共にその知識と技術を生かして物事を適切に評価でき、様々な場面に応用できる。また、他者への思いやりと柔軟な対応力を身につけている。	保育と子育て支援に必要な知識と技術を有すると共にその知識と技術を生かして物事を適切に評価できる。また、他者への思いやりと柔軟な対応力を身につけている。	保育と子育て支援に必要な知識と技術を有し、その知識と技術を生かして物事を適切に評価する努力をすることができる。また他者への思いやりと柔軟な対応力の重要性を理解している。	保育と子育て支援に必要な最低限の知識と技術を有し物事を適切に評価する努力をすることができる。また他者への思いやりと柔軟な対応力の重要性を理解している。

年度	2019	学科	保育学科	ナンバリング科目コード	32130	ICT活用	―
授業科目名	子どもの保健					実務教員	―
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	1年	期間	前期	必修区分	保		
授業形態	講義	単位数	2	担当形態	単独		
教員	松坂　美奈子						
該当ディプロマ・ポリシー ＤＰ項目番号	DP1,4,5 知識・技能(DP1～3)、思考力・判断力・表現力(DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力(DP7～9)						

授業のテーマ及び到達目標

子どもの心身の健康増進を図る保健活動や身体的な発育・発達と保健について理解する。また、子どもの心身の健康状態の把握の方法について理解し、疾病とその予防法や他職種間の連係・協働の下での適切な対応について理解する。
1．子どもの保健活動の意義を説明し、身体保育、生理・運動・精神機能を理解できる。
2．子どもの精神保健とその問題・課題を理解し説明できる。
3．感染症、予防接種、子どもに多い疾病やその適切な対応を理解し、発表できる。
4．環境及び衛生・安全管理について具体的な説明ができる。
5．子どもの心身の健康及び安全の実施体制について理解できる。

授業の概要

健康の概念を把握し、現代の子どもの健康についての現状や課題を認識し、心身の健全な発達及び健康増進について理解する。さらには子どもの疾病やその予防法についても理解を深めるとともに、他職種間の連携の在り方や協働の下での適切な対応について理解を深める。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

【予習】授業日までに教科書を読み、語句の読み方や意味を調べておく。課題を確実にやる。
【復習】その日のうちに教科書とプリントを見直して、要点を確実に覚える。
【準備学習】乳幼児および健康に関する最新の情報を得るために、日ごろから意識して新聞やニュースを見聞きする。

標準学修時間の目安

1回の講義あたり、予習・復習を含めて4時間の学修が望ましい。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

定期試験後、追・再試験対象者発表日に解答と解説を掲示する。

使用教科書

	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	子どもの保健	巷野悟郎　編	診断と治療社	978-4-7878-2353-3
2	子どもの保健・実習	兼松百合子　他	同文書院	978-4-8103-1424-3
3				

使用教科書備考

資料は適宜配布

参考書・参考資料等

なし

実務経験のある教員の略歴と教育内容

実務経験のある教員に該当しない

その他

・必要に応じてプリントを配布するので、専用ファイルを準備すること。
・課題等の提出は厳守すること。
・グループ学習では、全員が協力すること。

授業計画

第 1回　生命の維持と情緒の安定に係る保健活動の意義と目的
第 2回　健康の概念と健康指標
第 3回　現代社会における子どもの健康に関する現状の把握
第 4回　現代社会における子どもの健康に関する諸課題
第 5回　地域における保健活動と子どもの虐待防止
第 6回　身体発育及び運動機能の発達と保健
第 7回　生理機能の発達と保健
第 8回　健康状態の観察
第 9回　心身の不調等の早期発見
第10回　発育・発達の把握と健康診断
第11回　子どもの健康状態の記録
第12回　子どもの健康状態の伝達と保護者との情報共有
第13回　主な子どもの疾病の特徴
第14回　子どもの疾病の予防
第15回　子どもの疾病に対する適切な対応

【学生に対する評価】
（試験やレポートの評価基準など）
授業態度、レポート、試験

成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（%）	90	0	5	0	5	100

成績評価の基準（ルーブリック）

到達度	秀逸	優秀	良好	最低限
授業の到達目標に対する到達度の目安	子どもの心身の健康に必要な知識（発育・発達、観察のポイント、感染症と予防接種、子どもの疾病、体調不良時の適切な対応等）について理解し、それらを他者に詳細な情報を含めて正確に伝えることができ、予測される問題に適切に対応できる。	子どもの心身の健康に必要な知識（発育・発達、観察のポイント、感染症と予防接種、子どもの疾病、体調不良時の適切な対応等）について理解し、それらを他者に正確に伝えることができる。	子どもの心身の健康に必要な知識（発育・発達、観察のポイント、感染症と予防接種、子どもの疾病、体調不良時の適切な対応等）について、理解している。	子どもの心身の健康に必要な知識（発育・発達、観察のポイント、感染症と予防接種、子どもの疾病、体調不良時の適切な対応等）について、断片的に理解している。
該当DPに対する到達度の目安	子育て支援に必要な子どもの健康と保健の知識を身に付け、それを生かして子どもの成長を促すことができる。また、子育て環境における子どもの健康の課題や問題を的確に認識し、解決に向けて計画的に考え、答えを導き出すとともに、評価できる。	子育て支援に必要な子どもの健康と保健の知識を身に付け、それを生かして子どもの成長を促すことができる。また、子育て環境における子どもの健康の課題や問題を見つけ出し、解決に向けて計画的に考え、答えを導き出すことができる。	子育て支援に必要な子どもの健康と保健の知識を身に付け、それを生かして子どもの成長を促すことができる。また、子育て環境における子どもの健康の課題や問題を見つけ出し解決に向けて考えることができる。	子育て支援に必要な子どもの健康と保健の知識を身に付け、それを生かして子どもの成長を促すことができる。また、子育て環境における子どもの健康の課題や問題を見つけ出すことができる。

年度	2019	学科	保育学科	ナンバリング科目コード	32140	ICT活用	―
授業科目名	食育の基礎知識					実務教員	―
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	1年	期間	前期	必修区分	[保選]食		
授業形態	講義	単位数	2	担当形態	単独		
教員	清水　陽子						
該当ディプロマ・ポリシー ＤＰ項目番号	DP1,4 知識・技能(DP1～3)、思考力・判断力・表現力(DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力(DP7～9)						

授業のテーマ及び到達目標

栄養に関する基本的な知識を習得して、健康維持のために正しい選択力や知識を身に付ける。また、現代の子どもの食事情について現状や課題を理解する。
1 5大栄養素の働きを説明できる。
2 消化・吸収のしくみについて説明できる。
3 食習慣と健康の関係を説明できる。
4 健全な食生活を営むための食に関する正しい選択力や知識を身に付けることができる。
5 食育の必要性を理解し、その取り組みについての考えを持つことができる。

授業の概要

本講義では、保育者として子どもの食生活や栄養について学んだ知識を保育の現場で実践し発展させることができる力を養う。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

事前学習：配布した次回の講義に使用するプリントを予め読んでおく。わからないところは資料の下調べを行い、理解しておくこと。
事後学習：毎回授業の初めに前回行った授業内容について質問をするので、あらかじめ学生同士でディスカッションをして、答えられるようにしておく。

標準学修時間の目安

1回の講義あたり予習・復習を含めて4時間の学修が必要である。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

定期試験後に再試験対象者にのみ、課題（試験やレポート等）を返却する。

使用教科書

	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	なし	－	－	－
2				
3				

使用教科書備考

なし

参考書・参考資料等

心・栄養・食べ方を育む 乳幼児の食行動と食支援　巻野悟郎・向井美恵・今村榮一/監修　医歯薬出版

実務経験のある教員の略歴と教育内容

実務経験のある教員に該当しない。

その他

・必要な資料等は授業時に配布する。
・授業の進行状況に応じて、掲示する問題に関してグループ内でディスカッションを行い、その結果についてプレゼンテーションしてもらう。

授業計画

第 1回　オリエンテーション(授業目標と講義計画の確認、授業の進め方等について)
第 2回　栄養素の基礎知識①(たんぱく質)
第 3回　栄養素の基礎知識②(脂質)
第 4回　栄養素の基礎知識③(炭水化物)
第 5回　栄養素の基礎知識④(ビタミン・ミネラル)
第 6回　消化と吸収のしくみ①(口・胃)
第 7回　消化と吸収のしくみ②(小腸・大腸)
第 8回　食習慣と健康
第 9回　3つのお皿でバランス献立を考える
第10回　おやつのとり方を考えよう
第11回　子どもの食の問題と気になる行動
第12回　食品添加物を考えよう
第13回　季節・郷土とともにある行事食
第14回　地域や家庭と連携した食育の展開
第15回　学びの交流・まとめ

成績評価の方法(試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（%）	60	10	20	0	10	100

成績評価の基準（ルーブリック）

到達度	秀逸	優秀	良好	最低限
授業の到達目標に対する到達度の目安	栄養に関する基本的な知識（5大栄養素の働き、消化・吸収のしくみ等）を理解し、食に関する正しい選択力や知識を身につけるとともに、現代の食育における課題に対して保育者の立場で提案できる。	栄養に関する基本的な知識（5大栄養素の働き、消化・吸収のしくみ等）を理解し、食に関する正しい選択力や知識を身につけ、保育者として食育の必要性を伝えることができる。	栄養に関する基本的な知識（5大栄養素の働き、消化・吸収のしくみ等）を理解している。	栄養に関する基本的な知識（5大栄養素の働き、消化・吸収のしくみ等）を断片的であるが理解している。
該当DPに対する到達度の目安	現代の食育における課題や問題を自ら見つけ出し、身につけた知識で的確に認識して解決に結びつけるとともに、保育者として他者へ発信することができる。	現代の食育における課題や問題と身につけた知識を関連づけることができ、他者への発信、課題解決に向けて努力することができる。	現代の食育における課題や問題と身につけた知識を関連づけることができ、他者への発信ができる。	現代の食育における課題や問題と身につけた知識をある程度、関連づけることができ、他者の協力を得ながら発信することができる。

年度	2019	学科	保育学科	ナンバリング科目コード	33120	ICT活用	―
授業科目名	保育内容総論					実務教員	○
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等	領域及び保育内容の指導法に関する科目						
配当年次	1年	期間	前期	必修区分	保幼		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	単独		
教員	三島　裕一						
該当ディプロマ・ポリシー ＤＰ項目番号	DP1,2,3,5,6,8 知識・技能(DP1～3)、思考力・判断力・表現力(DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力(DP7～9)						

授業のテーマ及び到達目標

幼児教育の環境を構成し実践するために必要な知識を身に付ける。５領域のねらい及び内容とのつながりを確認し、主体的・対話的で深い学びにより、幼児が遊びを通して育つことを理解する。
1. 幼児期の教育における見方・考え方について具体的な事例を挙げて説明できる。
2. 遊びを通しての総合的な指導の意義と教師の役割が説明できる。
3. 幼稚園教育における幼児理解に基づく評価の考え方について説明できる。
4. 幼稚園教育と小学校教育との円滑な接続について説明できる。

授業の概要

本講義では、園生活全体を通して総合的に指導するという指導の考え方を理解し、具体的に幼児の姿と関連づけながら環境を構成し、実践するために必要な知識並びに技能を身に付ける。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

予習：授業に関連する項目について、『保育所保育指針』等を熟読しておくこと
復習：授業で学んだ点、疑問点、自分で調べた事項などをノートに整理しておくこと

標準学修時間の目安

１回の講義あたり0.5時間の予習と1.5時間の復習が必要となる

課題（試験やレポート等）のフィードバック

ノートあるいはレポートの提出後、コメントや評価を付して返却すると共に、模範的なものについては、授業の中で紹介していく

使用教科書

	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	なし	なし	なし	なし
2				
3				

使用教科書備考

使用しない。

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布。
幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領

実務経験のある教員の略歴と教育内容

24年間の国語教師の経験をもとに、『言葉』、『保育内容総論』、『保育内容（言葉）』等の科目や教育実習に向けた読む力、書く力などについて指導を行う。また、12年間の公立小中学校での管理職、8年間の公立幼稚園長職の経験を生かし、『教育経営論』等の科目において、幼稚園等の経営の実際を基に、具体的・実践的な授業を行う

その他

・本科目履修生は、資料を綴るファイルとＢ５版のノートを持参すること
・ノートあるいはレポートなどは点検し、評価する

授業計画

第 1回　要領・指針に基づく保育の基本及び保育の全体構造と保育内容を理解する
第 2回　子どもの発達や生活に即した保育内容の基本的考え方と指導上の留意点、保育内容の歴史的変遷とその社会的背景を理解する
第 3回　子どもの主体性を尊重した保育、環境を通して行う保育、家庭、地域、小学校の教科等のつながりを踏まえた保育について理解する
第 4回　保育の基本を踏まえた、保育内容の展開と5領域のねらい及び内容のつながりについて。養護及び教育が一体的に展開する保育
第 5回　生活や遊びを通しての総合的な指導の意義、個と集団の発達を踏まえた保育、保育者の役割について
第 6回　指導計画の考え方について理解する
第 7回　幼児の具体的な姿から指導計画を作成する手順・配慮点を説明できる
第 8回　指導計画の評価の考え方を説明できる
第 9回　幼児にとっての行事の意味を理解し、園行事のあり方を説明できる
第10回　情報機器及び視聴覚教材を活用し、幼児のあそびを観察し、保育の構想に活用する
第11回　情報機器及び視聴覚教材を活用し、幼児のあそびを観察し、保育の構想に活用する
第12回　指導案の構成を理解し、具体的なテーマをもって指導案を作成し、模擬保育を実践する
第13回　模擬保育とその振り返り、保育の改善の視点を学ぶ
第14回　保育実践の動向を知り、保育を改善する視点を身につける。幼児の見方や受け止め方を知り、幼児理解を深める
第15回　長時間保育、特別な配慮を要する子どもの保育、多文化共生の保育、授業を振り返り、課題の整理とまとめ

【学生に対する評価】
提出した課題・ノートを総合的に評価する

成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（%）	60	0	30	0	10	100

成績評価の基準（ルーブリック）

到達度	秀逸	優秀	良好	最低限
授業の到達目標に対する到達度の目安	保育所保育指針の領域の概念を理解し５領域のねらいと内容の繋がりがわかる。また、幼児教育における見方・考え方が具体的に解り遊びを通した総合的指導の意義と教師の役割も説明できる。さらには、幼児理解に基づく評価の考え方や、幼･保・小の連携の必要性及び具体的方法を理解し、説明できる。	保育所保育指針の領域を理解し、５領域のねらいと内容とのつながりがわかる。また幼児期の教育における見方・考え方を説明し、遊びを通した総合的な指導や教師の役割を理解できる。さらには、幼児理解に基づく評価の考え方について説明したり幼・保・小の連携の考え方や具体的取組みについて理解し説明できる。	保育所保育指針の領域の概念を理解し、５領域のねらいと内容が理解できる。また、幼児期の教育における見方・考え方を理解する。さらには遊びを通した総合的なや教師の役割を理解するとともに評価の考え方を理解し、幼稚園と小学校の接続の必要性や実際的な方法についても理解することができる。	保育所保育指針」の領域の概念や５領域のねらいと内容が理解できる。また、幼児期の教育における見方・考え方が理解できる。さらには、幼稚園における教師の役割を理解するとともに評価の考え方をある程度理解し、幼稚園と小学校の接続の必要性や方法についても概ね理解できる。
該当DPに対する到達度の目安	保育者として社会的使命を十分に理解し、保育の専門知識を獲得した上で遊びを通した総合的な保育、子育て支援を実践できる。また地域の特性を的確に把握し人材、自然、施設を十分に活用したり、家庭や小学校と密に連携を図ると共に他の保育者と協働して充実した保育を進める必要性やその方法が理解できる。	保育者として社会的使命を理解し、保育の専門知識を獲得した上で、遊びを通した総合的な保育、子育て支援を行うことができる。また、地域の特性を的確に把握したり、家庭や異種学校との連携を図りながら、同じ職場の保育者とも協働して保育を進めていくことの必要性や方法を理解することができる。	保育者として概ね社会的使命を理解し、保育の専門知識を生かして遊びを通した総合的な保育、子育て支援を行うことができる。また地域の特性をある程度把握し、家庭や小学校との連携を図りながら、同じ職場の保育者とも協働して保育を進めることの必要性を理解できる。	保育者として社会的使命をある程度理解し、保育の専門知識を獲得した上で、遊びを通した総合的な保育、子育て支援を行うことができる。また、地域の特性の幾つかを把握し、家庭や小学校と連携を図りながら、同じ職場の保育者とも協働して保育を進めることの必要性を理解しようと努力することができる。

年度	2019	学科	保育学科	ナンバリング科目コード	33110	ICT活用	―
授業科目名	健康					実務教員	―
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等	領域及び保育内容の指導法に関する科目						
配当年次	1年	期間	前期	必修区分	保幼		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	単独		
教員	松田　賢一						
該当ディプロマ・ポリシー ＤＰ項目番号	DP1,4 知識・技能(DP1～3)、思考力・判断力・表現力(DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力(DP7～9)						

授業のテーマ及び到達目標

1. 養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に教育・保育を展開していくための知識・技術・判断力を獲得できる。
2. 幼稚園教育要領及び保育所保育指針における乳児保育の3つの視点と1歳以上3歳未満児及び3歳以上児の保育における「健康」の領域から、子どもに対する理解を深め、教育・保育の内容について具体的に理解できる。
3. 教育・保育の内容の視点および「健康」の領域をふまえて子どもが体験していることを捉え、保育者が留意すべき点を理解できる。
4. 子どもの発達過程に即して具体的な教育・保育場面を想定しながら、環境構成、教材や遊具等の活用と工夫、教育・保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）の実際について理解できる。

授業の概要

幼稚園教育要領・保育所保育指針に明記されている各要点から、教育・保育における子どもの生活や遊びを総合的に捉え、教育・保育を展開していくための方法や技術、子どもの実際や状況に即した援助や関わりについて具体的に学ぶ。特に領域「健康」においては、子どもの心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達などの専門的事項についての知識を身に付ける。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

毎回の授業で前回の復習をするので、ノートを確認し、疑問点を整理すること。

標準学修時間の目安

1回の講義当たり予習・復習を含めて2時間の学修が望ましい。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

単元終了毎に課題が出されるので、しっかり取り組むこと。確認後課題については、コメントを付し、担当印を押し学生に返却する。

使用教科書

	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	なし	－	－	－
2				
3				

使用教科書備考

使用しない

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。
幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

実務経験のある教員の略歴と教育内容

実務経験のある教員に該当しない。

その他

・A4のノートを用意してください。
・必要に応じて、授業内で提示した課題について、グループワークを行い、その結果をプレゼンテーションしてもらう。

授業計画

第 1回　「養護」（子どもの生命の保持及び情緒の安定を図るために保育者が行う「養護」）について
第 2回　「教育」（子どもが健やかに成長し、その活動がより豊かに展開されるための発達の援助である「教育」）について
第 3回　乳児保育における3つの視点①「健やかに伸び伸びと育つ」と領域「健康」との関連
第 4回　乳児保育における3つの視点②「身近な人と気持ちが通じ合う」と領域「健康」との関連
第 5回　乳児保育における3つの視点③「身近なものと関わり感性が育つ」と領域「健康」との関連
第 6回　1歳以上3歳未満児の保育～領域「健康」　ねらい（自分から体を動かすことを楽しむ、様々な動き）
第 7回　1歳以上3歳未満児の保育～領域「健康」　内容①（安定感、午睡、休息、全身を使う遊び、様々な食品や調理形態）
第 8回　1歳以上3歳未満児の保育～領域「健康」　内容②（生活リズム、清潔、衣類の着脱、排泄の自立、）
第 9回　1歳以上3歳未満児の保育～領域「健康」　内容の取扱い（体を動かす機会、アレルギー、自分でしようとする気持ち）
第10回　3歳以上児の教育・保育～領域「健康」　概要（経験、考えの自己表現、相手の言葉を聞こうとする意欲や態度、表現力）
第11回　3歳以上児の教育・保育～領域「健康」　ねらい（充実感、進んで運動、見通し、安定感）
第12回　3歳以上児の教育・保育～領域「健康」　内容①（十分に体を動かす、戸外遊び、食べ物への興味関心、生活リズム、清潔）
第13回　3歳以上児の教育・保育～領域「健康」　内容②（見通しをもって行動、病気の予防、食習慣）
第14回　3歳以上児の教育・保育～領域「健康」　内容③（危険な場所、危険な遊び方、災害時の行動）
第15回　3歳以上児の教育・保育～領域「健康」　内容の取扱い（体を動かす楽しさ、意欲、調整、自然・戸外遊び、食育）

【学生に対する評価】
提出した課題・ノートを総合的に評価する。

成績評価の方法(試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（%）	0	0	70	10	20	100

成績評価の基準（ルーブリック）

到達度	秀逸	優秀	良好	最低限
授業の到達目標に対する到達度の目安	養護と教育に関わる保育の内容と保育を展開していく総合的な知識・技術・判断力が獲得でき、領域「健康」の1歳児以上3歳児未満及び3歳児以上の教育・保育を理解し、教育・保育場面を想定した教育・保育の課程を理解できている。	養護と教育に関わる保育の内容と保育を展開していく知識・技術・判断力が獲得でき、領域「健康」の子どもに対する理解を深め、教育・保育場面を想定した教育・保育の課程を理解できている。	養護と教育に関わる保育の内容と保育を展開していく知識・技術・判断力が獲得でき領域「健康」の子どもに対する理解ができる。	養護と教育に関わる保育の内容と保育を展開していく知識・技術・判断力が獲得でき領域「健康」の内容が断片的であるが理解している。
該当DPに対する到達度の目安	養護と教育に関わる保育の内容と保育を展開していく総合的な知識・技術・判断力を総合的に発信できる表現力を身に付けている。	養護と教育に関わる保育の内容と保育を展開していく総合的な知識・技術・判断力を総合的に発信しようと努力することができる。	養護と教育に関わる保育の内容と保育を展開していく総合的な知識・技術・判断力を総合的にある程度発信できる。	養護と教育に関わる保育の内容と保育を展開していく総合的な知識・技術・判断力を総合的に発信することがほとんどできない。

年度	2019	学科	保育学科	ナンバリング科目コード	33111	ICT活用	―
授業科目名	人間関係					実務教員	―
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等	領域及び保育内容の指導法に関する科目						
配当年次	1年	期間	前期	必修区分	保幼		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	単独		
教員	木村　美佐子						
該当ディプロマ・ポリシー ＤＰ項目番号	DP1,4,8 知識・技能(DP1～3)、思考力・判断力・表現力(DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力(DP7～9)						

授業のテーマ及び到達目標

1.養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に教育・保育を展開していくための知識・技術・判断力を獲得できる。2.幼稚園教育要領及び保育所保育指針における乳児保育の3つの視点と1歳以上3歳未満児及び3歳以上児の保育における「人間関係」の領域から、子どもに対する理解を深め、教育・保育の内容について具体的に理解できる。3.教育・保育の内容の視点および「人間関係」の領域をふまえて、子どもが体験していることを捉え、保育者が留意すべき点を理解できる。4.子どもの発達過程に即して具体的な教育・保育場面を想定しながら、環境構成、教材や遊具等の活用と工夫、教育・保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）の実際について理解できる。5.幼児教育の基本を理解し、領域「人間関係」の特質を説明できる。6.幼児の人との関わりに関する現代的課題を説明できる。7.乳幼児期の発達をとらえ、人間関係の広がりとその意義を説明できる。8.自己の人間関係を振り返り、課題を設定できる。

授業の概要

幼稚園教育要領・保育所保育指針に明記されている各要点から、教育・保育における子どもの生活や遊びを総合的に捉え、教育・保育を展開していくための方法や技術、子どもの実際や状況に即した援助や関わりについて具体的に学ぶ。領域「人間関係」の内容を理解した上で、「人間関係」に関する乳幼児の発達や人間関係をめぐる現代的課題について学ぶ。さらにその育ちを支える保育者に求められる子ども理解と、保育の方法について理解を深めることを目標とする。加えて、自己の人間関係を振り返り、自己理解を深め、子どもや保護者と豊かな人間関係を築くことのできる保育者を目指す。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

予習：次回の講義内容を確認し、教科書の該当する章をよく読んでおくこと。
復習：授業の到達目標を確認し、その回の講義内容をプリントやノートにまとめておくこと。

標準学修時間の目安

1回の講義あたり、予習・復習を含めて2時間の学修が望ましい。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

・定期試験後（追・再試対象者発表日）に模範的な解答を掲示する。
・定期試験後に再試対象者にのみ、課題（解答用紙等）を返却する。

使用教科書

	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	実践保育内容シリーズ人間関係	小櫃智子・谷口明子編著	一藝社	9784863591578
2				
3				

使用教科書備考

特になし

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。
幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

実務経験のある教員の略歴と教育内容

実務経験のある教員に該当しない。

その他

特になし

授業計画

第 1回　「養護」（子どもの生命の保持及び情緒の安定を図るために保育者が行う「養護」）について
第 2回　「教育」（子どもが健やかに成長し、その活動がより豊かに展開されるための発達の援助である「教育」）について
第 3回　乳児保育における3つの視点①「健やかに伸び伸びと育つ」と領域「人間関係」との関連
第 4回　乳児保育における3つの視点②「身近な人と気持ちが通じ合う」と領域「人間関係」との関連
第 5回　乳児保育における3つの視点③「身近なものと関わり感性が育つ」と領域「人間関係」との関連
第 6回　1歳以上3歳未満児の保育～領域「人間関係」ねらい（身近な人との関わり、周囲の子どもへの興味関心、きまり）
第 7回　1歳以上3歳未満児の保育～領域「人間関係」内容①（安定した関係の中で共に過ごす心地よさ、受容的・応答的関わり）
第 8回　1歳以上3歳未満児の保育～領域「人間関係」内容②（保育者の仲立ち、きまり、真似、ごっこ遊び）
第 9回　1歳以上3歳未満児の保育～領域「人間関係」内容の取扱い（立ち直る経験、自己と他者との違い、自我の育ち）
第10回　3歳以上児の教育・保育～領域「人間関係」概要とねらい（自立心を育て人と関わる力、充実感、工夫、協力、習慣、態度）
第11回　3歳以上児の教育・保育～領域「人間関係」内容①（自分で考え行動、共感、一緒に活動する楽しさ）
第12回　3歳以上児の教育・保育～領域「人間関係」内容②（共通の目的、協力、工夫、おもいやり、きまりの大切さ）
第13回　3歳以上児の教育・保育～領域「人間関係」内容③（共同の遊具や用具、高齢者をはじめ地域の人々への親しみ）
第14回　3歳以上児の教育・保育～領域「人間関係」内容の取扱い①（達成感、充実感、集団生活の中での自己発揮、協同、道徳性）
第15回　3歳以上児の教育・保育～領域「人間関係」内容の取扱い②（生活習慣、相手を尊重、信頼感、規範意識、人の役に立つ喜び）
定期試験

成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（%）	70	0	20	0	10	100

成績評価の基準（ルーブリック）

到達度	秀逸	優秀	良好	最低限
授業の到達目標に対する到達度の目安	教育・保育の基本を理解し領域「人間関係」の特質を説明できる。乳幼児期の発達をとらえ、人間関係の広がりとその意義を理解し、豊かな人間関係を育む保育を説明できる。さらに子供の人との関わりに関する現代的課題を見極めることができる。自己の人間関係を振り返り、課題を設定できる。	教育・保育の基本を理解し領域「人間関係」の特質を説明できる。乳幼児期の発達をとらえ、人間関係の広がりとその意義を説明できる。さらに子供の人との関わりに関する現代的課題を説明できる。自己の人間関係を振り返り、課題を設定できる。	教育・保育の基本を理解し領域「人間関係」の特質を説明できる。乳幼児期の発達をとらえ、人間関係の広がりとその意義を説明できる。自己の人間関係を振り返り、課題を設定できる。	教育・保育の基本を理解し領域「人間関係」の特質を理解している。自己の人間関係を振り返り、課題を設定できる。
該当DPに対する到達度の目安	子供を取り巻く環境を深く分析して、人との関りに関する課題や問題を見つけ出し、他者と協働してその解決に向けた保育を考えるとともに、自らの保育を的確に評価できる能力を身につけている。	子供を取り巻く環境を深く分析して、人との関りに関する課題や問題を見つけ出し、他者と協働してその解決に向けた保育を考えることができる。	保育・教育に必要な知識を身に付け子供の豊かな人間関係を育むための適切な保育を考えることができる。	保育・教育に必要な知識を身に付け子供の豊かな人間関係を育むための保育を考えることができる。

年度	2019	学科	保育学科	ナンバリング科目コード	33112	ICT活用	―
授業科目名	環境					実務教員	○
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等	領域及び保育内容の指導法に関する科目						
配当年次	1年	期間	前期	必修区分	保幼		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	単独		
教員	松本　啓						
該当ディプロマ・ポリシー ＤＰ項目番号	DP1,4 知識・技能(DP1～3)、思考力・判断力・表現力(DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力(DP7～9)						

授業のテーマ及び到達目標

1．養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に教育・保育を展開していくための知識・技術・判断力を獲得できる。２．幼稚園教育要領及び保育所保育指針における乳児保育の3つの視点と1歳以上3歳未満児及び3歳以上児の保育における「環境」の領域から、子どもに対する理解を深め、教育・保育の内容について具体的に理解できる。３．教育・保育の内容の視点および「環境」の領域をふまえて、子どもが体験していることを捉え、保育者が留意すべき点を理解できる。４．子どもの発達過程に即して具体的な教育・保育場面を想定しながら、環境構成、教材や遊具等の活用と工夫、教育・保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）の実際について理解できる。５．領域「環境」について学び、幼児を取り巻く環境や発達における幼児の環境とのかかわりを理解する。６．保育・教育における「環境」を説明できる。７．子どもの発達過程におけるさまざまな環境との関わりを説明できる。８．保育環境の具体的なデザイン・方法を考え・説明することができる。９．子どもを取り巻く環境の現代的課題について説明できる。

授業の概要

幼稚園教育要領・保育所保育指針に明記されている各要点から、教育・保育における子どもの生活や遊びを総合的に捉え、教育・保育を展開していくための方法や技術、子どもの実際や状況に即した援助や関わりについて具体的に学ぶ。特に、本授業は、保育内容の5領域のうちの「環境」のねらいと内容をふまえ、「幼児を取り巻く環境」と「幼児の環境との関わり」について理論と技術を学ぶ。そのため子どもにとっての環境を、数々の事例をもとに正しく理解する。これをもとに、子どもが好奇心や探究心をもって活動できる環境について配慮・援助が行える基礎知識を身につける。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

保育「環境」を意識しながら新聞、ニュースに関心を持つこと。自分の幼少期のことを思い出しながら保育所、幼稚園の保育環境をイメージできるよう予習、復習して授業内容を整理しておくこと。

標準学修時間の目安

1回の講義あたり予習復習を含め2時間の学習が望ましい。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

定期試験後に模範解答を掲示

使用教科書

	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	事例で学ぶ保育内容　領域環境	無藤隆・福元真由美	萌文書林	4-89347-098-1
2				
3				

使用教科書備考

事例で学ぶ保育内容　領域環境　　無藤 隆・福元真由美　　萌文書林

参考書・参考資料等

幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領
保育所保育指針ハンドブック　2017年告示版　監修　汐見　捻幸　　学研
40のサインでわかる乳幼児の発達　　くらき永田保育園　監修　鈴木八郎　著　黎明書房

実務経験のある教員の略歴と教育内容

昭和42年東京理科大学応用物理学科卒業。函館へ戻り高等学校にて12年間数学、物理の教鞭をとる。その後保育園に勤務し職員研修の指導を行い、平成26年ソニー幼児教育プログラム応募論文にて「科学する心」のテーマにて最優秀賞を受ける。その後ひまわり保育士会相互研究の指導に当たっている。

その他

なし

授業計画

第 1回　「養護」（子どもの生命の保持及び情緒の安定を図るために保育者が行う「養護」）について
第 2回　「教育」（子どもが健やかに成長し、その活動がより豊かに展開されるための発達の援助である「教育」）について
第 3回　乳児保育における3つの視点①「健やかに伸び伸びと育つ」と領域「環境」との関連
第 4回　乳児保育における3つの視点②「身近な人と気持ちが通じ合う」と領域「環境」との関連
第 5回　乳児保育における3つの視点③「身近なものと関わり感性が育つ」と領域「環境」との関連
第 6回　１歳以上３歳未満児の保育～領域「環境」ねらい（身近な環境への好奇心、探究心、発見、見る、聞く、触る）
第 7回　１歳以上３歳未満児の保育～領域「環境」内容①（見る、聞く、触れる、嗅ぐ、味わう、玩具、絵本、遊具）
第 8回　１歳以上３歳未満児の保育～領域「環境」内容②（形、色、大きさ、量、区別、場所的感覚、身近な生き物、近隣の生活や季節の行事）
第 9回　１歳以上３歳未満児の保育～領域「環境」内容の取扱い（命、生命の尊さ、社会とのつながり、文化）
第10回　３歳以上児の教育・保育～領域「環境」概要（周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わる）
第11回　３歳以上児の教育・保育～領域「環境」ねらい（自然、生活への取り入れ、性質、数量、文字）
第12回　３歳以上児の教育・保育～領域「環境」内容①（自然の不思議さ、性質や仕組み、季節、生命の尊さ）
第13回　３歳以上児の教育・保育～領域「環境」内容②（文化や伝統、比較、関連、数量、図形、標識、文字、情報、施設、国旗）
第14回　３歳以上児の教育・保育～領域「環境」内容の取扱い①（法則性、身近な事象や動植物、行事、国家、唱歌、わらべうた）
第15回　３歳以上児の教育・保育～領域「環境」内容の取扱い②（伝統的な遊び、異文化、国際理解、体験に基づく数量や文字への興味関心）
定期試験

【学生に対する評価】
学期末に筆記試験を行う。授業参加態度も考慮し、総合的に評価する。（定期試験80％・授業参加態度20％）

成績評価の方法(試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（％）	80	5	10	0	5	100

成績評価の基準（ルーブリック）

到達度	秀逸	優秀	良好	最低限
授業の到達目標に対する到達度の目安	養護及び教育に関わる保育の内容が,それぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に教育・保育を展開していくための知識・技術・判断力を獲得して、他者に詳細に伝えることや、子供の発達過程に即して具体的な教育・保育場面を想定しながら環境構成や遊具との関連を理解し活用できる。	養護及び教育に関わる保育の内容が,それぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に教育・保育を展開していくための知識・技術・判断力を獲得して、他者に詳細に伝えることや、子供の発達過程に即して環境構成や、遊具との関連を理解できる。	養護及び教育に関わる保育の内容が,それぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に教育・保育を展開していくための知識・技術・判断力を獲得できる。	養護及び教育に関わる保育の内容が,それぞれに関連性を持つことを断片的に理解できる、領域「環境」について学び幼児を取り巻く環境や発達における幼児の環境とのかかわりを断片的ながらも理解できる。
該当DPに対する到達度の目安	保育と子育て支援に必要な専門知識と技術を有し、個々の発達に応じて子どもの成長を促す保育を展開できその意図を説明できる。また、子育て環境を深く分析して課題や問題を見つけ出し、その解決に向けて他者と協働的で計画的に考え、答えを導き出す能力を身につけている。	保育と子育て支援に必要な専門知識と技術を有し、個々の発達に応じて子どもの成長を促す保育を展開できる。又、子育て環境を分析して課題や問題を見つけ出し、その解決に向けて計画的に考え、答えを導き出す能力を身につけている。	保育と子育て支援に必要な専門知識と技術を有し、子どもの成長を促す保育を展開できる。又、子育て環境を分析して課題や問題を見つけ出し、その解決に向けて計画的に考え、答えを導き出す努力をすることができる。	保育と子育て支援に必要な専門知識と技術は断片的に有し、子どもの成長を促す保育を展開できる。又、子育て環境を分析して課題や問題を見つけ出し、その解決に向けて計画的に考えようとする。

年度	2019	学科	保育学科	ナンバリング科目コード	33113	ICT活用	―
授業科目名	言葉					実務教員	○
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等	領域及び保育内容の指導法に関する科目						
配当年次	1年	期間	前期	必修区分	保幼		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	単独		
教員	三島　裕一						
該当ディプロマ・ポリシー ＤＰ項目番号	DP1,4,8 知識・技能(DP1～3)、思考力・判断力・表現力(DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力(DP7～9)						

授業のテーマ及び到達目標

1.養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に教育・保育を展開していくための知識・技術・判断力を獲得できる。
2.幼稚園教育要領及び保育所保育指針における乳児保育の3つの視点と1歳以上3歳未満児及び3歳以上児の保育における「言葉」の領域から、子どもに対する理解を深め、教育・保育の内容について具体的に理解できる。
3.教育・保育の内容の視点および「言葉」の領域をふまえて、子どもが体験していることを捉え保育者が留意すべき点を理解できる。
4.子どもの発達過程に即して具体的な教育・保育場面を想定しながら、環境構成、教材や遊具等の活用と工夫、教育・保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）の実際について理解できる。

授業の概要

幼稚園教育要領・保育所保育指針に明記されている各要点から、教育・保育における子どもの生活や遊びを総合的に捉え、教育・保育を展開していくための方法や技術、子どもの実際や状況に即した援助や関わりについて具体的に学ぶ。特に領域「言葉」においては、子どもが豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために必要な専門的事項に関する知識を身につける。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

予習：授業に関連する項目について、『保育所保育指針』『幼稚園教育要領』等の次時の授業に関する事項を熟読しておくこと。
復習：授業で学んだ点、疑問点、自分で調べた事項などをノートに整理しておくこと。

標準学修時間の目安

1回の講義につき、0.5時間の予習と、1.5時間の復習を行うこと。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

ノートあるいはレポート等の提出後、コメントや評価を付して返却すると共に、模範的なものについては、授業の中で紹介していく。

使用教科書

	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	保育内容ことば	赤羽根有里子　他	みらい	978-4-86015-426-4
2				
3				

使用教科書備考

保育内容ことば（赤羽根有里子 他 編著、みらい）

参考書・参考資料等

幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

実務経験のある教員の略歴と教育内容

24年間の国語教師の経験をもとに、『言葉』、『保育内容総論』、『保育内容（言葉）』等の科目や教育実習に向けた読む力、書く力などについて指導を行う。また、12年間の公立小中学校での管理職、8年間の公立幼稚園長職の経験を生かし、『教育経営論』等の科目において、幼稚園等の経営の実際を基に、具体的・実践的な授業を行う。

その他

・本科目履修生は、資料を綴るファイルとＢ５版のノートを持参すること。
・ノートあるいはレポート等について適宜点検し、評価する。

授業計画

第 1回　「養護」（子どもの生命の保持及び情緒の安定を図るために保育者が行う「養護」）について
第 2回　「教育」（子どもが健やかに成長し、その活動がより豊かに展開されるための発達の援助である「教育」）について
第 3回　乳児保育における3つの視点①「健やかに伸び伸びと育つ」と領域「言葉」との関連
第 4回　乳児保育における3つの視点②「身近な人と気持ちが通じ合う」と領域「言葉」との関連
第 5回　乳児保育における3つの視点③「身近なものと関わり感性が育つ」と領域「言葉」との関連
第 6回　１歳以上３歳未満児の保育～領域「言葉」　ねらい（言葉遊び、言葉表現の楽しさ、児童文化財（絵本等）や物語）
第 7回　１歳以上３歳未満児の保育～領域「言葉」　内容①（応答的関わり、生活に必要な言葉、挨拶、繰り返し、模倣）
第 8回　１歳以上３歳未満児の保育～領域「言葉」　内容②（ごっこ遊び、言葉のやりとり、保育者や友達の話への興味関心）
第 9回　１歳以上３歳未満児の保育～領域「言葉」　内容の取扱い（言語化の援助、仲立ち、片言、二語文、ごっこ遊び）
第10回　３歳以上児の教育・保育～領域「言葉」　概要（経験、考えの自己表現、相手の言葉を聞こうとする意欲や態度、表現力）
第11回　３歳以上児の教育・保育～領域「言葉」　ねらい（言葉表現の楽しさ、伝え合う喜び、言葉に対する感覚）
第12回　３歳以上児の教育・保育～領域「言葉」　内容①（自分なりの言葉表現、分からない点を尋ねる、相手に分かるように話す）
第13回　３歳以上児の教育・保育～領域「言葉」　内容②（生活の言葉、挨拶、言葉の楽しさや美しさへの気付き）
第14回　３歳以上児の教育・保育～領域「言葉」　内容③（豊かなイメージや言葉、想像する楽しさ、文字などで伝える楽しさ）
第15回　３歳以上児の教育・保育～領域「言葉」　内容の取扱い（言葉を交わす喜び、伝え合い、言葉の響きやリズム、文字）

【学生に対する評価】
ノート、課題、レポートなどによって総合的に評価する。

成績評価の方法(試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（%）	60	0	30	0	10	100

成績評価の基準（ルーブリック）

到達度	秀逸	優秀	良好	最低限
授業の到達目標に対する到達度の目安	幼稚園教育要領・保育所保育指針等を十分理解し、教育・保育における子どもの生活や遊びを総合的に捉えその展開や技術、援助の方法を的確に説明できる。また、幼児期の言葉の発達過程を理解し、保育者の役割を明解に説明できる。さらには、言葉を豊かにする遊びや児童文化財を活用した指導案を作成し、実践できる。	幼稚園教育要領・保育所保育指針等を理解し、教育・保育における子どもの生活や遊びを捉え、教育・保育を展開する方法や技術、援助の方法を説明できる。また、幼児期のことばの発達過程や保育者の役割について理解し、説明できる。さらには、言葉を豊かにする遊びや児童文化財を活用した指導案を作成することができる。	幼稚園教育要領・保育所保育指針等の内容を概ね理解し、教育・保育を展開する方法や技術、援助の方法を理解することができる。また、幼児期のことばの発達過程や保育者の役割について理解できたり、言葉を豊かにする遊びや児童文化財を活用した指導案を構想することができる。	幼稚園教育要領・保育所保育指針等の内容を概ね理解し、教育・保育を展開する方法や技術、援助の方法をある程度理解することができる。また、幼児期のことばの発達過程や保育者の役割について概ね理解ができたり、言葉を豊かにする遊びや児童文化財を活用した指導案がどのようなものかが理解できる。
該当DPに対する到達度の目安	保育者としての社会的使命を十分に理解し、保育の専門知識を獲得した上で、生活や遊びを通した総合的な保育の展開や援助の方法を理解し、実践できる。また幼児期の言葉の発達過程を理解し、子どもの言葉の課題を明らかにし言葉を豊かにする遊びを展開する知識技術を身につけたり、その知識、技術を伝え、他と共有できる。	保育者としての社会的使命を理解し、保育の専門知識を獲得した上で、生活や遊びを通した保育の展開や援助の方法が理解できる。また、幼児期の言葉の発達過程を学び、保育者として子どもの言葉の課題がわかり言葉を豊かにする遊びを展開するための知識や方法を身につけることができたりその知識、技術を他へ伝えることもできる。	保育者としての社会的使命を理解し、保育の専門知識を獲得した上で生活や遊びを通した保育の展開や援助の方法を概ね理解できる。また、幼児期の言葉の発達過程を知り、子どもの言葉の課題を理解した上で、言葉を育む遊びを展開するための知識や方法を理解できその知識、技術を他へ伝えようと努力することができる。	保育者としての社会的使命をある程度理解し、保育の知識を獲得した上で、生活や遊びを通した保育の展開や援助の方法の幾つかを理解できる。また、幼児期の言葉の発達過程や子どもの言葉の課題を理解した上で言葉を育む遊びを展開するための知識や方法をある程度理解できる。

年度	2019	学科	保育学科	ナンバリング科目コード	33114	ICT活用	―
授業科目名	表現					実務教員	―
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等	領域及び保育内容の指導法に関する科目						
配当年次	1年	期間	前期	必修区分	保幼		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	単独		
教員	山下　真由美						
該当ディプロマ・ポリシー ＤＰ項目番号	DP1.4.8 知識・技能(DP1～3)、思考力・判断力・表現力(DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力(DP7～9)						

授業のテーマ及び到達目標

1．養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に教育・保育を展開していくための知識・技術・判断力を獲得できる。２．幼稚園教育要領及び保育所保育指針における乳児保育の3つの視点と1歳以上3歳未満児及び3歳以上児の保育における「表現」の領域から、子どもに対する理解を深め、教育・保育の内容について具体的に理解できる。３．教育・保育の内容の視点および「表現」の領域をふまえて、子どもが体験していることを捉え、保育者が留意すべき点を理解できる。４．子どもの発達過程に即して具体的な教育・保育場面を想定しながら、環境構成、教材や遊具等の活用と工夫、教育・保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）の実際について理解できる。５．幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領・保育所保育指針に示された領域「表現」のねらいと内容を踏まえて、それらの領域と関連付けて幼児の発達と特性を理解し、保育を構想する方法を身に付ける。６．幼稚園教育要領に示される身体・造形・音楽表現等の基礎的な知識・技能・表現力を身に付ける。７．子どもが主体的・対話的で深い学びを通して自らの気持ちを表現し、また他者の表現に共感できる子どもの心を育む保育構想ができるよう、学生自らが「感性・表現力・共感性」の涵養をめざす。

授業の概要

幼稚園教育要領・保育所保育指針に明記されている各要点から、教育・保育における子どもの生活や遊びを総合的に捉え、教育・保育を展開していくための方法や技術、子どもの実際や状況に即した援助や関わりについて具体的に学ぶ。幼稚園教育要領・保育所保育指針に示された領域「表現」のねらい及び内容を理解し、子どもの発達段階や学びの過程の理解に基づいた表現の基礎技術の獲得とそれらを関連づけて具体的な保育場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。また、子どもが主体的・対話的な深い学びを実現する学習過程を支えることを目指し、学生自身が主体的・対話的な深い学びに他者と協働して取組むことにより、創造性と共感・受容について学びを深め、より豊かな表現力を身に付けることをめざす。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

予習は、保育所保育指針、幼稚園教育要領の領域「表現」の内容について、解説書に目を通しておくこと。　復習は、学習した内容を振り返り、配布プリントやワークシートをまとめること。準備学習として、日常的に「子どもの素朴な表現とその受容」について、指針をもとに考察を深め、豊かな感性を養うことができるよう、生活の事象に目を向けるよう努めること。

標準学修時間の目安

次回の講義までに、予習・復習を含めて2時間の学修が望ましい。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

レポート等の提出課題には、コメントを付して返却する。

使用教科書

	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	子どもの音楽表現	石井玲子編著	保育出版社	978-4-938795-78-8
2				
3				

使用教科書備考

実践しながら学ぶ子どもの音楽表現（石井玲子編著、保育出版社）
その他授業中に適宜配布する。

参考書・参考資料等

幼稚園教育要領（平成29年4月　文部科学省）、保育所保育指針（平成29年4月　厚生労働省）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年4月　文部科学省・厚生労働省）
小学校学習指導要領（平成29年度　文部科学省）、ワークシート、美濃保育園の歌とオペレッタ情報教材

実務経験のある教員の略歴と教育内容

実務経験のある教員に該当しない。

その他

・本科目は、幼稚園教諭二種免許の「教職に関する科目」である。
・保育所保育指針及び幼稚園教育要領「表現」のねらい・内容を熟読し、子どもの表現についてイメージをもち授業に取り組むこと。

授業計画

第 1回　「養護」（子どもの生命の保持及び情緒の安定を図るために保育者が行う「養護」）について
第 2回　「教育」（子どもが健やかに成長し、その活動がより豊かに展開されるための発達の援助である「教育」）について
第 3回　乳児保育における3つの視点①「健やかに伸び伸びと育つ」と領域「表現」との関連
第 4回　乳児保育における3つの視点②「身近な人と気持ちが通じ合う」と領域「表現」との関連
第 5回　乳児保育における3つの視点③「身近なものと関わり感性が育つ」と領域「表現」との関連
第 6回　１歳以上３歳未満児の保育～領域「表現」　ねらい（感じたことや考えたことを自分なりに表現、イメージ、感性）
第 7回　１歳以上３歳未満児の保育～領域「表現」　内容①（水、砂、土、紙、粘土などの素材、音楽、リズムに合わせた動き）
第 8回　１歳以上３歳未満児の保育～領域「表現」　内容②（音、形、色、手触り、動き、味、香り、手遊び、全身遊び、イメージ）
第 9回　１歳以上３歳未満児の保育～領域「表現」　内容の取扱い（感性を豊かにする経験、試行錯誤、受容的関わり、達成感）
第10回　３歳以上児の教育・保育～領域「表現」　概要（豊かな感性、創造性）
第11回　３歳以上児の教育・保育～領域「表現」　ねらい（美しさに対する豊かな感性、自分なりの表現、イメージを豊かにする）
第12回　３歳以上児の教育・保育～領域「表現」　内容①（音、形、色、手触り、動き、感動、音や動き、自由な描写や創作）
第13回　３歳以上児の教育・保育～領域「表現」　内容②（いろいろな素材、音楽、リズム楽器、動きや言葉）
第14回　３歳以上児の教育・保育～領域「表現」　内容の取扱い①（風の音、雨の音、草や花の形や色、子どもの素朴な表現の受容）
第15回　３歳以上児の教育・保育～領域「表現」　内容の取扱い②（生活経験や発達に応じた表現の楽しみ、表現する過程）

【学生に対する評価】
小テスト、レポート課題、学習意欲、発表等を評価対象とする。

成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（%）	50	0	30	0	20	100

成績評価の基準（ルーブリック）

到達度	秀逸	優秀	良好	最低限
授業の到達目標に対する到達度の目安	幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「表現」の内容（自然、音や色や形等）を踏まえ、子どもの発達段階や学びの過程の認識に基づいた表現の基礎技術や方法について理解し、実践できる。またそれらを関連づけて具体的な保育場面を想定するとともに、生じた問題・課題の検討、他者と協働して保育を構想・改善することができる。	幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「表現」の内容（自然、音や色や形等）を踏まえ、子どもの発達段階や学びの過程の認識に基づいた表現の基礎技術や方法について理解している。またそれらを関連づけて具体的な保育場面を想定するとともに、生じた問題・課題の検討、他者と協働して保育を構想することができる。	幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「表現」の内容（自然、音や色や形等）を踏まえ、子どもの発達段階や学びの過程の認識に基づいた表現の基礎技術や方法を概ね理解している。またそれらを関連づけて具体的な保育場面を想定するとともに、生じた問題・課題の検討、他者と協働した保育を構想が概ねできる。	幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「表現」の内容（自然、音や色や形等）を踏まえ、子どもの発達段階や学びの過程を知り、表現の基礎技術の方法の重要性について断片的に知っている。またそれらを関連づけた保育場面を想定することはできるが、課題の検討や他者と協働した保育構想の理解は、今後の課題である。
該当DPに対する到達度の目安	保育・幼児教育に必要な表現に関わる基礎理解と発達段階に基づく表現感受の応答的関わりについて、事例とともに理解し、説明することができる。子どもの成長を促すための課題や問題を見つけ出し、分析を行い保育を改善する方法を計画的に考えることができる。他者と協働して子どもの豊かな感性を育てる表現活動を構想・工夫できる。	保育・幼児教育に必要な表現に関わる基礎理解と発達段階に基づく表現感受の応答的関わりについて、事例とともに理解している。子どもの成長を促すための課題や問題を見つけ出し、保育を改善する方法を計画的に考えることができる。他者と協働して子どもの豊かな感性を育てる表現活動を構想できる。	保育・幼児教育に必要な表現に関わる基礎理解と発達段階に基づく表現感受の応答的関わりについて理解している。子どもの成長を促すための課題や問題を見つけ出し、保育を改善することができる。他者と協働して子どもの豊かな感性を育てる表現活動の概要を構想することができる。	保育・幼児教育に必要な表現に関わる基礎理解と発達段階に基づく表現感受の応答的関わりについて断片的に理解している。子どもの成長を促すための課題や問題の気づきを理解し断片的であるが保育を改善する方法を考えることができる。他者と協働して子どもの豊かな感性を育てる表現活動のイメージをもつことができる。

年度	2019	学科	保育学科	ナンバリング科目コード	33210	ICT活用	―
授業科目名	保育内容(健康)指導法					実務教員	―
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等	領域及び保育内容の指導法に関する科目						
配当年次	1年	期間	後期	必修区分	保幼		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	単独		
教員	松田　賢一						
該当ディプロマ・ポリシー ＤＰ項目番号	DP1,4 知識・技能(DP1～3)、思考力・判断力・表現力(DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力(DP7～9)						

授業のテーマ及び到達目標

領域「健康」のねらいと内容を理解し、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びを通し、健康な心と体を養うために必要な知識・技術を身に付ける。特に乳幼児期の健康に関わる生活習慣や運動発達の理解を深め、適切な指導法を身に付ける。
1 幼稚園教育要領に示された、幼稚園教育の基本を踏まえて、領域「健康」のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。
2 領域「健康」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。
3 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。
4 領域「健康」において幼児が経験し身に付けていく内容の関連性及び小学校の教科等とのつながりを理解している。

授業の概要

本講義では、幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「健康」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

・毎回授業時に前回の復習をするので、事前にノートを見て、疑問点を明らかにすること。
・実技では、実技内容を解説するので、メモをとり、後にノートに整理すること。
・指導案は決められた日時に提出の事。

標準学修時間の目安

1回の講義あたり予習・復習を含めて2時間の学修が望ましい。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

課題・ノートの提出後は、コメントを付し、担当印を押し学生に返却します。

使用教科書

	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	なし	－	－	－
2				
3				

使用教科書備考

使用しない

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。
幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

実務経験のある教員の略歴と教育内容

実務経験のある教員に該当しない。

その他

・A4のノートを用意すること。
・実技については別途知らせる。
・必要に応じて、授業内で提示した課題について、グループワークを行い、その結果をプレゼンテーションしてもらう。

授業計画

第 1回　領域「健康」のねらい及び内容ならびに全体の構造を理解する（子どもの生活と遊びについての知識・技術を含む）
第 2回　領域「健康」のねらい及び内容と指導上の留意点を理解する
（子どもの生活と遊びにおける他者との関係や集団の中での育ちの理解と援助に関わる知識・技術を含む）
第 3回　幼児一人一人の発達の理解に基づいた評価の考え方について理解する
第 4回　領域「健康」において幼児が身に付けた内容と小学校との教科等との接続について理解する
第 5回　領域「健康」の特性と幼児の体験等を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用する。
第 6回　幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解する、指導案の構造を理解する
第 7回　具体的な保育を想定した指導案を作成する（子どもの生活と遊びにおいてイメージを豊かにし、感性を養う環境構成を含む）
第 8回　作成した指導案を検証する（見立てやごっこ遊び、劇遊び等における体験が含む）
第 9回　実技：無理なく全身を使って遊ぼう（幼児の認識・思考、動き等を視野にいれた保育の構想）
第10回　実技：様々な変化に対応してみよう（幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想）
第11回　実技：神経回路を刺激してみよう（幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想）
第12回　3回実施した実技をモデルに模擬保育を実施（遊びの素材や教材等の特性の理解とその作成の知識・技術も含む）
第13回　模擬保育の振り返りと改善の視点を学ぶ
第14回　領域「健康」をめぐる現代的課題と保育実践
第15回　領域「健康」の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組む、課題の整理とまとめ

【学生に対する評価】
提出した課題・ノートを総合的に評価する。

成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（%）	0	40	40	10	10	100

成績評価の基準（ルーブリック）

到達度	秀逸	優秀	良好	最低限
授業の到達目標に対する到達度の目安	領域「健康」のねらいと内容を理解し、幼児の発達に即して、健康な心と体を養うために必要な知識・技能を身に付け、乳幼児期の生活習慣や運動発達の理解を深め、適切な指導法を身につけた上で、他者に詳細かつ適切に伝えることができる。	領域「健康」のねらいと内容を理解し、幼児の発達に即して、健康な心と体を養うために必要な知識・技能を身に付け、乳幼児の生活習慣や運動発達の理解を深め、その指導法を伝えることができる。	領域「健康」のねらいと内容を理解し、幼児の発達に即して、健康な心と体を養うために必要な知識・技能を身に付け、乳幼児の運動発達の指導法を理解している。	良記「健康」のねらいと内容を理解し、幼児の発達に即して、健康な心と体を養うために必要な知識・技能について断片的であるが理解している。
該当DPに対する到達度の目安	領域「健康」のねらいと内容を理解し、必要な知識と技能を身に付け、乳幼児期の運動発達の理解と指導法を身に付けている。	領域「健康」のねらいと内容を理解し、必要な知識と技能を身に付け、乳幼児期の運動発達の理解と指導法を他者へ発信できるよう努力することができる。	領域「健康」のねらいと内容を理解し、必要な知識と技能を身に付け、乳幼児期の運動発達の理解と指導法をある程度他者に発信できる。	領域「健康」のねらいと内容を理解し、必要な知識と技能を身に付けることができず、乳幼児期の運動発達の理解と指導法を他者へほとんど発信できない。

年度	2019	学科	保育学科	ナンバリング科目コード	33211	ICT活用	―
授業科目名	保育内容(人間関係)指導法					実務教員	―
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等	領域及び保育内容の指導法に関する科目						
配当年次	1年	期間	後期	必修区分	保幼		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	単独		
教員	木村　美佐子						
該当ディプロマ・ポリシー ＤＰ項目番号	DP1,4,8 知識・技能(DP1～3)、思考力・判断力・表現力(DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力(DP7～9)						

授業のテーマ及び到達目標

領域「人間関係」のねらい・内容を理解し、幼児期に必要な経験を説明できるとともに、豊かな人間関係を育む保育者の役割を説明できる。さらに幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構成できる。
・領域「人間関係」のねらい・内容を理解し、幼児期に必要な経験を説明できる。
・豊かな人間関係を育む保育を理解し、保育者の役割を説明できる。
・人間関係の育ちを把握する視点について説明できる。
・幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構成できる。

授業の概要

幼稚園教育要領における領域「人間関係」について学び、子どもが人との関わりを広げていく過程や発達に即して主体的・対話的な学びが実現する過程に応じた適切な援助を知り、豊かな人間関係を育む保育者の役割を理解する。また、具体的な事例をもとに、人間関係の育ちを観察する視点を理解し、豊かな人間関係を育む保育を実践する力を身に付けることをねらいとする。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

事前学習：次回の講義内容を確認し、教科書の該当する章をよく読んでおくこと。
事後学習：授業の到達目標を確認し、その回の講義内容をプリントやノートにまとめておくこと。

標準学修時間の目安

1回の講義にあたり、予習・復習を含めて2時間の学修が望ましい。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

課題（指導案やレポート等）の提出期限後の授業で、コメントを付した課題を返却する。

使用教科書

	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	実践保育内容シリーズ人間関係	小櫃智子・谷口明子編著	一藝社	9784863591578
2				
3				

使用教科書備考

教科書は、前期「人間関係」と同じものを使用する。

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。
幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領

実務経験のある教員の略歴と教育内容

実務経験のある教員に該当しない

その他

特になし

授業計画

第 1回　領域「人間関係」の理解～幼稚園教育の基本、ねらい・内容並びに全体構造の理解
第 2回　幼児期にふさわしい生活の理解～経験を通して身につける内容と指導上の留意点、他者との関係や集団の中での育ちの理解と援助に関わる知識・技術
第 3回　遊びの中の人との関わり～評価の考え方、生活や遊びでイメージを豊かにし、感性を養うための知識・技術
第 4回　いざこざや葛藤を通しての育ち
第 5回　異年齢児との関わり
第 6回　道徳性の芽生え
第 7回　協同的学びの重要性～小学校教育とのつながり
第 8回　保育における情報機器及び教材の活用～育ちの可視化、遊具や用具、素材や教材等の特性の理解と、その活用や作成に必要な知識・技術
第 9回　幼児の豊かな人間関係を育む保育の理解①（事例検討～幼児の認識・思考・行動の理解と保育の構想）
第10回　幼児の豊かな人間関係を育む保育の理解②（指導案の構成の理解と指導案作成）
第11回　幼児の豊かな人間関係を育む保育の理解③（グループワーク～指導案検討）
第12回　幼児の豊かな人間関係を育む保育の理解④（模擬保育）
第13回　幼児の豊かな人間関係を育む保育の理解⑤（模擬保育の振り返りによる保育の改善）
第14回　自己の人間関係の理解～対人関係図からみえてくるもの
第15回　人との関わりを育む幼児教育の今日的課題（保育実践の動向の理解と保育構想の向上）

成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（%）	0	0	80	0	20	100

成績評価の基準（ルーブリック）

到達度	秀逸	優秀	良好	最低限
授業の到達目標に対する到達度の目安	領域「人間関係」のねらい・内容を理解し、幼児期に必要な経験を説明できるとともに、豊かな人間関係を育む保育者の役割を説明できる。さらに幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構成できる。	領域「人間関係」のねらい・内容を理解し、幼児期に必要な経験を説明できるとともに、豊かな人間関係を育む保育者の役割を説明できる。さらに幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構成できる。	領域「人間関係」のねらい・内容を理解し、幼児期に必要な経験を説明できるとともに、豊かな人間関係を育む保育者の役割を説明できる。さらに具体的な指導場面を想定して保育を構成することができる。	領域「人間関係」のねらい・内容を理解し、幼児期に必要な経験を説明できる。豊かな人間関係を育む保育を理解し、保育者の役割を説明できる。
該当DPに対する到達度の目安	領域「人間関係」について学んだ知識を生かして子供を取り巻く課題について深く考察し、その解決に向けて何をすべきか理解している。さらには他者と協働しその課題に取り組むことができる。	領域「人間関係」について学んだ知識を生かして子供を取り巻く課題について深く考察し、その解決に向けて何をすべきか理解している。に向けて何をすべきか理解している。さらには他者と協働しその課題に取り組もうとする。	領域「人間関係」について学んだ知識を生かし、子供を取り巻く課題について考えることができる。	領域「人間関係」について学んだ知識を生かし、より良い保育を考えることができる。

年度	2019	学科	保育学科	ナンバリング科目コード	33212	ICT活用	○
授業科目名	保育内容(環境)指導法					実務教員	○
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等	領域及び保育内容の指導法に関する科目						
配当年次	1年	期間	後期	必修区分	保幼		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	単独		
教員	松本　啓						
該当ディプロマ・ポリシー ＤＰ項目番号	DP1,4 知識・技能(DP1～3)、思考力・判断力・表現力(DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力(DP7～9)						

授業のテーマ及び到達目標

幼稚園教育要領、保育所保育指針等の領域「環境」のねらい及び内容について専門領域と関連させて理解し、幼児が周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって主体的にかかわり、それを生活に取り入れていこうとする力を養うための、具体的な保育内容を考え実践する力を身に付けることをねらいとする。
・領域「環境」のねらい・内容を理解し、幼児が主体的・対話的に環境にかかわる保育を考えることが出来る。
・子どもの遊びの特徴および意義を十分に理解し、経験から育つ内容を説明できる。
・野外保育・自然体験の事前・事後の準備・活動を具体的にイメージし、保育を構成することができる。

授業の概要

本授業は、科目「環境」で学んだことを踏まえて、環境を通した保育・教育を実践できる保育者の育成を目指す。そのために「外遊びと環境」をテーマに、屋外・野外保育におけるさまざまな実践例を参考にして、幼児期にどのような実践をすればよいか具体的な技能を身につける。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

保育「環境」を意識しながら新聞、ニュースに関心を持つこと。自分の幼少期のことを思い出しながら保育所、幼稚園の保育環境をイメージできるよう予習、復習して授業内容を整理しておくこと。

標準学修時間の目安

1回の講義あたり予習復習を含め2時間の学習が望ましい。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

定期試験後に模範解答を掲示。

使用教科書

	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	事例で学ぶ保育内容　領域環境	無藤　隆・福元真由美	萌文書林	4-89347-098-1
2				
3				

使用教科書備考

事例で学ぶ保育内容　領域環境　無藤　隆・福元真由美　萌文書林

参考書・参考資料等

授業時にプリントを配布する。
幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領

実務経験のある教員の略歴と教育内容

昭和42年東京理科大学応用物理学科卒業。函館へ戻り高等学校にて12年間数学、物理の教鞭をとる。その後保育園に勤務し職員研修の指導を行い、平成26年ソニー幼児教育プログラム応募論文にて「科学する心」のテーマにて最優秀賞を受ける。その後ひまわり保育士会相互研究の指導に当たっている。

その他

なし

授業計画

第 1回　保育における環境とは〜幼児教育の基本の理解、他者との関係や集団の中での育ちの理解と援助に関わる知識・技術
第 2回　領域「環境」のねらい・内容と全体構造の理解、生活や遊びでイメージを豊かにし、感性を養うための知識・技術
第 3回　子どもを取り巻く生活環境の変化と課題
第 4回　主体的に環境に関わる幼児の姿と評価の考え方
第 5回　子どもの遊びの現状と伝承遊び〜幼児期に経験させたい内容と指導上の留意点
第 6回　外遊び・野外保育・自然体験の意義
第 7回　野外保育の事前・事後の準備
第 8回　数遊びと文字遊び〜小学校とのつながり
第 9回　情報機器及び教材の活用〜身近な動植物の観察・栽培と記録、遊具や用具、素材や教材等の特性の理解と、その活用や作成に必要な知識・技術
第10回　森のようちえんの事例と解説（幼児の認識・思考・動き等を視野に入れた保育の構想の重要性の理解）
第11回　子どもの遊び・活動中のヒヤリ・ハット事例
第12回　年齢に応じた環境構成（指導案の構成の理解）
第13回　ねらいに応じた環境構成（指導案作成と検討）
第14回　環境を通して行う保育（模擬保育と保育の改善）
第15回　子ども向けの環境教育活動と保育実践の動向〜保育構想の向上
定期試験

【学生に対する評価】
学期末に筆記試験を行うほか課題（レポート）も課す。授業参加態度も考慮し、総合的に評価する。

成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（%）	80	5	10	0	5	100

成績評価の基準（ルーブリック）

到達度	秀逸	優秀	良好	最低限
授業の到達目標に対する到達度の目安	領域「環境」のねらい・内容を理解し幼児自身の気づきや好奇心、探求心に着目が出来て幼児が主体的・対話的に環境に関わる保育を考える学びへと繋げることができ他者へ情報発信ができる。子供の遊びの特徴及び直接体験の意義を十分に理解し、経験から育つ内容を具体的に説明できる。	領域「環境」のねらい・内容を理解し幼児自身の気づきや好奇心に着目が出来て幼児が主体的・対話的に環境に関わる保育を考えることができる。子供の遊びの特徴及び意義を十分に理解し経験から育つ内容を説明できる。	領域「環境」のねらい・内容を理解し、幼児が主体的・対話的に環境に関わる保育を考えることに努力している。子供の遊びの特徴及び意義を理解している。	領域「環境」のねらい・内容を断片的に理解し幼児が主体的・対話的に環境に関わる保育に対してイメージや子供の遊びの意義について理解がやや不足している。
該当DPに対する到達度の目安	保育と子育て支援に必要な専門知識と技術を有し、個々の発達に応じて子どもの成長を促す保育を展開できその意図を説明できる。又子育て環境を深く分析して課題や問題を見つけ出し、その解決に向けて他者へ発信でき計画的に考え、答えを導き出す能力を身に着けている。	保育と子育て支援に必要な専門知識と技術を有し、個々の発達に応じて子どもの成長を促す保育を展開できる。又、子育て環境を分析して課題や問題を見つけ出し、その解決に向けて計画的に考え、答えを導き出す能力を身に着けている。	領域「環境」のねらい・内容を理解し、幼児が主体的・対話的に環境に関わる保育を考えることに努力している。子供の遊びの特徴及び意義を理解している。	保育と子育て支援に必要な専門知識と技術は断片的に有し、子どもの成長を促す保育を展開できる。又、子育て環境を分析して課題や問題を見つけ出し、その解決に向けて計画的に考えようとする。

年度	2019	学科	保育学科	ナンバリング科目コード	33213	ICT活用	―
授業科目名	保育内容(言葉)指導法					実務教員	○
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等	領域及び保育内容の指導法に関する科目						
配当年次	1年	期間	後期	必修区分	保幼		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	単独		
教員	三島　裕一						
該当ディプロマ・ポリシー ＤＰ項目番号	DP1,4,8 知識・技能(DP1～3)、思考力・判断力・表現力(DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力(DP7～9)						

授業のテーマ及び到達目標

幼稚園教育要領、保育所保育指針等に示された領域「言葉」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深め、領域「言葉」の全体構造を把握するとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえ、具体的な指導場面を想定し、豊かな言葉を育む保育を構想する力を身につける。また、児童文化財や言葉遊びの保育環境をデザインし、実践する力を身につける。

授業の概要

乳幼児の言葉の発達過程については、遊びの中での文字の有用性や非言語的なコミュニケーションの重要性も含めて包括的に考える必要がある。そのため、本授業では領域「言葉」の内容を理解するとともに、遊びを通して言葉の面白さや楽しさを共有する。そして児童文化財とのかかわりを中心に指導案を作成し、言葉に遅れがある子への配慮等も含めて保育を構想しながら実践的な学びを深める。さらに幼稚園教育における評価の考え方を理解する。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

予習：授業に関連する項目について、『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』を熟読しておくこと。
復習：授業で学んだ要点、課題、疑問点、自分で調べた事項などをノートに整理しておくこと。

標準学修時間の目安

1回の講義あたり0.5時間の予習と1.5時間の復習が必要となる。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

ノートあるいはレポートの提出後、コメントや評価を付して返却すると共に、模範的なものについては、授業の中で紹介していく。

使用教科書

	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	児童文化	皆川美恵子、武田京子	ななみ書房	987-4-903355-43-6
2				
3				

使用教科書備考

児童文化（皆川美枝子、武田京子編著、ななみ書房）

参考書・参考資料等

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

実務経験のある教員の略歴と教育内容

24年間の国語教師の経験をもとに、『言葉』、『保育内容総論』、『保育内容（言葉）』等の科目や教育実習に向けた読む力、書く力などについて指導を行う。また、12年間の公立小中学校での管理職、8年間の公立幼稚園長職の経験を生かし、『教育経営論』等の科目において、幼稚園等の経営の実際を基に、具体的・実践的な授業を行う

その他

・本科目履修生は、資料を綴るファイルとＢ５版のノートを持参すること。
・ノート、レポート等は点検し、評価する。

授業計画

第 1回　領域「言葉」と他領域との関連性－幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本を踏まえて
第 2回　領域「言葉」のねらい及び内容と全体構造の理解、指導上の留意点－小学校の教科等とのつながりを視野にいれて－
第 3回　言葉の育ちと保育者の役割－幼稚園教育における評価の考え方の理解との関連で
第 4回　児童文化財や言葉遊びを通じた保育の構想の重要性、他者との関係や集団の中での育ちの理解と援助に関わる知識・技術
第 5回　言葉遊びの実践－幼児の認識・思考の特性を視野にいれて－第 6回　言葉遊びの実践－幼児の動きの特性を視野にいれて－
第 7回　言葉に遅れがある子、障害のある子、外国籍の子に対する保育実践－指導上の留意点を踏まえて
第 8回　児童文化財（絵本、紙芝居、人形劇等）や言葉遊びとのかかわりを中心とした保育計画、生活や遊びでイメージを豊かにし、感性を養うための知識・技術
第 9回　指導案の構成の理解－具体的な指導案の事例を参照しながら－
第10回　指導案の作成と教材研究－具体的な保育を想定して－
遊具や用具、素材や教材等の特性の理解と活用・作成に必要となる知識・技術
第11回　模擬保育の実施１－絵本、紙芝居を中心に－
第12回　模擬保育の実施２－物語や素話を中心に－
第13回　自分たちの保育を改善する－模擬保育の振り返りを通じて－
第14回　情報機器及び教材の活用法を理解する－幼児の言葉体験との関連で－
第15回　保育実践の動向と保育構想の向上－幼児の言葉の発達の特性を踏まえて－

【学生に対する評価】
ノート、指導案、グループワーク、レポートによって総合的に評価する。

成績評価の方法(試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（%）	60	0	30	0	10	100

成績評価の基準（ルーブリック）

到達度	秀逸	優秀	良好	最低限
授業の到達目標に対する到達度の目安	幼稚園教育要領等に示された領域「言葉」のねらいと内容を関連させ、確実に理解できる。また、言葉に遅れがある子への配慮も含め発達に即した指導場面を想定し、豊かな言葉を育む保育を構想できる。さらに児童文化財や言葉遊びについて十分理解し、それを生かした指導案を作成し実践することで、実践的な指導力を身につけている。	幼稚園教育要領等に示された領域「言葉」のねらいと内容を関連させて理解することができる。また、言葉の発達に即した指導場面を想定し、豊かな言葉を育む保育を構想できる。さらには児童文化財や言葉遊びの特性を理解し、それらを生かした指導案を作成し実践することができる。	幼稚園教育要領等に示された領域「言葉」のねらいと内容を関連させ、概ね理解することができる。また、言葉の発達に即し、豊かな言葉を育む保育を構想することができる。さらには児童文化財や言葉遊びについて理解し、それを用いた指導案を作成することができる。	幼稚園教育要領等に示された領域「言葉」のねらいと内容をある程度まで理解することができる。また、言葉の発達に即し、豊かな言葉を育む保育を構想しようと努力することができる。さらには、児童文化財や言葉遊びを用いた指導案を構想し、その概要だけでも作成することができる。
該当DPに対する到達度の目安	保育者としての社会的使命を十分に認識し保育の専門知識を獲得できる。また幼児期に育むべき言葉のねらいや内容を確実に理解し、言葉の発達を促す能力を身につけている。さらには、子育ての環境を深く分析し課題や問題点を明らかにする能力を獲得すると共に地域や保護者等と密接に連携し、解決に向け熱心に取り組むことができる。	保育者としての社会的使命を認識し、専門的知識を獲得することができる。また幼児期に育むべき言葉のねらいや内容を理解し子どもの言葉の発達を促す能力を身につけることができる。さらに子育ての環境を分析し、課題や問題点を明らかにする能力を獲得すると共に、地域や保護者と連携し解決に向け継続して取り組むことができる。	保育者としての社会的使命を概ね認識し、保育の専門知識を獲得できる。また、幼児期に育むべき言葉のねらいや内容をある程度理解し言葉の発達を促す能力を得る努力ができる。さらには子育ての環境を理解し、課題や問題点を明らかにする能力を得ようと努めると共に、地域や保護者と連携し、解決に向けて取り組むことができる。	保育の専門知識ををある程度獲得することができる。また幼児期に育むべき言葉のねらいや内容を理解し言葉の発達を促す能力を身につけようと努力している。さらには子育ての環境をある程度理解し、課題を明らかにする能力を得ようと努め、地域や保護者と連携して解決に向けて取り組む努力をすることができる。

年度	2019	学科	保育学科	ナンバリング科目コード	33214	ICT活用	○
授業科目名	保育内容(表現)指導法					実務教員	―
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等	領域及び保育内容の指導法に関する科目						
配当年次	1年	期間	後期	必修区分	保幼		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	単独		
教員	山下　真由美						
該当ディプロマ・ポリシー ＤＰ項目番号	DP1.4.5.8.9 知識・技能(DP1～3)、思考力・判断力・表現力(DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力(DP7～9)						

授業のテーマ及び到達目標

1.幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「表現」のねらいや内容をもとに、幼児の発達を踏まえた表現及び多様な表現方法を理解する。
2.幼児の学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定した保育を構想する力や、保育を振り返り保育を改善する力を身に付ける。
3.子どもが表現の喜びを感得し、他者の表現に共感できる主体的・対話的な深い学びに導く保育構想及び指導法を身に付ける。

授業の概要

幼稚園教育要領及び保育所保育指針の領域「表現」のねらいや内容を理解し、幼児の発達を踏まえて多様な表現活動の展開を考える力を身に付ける。また、音楽表現、造形表現、身体表現、言語表現等の多様な表現活動を関連付けて考え、子どもの豊かな育ちを支える保育の構想を自ら考察する。指導案の作成や模擬保育の実施を通して教材の選択・活用の重要性を認識し、創意工夫した保育の構想及び保育を改善する力を身に付ける。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

復習に重点を置き、各自で授業内容をノートに記録しておくこと。手遊びの実践に関しては輪番制のため事前準備が必要である。授業前には、あらかじめテキストの該当箇所を読み、関連する事柄について資料の下調べも行うこと。

標準学修時間の目安

1回の講義にあたり、予習・復習を含めて2時間の学修が望ましい。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

課題（試験やレポート等）提出期限後の授業でコメントを付した課題（試験やレポート等）を返却する。

使用教科書

	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	子どもの音楽表現	石井玲子編著	保育出版社	978-4-938795-78-8
2				
3				

使用教科書備考

・実践しながら学ぶ子どもの音楽表現（石井玲子編著、保育出版社）
・その他授業内で適宜資料を配布する。

参考書・参考資料等

幼稚園教育要領（平成29年4月　文部科学省）、保育所保育指針（平成29年4月　厚生労働省）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年4月　文部科学省・厚生労働省）
小学校学習指導要領（平成29年度　文部科学省）

実務経験のある教員の略歴と教育内容

実務経験のある教員に該当しない。

その他

本授業は1単位45分であり、授業内において様々な表現の指導法を学ぶことから、授業前の準備や授業後の片付けなど、自らの手際を鑑みて自主的・主体的かつ迅速に行うことができるよう工夫すること。授業は、ML教室（第2音楽室）及び第1音楽室も使用する。その際は、ICTを活用した双方向型授業を実施する。

授業計画

第 1回　オリエンテーション、幼稚園教育要領の領域「表現」のねらい及び内容の確認・理解、子どもの生活と遊びにおける他者との関係や集団の中での育ちの理解と援助に関わる知識・技術
第 2回　幼児園教育の基本及び全体構造・保育実践の動向ーコダーイ・音楽と表現ー、イメージを豊かにし、感性を養うための知識・技術
第 3回　幼児園教育の基本及び全体構造・保育実践の動向ーフレーベル・遊びと表現ー
第 4回　幼稚園教育の基本及び全体構造・保育実践の動向ーモンテッソーリ・造形と表現ー
第 5回　幼稚園教育の基本及び全体構造・保育実践の動向ーシュタイナー・自然環境と表現ー
第 6回　指導案の作成・指導上の留意点及び評価の考え方、小学校教科との関連について
第 7回　幼児の認識、思考、動き等を踏まえた保育の構想の重要性の理解、教材の工夫と活用、素材や教材等の特性の理解とその活用や作成に必要な知識・技術
第 8回　協働的造形表現の取組と保育構想・表現の喜びと共感性ー壁面飾りの構想と表現技術ー
第 9回　協働的音楽表現の取組と保育構想・表現の喜びと共感性ー遊びと音楽表現ー
第10回　協働的身体表現の取組と保育構想・表現の喜びと共感性ー遊びと身体表現ー
第11回　環境構成と遊び・表現の展開ー専門領域の関連と表現技術及び教材・情報機器の活用
第12回　模擬保育の実施１－造形表現を中心とした指導法・保育構想－
第13回　模擬保育の実施２－音楽表現を中心とした指導法・保育構想－
第14回　模擬保育の実施３－身体表現を中心とした指導法・保育構想－
第15回　模擬保育の省察とまとめー保育の改善及び保育構想の向上－

【学生に対する評価】
授業態度、発表内容、小テスト、模擬保育、レポートを評価対象とする。

成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（%）	50	20	20	0	10	100

成績評価の基準（ルーブリック）

到達度	秀逸	優秀	良好	最低限
授業の到達目標に対する到達度の目安	幼稚園教育要領及び保育所保育指針の領域「表現」について、幼児の発達理解を踏まえて音楽表現、造形表現、身体表現、言語表現等を関連付け、子どもの育ちを支える保育を総合的に構想できる。教材の選択・活用の重要性を認識し、創意工夫した保育構想と感性を育てる指導法及び保育の改善案を他者と協働して考察・実践できる。	幼稚園教育要領及び保育所保育指針の領域「表現」について、幼児の発達理解を踏まえて音楽表現、造形表現、身体表現、言語表現等を関連付け子どもの育ちを支える保育を構想できる。教材の選択・活用の重要性を認識し、創意工夫した保育構想と感性を育てる指導法及び保育の改善案を他者と協働して考察できる。	幼稚園教育要領及び保育所保育指針の領域「表現」について、幼児の発達理解を踏まえて音楽表現、造形表現、身体表現、言語表現等の関連に意識をもち、子どもの育ちを支える保育の構想を試みることができる。教材の選択・活用の重要性を知り、創意工夫した保育構想と感性を育てる指導法及び保育の改善案を他者と共有することができる。	幼稚園教育要領及び保育所保育指針の領域「表現」について、幼児の発達理解を踏まえて音楽表現、造形表現、身体表現、言語表現等の関連に意識をもち、子どもの育ちを支える保育を断片的に構想することができる。教材の選択・活用を概ね理解し、感性を育てる指導法や保育の改善案について他者との共有に努めることができる。
該当DPに対する到達度の目安	保育・幼児教育に必要とされる表現活動に関わる専門的知識や技能を活用し、具体的指導法について充分に理解し示すことができる。身につけた技能や指導法を踏まえて、子どもの発達を鑑み、子ども理解に基づく保育内容表現の課題を自ら見出し、検討できる。他者と協働して保育を構想し、課題の改善に向けて考察・実践できる。	保育・幼児教育に必要とされる表現活動に関わる専門的知識や技能を活用し、具体的指導法について理解し示すことができる。身につけた技能や指導法を踏まえて、子どもの発達を鑑み、子ども理解に基づく保育内容表現の課題を自ら見出すことができる。他者と協働して保育を構想し、課題の改善に向けて考察できる。	保育・幼児教育に必要とされる表現活動に関わる専門的知識や技能を学び、具体的指導法について理解し、示すことができる。身につけた技能や指導法を踏まえて、子どもの発達を鑑み、子ども理解に基づく保育内容表現の課題について考えることができる。他者と協働して保育を構想し、課題の改善に向けて考察を試みることができる。	保育・幼児教育に必要とされる表現活動に関わる専門的知識や技能を知り、具体的指導法について概ね理解して示すことができる。習得段階である技能や指導法を基に、子どもの発達を鑑み、子ども理解に基づく保育内容表現の課題について考え、他者と協働した保育構想や課題の改善に向けて断片的であるが考察を試みることができる。

年度	2019	学科	保育学科	ナンバリング科目コード	33150	ICT活用	―
授業科目名	乳児保育Ⅰ					実務教員	○
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	1年	期間	前期	必修区分	保		
授業形態	講義	単位数	2	担当形態	オムニバス		
教員	松田　賢一／榊　ひとみ／佐々木　淑子						
該当ディプロマ・ポリシー ＤＰ項目番号	DP1,4,5 知識・技能(DP1～3)、思考力・判断力・表現力(DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力(DP7～9)						

授業のテーマ及び到達目標

0、1、2歳児の保育の内容・方法、そしてその質が、人間の一生の育ちや生活に深い影響を与えることが明らかになってきました。乳児や1、2歳児の保育では温かく丁寧な保育、受容的で応答的な保育が大切であることから、本講義では、次の到達目標に沿って行うことを目的とする。
1.乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について説明できる。
2.保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について説明できる。
3.３歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について説明できる。
4.乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について説明できる。

授業の概要

乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割、保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題、3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容運営体制、乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域機関との連携について理解を深める。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

・授業後はノート・プリントを振り返り、しっかり復習をしておくこと。
・ニュースや新聞等で乳幼児・子育てに関する記事等の収集に努める事。

標準学修時間の目安

1回の講義あたり予習・復習を含めて４時間の学習が望ましい。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

課題・レポートについては、各担当者からのコメントを付し、担当印を押し、学生に返却する。

使用教科書

	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	なし	－	－	－
2				
3				

使用教科書備考

なし

参考書・参考資料等

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

実務経験のある教員の略歴と教育内容

佐々木淑子氏は、保育所での保育士・園長としての立場から、乳児保育について現場の実態について授業を行う。

その他

・オムニバス授業であることから、各担当教員の指示に従う事。
・必要に応じて、授業内で提示した課題について、グループワークを行い、その結果をプレゼンテーションしてもらう。

授業計画

第 1回　乳児保育の意義・目的と役割①　乳児保育の意義・目的と歴史的変遷（松田）
第 2回　乳児保育の意義・目的と役割②　乳児保育の役割と機能（松田）
第 3回　乳児保育の意義・目的と役割③　乳児保育における養護及び教育（松田）
第 4回　乳児保育の現状と課題①　乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題（榊）
第 5回　乳児保育の現状と課題②　保育所における乳児保育（榊）
第 6回　乳児保育の現状と課題③　保育所以外の児童福祉施設（乳児院等）における乳児保育（榊）
第 7回　乳児保育の現状と課題④　家庭的保育等における乳児保育（榊）
第 8回　乳児保育の現状と課題⑤　３歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場（榊）
第 9回　３歳未満児の発育・発達を踏まえた保育①　３歳未満児の生活と遊びと環境（佐々木）
第10回　３歳未満児の発育・発達を踏まえた保育②　３歳以上児の保育に移行する時期の保育（佐々木）
第11回　３歳未満児の発育・発達を踏まえた保育③　３歳未満児の発育・発達を踏まえた保育士等による援助や関わり（佐々木）
第12回　３歳未満児の発育・発達を踏まえた保育④　３歳未満児の発育・発達を踏まえた保育における配慮（佐々木）
第13回　歳未満児の発育・発達を踏まえた保育⑤　乳児保育における計画・記録・評価とその意義（佐々木）
第14回　乳児保育における連携・協働①　職員間の連携・協働／保護者との連携・協働　（佐々木）
第15回　乳児保育における連携・協働②　自治体や地域の関係機関等との連携・協働（佐々木）
定期試験

【学生に対する評価】
授業態度、試験、ノート提出等により総合的に評価する。

成績評価の方法(試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（%）	40	0	40	0	20	100

成績評価の基準（ルーブリック）

到達度	秀逸	優秀	良好	最低限
授業の到達目標に対する到達度の目安	乳児保育の意義・目的・歴史的変遷及び役割と乳児保育の現状と課題について理解し、３歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制並びに乳児保育における関係機関との連携について説明できる。	乳児保育の意義・目的・歴史的変遷及び役割と乳児保育の現状と課題について理解し３歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制並びに乳児保育における関係機関について他者に伝えることができる。	乳児保育の意義・目的・歴史的変遷、３歳未満児の発育・発達、乳児保育における関係機関について理解している。	乳児保育の意義・目的・歴史的変遷、３歳未満児の発育・発達、乳児保育における関係機関について断片的であるが理解している。
該当DPに対する到達度の目安	乳児保育の意義・目的・歴史的変遷及び役割と乳児保育の現状と課題、３歳未満児の発育・発達、関係機関との連携について知識・技能としてしっかり身につけている。	乳児保育の意義・目的・歴史的変遷及び役割と乳児保育の現状と課題、３歳未満児の発育・発達、関係機関との連携について身につけようと努力することができる。	乳児保育の意義・目的・歴史的変遷及び役割と乳児保育の現状と課題、３歳未満児の発育・発達と関係機関への連携についてある程度発信できる。	乳児保育の意義・目的・歴史的変遷及び役割と乳児保育の現状と課題、３歳未満児の発育・発達と関係機関について他者へ発信することがほとんどできない。

年度	2019	学科	保育学科	ナンバリング科目コード	33250	ICT活用	―
授業科目名	乳児保育Ⅱ					実務教員	○
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	1年	期間	後期	必修区分	保		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	オムニバス		
教員	小澤　真由美／佐々木　淑子						
該当ディプロマ・ポリシー ＤＰ項目番号	DP1,2,4,5,6 知識・技能(DP1～3)、思考力・判断力・表現力(DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力(DP7～9)						

授業のテーマ及び到達目標

乳児期の発達については、視覚、聴覚などの感覚や、座る、はう、歩くなどの運動機能が著しく発達し、特定の大人との応答的な関わりを通じて、情緒的な絆が形成されるという特徴がある。これらの発達を踏まえて、乳児保育は、愛情豊かに、応答的におこなわれることが必要とされることを基本にし、本講義では、次の到達目標を達成することを目的におこなう。
1．３歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について説明できる。
2．養護及び教育の一体性を踏まえ、３歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に説明できる。
3．乳児保育における配慮の実際について、具体的に説明できる。
4．上記１～３を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に説明できる。

授業の概要

3歳児未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的考え方、養護と教育の一体性を踏まえ、3歳児未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境、入試保育の配慮の実際、乳児保育における計画の作成についての理解を深める。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

・授業後、ノート・プリントを振り返りをすること。翌週復習をする。
・ニュース・新聞・Webページ等で乳児保育、子育てに関する記事の収集に努める事。

標準学修時間の目安

１回の講義あたり予習・復習を含め２時間の学修が望ましい。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

課題提出の場合は、担当教員のコメントを付し、担当印を押し学生に返却する。

使用教科書

	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	なし	－	－	－
2				
3				

使用教科書備考

なし

参考書・参考資料等

・幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領
・適宜資料を配布する

実務経験のある教員の略歴と教育内容

・佐々木淑子氏は、保育所の園長として乳児保育の基本と乳児保育の配慮と実際について、現場での立場から授業をおこなう。
・小澤真由美氏は、保育所の園長として、乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びについて、現場での立場から授業をおこなう。

その他

・オムニバス形式の授業なので、それぞれの講義の担当教員の指示にしたがうこと。
・必要に応じて、授業内で提示した課題について、グループワークを行い、その結果をプレゼンテーションしてもらう。

授業計画

第 1回　乳児保育の基本①　子どもと保育士等との関係の重要性（佐々木）
第 2回　乳児保育の基本②　個々の子どもに応じた援助や受容的・応答的な関わり（佐々木）
第 3回　乳児保育の基本③　子どもの主体性の尊重と自己の育ち（佐々木）
第 4回　乳児保育の基本④　子どもの体験と学びの芽生え（佐々木）
第 5回　乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際①　子どもの１日の生活の流れと保育の環境（小澤）
第 6回　乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際②　子どもの生活や遊びを支える環境の構成（小澤）
第 7回　乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際③　３歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際（小澤）
第 8回　乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際④　３歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実際（小澤）
第 9回　乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際⑤　子ども同士の関わりとその援助の実際（小澤）
第10回　乳児保育における配慮の実際①　子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮（佐々木）
第11回　乳児保育における配慮の実際②　集団での生活における配慮（佐々木）
第12回　乳児保育における配慮の実際③　環境の変化や移行に対する配慮（佐々木）
第13回　乳児保育における計画の実際①　長期的な指導計画と短期的な指導計画（佐々木）
第14回　乳児保育における計画の実際②　個別的な指導計画と集団の指導計画（佐々木）
第15回　全体のまとめ　（佐々木）
定期試験

【学生に対する評価】
授業態度、試験、ノート提出等により総合的に評価する。

成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（%）	40	0	40	0	20	100

成績評価の基準（ルーブリック）

到達度	秀逸	優秀	良好	最低限
授業の到達目標に対する到達度の目安	３歳未満児の発育・発達の特性を捉えた援助の仕方、養護と教育の一体性を踏まえた、子どもの生活や遊び、乳児保育における配慮の実際について理解し、他者に詳細かつ適切な説明ができる。	３歳未満児の発育・発達の特性を捉えた援助の仕方、養護と教育の一体性を踏まえた、子どもの生活や遊び、乳児保育における配慮の実際について、他者に適切に伝えることができる。	３歳未満児の発育・発達の特性を捉えた援助の仕方、養護と教育の一体性を踏まえた、子どもの生活や遊び、乳児保育における配慮の実際について理解している。	３歳未満児の発育・発達の特性を捉えた援助の仕方、養護と教育の一体性を踏まえた、子どもの生活や遊び、乳児保育における配慮の実際について断片的であるが理解している。
該当DPに対する到達度の目安	３歳未満児の特性を捉えた援助の仕方、養護と教育の一体性を踏まえた、子どもの生活や遊びについて他者への発信力を身に付けている。	３歳未満児の特性を捉えた援助の仕方、養護と教育の一体性を踏まえた、子どもの生活や遊びについて他者への発信に向け努力することができる。	３歳未満児の特性を捉えた援助の仕方、養護と教育の一体性を踏まえた、子どもの生活や遊びについてある程度他者へ発信できる。	３歳未満児の特性を捉えた援助の仕方、養護と教育の一体性を踏まえた、子どもの生活や遊びについて他者への発信を行うことがほとんどできない。

年度	2019	学科	保育学科	ナンバリング科目コード	33240	ICT活用	―
授業科目名	子どもの健康と安全					実務教員	○
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	1年	期間	後期	必修区分	保		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	単独		
教員	川村　幾代						
該当ディプロマ・ポリシー ＤＰ項目番号	DP1.2.3 知識・技能(DP1～3)、思考力・判断力・表現力(DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力(DP7～9)						

授業のテーマ及び到達目標

近年の社会の動きや子どもの育ちをめぐる環境の変化を踏まえて、アレルギー疾患への対応を充実させ、より丁寧に対応することが求められる。また、小さな子どもは、まだ免疫力が十分ではないことから、感染症などが発生しやすくなることから、園全体での取り組みが必要となります。さらには、子どもが安全で過ごしやすい保育環境が大切であることから、本講義では、国からのガイドラインを踏まえ、次の到達目標を達成することを目的とする。１．保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について説明できる。２．関連するガイドライン（※）や近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について、具体的に説明できる。３．子どもの体調不良等に対する適切な対応について、具体的に説明できる。４．関連するガイドライン（※）や近年のデータ等を踏まえ、保育における感染症対策について、具体的に説明できる。５．保育における保健的対応の基本的な考えを踏まえ、関連するガイドライン（※）や近年のデータ等に基づく、子どもの発達や状態等に即した適切な対応について、具体的に説明できる。６．子どもの健康及び安全の管理に関わり、組織的取組や保健活動の計画及び評価等について具体的に説明できる。

授業の概要

子どもの健康と安全では、上記のガイドラインを参照し、保健的観点を踏まえた保育環境や援助、子どもの体調不良等に関する適切な対応、子どもの健康及び安全の管理に係る、組織的取組や保健活動の計画及び評価について具体的に理解を深める。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

予習は、授業日までに教科書の該当箇所を読んでおき、当日の演習がスムーズに行えるようにする。また、行った演習が技術として身につくように、可能なものは個別で演習の振り返りを行っておくこと。

標準学修時間の目安

1回の講義当たり予習・復習それぞれ、1時間程度の学修が望ましい。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

再試験対象者には模範的内容を提示し返却指導いたします。

使用教科書

	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	子どもの健康と安全	野原八千代	建帛社	978-4-7679-5094-5
2				
3				

使用教科書備考

幼稚園指導要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

参考書・参考資料等

必要時プリントを配布します。

実務経験のある教員の略歴と教育内容

病院および施設にて看護師、養護教諭として子どもの健康に関わる業務を行ってきた経験から、学生に身になりような「子どもの安全と健康」に関する知識を伝えていきたい。

その他

「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」(平成23年3月、厚生労働省)、「2018年改訂版　保育所における感染症対策ガイドライン」(平成30年3月、厚生労働省)、「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」(平成28年3月、内閣府・文部科学省・厚生労働省)等

授業計画

第 1回　保健的観点を踏まえた保育環境及び援助①　子どもの健康と保育の環境
第 2回　保健的観点を踏まえた保育環境及び援助②　子どもの保健に関する個別対応と集団全体の健康及び安全の管理
第 3回　保育における健康及び安全の管理①　衛生管理
第 4回　保育における健康及び安全の管理②　事故防止及び安全対策
第 5回　保育における健康及び安全の管理③　危機管理と災害への備え
第 6回　子どもの体調不良等に対する適切な対応①　体調不良や傷害が発生した場合の対応
第 7回　子どもの体調不良等に対する適切な対応②　応急処置と救急処置及び救急蘇生法
第 8回　感染症対策①　感染症の集団発生の予防
第 9回　感染症対策②　感染症発生時と罹患後の対応
第10回　保育における保健的対応①　保育における保健的対応の基本的考え方
第11回　保育における保健的対応②　3歳未満児への対応
第12回　保育における保健的対応③　個別的な配慮を要する子どもへの対応（慢性疾患、アレルギー性疾患等）
第13回　保育における保健的対応④　障害のある子どもへの対応
第14回　健康及び安全の管理の実施体制①　職員間の連携・協働と組織的取組、保育における保健活動の計画及び評価
第15回　健康及び安全の管理の実施体制②　母子保健・地域保健における自治体との連携、 家庭、専門機関、地域の関係機関等との連携
定期試験

【学生に対する評価】
授業態度、試験、ノート提出等により総合的に評価する。

成績評価の方法(試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（%）	40	20	10	0	30	100

成績評価の基準（ルーブリック）

到達度	秀逸	優秀	良好	最低限
授業の到達目標に対する到達度の目安	乳幼児の特性を踏まえた感染症対策の基本、アレルギーへの対応、事故防止、事故発生時の対応方法を理解し、自ら問題意識を持ち、且つ積極的に学ぶ姿勢がみられる。	乳幼児の特性を踏まえた感染症対策の基本、アレルギーへの対応、事故防止、事故発生時の対応方法をしっかりと理解できている。	乳幼児の特性を踏まえた感染症対策の基本、アレルギーへの対応、事故防止、事故発生時の対応方法を、おおむね理解できている。	乳幼児の特性を踏まえた感染症対策の基本、アレルギーへの対応、事故防止、事故発生時の対応方法を断片的に理解できている。授業に意欲がない。
該当DPに対する到達度の目安	子どもの健康と安全について、各ガイドラインをもとに、実践に結びつく知識を的確に、身に付けるとともに、自ら問題意識をもって解決する力を身に付けることができている。	子どもの健康と安全について、各ガイドラインをもとに、実践に結びつく知識を的確に、身に付けるよう努力できている。	子どもの健康と安全について、各ガイドラインをもとに、実践に結びつく知識をある程度、身に付けることができている。	子どもの健康と安全について、各ガイドラインをもとに、実践に結びつく知識を断片的あるいは部分的にしか、身に付けることができていない。

年度	2019	学科	保育学科	ナンバリング科目コード	33220	ICT活用	―
授業科目名	コミュニケーション・スキルⅠ					実務教員	○
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	1年	期間	後期	必修区分	[保選]		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	単独		
教員	小林　博子						
該当ディプロマ・ポリシー ＤＰ項目番号	DP2,3,5,6,8,9 知識・技能(DP1～3)、思考力・判断力・表現力(DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力(DP7～9)						

授業のテーマ及び到達目標

1．将来、社会人として基本的な挨拶、感謝、謝罪ができるようになる。
2．相手の話を態度も含めてしっかりと聴くように努める
3．適切な人間関係を築くために必要な思考・スキルを身につけるよう努力する。
4．相手の良いところを探し、記録し、相手に言葉で伝えることができるようになる。
5．場面に応じて適切な言葉を選び、敬語を使うように心がける。

授業の概要

価値観が多様化するなかで、保育者を取り巻く環境も大きく変化している。そのような環境において、対応力を備えるために必要なコミュニケーション方法の基礎を学ぶ。特に1年後期2月には、保育所での観察実習がある。長い一日を園で過ごす子どもたちの姿、保育所で働く保育士の職務内容を、自身の目で観察することを通して、授業では得られない新たな気づきがある。良き気づきを得るためにも、そこで働く保育士とのコミュニケーションを円滑にするためのスキル（聴くこと、話すこと）を習得する。それだけではなく、保育士・社会人としての一歩を踏み出すための基礎的なスキルを習得することを目標とする。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

予習、復習、準備学習については、その都度伝えます。

標準学修時間の目安

次回の講義までに予習・復習を含めて2時間の学修が望ましい。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

採点後課題返却、ミニテストや自己チェックリストの確認で得手不得手を知り、次回の講座まで正しい知識・より良いスキルを身に付けられるようにする。

使用教科書

	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	なし	－	－	－
2				
3				

使用教科書備考

資料は適宜配布する。

参考書・参考資料等

なし

実務経験のある教員の略歴と教育内容

小林博子氏は、41年間幼稚園教諭・園長としての職にあり、これまで有能な保育者を育ててきた実績から、専門的職業人としての基礎部分についてしっかり講義する。

その他

なし

授業計画

第 1回　オリエンテーション：授業の概要と目標、評価方法
第 2回　挨拶・感謝・謝罪を場面に応じて、適切に行えるようになる。
第 3回　自己紹介の仕方
第 4回　上手な聴き方
第 5回　上手な質問の仕方
第 6回　敬語の使い方
第 7回　あたたかい言葉がけ
第 8回　気持ちをわかって働きかける
第 9回　子どもや保護者を観察する視点
第10回　観察と記録の方法
第11回　保育者とのコミュニケーション
第12回　幼児への働きかけ（０・１・２歳児とのコミュニケーション）
第13回　幼児への働きかけ（３・４・５歳児とのコミュニケーション、話を引き出す等）
第14回　保護者とのコミュニケーション（保護者との話し方、電話対応）
第15回　まとめ（保育者になる上でのコミュニケーションの重要性）

【学生に対する評価】
授業への取り組みや態度、提出課題を総合して評価

成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（%）	0	0	50	0	50	100

成績評価の基準（ルーブリック）

到達度	秀逸	優秀	良好	最低限
授業の到達目標に対する到達度の目安	1年次後期に保育所での観察実習がある。保育所で働く保育士の職務内容、自身の目で観察することを通して、授業では得られない新たな気づきがある。そこで働く保育士とのコミュニケーションを円滑にするためのスキルを習得し、他者に詳細な情報を伝えることができる。	1年次後期に保育所での観察実習がある。保育所で働く保育士の職務内容、自身の目で観察することを通して、授業でき得られない新たな気づきがある。そこで働く保育士とのコミュニケーションを円滑にするためのスキルを理解し、それらを他者に適切に伝えることができる。	1年次後期に保育所での観察実習がある。保育所で働く保育士の職務内容、自身の目で観察することを通して、授業で得られない新たな気づきがある。それらについて、理解している。	1年次後期に保育所での観察実習がある。保育所で働く保育士の職務内容、自身の目で観察することを通して、授業で得られない新たな気づきがある。それらを断片的であるが理解している。
該当DPに対する到達度の目安	1年次後期に保育所での観察実習がある。そこでは座学では得られない保育士の職務内容等を学び、専門的職業人としての大切なコミュニケーション力と社会人力について理解をし、関連する情報の継続的な収集と他者への発信力を身に付けている。	1年次後期に保育所での観察実習がある。そこでは座学では得られない保育士の職務内容等を学び、専門的職業人としての大切なコミュニケーション力と社会人力について理解し、他者への発信、課題解決に向けて努力することができる。	1年次後期に保育所での観察実習がある。そこでは座学では得られない保育士の職務内容等を学び、専門的職業人としての大切なコミュニケーション力と社会人力について理解し、ある程度の情報の収集と他者への発信ができる。	1年次後期に保育所での観察実習がある。そこでは座学では得られない保育士の職務内容等を学び、専門的職業人としての大切なコミュニケーション力と社会人力について理解できず、関連する情報の収集や他者への発信をおこなうことがほとんどできない。

年度	2019	学科	保育学科	ナンバリング科目コード	34110	ICT活用	―
授業科目名	保育実習指導Ⅰ					実務教員	○
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	1年	期間	通年	必修区分	保		
授業形態	演習	単位数	2	担当形態	複数		
教員	松田　賢一／岡﨑　圭子／榊　ひとみ						
該当ディプロマ・ポリシー ＤＰ項目番号	DP1,2,3,4,5,7,9 知識・技能(DP1～3)、思考力・判断力・表現力(DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力(DP7～9)						

授業のテーマ及び到達目標

保育実習の意義・目的・内容等を理解し、保育実習がより効果的に実施できることを目的とする。
1 保育実習の意義・目的を理解する
2 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする
3 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する
4 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する
5 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする

授業の概要

本講義では、保育実習の意義・目的・内容を理解し、今後の学習に向けた課題や目標を明確にすることである。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

・保育実習指導ファイルを整理して、毎回持参すること。
・やむなく欠席した場合は、授業担当者を訪ね個別に授業内容を確認すること。

標準学修時間の目安

1回の講義当たり、予習・復習を含め2時間の学習が望ましい。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

指導案や見学時レポート等は、担当者が確認後返却する。

使用教科書

	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	保育所保育指針解説書	厚生労働省編	フレーベル館	9784577814482
2	幼稚園教育要領解説	文部科学賞	フレーベル館	9784577814475
3	教育・保育要領解説	使用教科書備考欄参照	フレーベル館	9784577814499

使用教科書備考

3.幼保連携型認定こども園　教育・保育要領解説　著者名：内閣府・文部科学省・厚生労働省

参考書・参考資料等

必要に応じてその都度プリントを配布する。

実務経験のある教員の略歴と教育内容

岡﨑圭子氏は、長きに渡り函館市役所に勤務し、子ども未来部長を経験している。また、保育士資格を取得した経歴から、適切な保育実習に必要な技術を身に付けるための実習指導を行う。

その他

施設見学・施設実習に関連しては、必要に応じてプリントを配布する。

授業計画

第 1回　保育実習の意義、実習の目的、実習の概要について
第 2回　保育実習の内容と課題の明確化について(実習の内容、実習の課題)
第 3回　保育実習Ⅰ　保育所の実習について
第 4回　保育実習Ⅰ　施設の実習について
第 5回　保育計画の実際①保育課程や指導計画
第 6回　保育計画の実際②日案、部分指導案の立案と実践
第 7回　保育内容の研究①(手遊び)
第 8回　保育内容の研究②(絵本・紙芝居)
第 9回　保育計画の実際③　(部分指導案の検討)
第10回　保育内容の研究③(ジャンケン遊び)
第11回　保育内容の研究④(素話)
第12回　保育計画の実際④(部分指導案の修正)
第13回　実習に際しての留意事項(子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務、実習生としての心構え)
第14回　保育実習の学び:先輩に学ぶ
第15回　実習園調査と実習希望調査書の記入について
第16回　実習希望調査書の提出、保育所の子育て機能を学ぶ
第17回　保育実習Ⅰ(施設)に関連し、施設見学オリエンテーション
第18回　児童福祉施設の見学・参観①(児童養護施設の概要説明)
第19回　児童福祉施設の見学・参観②(児童養護施設内の見学)
第20回　児童福祉施設の見学・参観③(障害者入所施設の概要説明)
第21回　児童福祉施設の見学・参観④(障碍者入所施設の見学)
第22回　保育実習Ⅰ施設、保育実習Ⅲについて
第23回　実習関連書類の作成
第24回　実習中の子どもとのかかわり
第25回　実習記録の意義と内容、方法
第26回　実習の計画と記録(実習における計画と実践、実習における観察、記録及び評価)
第27回　実習生としての心構え2
第28回　自己課題の設定と発表
第29回　実習ガイダンス、実習事前訪問オリエンテーション
第30回　事後指導における実習の総括と課題の明確化、実習報告会・実習の総括と自己評価・実習事後指導・課題の明確化

【学生に対する評価】
実習課題、実習日誌、実習報告書、実習報告発表会の内容を総合的に評価する

成績評価の方法(試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（%）	0	40	40	0	20	100

成績評価の基準（ルーブリック）

到達度	秀逸	優秀	良好	最低限
授業の到達目標に対する到達度の目安	保育実習の意義・目的と自分の課題を明確に出来、実習の計画・観察・実践・記録・評価の方法等が具体的に理解でき、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や目標を明確にできる。	保育実習の意義・目的と自分の課題を明確に出来、実習の計画・観察・実践・記録・評価の方法等が具体的に理解でき、他者に伝えることができる。	保育実習の意義・目的と自分の課題を明確に出来、実習の計画・観察・実践・記録・評価の方法等が具体的に理解している。	保育実習の意義・目的と自分の課題を明確に出来、実習の計画・観察・実践・記録・評価の方法等が断片的であるが理解している。
該当DPに対する到達度の目安	保育実習の意義・目的と自分の課題を明確に出来、実習の計画・観察・実践・記録・評価の方法等が他者へ発信できる力を身に付けている。	保育実習の意義・目的と自分の課題を明確に出来、実習の計画・観察・実践・記録・評価の方法等が他者への発信と問題解決に向けての努力することができる。	保育実習の意義・目的と自分の課題を明確に出来、実習の計画・観察・実践・記録・評価の方法等がある程度他者への発信ができる。	保育実習の意義・目的と自分の課題を明確に出来、実習の計画・観察・実践・記録・評価について他者へ発信を行うことがほとんどできない。

年度	2019	学科	保育学科	ナンバリング科目コード	31420	ICT活用	―
授業科目名	保育現場の幼児教育					実務教員	―
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	２年	期間	後期	必修区分	[保選]		
授業形態	演習	単位数	2	担当形態	単独		
教員	松田　賢一						
該当ディプロマ・ポリシー ＤＰ項目番号	DP4,7,8 知識・技能(DP1～3)、思考力・判断力・表現力(DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力(DP7～9)						

授業のテーマ及び到達目標

保育所が幼児教育を担う機関として位置づけられたことにより、乳児と1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容、特に3つの視点の理解、生きる力の基礎となる育みたい資質・能力等を総合的に理解した上で、保育現場での子どもの姿を可視化した、実践例について学ぶ。
1.保育所が幼児教育を担う機関であることを説明できる。
2.乳児保育の3つの視点「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人との気持ちが通じ合う」「身近なものとのかかわりや感性が育つ」を説明できる。また、現場での実践例を説明できる。
3.育みたい資質・能力を説明できる。
4.幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を説明できる。
5.小学校への接続について説明できる。

授業の概要

保育所保育指針改定のポイントは、保育所も幼児教育をおこなう施設としての位置づけ、乳児と1歳以上3歳未満児の保育、特に「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちが通じ合う」「身近なものとのかかわり感性が育つ」で保育を評価することが示された。さらには、小学校への接続をスムーズにするため「幼児期の終わりまで育ってほしい姿」を共有していくことになった。これらを総合的に理解し、保育現場での子どもの姿を可視化した、幼児教育の実践例について具体的に学ぶ。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

毎週前回の復習と次週への課題が出されるので、それらをしっかり確認し学修すること。

標準学修時間の目安

次回の講義までに事前学習(2時間)と事後学習(2時間)程度の学修が望ましい。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

課題については、担当教員確認後、担当印を押し、コメントを付し、学生に返却します。

使用教科書

	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	なし	－	－	－
2				
3				

使用教科書備考

なし

参考書・参考資料等

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

実務経験のある教員の略歴と教育内容

実務経験のある教員に該当しない

その他

・A4のノートを用意すること。
・必要に応じてプリントを配布する。

授業計画

第 1回　オリエンテーション(保育所の役割)
第 2回　養護と教育の一体性
第 3回　乳児保育の3つの視点
　「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちが通じ合う」「身近なものとのかかわり感性が育つ」のポイント
第 4回　「健やかに伸び伸びと育つ」のねらいと内容に沿って幼児教育の実践例の理解
第 5回　「身近な人と気持ちが通じ合う」のねらいと内容に沿って幼児教育の実践例の理解
第 6回　「身近なものとのかかわり感性が育つ」のねらいと内容に沿って幼児教育の実践例の理解
第 7回　乳児保育の現場での子どもの姿を可視化した幼児教育の実践例報告・解説・改善
第 8回　1歳以上3歳未満児の現場での子どもの姿を可視化した幼児教育の実践例報告・解説・改善
第 9回　3歳以上児の現場での子どもの姿を可視化した幼児教育の実践例報告・解説・改善
第10回　育みたい資質・能力(1知識・技能、2思考力、判断力、表現力　3学びに向かう力、人間性)
第11回　幼児期の終わりまで育ってほしい姿(10の姿)
第12回　幼児期の終わりまで育ってほしい姿から小学校への接続の考え方
第13回　小学校との接続の具体的な内容
第14回　子どもの育ちを支える保育所児童保育要領
第15回　まとめ

【学生に対する評価】
(試験やレポートの評価基準など)

成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（%）	30	0	50	0	20	100

成績評価の基準（ルーブリック）

到達度	秀逸	優秀	良好	最低限
授業の到達目標に対する到達度の目安	保育所保育指針が改定され保育所も幼児教育をおこなう施設として位置づけられ乳児と1歳児j以上3歳児未満の保育について3つの視点に留意し保育を評価することができる。育みたい資質・能力並びに幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を理解し、他者に詳細かつ適切な情報として伝えることができる。	保育所も幼児教育をおこなう施設であること、乳児と1歳児以上3歳児未満の保育についての評価、育みたい資質・能力並びに幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を理解し、それらを他者に適切な情報として伝えることができる。	保育所も幼児教育をおこなう施設であること、育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿について理解している。	保育所も幼児教育をおこなう施設であること、育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿について断片的であるが理解している。
該当DPに対する到達度の目安	保育所も幼児教育をおこなう施設として位置づけられ乳児と1歳児以上3歳児未満の保育について3つの視点に留意し保育を評価することができる。育みたい資質・能力並びに幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を理解し、専門的職業人に必要な社会人力・コミュニケーション力が身についている。	保育所も幼児教育をおこなう施設として位置づけられ育みたい資質・能力並びに幼児期の終わりまで育ってほしい姿を理解し、専門的職業人としての社会人力・コミュニケーション力が身につき、課題解決に向けて努力することができる。	保育所も幼児教育をおこなう施設として位置づけられ育みたい資質・能力並びに幼児期の終わりまで育ってほしい姿を理解し、ある程度の情報の収集と他者への発信ができる。	保育所も幼児教育をおこなう施設として位置づけられたこと、育みたい資質・能力並び幼児期の終わりまで育ってほしい姿を理解できず、他者への発信がほとんどできない。

年度	2019	学科	保育学科	ナンバリング科目コード	32210	ICT活用	―
授業科目名	子ども家庭支援の心理学					実務教員	―
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	２年	期間	後期	必修区分	保心		
授業形態	講義	単位数	2	担当形態	単独		
教員	赤坂　和哉						
該当ディプロマ・ポリシー ＤＰ項目番号	DP1,5,7,9 知識・技能(DP1～3)、思考力・判断力・表現力(DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力(DP7～9)						

授業のテーマ及び到達目標

早期の発達を中心にした生涯発達に関する基礎的な知識および家庭の意義、家族関係等の発達の及ぼす影響、家庭をめぐる現代の諸問題等に関する知見の習得を目指す。
1. 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。
2. 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達的な観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。
3. 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。
4. 子どもの精神保健とその課題について理解する。

授業の概要

生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、家族・家庭の意義や機能、親子関係や家族関係等が関与する発達における初期経験の重要性及び発達課題等を学び、また、子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題についても理解を深める。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

・予習や準備学習：時間的に余裕のある学生には、図書館にある「子育て」や「発達心理学」という言葉が入っている図書等で、シラバスに示されている各回の内容を一読して、資料の下調べをしておくこと。
・復習：毎回様々な心理学用語が出てくるので、それが何を意味するのか理解し、資料の下調べにて理解を深めること。

標準学修時間の目安

1回の講義につき、2時間の予習と2時間の復習が望ましい。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

定期試験後、追試代わりのレポート対象者のみに問題解答用紙を返却する。
尚、解答は研究室前の掲示板に掲示する。

使用教科書

	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	なし	―	―	―
2				
3				

使用教科書備考

講義内で適宜資料を配付する。

参考書・参考資料等

伊藤篤『保育の心理学』（ミネルヴァ書房、2017年）

実務経験のある教員の略歴と教育内容

実務経験のある教員に該当しない。

その他

授業の進行状況に応じて、グループディスカッションやグループワークを行う。

授業計画

第 1回　オリエンテーション：授業の概要と目標、評価方法
第 2回　乳幼児期から学童期前期にかけての発達
第 3回　学童期後期から青年期にかけての発達
第 4回　成人期における発達
第 5回　老人期における発達
第 6回　家族・家庭の意義と機能
第 7回　親子関係・家族関係の理解
第 8回　子育ての経験と親としての育ち
第 9回　子育てを取り巻く社会的状況
第10回　ライフコースと仕事・子育て
第11回　多様な家庭とその理解
第12回　特別な配慮を要する家族
第13回　子どもの生活・生育環境とその影響
第14回　子どもの心の健康に関わる問題
第15回　まとめ

【学生に対する評価】
出席態度（発言、出席等）および定期試験

成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（%）	50	0	0	0	50	100

成績評価の基準（ルーブリック）

到達度	秀逸	優秀	良好	最低限
授業の到達目標に対する到達度の目安	早期の発達生涯発達に関する基礎的な知識および家庭の意義、家族関係等の発達に及ぼす影響、家庭をめぐる現代の諸問題等に関する知識を、十分に理解し、説明することができ、実践に応用できる。	早期の発達生涯発達に関する基礎的な知識および家庭の意義、家族関係等の発達に及ぼす影響、家庭をめぐる現代の諸問題等に関する知識を、十分に理解し、説明することができる。	早期の発達生涯発達に関する基礎的な知識および家庭の意義、家族関係等の発達に及ぼす影響、家庭をめぐる現代の諸問題等に関する知識を、十分に理解している。	早期の発達生涯発達に関する基礎的な知識および家庭の意義、家族関係等の発達に及ぼす影響、家庭をめぐる現代の諸問題等に関する知識を、言葉の上で理解している。
該当DPに対する到達度の目安	保育と子育て支援に必要な知識と技術を有すると共にその知識と技術を生かして物事を適切に評価でき、様々な場面に応用できる。また、他者への思いやり、柔軟な対応力、専門職業人としての高い倫理観を身につけている。	保育と子育て支援に必要な知識と技術を有すると共にその知識と技術を生かして物事を適切に評価できる。また、他者への思いやり、柔軟な対応力、専門職業人としての高い倫理観を身につけている。	保育と子育て支援に必要な知識と技術を有し、その知識と技術を生かして物事を適切に評価する努力をすることができる。また、他者への思いやり、柔軟な対応力、専門職業人としての高い倫理観の重要性を理解している。	保育と子育て支援に必要な最低限の知識と技術を有し物事を適切に評価する努力をすることができる。また他者への思いやり、柔軟な対応力、専門職業人としての高い倫理観の重要性を理解している。

年度	2019	学科	保育学科	ナンバリング科目コード	32220	ICT活用	―
授業科目名	幼児理解					実務教員	―
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目						
配当年次	２年	期間	前期	必修区分	保幼		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	単独		
教員	木村　美佐子						
該当ディプロマ・ポリシー ＤＰ項目番号	DP1,4,5 知識・技能(DP1～3)、思考力・判断力・表現力(DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力(DP7～9)						

授業のテーマ及び到達目標

幼児理解は、幼稚園教育のあらゆる営みの基本となるものである。本授業では、保育の基本となる幼児理解についての知識を幼児の生活や遊びの実態に即して学び、保育者としての基本となる態度や考え方を理解する。さらには、観察や資料などから、幼児理解の具体的な方法を理解することをねらいとする。
・保育における幼児理解の重要性を説明できる。
・幼児理解を深めるための方法と保育者の態度を説明できる。
・幼児の姿から学びやつまずきを理解し、適切に記録して分析することができる。
・幼児理解に基づいた適切な援助の在り方を考えることができる。

授業の概要

幼児期にふさわしい教育を行うために、保育者は一人一人の幼児に対する理解を深めることが求められる。本授業では、保育における幼児理解の重要性と幼児理解の方法を具体的にを学び、観察及び資料等の具体的な事例を通して適切な援助の在り方についてグループワークにより分析・考察し、実践力を養う。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

・実習で出会った子どもたちの様々なエピソードを記録しておくこと
・授業の到達目標を確認し、その日の授業内容をプリントやノートにまとめておくこと

標準学修時間の目安

1回の講義あたり、1時間の予習と1時間の復習が必要となる

課題（試験やレポート等）のフィードバック

課題提出期限後の授業で模範的な課題を紹介する

使用教科書

	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	なし	なし	なし	なし
2				
3				

使用教科書備考

なし

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。

実務経験のある教員の略歴と教育内容

実務経験のある教員に該当しない。

その他

学外での観察学習のため、講義内容の順番が変更することがある

授業計画

第 1回　オリエンテーション・保育における幼児理解の意義
第 2回　幼児理解の基本（発達や学びを捉える原理）、子どもの理解に基づく養護と教育の一体的展開
第 3回　幼児理解と評価の考え方
第 4回　適切な幼児理解（幼児理解を深める教師の基礎的な態度）、共感的理解と子どもとの関わり
第 5回　幼児理解のための観察法の理解（観察と記録の意義、目的に応じた観察法）、子どもの生活や遊び
第 6回　保育における観察の視点①（幼児の言動からの理解）
第 7回　保育における観察の視点②（個と集団の関係を捉える意義や方法、相互の関わりと関係づくり、集団における経験と育ち）
第 8回　保育における観察の視点③
（環境との関わり～幼児の葛藤やつまずきと周りの幼児との関係、環境の理解と構成、環境の変化や移行）
第 9回　保育における観察の視点④（幼児の心理～様々な背景からの幼児理解）
第10回　幼児理解のための視点の整理①（事例検討、観察、記録、省察、評価、職員間の対話、保護者との情報の共有）
第11回　幼児理解のための視点の整理②（グループワーク）
第12回　幼児理解と援助①（3歳児の事例）、発達の課題に応じた援助と関わり、保育の人的環境としての保育者と子どもの発達
第13回　幼児理解と援助②（4、5歳児の事例）、発達の課題に応じた援助と関わり、保育の人的環境としての保育者と子どもの発達
第14回　幼児理解と援助③
（保護者の心情の理解と基礎的な対応の方法、特別な配慮を要する子どもの理解と援助、発達の連続性と就学への支援）
第15回　まとめ（幼児理解の再確認、保護者への対応、地域 における専門家との連携）

成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（%）	0	0	80	0	20	100

成績評価の基準（ルーブリック）

到達度	秀逸	優秀	良好	最低限
授業の到達目標に対する到達度の目安	幼稚園教育のあらゆる営みの基本となる幼児理解について、その重要性を理解し幼児理解を深めるための方法と保育者の態度を詳細に説明することができる。さらに記録を分析し、幼児理解に基づいた適切な援助の在り方を考えることができる。	幼稚園教育のあらゆる営みの基本となる幼児理解について、その重要性を理解し幼児理解を深めるための方法と保育者の態度を説明できる。さらに幼児の姿から学びやつまずきを理解し、適切に記録して分析することができる。	幼稚園教育のあらゆる営みの基本となる幼児理解について、その重要性を理解している。さらに幼児の姿から学びやつまずきを理解し適切に記録して分析することができる。	幼稚園教育のあらゆる営みの基本となる幼児理解について、その重要性を理解している。さらに幼児の姿から学びやつまずきを理解し記録することができる。
該当DPに対する到達度の目安	幼児理解について身に付けた知識と技能を生かし、的確な観察や記録から適切な援助の在り方を考え、自己の幼児理解を振り返り保育を正しく評価することができる。	幼児理解について身に付けた知識と技能を生かし、適切な観察や記録ができる。その記録を分析し子供の成長を促す適切な援助の在り方を考えることができる。	幼児理解について身に付けた知識と技能を生かし、幼児の学びやつまずきを理解し、子供の成長を促す適切な援助の在り方を考えることができる。	保育に必要な幼児理解の重要性を理解し、記録することができる。さらに課題を見つけ適切な援助を考えることができる。

年度	2019	学科	保育学科	ナンバリング科目コード	32240	ICT活用	―
授業科目名	子どもの食と栄養					実務教員	○
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	２年	期間	前期	必修区分	卒保		
授業形態	演習	単位数	2	担当形態	単独		
教員	佐賀　暁美						
該当ディプロマ・ポリシー ＤＰ項目番号	DP1,6 知識・技能(DP1～3)、思考力・判断力・表現力(DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力(DP7～9)						

授業のテーマ及び到達目標

健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を習得し、子どもの発育・発達と食生活の関連について理解を深める。また、養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義・目的・基本的な考え方、その内容等について理解した上で、家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題を理解する。さらには関連するガイドライン(※)や近年のデーター等を踏まえ、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解を深めていく。
※「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」(平成23年3月、厚生労働省)、「保育所における食事の提供ガイドライン」(平成24年3月、厚生労働省)等
1. 子どもの食生活に関する基礎的な栄養の知識と課題を理解する。
2. 子どもの発達段階における食育の基本と具体的な支援方法、内容及び環境について理解する。
3. 特別な配慮の必要な子どもの食と栄養について理解し、説明できる
4. 保育実践に活用できるようになる

授業の概要

適切な栄養の摂取は人間形成にとって重要であり、それによって健全な生活を営むことができる。また、小児期は、発育・発達の特性も加わり、栄養の摂取は特に重要である。この科目によって、子どもにとっての望ましい食生活を考え、実践しなければならないことを理解し、実践する力を養っていく。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

①予習→毎回の授業の内容について教科書を読む。
②復習→演習の課題・授業内容のレポートを読みなおしを行う。
③食に関す新聞等などの情報記事について関心を持つ。

標準学修時間の目安

１回の講義にあたり予習・演習を含めて４時間の学習が必要である。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

定期試験は関しては、２回模範試験解答を提示し、確実に理解する。

使用教科書

	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	子どもの食と栄養	水野清子・佐藤加代子ほか	医歯薬出版	978-4-263-70609-1
2				
3				

使用教科書備考

資料は適宜、配布

参考書・参考資料等

子どもの食と栄養　演習ブック　松本　峰雄(監修)　ミネルヴァ書房

実務経験のある教員の略歴と教育内容

幼稚園教諭　5年・管理栄養士25年を生かし、子供の成長に欠かせない栄養「食べる」ことの重要性を理解していただきたい。

その他

課題に対してグループによる演習を実施。
栄養と子どもに関する情報(ニュース)を取りあげ、意見交換を実施。

授業計画

第 1回　子どもの心身の健康と食生活
第 2回　子どもの食生活の現状と課題
第 3回　栄養の基本的概念と栄養素の種類、機能
第 4回　食事摂取基準と献立作成・調理の基本
第 5回　乳児期の授乳・離乳の意義と食生活
第 6回　幼児期の心身の発達と食生活
第 7回　学童期の心身の発達と食生活
第 8回　生涯発達と食生活
第 9回　保育における食育の意義・目的と基本的な考え方
第10回　食育の内容と計画及び評価
第11回　食育のための環境と関係機関、職員間の連携
第12回　食生活指導及び食を通した保護者支援
第13回　家庭および児童福祉施設における食事と栄養
第14回　疾病及び体調不良、食物アレルギーのある子どもへの対応
第15回　障害のある子どもへの対応

【学生に対する評価】
（試験やレポートの評価基準など）
授業態度、レポート、試験

成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（%）	50	20	20	0	10	100

成績評価の基準（ルーブリック）

到達度	秀逸	優秀	良好	最低限
授業の到達目標に対する到達度の目安	子どもの発育段階における食生活の特色や課題を理解し、段階に応じて保護者等に支援ができるとともに、栄養と食品に関する基礎知識を習得し、保育現場で食育を実践できる能力が身についている。	子どもの発育段階における食生活の特色や課題を理解し、段階に応じて保護者等に支援ができるとともに、栄養と食品に関する基礎知識を習得し、食育を理解している。	子どもの発育段階における食生活の特色や課題を理解しているが、栄養と食品に関する基礎知識、食育をおおよそ理解している。	子どもの発育段階における食生活の特色や課題をほぼ理解しているが、栄養と食品に関する基礎知識、食育を理解していない。
該当DPに対する到達度の目安	子どもに必要な栄養について理解し、食生活における発達段階や特別な配慮が必要な環境でも適切な食育の支援ができる	子どもに必要な栄養について理解し、食生活における発達段階や特別な配慮が必要な環境でも適切な支援が必要であることを理解している。	子どもに必要な栄養についておおよそ理解し、食生活における発達段階や特別な配慮が必要な環境で支援が必要であることを理解している	子どもに必要な栄養についておおよそ理解し、食生活における発達段階や特別な配慮が必要な環境でも支援が必要であることを理解していない。

年度	2019	学科	保育学科	ナンバリング科目コード	32330	ICT活用	―
授業科目名	子どもの医療					実務教員	○
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	２年	期間	前期	必修区分	[保選]ソ		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	単独		
教員	田村 堅吾						
該当ディプロマ・ポリシー ＤＰ項目番号	DP1,4,5,6 知識・技能(DP1～3)、思考力・判断力・表現力(DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力(DP7～9)						

授業のテーマ及び到達目標

保育所保育指針改定により、子どもの健康及び安全について、近年社会の動きや子どもの育ちをめぐる環境の変化を踏まえて修正が加えられた。本講義では、これらについて、特に医師・薬剤師の立場から子どもの体の構造等の理解を含め、留意点を学ぶことをねらいとする。
1. 子どものからだの構造、骨格系、筋系、循環器系、内分泌系、神経系、感覚器系を説明できる。
2. 子どもが罹患しやすい病気の留意点を説明できる。
3. 感染症の予防について臨床の視点から説明できる。
4. 保育所における薬を与える場合の留意点を説明できる。

授業の概要

保育所保育指針改定で修正が加えられた点は、感染症の集団発生予防、与薬に関する留意点、アレルギー疾患への対応、個別的な配慮を必要とする子どもへの対応等である。本講義では、医師・薬剤師の立場から、子どもの体の構造等の理解を含め、子どもが罹患しやすい病気への留意点、保育所において子どもに薬を与える場合の留意点を学ぶ。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

「医学一般」の教科書を事前読んでおくこと。

標準学修時間の目安

1回の講義当たり、1時間の予習と1時間の復習が必要となる。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

定期試験後(追・再試験対象者発表日)に模範的な課題を提示する。

使用教科書

	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	医学一般	–	医療教育協会	–
2				
3				

使用教科書備考

医学一般(一般社団法人医療教育協会)

参考書・参考資料等

必要に応じてでプリントを配布する。

実務経験のある教員の略歴と教育内容

田村堅吾氏は、北海道大学大学院医学研究科を終了し、医師免許と医学博士号を取得。昭和55年より本学食物栄養学科において非常勤講師として勤務。平成5年より函館市夜間救急センターで外科医長として勤務。これらの実務経験から、当該科目をより医学的な視点から指導する。

その他

なし

授業計画

第 1回　子どもの体の構造・骨格系
第 2回　子どもの筋系、循環器系、呼吸器系
第 3回　子どもの消化器系、泌尿器系、生殖系
第 4回　子どもの内分泌系、神経系、感覚器系
第 5回　子どもが罹患しやすい病気の留意点
第 6回　子どもの高熱、脱水症、痙攣の処置
第 7回　子どもの応急処置における留意点(誤飲・誤嚥への対応)
第 8回　子どもが特に罹患しやすい感染症
第 9回　感染症の予防(臨床の視点から)
第10回　病院受診時の対応(病院にかかる時、救急病院を紹介してもらう時)
第11回　医薬品・投薬に関するようご理解、薬の種類の解説
第12回　保育所において子どもに薬を与える場合の留意点(保護者に医師名、薬の種類、服用方法の確認)
第13回　保育所における薬の管理
第14回　与薬に当たっての保育士等の連携
第15回　まとめ

【学生に対する評価】
(試験やレポートの評価基準など)

成績評価の方法(試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（%）	60	0	0	0	40	100

成績評価の基準（ルーブリック）

到達度	秀逸	優秀	良好	最低限
授業の到達目標に対する到達度の目安	感染症の集団発生予防、与薬に関する留意点、アレルギー疾患への対応、個別的な配慮を必要とする子どもへの対応について医師・薬剤師の立場から留意点を学びそれを理解し、他者に詳細かつ適切な情報を伝えることができる。	感染症の集団発生予防、与薬に関する留意点、アレルギー疾患への対応、個別的な配慮を必要とする子どもへの対応について医師・薬剤師の立場から留意点を学びそれを理解し、適切な情報として他者に伝えることができる。	感染症の集団発生予防、与薬に関する留意点、アレルギー疾患への対応、個別的な配慮を必要とする子どもへの対応について医師・薬剤師の立場から留意点を学びそれについて理解している。	感染症の集団発生予防、与薬に関する留意点、アレルギー質感への対応、個別的な配慮を必要とする子どもへの対応について医師・薬剤師の立場から留意点を学びそれについて断片的であるが理解している。
該当DPに対する到達度の目安	感染症の集団発生予防、与薬に関する留意点、アレルギー疾患への対応、個別的な配慮を必要とする子どもへの対応について医師・薬剤師の立場から留意点を学び、関連する情報の継続的な収集と他者への発信力を身に付けている。	感染症の集団発生予防、与薬に関する留意点、アレルギー疾患への対応、個別的な配慮を必要とする子どもへの対応について医師・薬剤師の立場から留意点を学び、より詳細な情報の収集と他者への発信、課題解決に向けて努力することができる。	感染症の集団発生予防、与薬に関する留意点、アレルギー疾患への対応、個別的な配慮を必要とする子どもへの対応について医師・薬剤師の立場から留意点を学び、ある程度他者への発信ができる。	感染症の集団発生予防、与薬に関する留意点、アレルギー疾患への対応、個別的な配慮を必要とする子どもへの対応について医師・薬剤師の立場から留意点を学びそれらについて他者への発信を行うことがほとんどできない。

年度	2019	学科	保育学科	ナンバリング科目コード	33230	ICT活用	―
授業科目名	教育課程総論					実務教員	―
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等	教育の基礎的理解に関する科目						
配当年次	２年	期間	前期	必修区分	保幼		
授業形態	講義	単位数	2	担当形態	単独		
教員	奥野　正義						
該当ディプロマ・ポリシー ＤＰ項目番号	DP4 知識・技能(DP1～3)、思考力・判断力・表現力(DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力(DP7～9)						

授業のテーマ及び到達目標

1. 教育課程・保育課程の編成と指導計画の作成について具体的に理解する。
2. 教育内容・保育内容の充実と質の向上に資する教育・保育の計画と評価について理解する。
3. 計画、実践、評価、改善のＰＤＣＡの過程について全体構造を理解する。

授業の概要

新しく改正された幼稚園教育要領や保育所保育指針にもとづき、幼稚園教育のための教育課程や保育所保育のための保育課程についてそれぞれの編成方法や指導計画の作成についての基本的知識を身につけるとともに、保育における計画･実践・評価・改善の過程について考える。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

毎回、予習に相当する課題を示し、考えてもらう。復習は、講義中に筆記したノートを読み返して、重要な点をチェックできるような課題を提示する。

標準学修時間の目安

１回の講義あたり予習・復習を含めて４時間の学修が望ましい。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

定期試験後に再試験対象者にのみ、課題（試験やレポート等）を返却する。

使用教科書

	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	なし	なし	なし	なし
2				
3				

使用教科書備考

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

参考書・参考資料等

幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

実務経験のある教員の略歴と教育内容

実務経験のある教員に該当しない。

その他

なし

授業計画

第 1回　教育課程とは何か、カリキュラムの基礎理論、保育における計画と評価の意義
第 2回　教育課程編成の目的を理解する
第 3回　幼稚園教育要領・保育所保育指針等の性格とその位置付け
第 4回　幼稚園教育要領・保育所保育指針等の改訂の変遷と主な改訂内容とその社会的背景、目標と計画の基本的考え方
第 5回　教育課程が社会において果たしている役割と機能
第 6回　教育課程編成の基本原理、子どもの理解に基づく保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）の循環による保育の質の向上
第 7回　５つの領域を横断し、教育内容を選択・配列する方法
第 8回　幼児や地域の実態を踏まえた教育課程や指導計画の検討―領域・学期・学年をまたいだ長期的視野な視点から
第 9回　３歳未満児の指導計画（長期的・短期的）の考え方とその実際（全体的計画と指導計画の関係性、計画の作成、留意事項、保育の柔軟な展開等）
第10回　３歳以上児の指導計画（長期的・短期的）の考え方とその実際（全体的計画と指導計画の関係性、計画の作成、留意事項、保育の柔軟な展開等）
第11回　接続期の指導計画の考え方とその実際―　就学前教育と小学校教育のスムーズな移行を考える・幼小連携とは
第12回　特色ある世界の保育とカリキュラム　―　具体例を参照して
第13回　カリキュラム・マネジメントの意義とその重要性、保育の記録及び省察
第14回　カリキュラム評価の基礎的な考え方を理解する、保育士及び保育所の自己評価、質向上に向けた改善の取り組み
第15回　領域・学年をまたいだカリキュラム把握の意義―　学校教育課程全体をマネジメントする、保育所児童保育要録について
定期試験

【学生に対する評価】
授業態度（20％）、定期試験（40％）、小レポート（40％）により、総合的に評価する。

成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（％）	60	0	30	0	10	100

成績評価の基準（ルーブリック）

到達度	秀逸	優秀	良好	最低限
授業の到達目標に対する到達度の目安	教育課程・保育課程の編成と指導計画について具体的に作成することができ、これが教育内容や保育内容の充実と質の向上に資することを理解し、全体構造として、計画・実践・評価・改善の一連の流れになっていることが分かる。	教育課程・保育課程の編成と指導計画について具体的に作成することができ、これが教育内容や保育内容の充実と質の向上に資することを理解している。	教育課程・保育課程の編成と指導計画について具体的に作成することができる。	教育課程・保育課程の編成と指導計画について、かろうじて作成することができる。
該当DPに対する到達度の目安	子育て環境を深く分析して課題や問題を見つけ出し、その解決に向けて教育課程や保育課程を考え、それにもとづいて保育計画を策定し、子どもの成長を促す能力を身に付けている。その計画を的確に認識して評価する能力があり、他者と協働しながら計画の改善を行い、計画・実践・評価・改善が一連の流れとなっていることを理解できる。	子育て環境を深く分析して課題や問題を見つけ出し、その解決に向けて教育課程や保育課程を考え、それにもとづいて保育計画を策定し、子どもの成長を促す能力を身に付けている。その計画を的確に認識して評価する能力があり、他者と協働しながら計画の改善を行うことができる。	子育て環境を深く分析して課題や問題を見つけ出しその解決に向けてある程度、教育課程や保育課程を考えそれにもとづいて保育計画を策定し子どもの成長を促す能力を身に付けている。	子育て環境を深く分析して課題や問題を見つけ出しその解決に向けてある程度、教育課程や保育課程を考えそれにもとづいて保育計画を策定しようと努力することができる。

年度	2019	学科	保育学科	ナンバリング科目コード	33314	ICT活用	○
授業科目名	総合表現指導法					実務教員	―
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等	領域及び保育内容の指導法に関する科目						
配当年次	２年	期間	後期	必修区分	保幼		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	単独		
教員	山下　真由美						
該当ディプロマ・ポリシー ＤＰ項目番号	DP1.4.5.6.8.9. 知識・技能(DP1～3)、思考力・判断力・表現力(DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力(DP7～9)						

授業のテーマ及び到達目標

1．幼稚園教育要領、保育所保育指針等に示された当該領域のねらい及び内容を踏まえて身体表現、音楽表現、造形表現等を相互に関連付けた総合的な表現活動の知識や表現技術について理解できる。
2．幼児の発達を理解した総合的な表現活動を構想するとともに、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえた具体的な指導場面を想定した保育構想の方法を身に付ける。
3．幼児の認識・思考・動き等を視野に入れた模擬保育の活動場面の振り返りを通して、保育を改善するとともに保育構想の向上に取り組む視点を身に付ける。

授業の概要

幼稚園教育要領・保育所保育指針等に示された当該領域のねらい及び内容を踏まえて、幼児の発達と幼児理解に基づき、身体表現、音楽表現、造形表現等の総合的な表現活動を構想する力を身に付ける。授業では、幼児が協働して主体的・対話的な深い学びに取組むことの重要性を認識し、具体的指導過程を踏まえた総合的表現活動を展開できるようグループワークによる協働発表の取組みを通して総合的表現の指導技術を身に付ける。子どもの生活と遊びを豊かに展開する具体例を学ぶ。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

予習・復習については、授業において該当箇所や下調べの資料について明示する。グループによる発表の準備学習やグループワークを行う場合には、授業外でグループメンバーと時間調整を行い、協働して取り組むことができるよう協力し合う。

標準学修時間の目安

次の授業までに、予習・復習を合わせて2時間の学修が望ましい。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

提出課題には、コメントを付して返却する。試験は、総合的表現活動を評価対象とすることから、毎回の授業において主体的に取り組むとともに、グループワークの際は協働して行うこと。

使用教科書

	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	なし	―	―	―
2				
3				

使用教科書備考

授業中に適宜資料を配布する。

参考書・参考資料等

幼稚園教育要領（平成29年4月　文部科学省）
保育所保育指針（平成29年4月　厚生労働省）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年4月　文部科学省・厚生労働省）

実務経験のある教員の略歴と教育内容

実務経験のある教員に該当しない。

その他

必要に応じて、授業内で提示した課題についてグループワークを行い、その結果をプレゼンテーションしてもらう。グループワークでは、授業外での打合せや練習などを行い、協働して自主的・主体的に取り組む。授業でML教室（第2音楽室）及び第1音楽室を使用する場合は、ICTを活用した双方向型授業を実施する。

授業計画

第 1回　オリエンテーション
（発達段階、幼児の認識・思考・動き等を視野に入れた保育の構想の重要性の理解、総合的な表現活動の全体構造の理解）、
他者との関係や集団の中での育ちの理解と援助に関わる知識・技術
第 2回　幼児理解に基づく身体表現の基礎（幼稚園教育要領等における領域のねらい・内容・全体構造の理解）、
生活や遊びでイメージを豊かにし、感性を養うための知識・技術
第 3回　身体表現の工夫と応用（幼稚園教育要領等の当該領域のねらいを踏まえた指導上の留意点）
第 4回　幼児理解に基づく造形表現の基礎（幼稚園教育要領等における領域のねらい・内容・全体構造の理解）、
遊具や用具、素材や教材等の特性と活用・作成に必要となる知識と技術
第 5回　造形表現の工夫と応用（幼稚園教育要領等の当該領域のねらいを踏まえた指導上の留意点）
第 6回　幼児理解に基づく音楽表現の基礎（幼稚園教育要領等における領域のねらい・内容・全体構造の理解）
第 7回　音楽表現の工夫と応用（幼稚園教育要領等の当該領域のねらいを踏まえた指導上の留意点）
第 8回　保育における総合的表現活動の事例分析（保育実践の動向と小学校教科等のつながり）
第 9回　発達段階に応じた総合的な表現活動の取り組み（指導案の作成と評価及び評価の考え方、評価の検討）
第10回　具体的な指導場面を想定した総合的な表現活動の取り組み（ワークショップ、グループワーク編成）
第11回　総合的な表現活動の取り組み①協働練習（幼児の認識・思考・動き等に基づく全体構想の理解）
第12回　総合的な表現活動の取り組み②協働練習（模擬保育と活動の振り返りによる保育の改善）
第13回　総合的な表現活動の取り組み③協働練習（保育構想の向上に向けた取り組み）
第14回　総合的な表現活動の発表準備（ICT等の情報機器教材の活用と保育構想企画・実施）
第15回　総合的な表現活動の発表（評価と改善、他者の表現の受容と共感）
定期試験

【学生に対する評価】
実技、レポート課題、その他の試験（発表・グループワーク）、学習意欲等を評価対象とする。

成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（%）	0	20	30	30	20	100

成績評価の基準（ルーブリック）

到達度	秀逸	優秀	良好	最低限
授業の到達目標に対する到達度の目安	身体表現、音楽表現、造形表現等を相互に関連付けた総合的な表現活動の知識や表現技術を充分習得し、自ら表現の指導法を示すことができる。幼児の発達を理解し、幼児が協働して主体的・対話的で深い学びを目指す総合表現の保育改善を提示できる。他者と協働して心豊かな総合表現の活動を構想・展開できる。	身体表現、音楽表現、造形表現等を相互に関連付けた総合的な表現活動の知識や表現技術を習得し、自ら表現の指導法を示すことができる。幼児の発達を理解して、幼児が協働して主体的対話的で深い学びを目指す総合表現の保育改善を考察できる。他者と協働して心豊かな総合表現の活動を構想できる。	身体表現、音楽表現、造形表現等を相互に関連付けた総合的な表現活動の知識や表現技術を習得し、自ら表現の指導法を示す試みができる。幼児の発達を理解して、幼児が協働して主体的対話的で深い学びを目指す総合総合表現の保育改善について知っている。他者と協働した総合表現の活動を構想しようと努める。	身体表現、音楽表現、造形表現等を相互に関連付けた総合的な表現活動の知識や表現技術を概ね習得し、自ら表現の指導法を示す試みようと努力できる。幼児の発達を理解して、幼児が協働して主体的・対話的で深い学びを目指す総合総合表現の保育改善について知っている。他者と協働した総合表現の活動のイメージをもつことができる。
該当DPに対する到達度の目安	保育・幼児教育に必要とされる表現活動に関わる専門的知識・技能を活用した指導法について理解・工夫することができる。身につけた指導法を分かりやすく伝えることができる。子どもの発達を踏まえ総合的表現活動を構成し、子ども理解に基づく総合表現の課題を自ら見出すことができる。他者と協働して保育を構想し、改善案を考察できる。	保育・幼児教育に必要とされる表現活動に関わる専門的知識・技能を用いた指導法について理解することができる。身につけた指導法を他者に伝えることができる。子どもの発達を踏まえ総合的表現活動を構成し、子ども理解に基づく総合表現の課題を自ら見出す視点を有している。他者と協働して保育を構想し、課題を考察できる。	保育・幼児教育に必要とされる表現活動に関わる専門的知識・技能を用いた指導法について概ね理解することができる。身につけた指導法を他者に伝えようと試みることができる。子どもの発達を踏まえ総合的表現活動を構成し、子ども理解に基づく総合表現の課題を知り、他者と協働して保育を構想し、課題考察を試みることができる。	保育・幼児教育に必要とされる表現活動に関わる専門的知識・技能を用いた指導法について断片的に理解することができる。指導法の一部を他者に伝えようと試みることができる。子どもの発達や子ども理解に基づく総合表現の課題を知り、他者と協働して保育構想を試みようと努力することができる。

年度	2019	学科	保育学科	ナンバリング科目コード	33270	ICT活用	−
授業科目名	特別支援教育					実務教員	○
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等	教育の基礎的理解に関する科目						
配当年次	２年	期間	前期	必修区分	保幼心		
授業形態	演習	単位数	2	担当形態	単独		
教員	山下　真由美						
該当ディプロマ・ポリシー ＤＰ項目番号	DP1.2.4.6 知識・技能(DP1～3)、思考力・判断力・表現力(DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力(DP7～9)						

授業のテーマ及び到達目標

1. インクルーシブ教育システムを含む特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを理解できる。
2. 特別な支援を必要とする幼児・児童の障害の特性および心身の発達、心理的特性及び学習の過程について理解できる。
3. 特別支援を必要とする幼児・児童の教育課程（「通級による指導」「自立活動」）や支援の方法を理解し、個別の指導計画及び個別の教育支援計画の作成意義・方法を理解できる。
4. 特別支援教育コーディネーター、関係機関や家庭と連携して支援体制を構築することの必要性を理解できる。
5. 障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児・児童の学習上又は生活上の困難や組織的対応の必要性を理解できる。
6. 特別な支援を必要とする子どもの保育・幼児教育の現状と課題について論ずることができる。

授業の概要

特別な支援を必要とする子どもたちを保育現場で受け入れることが多い現在、インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育の理念を知り、障害に対する基礎的な理解を学ぶことを目標とする。また、特別な支援を必要とする幼児の子育ての現状や学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、教員間や関係機関と連携しながら対応していくために必要な基礎的知識を身に付ける。授業形態は、講義及びグループワーク等により、主体的・対話的な深い学びを通して特別な支援を必要とする幼児、児童の理解を深めるとともに、保育現状における課題考察をめざす。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

授業では、予習・復習に必要と思われる箇所を明示し、内容をノートにまとめる。さらに、自ら調べたい内容については、図書館等の積極的な利用を心がける。準備学習として、日常において様々な配慮を必要とする人や障害がある人たちの共生社会について、ニュース・新聞等の社会情報から自ら課題を見出し、広い視野から考察できるよう、学びを深める学修に取り組む。

標準学修時間の目安

1回の講義にあたり、予習・復習を含めて4時間の学修が望ましい。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

レポート等の課題提出後に、コメントを付して返却する。

使用教科書

	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	なし	−	−	−
2				
3				

使用教科書備考

障害児保育　（青木豊編著、　一藝社）
その他、授業中に適宜資料を配布する。

参考書・参考資料等

幼稚園教育要領（平成29年4月　文部科学省）　保育所保育指針（平成29年4月　厚生労働省）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年4月　文部科学省・厚生労働省）
小学校学習指導要領（平成29年3月　文部科学省）

実務経験のある教員の略歴と教育内容

東京都の特別支援学校において、特別支援教育コーディネーターとして、三鷹・狛江・調布市等の教育委員会主催の小・中・高等学校教員研修会講師や学校訪問巡回指導（40校）を行う。28年間の実務経験を生かし、特別支援教育の制度・障がいの特性理解、具体的な支援方法等、共生社会の実現を目指した特別支援教育の理解・推進に向けて、様々な配慮を必要とする人の理解に関する授業を行う。

その他

授業内容によってグループワークに取り組むなど、主体的な意見交換・意見の共有を目指す。手話や点字、視覚支援等のコミュニケーション法の紹介により、障害の特性を理解すると共に、様々な人の生き方について考えを深めていく。

授業計画

第 1回　特別な支援を必要とする子どもの理解・インクルーシブ教育システムと特別支援教育に関する制度・理念理解、「障害」の概念と障害児保育の歴史的変遷
第 2回　特別な支援を必要とする子どもの保育理念と形態及び歴史と思想、ソーシャル・インクルージョンの理念、合理的配慮の理解と障害児保育の基本
第 3回　発達障害・軽度知的障害等特別の支援を必要とする子ども障害の特性と心身の発達、心理的特性、学習過程の理解
第 4回　特別な支援を必要とする幼児・児童の理解と支援方法の基礎的知識①（視覚障害、聴覚障害、言語障害）
第 5回　特別な支援を必要とする幼児・児童の理解と支援方法の基礎的知識②（肢体不自由、病弱、医療的ケア児等）
第 6回　特別な支援を必要とする幼児・児童の理解と支援方法の基礎的知識③（ＡＤＨＤ、ＬＤ、PDD等）
第 7回　特別な支援を必要とする幼児・児童の理解と支援方法の基礎的知識④（知的障害児、発達障害児～自閉スペクトラム症、重症心身障害児、医療的ケア児等）
第 8回　特別な支援を必要とする子どもの保育支援の実際①（基本的生活習慣の形成・個々の発達を促す生活や遊び、子ども同士の関わりと育ち合い）
第 9回　特別な支援を必要とする子どもの保育支援の実際②（遊びと集団行動・コミュニケーション・環境における配慮、健康と安全）
第10回　発達障害や軽度知的障害、特別の支援を必要とする子どもの支援方法の例示の検討・考察
第11回　「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置付けと内容の理解
第12回　個別の指導計画及び個別の教育支援計画作成の意義と作成方法の理解（小学校とのつながり）
第13回　特別支援コーディネーター、自治体や関係機関・家庭との連携・支援体制の構築、保護者間の交流や支え合いの意義、職員間の連携・協働、保護者間の支え合い
第14回　障害はないが特別な支援を必要とする子どもの把握と支援（母国語、貧困問題等の特別な教育的ニーズの理解）
第15回　特別な配慮を必要とする子どもの保育・幼児教育の現状と課題考察（保健・医療・福祉・教育等関係機関の連携、支援の場の広がりとつながり）
定期試験

【学生に対する評価】
授業の参加態度（グループワーク、ノート）(30%)、定期試験（50%）、課題レポート（20%）

成績評価の方法(試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（%）	50	0	20	0	30	100

成績評価の基準（ルーブリック）

到達度	秀逸	優秀	良好	最低限
授業の到達目標に対する到達度の目安	インクルーシブ教育システムを含む特別支援教育の制度理念や仕組みを理解できる。特別な支援を必要とする幼児・児童の障害の特性心身の発達、心理的特性、学習の過程、関係機関の連携について理解するとともに、分かりやすく説明ができる。特別な支援を必要とする子どもの保育・幼児教育の現状と課題について論ずることができる。	インクルーシブ教育システムを含む特別支援教育の制度理念や仕組みを理解できる。特別な支援を必要とする幼児・児童の障害の特性心身の発達、心理的特性、学習の過程、関係機関の連携について理解するとともに、説明ができる。特別な支援を必要とする子どもの保育・幼児教育の現状と課題について論じようと試みることができる。	インクルーシブ教育システムを含む特別支援教育の制度理念や仕組みを知る。特別な支援を必要とする幼児・児童の障害の特性、心身の発達、心理的特性、学習の過程、関係機関の連携について知り、概要を説明ができる。特別な支援を必要とする子どもの保育・幼児教育の現状と課題について自分の考えをもっている。	インクルーシブ教育システムを含む特別支援教育の制度理念や仕組みの概要を知る。特別な支援を必要とする幼児・児童の障害の特性心身の発達、心理的特性、学習の過程、関係機関の連携を概ね知り、部分的に説明することができる。特別な支援を必要とする子どもの保育・幼児教育の現状と課題について考えをもつよう努力している。
該当DPに対する到達度の目安	保育・幼児教育、あるいは福祉に関わる就労・社会参加に向けて、障害をもつ人や様々な支援を必要とする人々の理解、障害の特性、心身の発達、心理的特性及び学習の過程について理解するとともに、分かりやすく説明ができる。地域課題を理解し、共生社会に向け自らの考えをもち、他者と意見交換・共有することができる。	保育・幼児教育、あるいは福祉に関わる就労・社会参加に向けて、障害をもつ人や様々な支援を必要とする人々の理解、障害の特性、心身の発達、心理的特性及び学習の過程について理解するとともに、説明ができる。地域課題を知り、共生社会に向け自らの考えをもち、他者と意見交換・共有に努めることができる。	保育・幼児教育、あるいは福祉に関わる就労・社会参加に向けて、障害をもつ人や様々な支援を必要とする人々の理解、障害の特性、心身の発達、心理的特性及び学習の過程について知り断片的ではあるが説明ができる。地域課題を知り、共生社会に向け自らの考えをもち、他者と意見交換することができる。	保育・幼児教育、あるいは福祉に関わる就労・社会参加に向けて、障害をもつ人や様々な支援を必要とする人々の理解、障害の特性心身の発達、心理的特性及び学習の過程について断片的に知り、部分的に説明することができる。地域課題を知り、共生社会に向けて自らの考えをもつよう心掛け他者との意見交換に努めることができる。

年度	2019	学科	保育学科	ナンバリング科目コード	33360	ICT活用	―
授業科目名	社会的養護Ⅱ					実務教員	○
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	２年	期間	前期	必修区分	保		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	単独		
教員	家村　昭矩						
該当ディプロマ・ポリシー ＤＰ項目番号	DP2,3,4,7 知識・技能(DP1～3)、思考力・判断力・表現力(DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力(DP7～9)						

授業のテーマ及び到達目標

1年時の社会的養護で習得した基礎知識を踏まえ、社会的養護を構成する施設養護と家庭養護の実際を学び、保育の専門性について理解を深めることを目的とする。
1. 子ども理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に説明できる。
2. 施設養護及び家庭養護の実際について説明できる。
3. 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について説明できる。
4. 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について説明できる。
5. 社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について説明できる。

授業の概要

子どもの理解をふまえた社会的養護の基礎的内容、施設養護及び家庭養護の実際、社会的養護における計画・記録・自己評価の実際、社会的養護に関わる相談援助の方法・技術、子ども虐待防止と家庭支援について理解を深める。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

授業前には、あらかじめテーマに関する事項とキーワードの下調べを行うこと。
授業後には、配布された資料をもとに授業の振り返りを行い、理解を深めること。

標準学修時間の目安

次回の授業までに予習・復習を含めて2時間の学修が望ましい。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

成績確定後、コメントを付した課題レポートを返却する。

使用教科書

	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	なし	―	―	―
2				
3				

使用教科書備考

なし

参考書・参考資料等

毎時間資料を配布します。

実務経験のある教員の略歴と教育内容

児童自立支援施設（10年間）、児童相談所、心身障害者総合相談所（22年間）、保育士養成校（短大）教員（9年間）などの勤務経験を活かし、社会的養護を必要とする子どもや保護者への支援に関する授業を行う。

その他

なし

授業計画

第 1回　オリエンテーション（本授業の目的及び到達目標の確認）
第 2回　社会的養護の内容①　社会的養護における子ども理解
第 3回　社会的養護の内容②　日常生活支援
第 4回　社会的養護の内容③　治療的支援
第 5回　社会的養護の内容④　自立支援
第 6回　社会的養護の実際①　施設養護の生活特性及び実際
第 7回　社会的養護の実際②　家庭養護の生活特性及び実際
第 8回　社会的養護における支援の計画と記録及び自己評価①　アセスメントと個別支援計画の作成
第 9回　社会的養護における支援の計画と記録及び自己評価②　記録及び自己評価
第10回　社会的養護に関わる専門的技術①　保育の専門性に関わる知識・技術とその実践
第11回　社会的養護に関わる専門的技術②　社会的養護に関わる相談援助の知識・技術とその実践
第12回　今後の課題と展望①　社会的養護における家庭支援
第13回　今後の課題と展望②　社会的養護における子ども虐待の防止
第14回　今後の課題と展望③　社会的養護の課題と展望
第15回　全体のまとめ
定期試験

【学生に対する評価】
（試験やレポートの評価基準など）
課題提出、演習への取り組み状況、受講態度を総合的に評価する。

成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（%）	0	0	80	0	20	100

成績評価の基準（ルーブリック）

到達度	秀逸	優秀	良好	最低限
授業の到達目標に対する到達度の目安	施設養護及び家庭養護の実際について理解し説明できる。社会的養護における計画・記録・自己評価の実際についてと相談援助の方法・技術について十分に理解し説明できる。また、社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援の課題について理解し説明できる。	施設養護及び家庭養護の実際について理解し、社会的養護における計画・記録・自己評価の実際についてと相談援助の方法・技術についても理解している。また社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援の現状について理解している。	施設養護及び家庭養護の実際について理解し、社会的養護における計画・記録・自己評価の実際についてと相談援助の方法・技術などについての基礎的な理解ができる。	施設養護及び家庭養護の実際についてと、社会的養護における計画・記録・自己評価の実際や相談援助の方法・技術についての基礎的な理解が不十分ながらできる。
該当DPに対する到達度の目安	社会的養護を必要とする子どもに対しその制度や相談援助の方法等を十分に理解し、子どもの人権擁護の視点で課題解決むに向けて取り組む能力を有している。	社会的養護を必要とする子どもに対し、その制度や相談援助の方法等を理解し、子どもの人権擁護の視点で課題解決に向けて努力することができる。	社会的養護を必要とする子どもに対し、その制度や相談援助の方法等についての基礎的な理解ができ、子どもの人権擁護の視点でかかわる重要性について、ある程度理解して取り組むことができる。	社会的養護を必要とする子どもに対し、その制度や相談援助の方法等についての基礎的な理解と子どもの人権擁護の視点で課題解決に向けて取り組む重要性についての学びが必要である。

年度	2019	学科	保育学科	ナンバリング科目コード	33380	ICT活用	―
授業科目名	教育相談					実務教員	○
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目						
配当年次	２年	期間	後期	必修区分	保幼心		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	複数		
教員	家村　昭矩／赤坂　和哉						
該当ディプロマ・ポリシー ＤＰ項目番号	DP3, 4, 9 知識・技能(DP1～3)、思考力・判断力・表現力(DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力(DP7～9)						

授業のテーマ及び到達目標

教育相談とカウンセリング
１．教育相談の基本的な考え方を理解できる。
２．教育相談の基本的方法を身につけることができる。
３．カウンセリング、心理療法の技法を理解し、教育相談に活用できる。
４．児童・生徒に生起する諸問題についての理解とその対応策を考えることができる。
５．医療機関等専門機関との連携の方法、必要性について理解できる。

授業の概要

教育相談とは何かを学ぶ。教育相談の理論や方法の理解、習得は子ども理解、保護者支援等に不可欠である。本授業では相談活動の中で行われる種々のカウンセリングや心理療法などの理論や技術の基礎を学び、幼稚園教諭として子どもを理解すること、子どもとの良い関わり合いのための教育相談的姿勢、支援方法を理解する。さらに保護者からの相談を受ける際のカウンセリングマインド等、基本的な姿勢、方法を、ロールプレイング等を通して学ぶ。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

・予習や準備学習：時間的に余裕のある学生には、図書館にある「教育相談」や「臨床心理学」という言葉が入っている図書等で、シラバスに示されている各回の内容を一読して、資料の下調べをしておくこと。
・復習：毎回様々な心理学や教育学の専門用語が出てくるので、それが何を意味するのか理解し、資料の下調べにて理解を深めること

標準学修時間の目安

1回の講義につき、1時間の予習と1時間の復習が望ましい。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

定期試験後、追試代わりのレポート対象者のみに問題解答用紙を返却する。

使用教科書

	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	なし	―	―	―
2				
3				

使用教科書備考

授業中に適宜資料を配布する。

参考書・参考資料等

小田豊・秋田喜代美編『子どもの理解と保育・教育相談』（みらい、2017年）
幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

実務経験のある教員の略歴と教育内容

家村昭矩：児童自立支援施設（10年）、児童相談所、心身障害者総合相談所等（22年）、保育士養成校（短大）教員の勤務経験を活かし、子ども、保護者・家庭の理解とその基本的対応方法に関する授業をおこなう。

その他

・数回のレポートを課す。
・授業の進行状況に応じて、グループディスカッションやグループワークを行う。

授業計画

第 1回　ガイダンス（教育相談の理解－学校における教育相談の意義と課題の理解、保育所等における支援）、子どもの保育とともに行う保護者の支援
第 2回　教育相談の基本的理解（相談目的ごとの様々な形態、方法）、不適応や問題行動の意味、幼児の発するシグナルに気づき把握する方法の理解
第 3回　学校における教育相談の意義、役割と園内体制の整備（職種や校務分掌に応じた幼児･保護者に対する教育相談）
第 4回　幼児への接し方、保護者への対応の基本（学校教育におけるカウンセリングマインドの必要性）、保護者との相互理解と信頼関係の形成、保護者や家庭が抱える支援のニーズへの気づきと多面的理解
第 5回　来談者中心療法の理解と方法（受容、傾聴、共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢や技法の理解）、子ども・保護者が多様な他者と関わる機会や場の提供
第 6回　フロイト、ユング、アドラー理論の教育相談への活用（教育相談に関わる心理学の基礎的理論・概念の理解として）
第 7回　教育相談の実際的方法（教育相談の計画の作成を中心に）、子ども・保護者の状況・状態の把握、支援計画と環境の構成、支援の実践・記録・評価・カンファレンス
第 8回　教育相談の考え方をクラス経営に生かす方法（集団の中で適応的に生活する力と個性の伸長を支援する）
第 9回　教師が行う教育相談の実際（チーム幼稚園としての組織的取組み－必要な校内体制の整備など組織的取組み）、保育所等における支援、職員間の連携・協働
第10回　子ども理解と心理アセスメント（職種や校務分掌に応じた、幼児・保護者に対する教育相談の目標の立て方と進め方）
第11回　いじめの発生メカニズムの理解と教育相談（発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方との関連で）
第12回　不登園、不登校、虐待、非行等への理解と教育相談的対応（不適応や問題行動の意味と幼児の発するシグナルに気づき把握する方法）、子どもの虐待の予防と対応、要保護児童等の家庭に対する支援
第13回　薬物乱用、ネット被害、ネット依存の理解と教育相談
第14回　子ども、保護者への寄り添いと教育相談（自己理解の深まりと人間関係の構築にむけた人格の成長への支援）、地域の子育て家庭支援、障害のある子ども・特別な配慮を要する子どもとその家庭の支援、多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解
第15回　専門機関との連携のあり方（地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携の意義と必要性）、自治体・関係機関・専門職との連携・協働
定期試験

【学生に対する評価】
定期試験（50%）、ノート、授業参加態度、レポート等（50%）

成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（%）	50	0	25	0	25	100

成績評価の基準（ルーブリック）

到達度	秀逸	優秀	良好	最低限
授業の到達目標に対する到達度の目安	教育相談の基本的な考え方と方法および必要な連携を十分に理解し、説明することができ、児童・生徒の諸問題について理解してその対応策を考えることができそれらを適切に教育相談に活用・応用できる。	教育相談の基本的な考え方と方法および必要な連携を十分に理解し、説明することができ、児童・生徒の諸問題について理解してその対応策を考えることができそれらを教育相談に活用できる。	教育相談の基本的な考え方と方法および必要な連携を十分に理解しており、児童・生徒の諸問題について理解してその対応策を考えることができる。	教育相談の基本的な考え方と方法および必要な連携を言葉の上で理解しており、児童・生徒の諸問題について理解することができる。
該当DPに対する到達度の目安	保育者の社会的使命を十分に理解すると共に、子育て環境を深く分析して適切な対応を取ることができる。また、他者への思いやりと柔軟な対応力を身につけている。	保育者の社会的使命を十分に理解すると共に、子育て環境を分析して対応を取ることができる。また、他者への思いやりと柔軟な対応力を身につけている。	保育者の社会的使命を理解すると共に、子育て環境を分析して適切な対応を考えることができる。また、他者への思いやりと柔軟な対応力の重要性を理解している。	保育者の社会的使命を理解すると共に、子育て環境を分析することができる。また、他者への思いやりと柔軟な対応力の重要性を理解している。

年度	2019	学科	保育学科	ナンバリング科目コード	33320	ICT活用	―
授業科目名	コミュニケーション・スキルⅡ					実務教員	○
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	２年	期間	前期	必修区分	[保選]		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	単独		
教員	福島　基輝						
該当ディプロマ・ポリシー ＤＰ項目番号	DP2,3,5,6,8,9 知識・技能(DP1～3)、思考力・判断力・表現力(DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力(DP7～9)						

授業のテーマ及び到達目標

1. 場面に応じて適切な言葉を選び、適切な人間関係を築くために必要な思考・スキルを身につける。
2. 人の話をしっかりと聴くとともに自分の考えや気持ちをていねいに人に伝えられるようにする。
3. 他人の良いところを見つけ、記録できるようになる。
4. 幼児、保護者、保育者への働きかけ・コミュニケーションにおける留意点を知り、スキルなどを身につける。
5. 保育の場における文字による表現・表記の方法を知るとともに、スキルなどを身につける。

授業の概要

価値観が多様化するなかで、保育者を取り巻く環境も大きく変化している。保護者・子どもへの対応と共に、保育者同士の関係の構築も課題となってきている。本授業では、保育を取り巻く環境において、高い対応力を備えるために必要なコミュニケーション方法を学ぶ。特に、6月中旬から行われる保育実習は、これまで短大授業で学んだ保育の理論・技術を実践の場で試すことになる。一日の保育のすべてを一人の保育者として行う責任実習であり、現場の保育者とのコミュニケーション力が問われる。即戦力として活躍できる保育者を目指し、実践的な授業を通して聴くこと・話すことだけでなく、さらに書くことの基礎をトータルで学び、適切なコミュニケーションの仕方を習得することを目標とする。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

予習、復習、準備学習については、その都度伝えます。

標準学修時間の目安

次回の講義までに予習・復習を含めて2時間の学修が望ましい。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

採点後の課題返却、ミニテストや自己チャックリストの確認で得手不得手を知り、次回の講座まで正しい知識・より良いスキルを身に付けられるようにする。

使用教科書

	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	なし	－	－	－
2				
3				

使用教科書備考

資料は適宜配布する。

参考書・参考資料等

なし

実務経験のある教員の略歴と教育内容

幼稚園の園長としての経験と立場から、幼児教育者として必要な事項を講義する。

その他

なし

授業計画

第 1回　オリエンテーション：授業の概要と目標、評価方法
第 2回　やさしい頼み方
第 3回　上手な断り方
第 4回　自分を大切にする
第 5回　実習日誌の書き方（なぜ実習日誌を書くのか、用語・表現など）
第 6回　指導計画の書き方（指導計画の種類・計画する際の留意点）
第 7回　子どもへの働きかけ（特別なニーズをもつ子どもへの関わり方）
第 8回　保護者への働きかけ（特別なニーズをもつ子どもの保護者への関わり方）
第 9回　連絡帳の書き方
第10回　園だよりの書き方
第11回　指導要録の書き方（小学校への引き継ぎに向けて）
第12回　子供同士のトラブル対策
第13回　保護者とのトラブル対策
第14回　保護者同士のトラブル対策
第15回　トラブル対策を考える

【学生に対する評価】
授業への取り組みや態度、提出課題を総合して評価

成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（%）	0	0	50	0	50	100

成績評価の基準（ルーブリック）

到達度	秀逸	優秀	良好	最低限
授業の到達目標に対する到達度の目安	適切な人間関係を築くために必要な思考・スキル、自分の考えを丁寧に人に伝える、記録できる力、保育の場における表現・表記の方法について理解し、他者に詳細な情報を伝えることができるとともに、新たに発生した問題に対して適切な対処法を検討できる。	適切な人間関係を築くために必要な思考・スキル、自分の考えを丁寧に人に伝える、記録できる力、保育の場における表現・表記の方法について理解し、それらを他者に適切な情報として伝えることができる。	適切な人間関係を築くために必要な思考・スキル、自分の考えを丁寧に人に伝える、記録できる力、保育の場における表現・表記の方法について理解している。	適切な人間関係を築くために必要な思考・スキル、自分の考えを丁寧に人に伝える、記録する力、保育の場における表現・表記の方法について断片的であるが理解している。
該当DPに対する到達度の目安	適切な人間関係を築くために必要な思考・スキル、自分の考えを丁寧に人に伝える、記録できる力、保育の場における表現・表記の方法について理解し、関連する情報の計測的な収集と他者への発信力を身に付けている。	適切な人間関係を築くために必要な思考・スキル、自分の考えを丁寧に人に伝える、記録できる力、保育の場における表現・表記の方法について理解し、より詳細な情報の収集と他者への発信、課題解決に向けて努力することができる。	適切な人間関係を築くために必要な思考・スキル、自分の考えを丁寧に人に伝える、記録する力、保育の場における表現・表記の方法について理解し、ある程度の情報の収集と他者への発信ができる。	適切な人間関係を築くために必要思考・スキル、自分の考えを丁寧に人に伝える記録する力、保育李場における表現・表記の方法について理解できず、他者への発信を行うことがほとんどできない。

年度	2019	学科	保育学科	ナンバリング科目コード	33414	ICT活用	―
授業科目名	子どもの生活や遊びA					実務教員	―
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	２年	期間	後期	必修区分	[保選]		
授業形態	演習	単位数	2	担当形態	単独		
教員	山下　真由美						
該当ディプロマ・ポリシー ＤＰ項目番号	DP1.2.3.4.5.6.7.8.9 知識・技能(DP1～3)、思考力・判断力・表現力(DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力(DP7～9)						

授業のテーマ及び到達目標

幼児の発達段階を理解した上で、幼児の生活の中における遊びの意義を五領域との関連を総合的に踏まえて考察するとともに、生活や遊びの様々な体験を通して、イメージを豊かにする保育構想の実践に取り組む。
1. 幼児期の育ちを支える五領域と子どもの生活における遊びについて説明できる。
2. あそびと表現の重要性を説明できる。
3. あそびと表現の実践をまとめる(函短楽しいあそびのレシピ集)

授業の概要

保育所保育指針、幼稚園教育要領に基づき、幼児期の特性や発達を理解した上で、幼児期の育ちを支える五領域を総合的に踏まえ、子どもが生活や遊びの様々な体験を通してイメージ豊かにし、心身の調和および発達の基礎を培う生活の中における遊びと表現の重要性を理解する。また、実践を記録としてまとめ、保育に活用できる保育構想力を培う。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

予習は、授業内で次回までの調べてくることや、取り組んでくることを提示する。また、グループで取り組む場合は、
グループメンバーと協働して、授業外の準備学習においてグループ学習を行うこと。

標準学修時間の目安

1回の講義にあたり、予習・復習を含めて4時間の学修が望ましい。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

提出した課題には、コメントを付して返却をする。

使用教科書

	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	なし	―	―	―
2				
3				

使用教科書備考

保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

参考書・参考資料等

授業において、適宜資料を配布する。

実務経験のある教員の略歴と教育内容

実務経験のある教員に該当しない。

その他

活動内容よってはグループで取り組むことから、グループメンバーと協働的活動ができるよう主体的に協力し合うこと。
成績評価の「その他の試験」は、『まとめ・発表会』を評価対象として位置付ける。

授業計画

第 1回　オリエンテーション、生活の中における遊びと子どもの育ち
第 2回　ヤマハ(幼児教育と音楽1)
第 3回　ヤマハ(幼児教育と音楽2)
第 4回　ヤマハ(幼児教育と音楽3)
第 5回　楽しむ心を育てるあそび・手遊びの意義、手遊びの実践
第 6回　楽しむ心を育てるあそび・手遊びの創作
第 7回　からだを育てるあそび・リズム運動(リトミックとは)
第 8回　おはなしのよろこびを育てるあそび・絵本の世界のことば
第 9回　おはなしのよろこびを育てるあそび・絵本の世界の表現
第10回　ともだちと一緒のよろこびを育てるあそび・作ってみよう
第11回　ともだちと一緒のよろこびを育てるあそび・作ってあそぼう
第12回　幼児教育の五領域と総合的に関連した生活の中における遊びの構想
第13回　幼児教育の五領域と総合的に関連した生活の中におけるあそびの指導計画
第14回　幼児教育の五領域と総合的に関連した生活の中における遊びの指導実践
第15回　まとめ・発表会(函短楽しいあそびのレシピ集)

【学生に対する評価】
実技、レポート課題、その他の試験（グループワーク、まとめ・発表会）、学習意欲等を評価対象とする。

成績評価の方法(試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（%）	0	20	20	40	20	100

成績評価の基準（ルーブリック）

到達度	秀逸	優秀	良好	最低限
授業の到達目標に対する到達度の目安	幼児期の特性や発達を踏まえ、五領域が総合的に関連した子どもの生活とあそびの意義や重要性を理解し、保育構想ができる。身につけた知識・技能（音楽、絵本、手遊び歌、造形等）を工夫活用して、子ども理解に基づく保育を創造し、わかりやすく実践を示すことができる。他者と協働して子どもの心身の成長を促す保育を構想できる。	幼児期の特性や発達を踏まえ、五領域が総合的に関連した子どもの生活あそびの意義を理解し、保育構想ができる。身につけた知識・技能（音楽、絵本、手遊び歌、造形等）を活用して、子ども理解に基づく保育を創造し、実践を示すことができる。他者と協働して、子どもの心身の成長を促す保育を構想できる。	幼児期の特性や発達を踏まえ、五領域が総合的に関連した子どもの生活とあそびの意義について知り保育構想を試みることができる。身につけた知識・技能（音楽、絵本、手遊び歌、造形等）の一部を生かし、子ども理解に基づく保育の実践を試みることができる。他者と協働して子どもの心身の成長を促す保育のイメージをもつことができる。	幼児期の特性や発達を踏まえ、五領域が総合的に関連した子どもの生活とあそびの意義について概ね知る。身につけた知識・技能（音楽、絵本、手遊び歌、造形等）の一部を生かし、子ども理解に基づく保育の実践を断片的に試みることができる。他者と協働して、子どもの心身の成長を促す保育のイメージがもてるよう努力することができる。
該当DPに対する到達度の目安	既習の保育・幼児教育に必要な知識・技能を活用して子ども理解に基づく子どもの生活やあそびの中で育つ保育実践を構想できる。身につけた知識や技能を分かりやすく子どもに伝えるよう工夫・改善ができる。子どもの発達を理解し、五領域が関連するあそびや子どもの表現を豊かに育てる活動を、他者と協働して構想・実践できる。	既習の保育・幼児教育に必要な知識・技能を活用して子ども理解に基づく子どもの生活やあそびの中で育つ保育実践について理解できる。身につけた知識や技能を子どもに伝えるよう工夫できる。子どもの発達を理解し、五領域が関連したあそびや子どもの表現を豊かに育てる活動を他者と協働して構想できる。	既習の保育・幼児教育に必要な知識・技能を活用して子ども理解に基づく子どもの生活やあそびの中で育つ保育実践について知る。身につけた知識や技能の基礎を子どもに示すことができる。子どもの発達を理解し五領域が関連したあそびや子どもの表現を豊かに育てる活動を他者と協働して試みることができる。	既習の保育・幼児教育に必要な知識・技能の一部を活用して、子ども理解に基づく子どもの生活やあそびの中で育つ保育実践について知る。身につけた知識や基礎的技能の一部を子どもに示すことができる。子どもの発達を理解し、五領域が関連したあそびや子どもの表現を豊かに育てる活動を他者と協働して試みるよう努力できる。

年度	2019	学科	保育学科	ナンバリング科目コード	33414	ICT活用	―
授業科目名	子どもの生活や遊びB					実務教員	○
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	２年	期間	後期	必修区分	[保選]		
授業形態	演習	単位数	2	担当形態	複数		
教員	三島　裕一／木村　美佐子						
該当ディプロマ・ポリシー ＤＰ項目番号	DP1,2,3,4,5,6,7,8,9 知識・技能(DP1～3)、思考力・判断力・表現力(DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力(DP7～9)						

授業のテーマ及び到達目標

これまで学んできた幼児の育ちを支える五領域の学びや身体表現、音楽表現、造形表現、言語表現等の表現活動に関する知識・技能を総合的に発展させ、幼児の関わり合いや幼児の心身の豊かな成長を促す表現活動(創作劇など)を協働して創造する。
1. 子どもの生活やあそびにおける表現・創作活動について説明できる
2. 小学校での学びにつながる保育の具体的展開の技術・環境構成を説明できる
3. 保育・幼児教育における劇発表やお遊戯会等の企画について説明できる

授業の概要

子どもの生活やあそびにおける表現・創作活動を通して、思考力の芽生え、言葉による伝え合いなど、小学校での学びにつながる力を育てる保育の具体的展開のための技術習得や環境構成など、保育・幼児教育における劇発表やお遊戯会等を企画・実施できる総合的実践力を養う。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

予習：脚本の基となる絵本や物語について広く調べたり、実際に読んでみる。また、オペラや演劇を広く鑑賞し、記録をとっておく。
復習：自分の造形表現や身体表現、音楽表現を振り返り、課題を見い　だして次の授業への改善点を見いだす。

標準学修時間の目安

予習、復習を合わせて４時間程度の学修が望ましい。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

・作成した造形作品や脚本について添削し、返却する。
・身体表現、音楽表現についてはその場で評価し、伝えていく。

使用教科書

	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	なし	なし	なし	なし
2				
3				

使用教科書備考

なし

参考書・参考資料等

保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

実務経験のある教員の略歴と教育内容

三島裕一氏は、24年間の国語教師の経験をもとに、『言葉』、『保育内容総論』、『保育内容（言葉）』等の科目や教育実習に向けた読む力、書く力などについて指導を行う。また、12年間の公立小中学校での管理職、8年間の公立幼稚園長職の経験を生かし、『教育経営論』等の科目において、幼稚園等の経営の実際を基に、具体的・実践的な授業を行う

その他

オリジナルの脚本を作成したり、創作ダンス、舞台美術なども構想するため、読書や演劇鑑賞など幅広い知識や経験を積み重ねることが求められる。

授業計画

第 1回　オリエンテーション、子どもの生活やあそびにおける体験を基にした保育・幼児教育の表現活動の意義
第 2回　子どもの生活やあそびの豊かな展開を目指す創作劇の構想、グループワーク
第 3回　オリジナル台本の制作(子どもの生活やあそびのイメージの醸成、グループワーク
第 4回　オリジナル台本の確認、(保育の具体的展開のための技術の習得) グループワーク
第 5回　台本における場の構成(子どもの生活や遊びにおける豊かな感性の養う環境構成) グループワーク
第 6回　創作劇の役割・係決め、(他者との関係や集団の育ちの理解と援助)、グループ編成
第 7回　創作劇の練習・ストーリー確認（絵本、人形劇、ストーリーテリング等に親しむ体験を踏まえて）
第 8回　創作劇の練習・音楽表現の構想（身近な自然やものの音、声、音楽等に親しむ体験を踏まえて）
第 9回　創作劇の練習・造形表現の構想（身近な自然やものの色、形、感触やイメージ等に親しむ体験を踏まえて）
第10回　創作劇の練習・身体表現の構想（ごっこ遊び、運動あそび等の体験を踏まえて）
第11回　全体練習（保育環境構成の確認）
第12回　全体練習の省察・改善点の確認（保育構想力の育成）
第13回　リハーサル準備、劇発表パンフレット作製（素材や教材の特性の理解と活用と作成）
第14回　創作劇リハーサルと省察・改善点の確認（知識・技術の実践および保育構想力の育成）
第15回　創作劇発表（完成を養うための環境構成と保育の展開に必要な知識・技術および保育実践力の育成）

【学生に対する評価】
・授業態度、グループワークの参加意欲、脚本や舞台美術の制作、発表などを総合的に評価する。

成績評価の方法 (試験項目)	筆記 (定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文 (レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（%）	0%	60%	20%	0%	20%	100

成績評価の基準（ルーブリック）

到達度	秀逸	優秀	良好	最低限
授業の到達目標に対する到達度の目安	・５領域の学びや身体・音楽・造形・言語表現等の活動に関する知識・技能を十分に理解し、それられを総合的に発展させ、心身の成長を促す表現活動を意欲的に創造することができる。 ・小学校での学びにつながる保育の具体的展開の技術・環境構成についてや、劇発表、お遊戯会などの企画について考え、簡潔にわかりやすく説明できる。	・５領域の学びや身体・音楽・造形・言語表現等の活動に関する知識・技能を理解し、それられを発展させて心身の成長を促す表現活動を創造することができる。 ・小学校での学びにつながる保育の具体的展開の技術・環境構成についてや、劇発表、お遊戯会などの企画について考え説明できる。	・５領域の学びや身体・音楽・造形・言語表現等の活動に関する知識・技能を概ね理解し、発展させて心身の成長を促す表現活動を創造することができる。 ・小学校での学びにつながる保育の具体的展開の技術・環境構成についてや、劇発表、お遊戯会などの企画について考えることができる。	・５領域の学びや身体・音楽・造形・言語表現等の活動に関する知識・技能をある程度理解し、それを基に心身の成長を促す表現活動を創造しようと努めることができる。 ・小学校での学びにつながる保育の具体的展開の技術・環境構成について、あるいは劇発表、お遊戯会などの企画についてある程度理解することができる。
該当DPに対する到達度の目安	保育者の社会的使命を十分理解し、子育ての環境の課題を見据え、解決法を導き出す力を獲得している。また専門知識を基に音楽、造形、言語表現の技術を高めることで子どもの成長を促すことができる。さらに地域の特性を理解して保育に反映させ、外部の人と綿密なコミュニケーションをとり、子どもの成長を促す企画を考え実践できる。	保育者の社会的使命を十分理解し、子育ての環境の課題に着目して解決法を導き出そうとする。また、専門知識を獲得し、音楽、造形言語表現の技術を子どもの成長のために活用することができる。さらに地域の特色を保育に反映させると共に外部の人とコミュニケーションをとり、子どもの成長のための企画を考え、実践できる。	保育者の社会的使命を理解し、子育ての環境の課題を理解し解決法を導き出そうと努力する。また専門知識を獲得し、音楽、造形、言語表現の技術を子どもの成長のために活用しようと努めることができる。さらに地域の特色を保育に反映させようと努め、外部の人とコミュニケーションをとり子どもの成長を図る企画を考えることができる。	保育者の社会的使命を概ね理解し、子育ての環境の課題についてある程度理解できる。また専門知識を獲得しようと努め、音楽、造形言語表現の技術を身につける努力ができる。さらに地域の特色を保育に反映させる必要性を理解し、外部の人とのコミュニケーションを図ろうと努力することができる。

年度	2019	学科	保育学科	ナンバリング科目コード	33414	ICT活用	―
授業科目名	子どもの生活や遊びC					実務教員	―
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	２年	期間	後期	必修区分	[保選]		
授業形態	演習	単位数	2	担当形態	単独		
教員	松田　賢一						
該当ディプロマ・ポリシー ＤＰ項目番号	DP1,2,3,4,5,6,7,8,9 知識・技能(DP1～3)、思考力・判断力・表現力(DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力(DP7～9)						

授業のテーマ及び到達目標

乳児から多様な動きを経験させることと、運動遊びと幼児期の終わりまで育ってほしい姿の関連性について実技を通して体得する。
1. 乳幼児期にふさわしい運動指導のあり方を説明できる
2. 運動あそびと幼児期の終わりまで育ってほしい１０の姿の関連性を説明できる
3. 0歳児から3歳児以上児の運動あそびを説明できる
4. 5領域の総仕上げ創作幼児体育を説明できる

授業の概要

保育所保育指針及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領の乳児保育の身体発達に関する視点「健やかに伸び伸びと育つ」、1歳以上3歳未満児の領域「健康」でも「ねらい及び内容」には、「はう、立つ、歩くなど」「走る、跳ぶ、登る、押す、ひっぱるなどの」基本的な動きをしようとすること、十分に体を動かすこと、さらには自らの体を動かそうとする意欲が育つようにすることが記された。本講義では、5領域の総仕上げとして、実際に行った実技を数種類組み合わせた身体表現である「創作幼児体育」の発表をする。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

・毎週の講義で前回の復習をするので、ノートを用いて学習し、疑問点を整理すること。
・実技では、担当教員がそれぞれ動きに何が養われるか、子どもの10の姿から解説をするのメモをしっかりとり、ノートに整理すること。

標準学修時間の目安

次回の講義までに予習・復習を含めて4時間の学修が望ましい。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

ノート、課題等については、貴担当教員が確認後コメントを付し、確認印を押し、学生に返却する。

使用教科書

	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	なし	－	－	－
2				
3				

使用教科書備考

保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、文部科科学省「幼児期運動指針」

参考書・参考資料等

必要に応じてプリントを配布する。

実務経験のある教員の略歴と教育内容

実務経験のある教員に該当しない。

その他

・A4のノートを用意すること。
・実技については、別途プリントにて知らせる。

授業計画

第 1回　乳幼児期にふさわしい運動指導のあり方
第 2回　乳幼児期にふさわしい運動指導のあり方（グループディスカッション）
第 3回　運動あそびと運動発達
第 4回　運動あそびと幼児期の終わりまで育ってほしい10の姿との関連性
第 5回　実技：0歳児向けの運動あそびを体験（なでなであそび、寝返りゴロゴロ、ボールコロコロ等）
第 6回　実技：1歳児向けの運動あそびを体験（カニさん歩き、電車ごっこ、マットトンネル、マットうさぎ等）
第 7回　実技：２歳児向けの運動あそびを体験（ものまねジャンプ、はしごあそび、いっしょにゴロゴロ等）
第 8回　実技：3歳児向けの運動あそびを体験（フラミンゴ、かかしになーれ、トンネルジャンケン、波ジャンケン等）
第 9回　実技：3歳児以上向けの運動あそびを体験（大根ぬき、マット引き競争、ドッジボール、タッチでキャッチ等）
第10回　実技：3歳児以上向けの運動あそびを体験（木とリス、円形場所変え鬼、いけこい鬼、各種ボールあそび等）
第11回　5領域の総仕上げ「創作幼児体育」の説明、グループ編成、指導案作成準備
第12回　「創作幼児体育」内容決定、指導案作成
第13回　体育館で書くグループ毎に指導案に沿って練習
第14回　「創作幼児体育」各グループでのリハーサル
第15回　「創作幼児体育」発表会、まとめ・ノート整理

【学生に対する評価】
授業態度、グループワークの参加意欲、発表などを総合的に評価する。

成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（%）	0	40	40	0	20	100

成績評価の基準（ルーブリック）

到達度	秀逸	優秀	良好	最低限
授業の到達目標に対する到達度の目安	乳幼児期にふさわしい運動指導の在り方について、幼児期の終わりまで育ってほしい10の姿との関連性を理解し、5領域の総仕上げとして、実際に取り組んできた実技を数種類組み合わせた身体表現である「創作幼児体育」を行うことで、幼児期になぜ運動が必要かを他者に詳細かつ適切に伝えることができる。	乳幼児期にふさわしい運動指導の在り方について、幼児期の終わりまで育ってほしい10の姿との関連性を理解し、実際に取り組んできた実技を数種類組み合わせた身体表現である「創作幼児体育」を行うことで、幼児期になぜ運動が必要かを他者に適切に伝えることができる。	乳幼児期にふさわしい運動指導の在り方について、幼児期の終わりまで育ってほしい10の姿との関連性を理解し、実際に取り組んできた実技を組み合わせた身体表現である「創作幼児体育」を行うことで、幼児期になぜ運動が必要か理解している。	乳幼児期にふさわしい運動指導の在り方について、幼児期の終わりまで育ってほしい10の姿との関連性を理解し、実際に取り組んできた実技を数種類組み合わせた身体表現である「創作幼児体育」を行うことで、幼児期になぜ運動が必要かについて、断片的であるが理解している。
該当DPに対する到達度の目安	乳幼児期にふさわしい運動指導の在り方について、幼児期の終わりまで育ってほしい10の姿との関連性を理解し、5領域の総仕上げとして取り組む「創作幼児体育」を行うことで、専門的職業人として、大切なコミュニケーション力・社会人力の育成と同時に関連する情報の継続的な収集と他者への発信力を身に付けている。	乳幼児期にふさわしい運動指導の在り方について、幼児期の終わりまで育ってほしい10の姿との関連性を理解し、5領域の総仕上げとして取り組む「創作幼児体育」を行うことで、専門的職業人として、大切なコミュニケーション力・社会人力の育成について理解し、他者への発言、課題解決に向けて努力することができる。	乳幼児期にふさわしい運動指導の在り方について、幼児期の終わりまで育ってほしい10の姿との関連性を理解し、5領域の総仕上げとして取り組む「創作幼児体育」を行うことで、専門的職業人として大切なコミュニケーション力・社会人力について理解し、ある程度の情報の収集と他者への発信ができる。	乳幼児期にふさわしい運動指導の在り方について、幼児期の終わりまで育ってほしい10の姿との関連性について理解できず、関連する情報の収集や他者への発信を行うことがほとんどできない。

年度	2019	学科	保育学科	ナンバリング科目コード	33420	ICT活用	―
授業科目名	保育の記録と伝え合い					実務教員	○
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	２年	期間	後期	必修区分	[保選]		
授業形態	演習	単位数	2	担当形態	単独		
教員	三島　裕一						
該当ディプロマ・ポリシー ＤＰ項目番号	DP1,2,3,4,5,6,7,8,9 知識・技能(DP1～3)、思考力・判断力・表現力(DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力(DP7～9)						

授業のテーマ及び到達目標

言葉が未発達の3歳未満児については、保育者がきちんと保育の中での子どもの多様な姿を伝える必要がある。登園降園時の保護者との会話や記録の中で、保育を伝えるといった能力が必要とされる。
1. 子どものしぐさ・行動から子どもの発達や状況を知り、子どもを見るべきポイント・視点を獲得する。
2. 保育者と子どもの関わりの実際から、なぜ保育者がそのように関わったのか、関わりの意図を理解する。
3. 保護者とのかかわりのなかで、子どもの育ちに関わる情報を獲得し、保護者と共に子どもを育てる視点を養う。
4. 子育て・保育における「見る視点」「記録するポイント」「伝え合うポイント」を明確化する。

授業の概要

新しい保育所保育では、子どもの発達を　1) 乳児期(誕生から12カ月まで)　2) 1歳以上3歳未満期　3) 3歳以上期と大きく3つに区分しさらに、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を提示している。本授業では誕生から幼児期の終わりまでの子どもの発達やその状況を的確に把握し(見る力)、それを記録し(記録する力)、保護者に保育の内容を伝え、保護者から家庭の状況を伝えてもらう力(伝え合う力)の獲得に焦点化し学習を進める。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

予習：授業に関連する項目について、『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』等を熟読しておくこと。
復習：授業で学んだ点、疑問点、自分で調べた事項などをノートに整理しておくこと。

標準学修時間の目安

１回の講義あたり２時間の予習と２時間の復習が必要となる。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

ノートやレポートの提出後、コメントや評価を付して返却すると共に、模範的なものについては、授業の中で適宜紹介していく。

使用教科書

	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	日本語表現法改訂版	沖森卓也　半沢幹一	三省堂	9784358345895
2				
3				

使用教科書備考

日本語表現法改訂版（沖森卓也、半沢幹一）

参考書・参考資料等

保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携認定こども園教育・保育要領

実務経験のある教員の略歴と教育内容

24年間の国語教師の経験をもとに、『言葉』、『保育内容総論』、『保育内容（言葉）』等の科目や教育実習に向けた読む力、書く力などについて指導を行う。また、12年間の公立小中学校での管理職、8年間の公立幼稚園長職の経験を生かし、『教育経営論』等の科目において、幼稚園等の経営の実際を基に、具体的・実践的な授業を行う。

その他

・本科目履修生は、資料を綴るファイルとＢ５版のノートを持参すること。
・レポートあるいはノートは点検し、評価する。

授業計画

第 1回　子どもを捉える視点の重要性(子ども理解の3層構造　①その子理解　②状況理解③普遍的子ども理解
第 2回　子どものしぐさ・表情・言葉等からつかむ「その子理解」と「状況理解」
第 3回　乳児期(誕生から12ヶ月まで)の保育における子どもを見る際のポイント(見る目の獲得)
第 4回　乳児期(誕生ら12ヶ月まで)の保育における子どもの状況の記録するポイント(記録する力の獲得)
第 5回　乳児期(誕生から12ヶ月まで)の保育における子どもの状況の保護者との伝え合い(伝え合う力の獲得)
第 6回　1歳以上3歳未満児の保育における子どもを見る際のポイント(見る目の獲得)
第 7回　1歳以上3歳未満児の保育における子どもの状況の記録するポイント(記録する力の獲得)
第 8回　1歳以上3歳児未満児の保育におけるこどもの状況の保護者との伝え合い(伝え合う力の獲得)
第 9回　3歳以上児の保育における子どもを見る際のポイント(見る目の獲得)
第10回　3歳以上児の保育における子どもの状況の記録するポイント(記録する力の獲得)
第11回　３歳以上児の保育における子どもの状況の保護者との伝え合い(伝え合う力の獲得)
第12回　幼児期の終わりにおける子どもを見る際のポイント(幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を見る目の獲得)
第13回　幼児期の終わりにおける子どもの状況の記録するポイント(幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を記録する力の獲得)
第14回　幼児期の終わりにおける子どもの状況の保護者との伝え合い(幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を伝え合う力の獲得)
第15回　育ちゆく子どもの姿とそれを捉える保育者の確かな視点の獲得(本授業のまとめ)

【学生に対する評価】
(試験やレポートの評価基準など)

成績評価の方法(試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（%）	60	0	30	0	10	100

成績評価の基準（ルーブリック）

到達度	秀逸	優秀	良好	最低限
授業の到達目標に対する到達度の目安	子どもの言動から発達の状況、現在の様子等を十分理解し、的確な視点を獲得できる。また、保育者と子どもの関わりの実際から子どもの意図を的確に理解できる。さらに保護者との連携の中で有用な情報を選択し共有することのできる力を獲得し、子育て・保育における、見る視点、記録、伝え合うポイントを他者に説明できる。	子どもの言動から心情などを十分理解し、子どもを見る視点を獲得できる。また保育者と子どもの関わりの実際から、関わりの意図を的確に理解することができる。さらに保護者との連携を通して情報を共有するための方法を理解し、子育て・保育における、見る視点、記録、伝え合うポイントを明確にすることができる。	子どもの言動から心情などを理解し、子どもを見る視点の幾つかを獲得できる。また保育者と子どもの関わりの実際から、その意図を理解することができる。さらに保護者との連携を通して情報を共有するための方法を概ね理解し、子育て・保育における、見る視点、記録、伝え合うポイントなどを理解できる。	子どもの言動から心情などを理解しようとし、子どもを見る視点の幾つかを獲得できる。また保育者と子どもの関わりの実際から、その意図をある程度理解できる。さらに保護者との連携を通して情報を共有するための方法を理解しようと努め、子育て・保育における見る視点、記録、伝え合うポイントなどをある程度理解できる。
該当DPに対する到達度の目安	保育者として社会的使命を十分に理解し、専門知識を獲得した上で子どもの心の動きに合わせた保育を目指すと共に保護者と連携しながら子どもの成長を促すことができる。また獲得した知識を活用して的確に物事を認識したり評価する能力を身につけている。さらに他者と綿密なコミュニケーションを図り課題を解決する事ができる。	保育者として社会的使命を理解し、専門知識を獲得した上で子どもの心の動きに合わせた保育を目指すとともに、保護者と連携をとりながら子どもの成長を促すことができる。また、獲得した知識を活用して物事を認識したり評価する能力を身につけている。さらには他者とコミュニケーションをとり、課題を解決することができる。	保育者として社会的使命を概ね理解し、専門知識を獲得した上で子どもの心の動きに合わせた保育を目指すとともに、保護者と連携をとりながら子どもの成長を促すことができる。また、物事を認識する能力を身につけようと努力している。さらには、他者とコミュニケーションをとり、課題を解決しようと試みることができる。	保育者として社会的使命をある程度理解し、専門知識を獲得した上で子どもの心の動きに合わせた保育を目指すとともに、保護者と連携をとりながら子どもの成長を促そうと努めるここができる。また、他者とコミュニケーションをとり、課題を解決しようと努力することができる。

年度	2019	学科	保育学科	ナンバリング科目コード	34210	ICT活用	―
授業科目名	保育実習Ⅰ					実務教員	○
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	２年	期間	その他	必修区分	保		
授業形態	実験・実習	単位数	4	担当形態	複数		
教員	松田　賢一／岡﨑　圭子／榊　ひとみ						
該当ディプロマ・ポリシー ＤＰ項目番号	DP1,2,3,4,5,7,8 知識・技能(DP1～3)、思考力・判断力・表現力(DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力(DP7～9)						

授業のテーマ及び到達目標

保育実習はその習得した教科全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うために行うことを目的とする。
1. 保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に説明できる
2. 観察や子どもとの関わりを通して、子どもへの理解について説明できる
3. 既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に説明できる
4. 保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に説明できる
5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に説明できる

授業の概要

保育実習は、習得した教科全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うため、児童に対する理解を通じて保育の理念と実践の関係について習熟させる。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

実習前には、配布されたプリント、資料を熟読し、保育実習指導Ⅰの学修を振り返ること。

標準学修時間の目安

1日の実習日誌記入に1-3時間程度の学修が必要である。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

・実習報告書並びに実習日誌を提出し検印を受ける。
・実習園からの評価を開示し、自己評価と合わせた個別の指導を実施する。

使用教科書

	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	なし	－	－	－
2				
3				

使用教科書備考

保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

参考書・参考資料等

保育実習ガイドライン(第3版)施設実習編　全国保育士養成協議会　北海道ブロック協議会　編

実務経験のある教員の略歴と教育内容

岡崎圭子氏は、長きに渡り函館市役所に勤め、子ども未来部長の職責を全うし、保育士資格を取得し、その実績から適切な保育実習指導を行う。

その他

【受講条件】1年前期に開講される卒業必修科目、保育士必修科目のむ単位修得済であること。また、選択必修科目についても、1年次前期で履修すべき単位を修得済であること。ただし、特段の理由がある場合については、保育学科教務委員会の審査を経て特別に履修を許可することがある。(科目等履修生など)

授業計画

第 1回　保育所における子どもの生活と保育士の援助や関わり
第 2回　保育所保育指針に基づく保育の展開
第 3回　子どもの観察とその記録による理解
第 4回　子どもの発達過程の理解
第 5回　子どもへの援助や関わり
第 6回　保育の計画に基づく保育内容、子どもの発達過程に応じた保育内容、子どもの健康と安全
第 7回　子どもの生活や遊びと保育環境
第 8回　全体的な計画と指導計画及び評価の理解、記録に基づく省察・自己評価
第 9回　専門職としての保育士の役割と職業倫理(保育士の業務内容、職員間の役割分担や連携・協働、保育士の役割と職業倫理)
第10回　施設における子どもの生活と保育士の援助や関わり
第11回　施設の役割と機能、子ども理解(子どの観察とその記録、個々の状態に応じた援助や関わり)
第12回　施設における子どもの生活と環境
　　(計画に基づく活動や援助、子どもの心身の状態に応じた生活と対応、子どもの活動と環境、健康管理、安全対策の理解)
第13回　計画と記録、支援計画の理解と活用
第14回　記録に基づく省察・自己評価
第15回　専門職としての保育士の役割と倫理(保育士の業務内容、職員間の役割分担や連携、保育士の役割と職業倫理)

【学生に対する評価】
・実習報告書、実習日誌、実習園からの評価を総合的に評価する。

成績評価の方法(試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（%）	0	60	40	0	0	100

成績評価の基準（ルーブリック）

到達度	秀逸	優秀	良好	最低限
授業の到達目標に対する到達度の目安	保育実習は、その習得した教科全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うために行う。保育所の機能と保育士の職務について学ぶと同時に施設の機能と施設保育士の職務について他者に詳細かつ適切に伝えることができる。	保育実習は、その習得した教科全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する哉うよう能力を養うために行う。それらを理解し他者に適切に伝えられることができる。	保育実習は、その習得した教科全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うために行う。それらのことについて理解している。	保育実習は、その習得した教科全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践す応用能力を養うために行う。それらのことを断片的に理解している。
該当DPに対する到達度の目安	保育実習は、その習得した教科全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うために行う。その結果として社会人力・コミュニケーション力が身についている。	保育実習は、その習得した教科全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うために行う。また、課題解決に向けた努力をすることができる。	保育実習は、その習得した教科全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うために行う。それらのことをある程度他者へ発信ができる。	保育実習は、その習得した教科全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うために行う。しかし、これらの情報を他者へ発信がほとんどできない。

年度	2019	学科	保育学科	ナンバリング科目コード	34320	ICT活用	―
授業科目名	保育実習Ⅱ					実務教員	―
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	２年	期間	その他	必修区分	[保実習選]		
授業形態	実験・実習	単位数	2	担当形態	複数		
教員	榊　ひとみ／赤坂　和哉						
該当ディプロマ・ポリシー ＤＰ項目番号	DP1,2,3,4,5,7,8 知識・技能(DP1～3)、思考力・判断力・表現力(DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力(DP7～9)						

授業のテーマ及び到達目標

保育実習Ⅱでは、養護と教育が一体的に行われるという、保育の基本原理や社会的役割を具体的実践から学ぶことを目的としておこなう。
1. 保育所の役割や機能について、具体的な実践を通して理解できる。
2. 子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して、保育の理解できる。
3. 既習の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び子育て支援について総合的に理解できる。
4. 保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価について、実際に取り組み、理解できる。
5. 保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結びつけて説明できる。
6. 実習における自己の課題を明確にすることができる。

授業の概要

これまでの既習科目と保育実習Ⅰでの実習経験を踏まえて、保育を総合的にとらえる視点を培う。保育の基本となる考え方、多様な保育の展開、保護者支援、子育て支援、地域連携等、保育所及び保育士の役割全般に対する理解を深める。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

・実習前に配布する資料を事前に読み返し、内容の詳細を理解し、実習に臨むこと。
・実習生としての立場をわきまえ、実習生として相応しい礼節を身に付けておくこと。

標準学修時間の目安

1回の報告書（レポート）作成に2～4時間程度の学修が必要となる。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

・実習日誌は、実習終了後に担当教員に提出し、確認後学生に返却する。
・実習報告書は、指定された日までに提出すること。（詳細については別途伝える。）

使用教科書

	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	なし	－	－	－
2				
3				

使用教科書備考

保育所保育指針、幼稚連携型認定こども園教育・保育要領

参考書・参考資料等

必要に応じて適宜配布する。

実務経験のある教員の略歴と教育内容

実務経験のある教員に該当しない。

その他

・1年次開講の卒業必修科目、保育士必修科目を単位履修済みであること。また、選択必修科目についても、1年次で履修すべき単位を修得済みであること。
・成績評価については、実習園での評価と本学における評価を総合する。

授業計画

第 1回　保育所の役割や機能の具体的展開の理解①　養護と教育が一体となって行われている保育
第 2回　保育所の役割や機能の具体的展開の理解②　保育所の社会的役割と責任
第 3回　観察に基づく保育理解①　子どもの心身の状態や活動の観察
第 4回　観察に基づく保育理解②　保育士等の援助や関わり
第 5回　観察に基づく保育理解③　保育所の生活の流れや展開の把握
第 6回　子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会との連携①
　　環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育
第 7回　子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会との連携②
　　入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援
第 8回　子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会との連携③　関係機関や地域社会との連携・協働
第 9回　指導計画の作成・実践・観察・記録・評価①　全体的な計画に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解
第10回　指導計画の作成・実践・観察・記録・評価②　作成した指導計画に基づく保育の実践と評価
第11回　保育士の業務と職業倫理①　多様な保育の展開と保育士の業務
第12回　保育士の業務と職業倫理②　多様な保育の展開と保育士の職業倫理
第13回　保育士間の連携とカンファレンスの意義の理解
第14回　実習日誌への記録を通した保育実践の質的向上の理解
第15回　自己の課題の明確化

【学生に対する評価】
実習保育所での評価と本学における評価を総合する。

成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（%）	0	60	20	0	20	100

成績評価の基準（ルーブリック）

到達度	秀逸	優秀	良好	最低限
授業の到達目標に対する到達度の目安	保育所の役割や機能、子どもと保育者の関わりを含む保育理解、子育て支援の必要性、PDCAサイクルの必要性、保育士の職業倫理、実習における自己の課題を把握・理解し、実習での具体的かつ実践的な学習と既習の教科や保育実習Ⅰにおける学習を有機的に結び付け構造的に意味づけ、他者にわかりやすく詳細かつ正確に説明できる。	保育所の役割や機能、子どもと保育者の関わりを含めた保育の理解、子育て支援の必要性、PDCAサイクルの必要性、保育士の職業倫理実習における自己の課題を把握・理解し、実習での具体的かつ実践的な学習と既習の教科や保育実習Ⅰにおける学習を結び付けて意味づけ、他者に説明できる。	保育所の役割や機能、子どもと保育者の関わりを含めた保育の理解、子育て支援の必要性、実習における PDCAサイクルの意義、保育士の職業倫理、実習における自己の課題を把握・理解することができる。	保育所の役割や機能、子どもと保育者の関わりを含めた保育の理解、子育て支援の必要性、実習における PDCAサイクルの意義、保育士の職業倫理、実習における自己の課題を、部分的に把握・理解することができる。
該当DPに対する到達度の目安	保育者としての高い倫理観を保持し、保育と子育て支援に必要な専門的知識と技術を、実習園の特性を把握しながら実習に生かし、保育・子育て支援状の課題や問題を担当者や実習生同士で協働し、主体的に解決しようとする姿勢が培われている。また、実習先での経験を構造的に理解し、他者にわかりやすく、詳細かつ正確に説明できる。	保育者としての倫理観を保持し、保育と子育て支援に必要な専門的知識と技術を実習園の特性を把握しながら実習に生かし、保育・子育て支援状の課題や問題を実習担当者に質問・相談しながら、解決しようとする姿勢が培われている。また実習先での経験を他者に正確に説明できる。	保育者としての倫理観を保持し、保育と子育て支援に必要な専門的知識と技術を実習に生かし、保育・子育て支援状の課題や問題を把握・理解しようとする姿勢が培われている。また、実習先での経験を他者に説明できる。	保育者としての倫理観を保持し、保育と子育て支援に必要な知識と技術を実習に生かそうとする姿勢が培われている。しかしながら、他者への実習先での経験の説明は断片的なものにとどまっている。

年度	2019	学科	保育学科	ナンバリング科目コード	34330	ICT活用	―
授業科目名	保育実習Ⅲ					実務教員	○
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	２年	期間	その他	必修区分	[保実習選]		
授業形態	実験・実習	単位数	2	担当形態	複数		
教員	松田　賢一／岡﨑　圭子						
該当ディプロマ・ポリシー ＤＰ項目番号	DP1,2,3,4,5,7,8 知識・技能(DP1～3)、思考力・判断力・表現力(DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力(DP7～9)						

授業のテーマ及び到達目標

保育実習Ⅰ(施設)での体験に基づき、その他の社会福祉施設の養護を実践し、保育・養護の理論と技術を福祉施設の場で総合的に応用する力を養う。
1. 既習の教科目や保育実習の経験を踏まえ、児童福祉施設等(保育所以外)の役割や機能について実践を通して、理解する
2. 家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を習得する
3. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結び付けて理解する
4. 実習における事故の課題を理解する

授業の概要

保育実習Ⅰ(施設)で明らかになった実習生の特徴を伸ばすとともに、課題になっている点について取り組めるようにする。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

・『保育実習ガイドライン（施設実習編）』を事前に読み、内容の詳細を理解し実習に臨むこと。
・実習生としての立場をわきまえ、実習生として相応しい礼節を身に付けておくこと。

標準学修時間の目安

1回の報告書作成に2～4時間程度の学修が必要となる。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

・実習日誌は、実習終了後提出し、確認後学生に返却する。
・実習報告書は、指定された日まで提出の事。(別途伝える)

使用教科書

	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	なし	－	－	－
2				
3				

使用教科書備考

保育実習ガイドライン（第3版）(施設実習編）全国保育士養成協議会北海道ブロック協議会　編

参考書・参考資料等

必要に応じて適宜配布することがある。

実務経験のある教員の略歴と教育内容

家村昭矩氏は、児童自立支援施設（10年）、児童相談所、心身障害者総合相談所等（22年間）、保育士養成校（短大）教員の勤務経験を活かした指導を行う。岡崎圭子氏は、長きに渡り函館市役所で勤務し、子ども未来部長職の経歴からと保育士資格を取得したことにより、保育について幅広い知識を持っている。この経験から的確な指導をおこなうことができる。

その他

・1年次開講の卒業必修科目、保育士必修科目を単位修得済であること。また、これらの選択必修目についても、1年次で履修すべき単位を修得済であること。
・実習施設での評価と本学における評価を総合する。

授業計画

第 1回　保育実習Ⅲ各施設実習オリエンテーション
第 2回　児童福祉施設等(保育所以外)の役割と機能
第 3回　施設における支援の実際
第 4回　受容し、共感する態度
第 5回　個人差や生活習慣に伴う子ども(利用者)のニーズの把握と子ども理解
第 6回　個別支援計画の作成と実践
第 7回　子ども(利用者)の家族への支援と対応
第 8回　各施設における多様な専門職との連携・協働
第 9回　地域社会との連携・協働
第10回　保育士の多様な業務と職業倫理
第11回　保育実習Ⅲの報告会
第12回　保育実習Ⅲの報告会から見えてきたもの
第13回　事後指導における実習の総括と評価
第14回　実習の総括と自己評価
第15回　自己課題の明確化

【学生に対する評価】
・実習課題、実習日誌、実習報告書、実習報告発表会の内容を総合的に評価する。

成績評価の方法(試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（%）	0	60	20	0	20	100

成績評価の基準（ルーブリック）

到達度	秀逸	優秀	良好	最低限
授業の到達目標に対する到達度の目安	保育実習Ⅰ(施設)での実習体験に基づき、保育・養護の理論と技術を福祉施設の現場で総合的に応用する力を養う。また、新たに発生した課題に対して適切な対処法を検討できる。	保育実習Ⅰ(施設)での実習体験に基づき、保育・養護の理論と技術を福祉施設の現場で総合的に応用する力を養う。それらを他者へ適切な情報として伝えることができる。	保育実習Ⅰ(施設)での実習体験に基づき、保育・養護の理論と技術を福祉施設の現場で総合的に応用する力を養うことについて理解している。	保育実習Ⅰ(施設)での実習体験に基づき、保育・養護の理論・技術を福祉施設の現場で総合的に応用する力を養うことについて、断片的であるが理解している。
該当DPに対する到達度の目安	保育実習Ⅰ(施設)での実習体験に基づき、保育・養護の理論と技術を福祉施設の現場で総合的な応用する力を養い、社会人力とコミュニケーション力が身についている。	保育実習Ⅰ(施設)での実習体験に基づき、保育・養護の理論と技術を福祉施設の現場で総合的な応用する力を養い、課題解決に向けた努力することができる。	保育実習Ⅰ(施設)での実習体験に基づき、保育・養護の理論と技術を福祉施設の現場で総合的に応用する力を養い他者へ発信できる。	保育実習Ⅰ(施設)での実習体験に基づき、保育・養護の理論と技術を福祉施設の現場で総合的に応用する力を養うことがほとんどできない。

年度	2019	学科	保育学科	ナンバリング科目コード	34220	ICT活用	―
授業科目名	保育実習指導Ⅱ					実務教員	―
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	２年	期間	その他	必修区分	[保実習選]		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	複数		
教員	榊　ひとみ／赤坂　和哉						
該当ディプロマ・ポリシー ＤＰ項目番号	DP1,2,3,4,5,7,9 知識・技能(DP1～3)、思考力・判断力・表現力(DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力(DP7～9)						

授業のテーマ及び到達目標

児童福祉施設(保育所以外)における実習に臨むにあたって必要な事前の学習を深める。
1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する
2. 実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。
3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。
4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。
5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。

授業の概要

本講義では、実習を円滑に進めるとともに、実習後において評価と自己の振り返りとともに自己課題を明確にする。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

初回の授業前にシラバスをよく読んでおくこと。また、担当教員が事前に配布する資料の下調べをしっかりと行うこと。毎授業時に提示する課題を次の授業の前までに完了させること。授業後は、学生同士のディスカッション等を通じて、授業内容をさらに深めることが望ましい。

標準学修時間の目安

1回の講義あたり予習・復習を含めて2時間の学修が必要である。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

題提出期限後の授業で模範的な課題を紹介する。

使用教科書

	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	なし	－	－	－
2				
3				

使用教科書備考

適宜プリントを配布する。

参考書・参考資料等

なし

実務経験のある教員の略歴と教育内容

実務経験のある教員に該当しない。

その他

この授業は、保育実習Ⅱを選択する学生が同時に履修するものである。毎時、実習ファイルを持参すること。

授業計画

第 1回　保育実習の総合的な学び
第 2回　子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解
第 3回　子どもの保育と保護者支援
第 4回　保育の実践力の育成
第 5回　子ども(利用者)の状態に応じた適切なかかわり
第 6回　保育の知識・技術を活かした保育実践
第 7回　計画と観察、記録、自己評価
第 8回　保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践
第 9回　保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善
第10回　保育士の専門性と職業倫理
第11回　保育実習Ⅱの報告会
第12回　保育実習Ⅱの報告会から見えてきたもの
第13回　事後指導における実習の総括と評価
第14回　実習の総括と自己評価
第15回　課題の明確化

【学生に対する評価】
実習課題、実習日誌、実習報告書、実習報告発表会の内容を総合的に評価する

成績評価の方法(試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（%）	0	60	20	0	20	100

成績評価の基準（ルーブリック）

到達度	秀逸	優秀	良好	最低限
授業の到達目標に対する到達度の目安	実習の意義と目的、保育士の専門性と職業倫理を理解している。実習や既習科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力が身についている。また指導案作成を通し、保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善の意義を理解し実践できる。実習後は実習における自己課題を明らかにし、他者にその内容を構造的に説明できる。	保育実習の意義と目的、保育士の専門性と職業倫理を理解し、保育を理解している。実習や既習科目の内容を踏まえ、保育の実践力が身についている。また指導案作成を通して、保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善の意義を理解している。実習後は実習における自己課題を明らかにし、他者にその内容を説明することができる。	保育実習の意義と目的、保育士の専門性と職業倫理を理解し、保育を理解している。実習や既習科目の内容を踏まえ、保育の実践力が身についている。また指導案作成を通して、保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善の意義を理解している。実習後は実習における自己課題を明らかにすることができる。	保育実習の意義と目的、保育士の専門性と職業倫理を理解し、最低限の保育の実践力は身についている。保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善は部分的であり、実習における自己課題の明確化も一部にとどまっている。
該当DPに対する到達度の目安	保育者の社会的使命と倫理観を十分に理解し、保育と子育て支援に必要な専門的知識と技術を用いて、実習園の特性を把握し実習準備を主体的に進めている。またこれまでの学習を構造的に把握し、実習においても他者への思いやりを持ち、柔軟に対応する力を十分に身に付けている。	保育者の社会的使命と倫理観を理解し、これまで学習を踏まえて、保育と子育て支援に必要な専門的知識と技術を用いて、実習準備を進めている。実習においても他者への思いやりを持ち柔軟に対応しようと努力している。	保育者の社会的使命と倫理観を理解し、保育と子育て支援に必要な専門的知識と技術を用いて、指導担当者の助言により、実習準備を進めている。実習では柔軟に対応しようとしている。	最低限度の保育者の社会的使命と倫理観は理解している。また、実習準備における必要な専門的知識と技術の修得も必要最低限にとどまっている。

年度	2019	学科	保育学科	ナンバリング科目コード	34230	ICT活用	―
授業科目名	保育実習指導Ⅲ					実務教員	○
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	２年	期間	その他	必修区分	[保実習選]		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	複数		
教員	松田　賢一／岡﨑　圭子						
該当ディプロマ・ポリシー ＤＰ項目番号	DP1,2,3,4,5,7,9 知識・技能(DP1～3)、思考力・判断力・表現力(DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力(DP7～9)						

授業のテーマ及び到達目標

児童福祉施設(保育所以外)における実習に臨むにあたって必要な事前の学習を深める。
1 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する
2 実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する
3 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する
4 保育士の専門性と職業倫理について理解する
5 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする

授業の概要

本講義では、実習を円滑に進めるとともに、実習後において評価と自己の振り返りとともに自己課題を明確にする。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

・児童家庭福祉、社会的養護等の関連科目のテキスト、講義内容を再度確認して、理解を深めること。
・社会福祉施設の概要を文献、インターネット等で調べておくこと。
・実習施設、関連施設等からの行事等のボランティアの依頼があった場合は、可能な限り参加して施設理解に努めること。

標準学修時間の目安

次回の講義までに予習・復習を含めて2時間の学修が望ましい。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

実習報告書、その他課題については、担当教員確認後返却する。

使用教科書

	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	なし	－	－	－
2				
3				

使用教科書備考

保育実習ガイドライン（第3版）(施設実習編）全国保育士養成協議会北海道ブロック協議会　編

参考書・参考資料等

必要に応じて施設理解のためのプリントを配布する。

実務経験のある教員の略歴と教育内容

岡﨑圭子氏は、長きに渡り函館市役所で勤務し、子ども未来部長の職責を全し、また、保育士資格を取得された経験から幅広く実習についての講義を行う。

その他

事前に保育実習Ⅲ用のファイルを用意しておくこと。

授業計画

第 1回　保育実習の総合的な学び
第 2回　子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解
第 3回　子どもの保育と保護者支援
第 4回　保育の実践力の育成
第 5回　子ども(利用者)の状態に応じた適切なかかわり
第 6回　保育の知識・技術を活かした保育実践
第 7回　計画と観察、記録、自己評価
第 8回　保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践
第 9回　保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善
第10回　保育士の専門性と職業倫理
第11回　保育実習Ⅲの報告会
第12回　保育実習Ⅲの報告会から見えてきたもの
第13回　保育実習Ⅲの報告会から見えてきたもの
第14回　実習の総括と自己評価
第15回　課題の明確化

【学生に対する評価】
・実習課題、実習日誌、実習報告書、実習報告発表会の内容を相互y的に評価する。

成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（%）	0	60	20	0	20	100

成績評価の基準（ルーブリック）

到達度	秀逸	優秀	良好	最低限
授業の到達目標に対する到達度の目安	児童福祉施設(保育所以外)における実習に臨むにあたって必要な事前の学修を深め、実習の意義と目的を理解し、実習への課題を明確にでき、詳細かつ適切な情報を他者に伝えることができる。	児童福祉施設(保育所以外)における実習に臨むにあたって必要な事前の学修を深め、実習の意義と目的を理解し、実習への課題を明確に出来、それらを他者に適切な情報として伝えることができる。	児童福祉施設(保育所以外)における実習に臨むに当たって必要な事前の学修を深め、実習の意義と目的を理解している。	児童福祉施設(保育所以外)における実習に臨むに当たって必要な事前の学修を深め、実習の意義と目的断片的であるが理解している。
該当DPに対する到達度の目安	児童福祉施設(保育所以外)らおける実習に臨むにあたって必要な事前の学修を深め、関連する情報を継続的に他者への発信力が身についている。	児童福祉施設(保育所以外)における実習に臨むにあたって必要な事前の学修を深め、詳細な情報の収集と、課題解決に向けて努力することができる。	児童福祉施設(保育所以外)における実習に臨むに当たって必要な事前の学修を深め、ある程度他者の発信ができる。	児童福祉施設(保育所以外)における実習に臨むに当たって必要な事前の学修を深めることが出来ず、他者へ発信することがほとんどできない。

年度	2019	学科	保育学科	ナンバリング科目コード	36110	ICT活用	―
授業科目名	教育経営論					実務教員	○
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等	教育の基礎的理解に関する科目						
配当年次	２年	期間	前期	必修区分	幼		
授業形態	講義	単位数	1	担当形態	単独		
教員	三島　裕一						
該当ディプロマ・ポリシー ＤＰ項目番号	DP1,4 知識・技能(DP1～3)、思考力・判断力・表現力(DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力(DP7～9)						

授業のテーマ及び到達目標

1.幼稚園や保育所などの組織や経営、方法などの基本を理解し、説明できる。
2.幼稚園や保育所などを取り巻く現代の諸問題について理解し、説明できる。
3.幼稚園や保育所などを取り巻く現代の諸問題に対処する方法や改善方法について、自分の考えを持ったり説明することができる。

授業の概要

少子化や待機児童、家庭や地域の教育力の低下などさまざまな問題があるなかで、幼稚園や保育所、認定こども園等は、一層、その役割を果たすことが期待されている。本授業では、幼稚園を取り巻く諸問題を理解するとともに、園長や主任教諭や主任保育士などが、それに対処するための組織や経営の方法などについて学習する。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

予習：授業に関連する項目について、『幼稚園教育要領解説』、『保育所保育指針解説』を熟読しておくこと。
復習：授業で学んだ点、疑問点、自分で調べた事項などをノートに整理しておくこと。

標準学修時間の目安

1回の講義あたり0.5時間の予習と1.5時間の復習が必要となる。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

ノートあるいはレポート等の提出後、コメントや評価を付して返却すると共に、模範的なものについては、授業の中で紹介していく。

使用教科書

	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	なし	なし	なし	なし
2				
3				

使用教科書備考

使用しない。

参考書・参考資料等

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

実務経験のある教員の略歴と教育内容

24年間の国語教師の経験をもとに、『言葉』、『保育内容総論』、『保育容（言葉）』等の科目や教育実習に向けた読む力、書く力などについて指導を行う。また、12年間の公立小中学校での管理職、8年間の公立幼稚園長職の経験を生かし、『教育経営論』等の科目において、幼稚園等の経営の実際を基に、具体的・実践的な授業を行う

その他

・本科目履修生は、資料を綴るファイルとB5版のノートを持参すること
・ノートあるいはレポート等は点検し、評価する

授業計画

第 1回　学校を巡る近年の様々な状況の変化
第 2回　社会生活の変化を踏まえた上での指導上の課題―子供の生活の変化との関連で
第 3回　近年の教育政策の動向
第 4回　諸外国の教育事情と教育改革の動向
第 5回　学校や教育行政機関の目的、公教育の原理及び理念の理解、教育関係法規の理解、教育行政の理念と仕組み、教育制度をめぐる諸課題の例示
第 6回　学校経営の望むべき姿を理解する
第 7回　教育活動の年間の流れと学校評価の基礎理論　―　ＰＤＣＡの重要性
第 8回　学級経営の仕組みとその効果的な方法
第 9回　教職員、学校外の関係者・関係機関との連携・協働の在り方の重要性
第10回　地域との連携･協働による学校教育活動の意義と方法
第11回　地域との連携を基本とする開かれた学校づくり
第12回　危機管理・事故対応を含む学校安全の必要性、事件・事故・災害への対応
第13回　学校保健安全法に基づく学校安全の目的と具体的な取り組み
第14回　生活安全・交通安全・災害安全からみた学校経営における安全上の課題
第15回　生活安全・交通安全・災害安全からみた学校経営における安全上の課題
定期試験

【学生に対する評価】
授業態度（10%）、定期試験（60%）、ノート、小レポートなど（30%）により、総合的に評価する。

成績評価の方法(試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（%）	60	0	30	0	10	100

成績評価の基準（ルーブリック）

到達度	秀逸	優秀	良好	最低限
授業の到達目標に対する到達度の目安	幼稚園や保育所などの組織や経営、地域･保護者等との連携などの詳細を的確に理解した上で、明確に説明することができる。また幼稚園や保育所などを取り巻く現代の諸問題について十分に理解し説明できるとともに、それらへの対処法や改善の方法について調べたり、自分の考えを持って、簡潔明瞭に説明することがことができる。	幼稚園や保育所などの組織の在り方や経営、地域･保護者等との連携の方法などを理解し、説明できる。また幼稚園や保育所などを取り巻く現代の諸問題について理解し、説明するとともに、それらの対処法について、理解したり自分の考えを持つことができる。	幼稚園や保育所などの組織や経営、地域･保護者等との連携を概ね理解しある程度説明することができる。また幼稚園や保育所などを取り巻く現代の諸問題についての内容を概ね理解したり、それらの対処法について理解したり、考えを持つことができる。	幼稚園や保育所などの組織や経営、地域･保護者等との連携などの基本を理解することができる。また幼稚園や保育所などを取り巻く現代の諸問題について理解することができる。
該当DPに対する到達度の目安	幼稚園や保育所等の組織や経営への理解を十分に深め保育と子育て支援の専門的知識を有し、子どもの成長に必要な技術を獲得することができる。また子育ての環境について深く分析し、幼稚園や保育所などを取り巻く現代の諸問題について十分に理解を深め、その解決に向けて自分で深く考え答を導き出す能力を身につけることができる。	幼稚園や保育所などの組織経営について理解を深め、保育と子育て支援のための専門的知識を有し、子どもの成長に必要な技術を獲得することができる。また子育ての環境について分析し幼稚園や保育所などを取り巻く現代の諸問題について理解し、その解決に向けて答を導き出す能力を身につけることができる。	幼稚園や保育所などの組織経営について理解し、保育と子育て支援のための専門的知識を有し、子どもの成長に必要な技術を概ね獲得することができる。また子育ての環境について理解し幼稚園や保育所などを取り巻く現代の諸問題を知り、その解決に向けて答を導き出す能力を身につけようと努めることができる。	幼稚園や保育所などの組織経営についてある程度理解し、子どもの成長に必要な知識、技術の幾つかを獲得することができる。また子育ての環境についてある程度理解することができ、幼稚園や保育所などを取り巻く現代の諸問題についても理解しようと努力することができる。

年度	2019	学科	保育学科	ナンバリング科目コード	36220	ICT活用	○
授業科目名	教育の方法と技術					実務教員	―
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目						
配当年次	２年	期間	前期	必修区分	幼		
授業形態	講義	単位数	2	担当形態	単独		
教員	三橋　功一						
該当ディプロマ・ポリシー ＤＰ項目番号	DP4,5,6 知識・技能(DP1～3)、思考力・判断力・表現力(DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力(DP7～9)						

授業のテーマ及び到達目標

(1) これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解する。
(2) 主体的･対話的で深い学び・保育を構成する基礎的要件（環境、教材・教具、活動等）と教材研究について説明できる。
(3) 深い学びのための目標・教材研究・学習形態・評価等の研究を踏まえた学習指導案作成について説明できる。
(4) 主体的･対話的で深い学びにおける教材・教具の機能について系譜の考察から説明できる。
(5) 幼児教育における教育機器・教材等の活用(情報活用能力・モラル）について説明できる。
(6) これからの社会を担う子供育成の教育方法（幼小教育連携と主体的・対話的で深い学び）の理論と実践について説明できる。

授業の概要

幼児教育では、「人間形成の基礎となる豊かな心情、物事に関わる意欲、よりよい生活を営む態度等」を育むために、保育者が子どもの発達特性等を考慮し、「環境を通して主体的･対話的で深い学び」の計画（内容・環境・方法等）をつくります。この授業では、幼児期の「環境を通して行う教育」の重要性や多様な保育形態、教材研究の方法、幼小の連携等について学び、豊かな保育を展開するための教育の方法と技術を学ぶことを目標とする。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

授業前に、(1) 資料等を読み、重要語・注目語等にマーキングします。(2) 重要語・注目語等の語彙・意味を辞書・事典等で調査し、予習ノートに記述します。(3) 併せて資料の主張等を整理し概要をまとめるとともに疑問点等をもとに予習ノートに作成し、授業に持参します。授業後に、(4) 授業における学びをノートにまとめます。

標準学修時間の目安

1回の講義あたり予習・復習を含めて4時間の学修が必要である。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

定期試験後に再試験対象者にのみ、課題（試験やレポート等）を返却する。

使用教科書

	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	－	－	－	－
2				
3				

使用教科書備考

授業中に適宜資料を配布する。

参考書・参考資料等

・幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型こども園教育・保育要領
・幼稚園教育指導資料第１集　　文部科学省　　フレーベル館
・幼稚園教育指導資料第5集　　文部科学省　　チャイルド本社

実務経験のある教員の略歴と教育内容

実務経験のある教員に該当しない

その他

・「教室授業の学びと教室外の学びの学習成果」を集成した「学習ポートフォリオ（総合報告書）」を作成してもらい、評価対象とする。
・毎時間授業終了時に、学習の振り返りを記述（「せんせい あのね！」）

授業計画

第 1回　オリエンテーション（授業の進め方等の共通理解）
第 2回　育みたい資質・能力と幼児理解に基づいた教育方法の基礎理論と実践
第 3回　先達（フレーベル等）の教育方法の在り方（育みたい資質・能力と主体的・対話的で深い学び等）
第 4回　保育を構成する基礎的要件（環境を通した主体的･対話的で深い学び・保育）
第 5回　保育を構成する基礎的要件（遊びの中における主体的･対話的で深い学び･保育）
第 6回　保育を構成する基礎的要件（主体的･対話的で深い学びのための教材・教具と教材研究）
第 7回　主体的･対話的で深い学びのための実践の研究と話法など指導の基礎的な技術
第 8回　主体的･対話的で深い学びのための学習理論（目標・教材研究・学習形態・学習評価の基礎的な考え方の理解等）の研究
第 9回　主体的･対話的で深い学びのための目標・教材研究・保育展開・学習形態・評価規準等の研究を踏まえた学習指導案作成
第10回　保育の観察・記録　（育みたい資質・能力と幼児理解に基づいた保育の観察･記録の視点）
第11回　学びをみとる（育みたい資質・能力と幼児理解に基づいた評価の基礎的な考え方）
第12回　主体的・対話的で深い学びにおける教材・教具の機能と系譜（ペスタロッチ，フレーベル，デューイ等から情報機器まで）
第13回　幼児教育における教育機器を活用して効果的に教材等を作成・提示・活用する (情報活用能力・情報モラル)
第14回　これからの社会を担う子ども育成の教育方法（幼小教育連携と主体的・対話的で深い学び）の理論と実践
第15回　まとめ (授業の振り返り等)

成績評価の方法 (試験項目)	筆記 (定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文 (レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（%）	0	0	90	0	10	100

成績評価の基準（ルーブリック）

到達度	秀逸	優秀	良好	最低限
授業の到達目標に対する到達度の目安	幼児期の「環境を通して行う教育」の重要性や多様な保育形態、教材研究の方法幼小の連携等について学び豊かな保育を展開するための教育の方法と技術について理解し、それらを他者に詳細な情報として伝えることができるとともに、保育現場・実践に即した方法と技術を検討できる。	幼児期の「環境を通して行う教育」の重要性や多様な保育形態、教材研究の方法幼小の連携等について学び豊かな保育を展開するための教育の方法と技術について理解し、それらを他者に適切な情報として伝えることができる。	幼児期の「環境を通して行う教育」の重要性や多様な保育形態、教材研究の方法幼小の連携等について学び豊かな保育を展開するための教育の方法と技術について理解している。	幼児期の「環境を通して行う教育」の重要性や多様な保育形態、教材研究の方法幼小の連携等について学び豊かな保育を展開するための教育の方法と技術について断片的であるが理解している。
該当DPに対する到達度の目安	子育て環境を深く分析して課題や問題を見つけ出し、自らの知識・技能を生かしその解決に向け、計画的に考え、答えを導き出す能力を身につけているとともに生涯にわたって学び続け、身につけた知識や技能並びに経験をわかりやすく他者に継続的に情報発信力を身につけている。	子育て環境を深く分析して課題や問題を見つけ出し、自らの知識・技能を生かしその解決に向け、計画的に考え、答えを導き出す能力を身につけているとともに生涯にわたって学び続け、身につけた知識や技能並びに経験をわかりやすく他者に伝えることができる。	子育て環境を深く分析して課題や問題を見つけ出し、自らの知識・技能を生かしその解決に向け、計画的に考え、答えを導き出す能力を身につけているとともに生涯にわたって学び続け、身につけた知識や技能並びに経験をわかりやすく他者に伝えることが難しい。	子育て環境を深く分析して課題や問題を見つけ出し、自らの知識・技能を生かしその解決に向け、計画的に考え、答えを導き出す能力や生涯にわたって学び続けることが難しい。

年度	2019	学科	保育学科	ナンバリング科目コード	36230	ICT活用	○
授業科目名	幼稚園教育実習事前指導					実務教員	○
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等	教育実践に関する科目						
配当年次	２年	期間	その他	必修区分	幼		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	複数		
教員	三橋　功一／三島　裕一／木村　美佐子						
該当ディプロマ・ポリシー ＤＰ項目番号	DP1,2,3,4,5,7,8 知識・技能(DP1～3)、思考力・判断力・表現力(DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力(DP7～9)						

授業のテーマ及び到達目標

・教育実習の意義、目的を理解し、自己課題を明確にできる。
・ねらいを明確にした指導案を書くことができる。
・幼児の姿、保育者の意図を理解した実習日誌の記録方法を説明できる。
・教育実習に向け、意欲を持って準備に取り組むことができる。

授業の概要

教育実習をより充実した学びの多いものにするためには、事前指導が必要である。教育実習の意義と目的を理解し、幼稚園教育について総合的に学ぶ。また、実習に臨む心構えや円滑に実習を進めるために必要な知識、事前の準備について学び、自己課題を明確に設定できることをねらいとする。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

・幼児の発達段階を理解し、年齢や時期に合った保育内容を学習しておくこと。
・幼稚園で広く歌われている曲の伴奏ができるようピアノを練習しておくこと。
・「資料の下調べ」

標準学修時間の目安

1回の講義あたり、1時間の予習と1時間の復習が必要となる。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

課題提出期限後の授業で個別指導を行い、コメントを付した課題を返却する。

使用教科書

	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	―	―	―	―
2				
3				

使用教科書備考

なし

参考書・参考資料等

幼稚園教育要領

実務経験のある教員の略歴と教育内容

三島裕一氏は、24年間の国語教師の経験をもとに、『言葉』、『保育内容総論』、『保育内容（言葉）』等の科目や教育実習に向けた読む力、書く力などについて指導を行う。また、12年間の公立小中学校での管理職、8年間の公立幼稚園長の経験を生かし、『教育経営論』等のかもくにおいて、幼稚園等の経営の実際をもとに、具体的・実践的な授業を行う。

その他

・本科目履修生は、「幼稚園教育実習」「幼稚園教育実習事後指導」を同時に履修すること。
・毎回実習ファイルを持参すること。やむを得ず欠席した場合は必ず資料を担当教員に取りに行くこと。
・授業では課題についてのディスカッションを行う。＊本科目は幼稚園教諭二種免許「教職に関する科目」である。

授業計画

第 1回　オリエンテーション
第 2回　教育実習の意義と目的、幼稚園教育の理解
第 3回　実習の心構え
第 4回　実習関係書類の作成
第 5回　実習記録の書き方①（観察する視点の理解）
第 6回　幼稚園観察学習①（幼児の活動
第 7回　幼稚園観察学習②（環境構成・保育者の活動）
第 8回　研究保育について①（保育のねらいの理解）
第 9回　研究保育について②（保育内容の理解）
第10回　実習記録の書き方②（個別指導）
第11回　指導案の書き方①（記載方法の理解）
第12回　指導案の書き方②（個別指導）
第13回　個別指導（実習目標の確認等）
第14回　自己課題の明確化
第15回　実習直前ガイダンス、指導担当教員との打ち合わせ

成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（%）	0	0	80	0	20	100

成績評価の基準（ルーブリック）

到達度	秀逸	優秀	良好	最低限
授業の到達目標に対する到達度の目安	教育実習の意義と目的を理解し、幼稚園教育について総合的に学ぶとともに、実習に臨む心構えや円滑に実習を進めるために必要な知識、事前の準備について学び、自己課題を明確に設定し、それらを他者に詳細な情報として伝えるとともに教育実習の自己課題実現の具体的方法を検討できる。	教育実習の意義と目的を理解し、幼稚園教育について総合的に学ぶとともに、実習に臨む心構えや円滑に実習を進めるために必要な知識、事前の準備について学び、自己課題を明確に設定し、それらを他者に適切な情報として伝えることができる。	教育実習の意義と目的を理解し、幼稚園教育について総合的に学ぶとともに、実習に臨む心構えや円滑に実習を進めるために必要な知識、事前の準備について学び、自己課題を明確に設定できる。	教育実習の意義と目的を理解し、幼稚園教育について総合的に学ぶとともに、実習に臨む心構えや円滑に実習を進めるために必要な知識、事前の準備について学び自己課題を設定できる。
該当DPに対する到達度の目安	保育者の社会的使命を理解し、地域の特性の的確に把握し子育て環境を分析し、保育・子育て支援に必要な専門的知識・技術を身につけることができ、子どもの成長を促す的確・詳細な情報の収集と他者への発信と課題解決に向け継続的に努力することができる。	保育者の社会的使命を理解し、地域の特性の的確に把握し子育て環境を分析し、保育・子育て支援に必要な専門的知識・技術を身につけることができ、子どもの成長を促す的確な情報の収集と他者への発信と課題解決に向け努力をすることができる。	保育者の社会的使命を理解し、地域の特性の的確に把握し子育て環境を分析し、保育・子育て支援に必要な専門的知識・技術を身につけることができ、子どもの成長を促す情報の収集と他者への発信ができる。	保育者の社会的使命を理解し、地域の特性の的確に把握し子育て環境を分析し、保育・子育て支援に必要な専門的知識・技術を身につけられず、子どもの成長を促す情報の収集や他者への発信を行うことが難しい。

年度	2019	学科	保育学科	ナンバリング科目コード	36331	ICT活用	―
授業科目名	幼稚園教育実習事後指導					実務教員	○
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等	教育実践に関する科目						
配当年次	２年	期間	その他	必修区分	幼		
授業形態	演習	単位数	1	担当形態	複数		
教員	三橋　功一／三島　裕一／木村　美佐子						
該当ディプロマ・ポリシー ＤＰ項目番号	DP1,2,3,4,5,7,8 知識・技能(DP1～3)、思考力・判断力・表現力(DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力(DP7～9)						

授業のテーマ及び到達目標

・教育実習を振り返り、学んだ成果と課題を確認できる
・実習報告会を通して学びを共有し、幼稚園教諭としての課題を理解する
・自らの教育実践を省察し、指導案を修正することができる

授業の概要

3週間にわたる幼稚園教育実習終了後に、実習で体験し学んだことを総括し、今後の学習課題を明確にすることをねらいとする。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

・教育実習報告会の資料作成、研究保育指導案の修正
・学生同士のディスカッションにより、自らの課題について理解を深める。

標準学修時間の目安

1回の講義あたり、1時間の予習と1時間の復習が必要となる。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

課題（指導案等）提出期限後の授業で、コメントを付した課題を返却する。

使用教科書

	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	―	―	―	―
2				
3				

使用教科書備考

なし

参考書・参考資料等

幼稚園教育要領

実務経験のある教員の略歴と教育内容

三島裕一氏は、24年間の国語教師の経験をもとに、『言葉』、『保育内容総論』、『保育内容（言葉）』等の科目や教育実習に向けた読む力、書く力などについて指導を行う。また、12年間の公立小中学校での管理職、8年間の公立幼稚園長の経験を生かし、『教育経営論』等のかもくにおいて、幼稚園等の経営の実際をもとに、具体的・実践的な授業を行う。

その他

・実習ファイルを毎回持参すること。
・本科目履修生は、「幼稚園教育実習」「幼稚園教育実習事前指導」を同時に履修すること。
・1～7回は90分、8回目は45分授業とする。

授業計画

第 1回　オリエンテーション
第 2回　教職履修カルテの記入
第 3回　実習報告会１（発表：Ａグループ、記録・質問：Ｂグループ）
第 4回　実習報告会2（発表：Ａグループ、記録・質問：Ｂグループ）
第 5回　実習報告会3（発表：Bグループ、記録・質問：Aグループ）
第 6回　実習報告会4（発表：Bグループ、記録・質問：Aグループ）
第 7回　教育実習の成果と課題
第 8回　教育実習の自己評価
第 9回　研究保育を振り返って
第10回　指導案の再作成
第11回　グループワーク1（研究保育の改善点）
第12回　グループワーク2（研究保育の改善点）
第13回　教育実習評価の理解・個別指導
第14回　教育実習評価の理解・個別指導
第15回　まとめ　自己課題の明確化

【学生に対する評価】
・実習報告会での発表内容、提出課題、グループワークへの参加態度等を総合的に評価する。

成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（%）	0	0	80	0	20	100

成績評価の基準（ルーブリック）

到達度	秀逸	優秀	良好	最低限
授業の到達目標に対する到達度の目安	3週間にわたる幼稚園教育実習終了後に、実習報告会・研究保育等の振り返りを通し自らの教育実践を省察し、学びの成果を共有するとともに幼稚園教諭としての課題を理解し、それらを他者に詳細な情報として伝えることができ、学び続ける保育者として学びの具体策を検討できる。	3週間にわたる幼稚園教育実習終了後に、実習報告会・研究保育等の振り返りを通し自らの教育実践を省察し、学びの成果を共有するとともに幼稚園教諭としての課題を理解し、それらを他者に適切な情報として伝えることができる。	3週間にわたる幼稚園教育実習終了後に、実習報告会・研究保育等の振り返りを通し自らの教育実践を省察し、学びの成果を共有するとともに幼稚園教諭としての課題を理解している。	3週間にわたる幼稚園教育実習終了後に、実習報告会・研究保育等の振り返りを通し自らの教育実践を省察し、学びの成果を共有するとともに幼稚園教諭としての課題を断片的であるが理解している。
該当DPに対する到達度の目安	保育者の社会的使命を理解し、地域の特性の的確に把握し子育て環境を分析し、保育・子育て支援に必要な専門的知識・技術を身につけることができ、子どもの成長を促す的確・詳細な情報の収集と他者への発信と課題解決に向け継続的に努力することができる。	保育者の社会的使命を理解し、地域の特性の的確に把握し子育て環境を分析し、保育・子育て支援に必要な専門的知識・技術を身につけることができ、子どもの成長を促す的確な情報の収集と他者への発信と課題解決に向け継続的な努力をすることができる。	保育者の社会的使命を理解し、地域の特性の的確に把握し子育て環境を分析し、保育・子育て支援に必要な専門的知識・技術を身につけることができ、子どもの成長を促す情報の収集と他者への発信ができる。	保育者の社会的使命を理解し、地域の特性の的確に把握し子育て環境を分析し、保育・子育て支援に必要な専門的知識・技術を身につけられず、子どもの成長を促す情報の収集や他者への発信を行うことが難しい。

年度	2019	学科	保育学科	ナンバリング科目コード	36330	ICT活用	―
授業科目名	幼稚園教育実習					実務教員	○
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等	教育実践に関する科目						
配当年次	２年	期間	その他	必修区分	幼		
授業形態	実験・実習	単位数	4	担当形態	複数		
教員	三橋　功一／三島　裕一／木村　美佐子						
該当ディプロマ・ポリシー ＤＰ項目番号	DP1,2,3,4,5,7,8 知識・技能(DP1～3)、思考力・判断力・表現力(DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力(DP7～9)						

授業のテーマ及び到達目標

・幼稚園の社会的意義と幼稚園教諭の職務を理解し説明できる。
・幼児、保育者とコミュニケーションを図りながら、主体的に実習に取り組むことができる。
・課題を明確にして実習内容を記録し、次の保育に生かすことができる。
・幼児の実態を理解し、適切な保育計画を立案・実施することができる

授業の概要

教育実習は本学で学んできた幼稚園教育に関する様々な理論や知識、技能等を基盤として、幼稚園において実際に幼児と遊びや活動、生活を一緒に過ごしながら、幼児期にふさわしい教育についての理解を深め教員としての資質能力を身に付けることをねらいとする。
本学では実習期間を3週間と設定し、見学・観察実習、参加実習、責任実習（研究保育等）を行う。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

・実習日誌の記録、指導案作成等は、目的意識を持ち、資料を参考にしながら取り組むこと。
・幼児の発達段階を復習し、年齢や時期に合った保育内容を学習しておくこと。
・関連する事柄についての資料の下調べをあらかじめ行うこと。

標準学修時間の目安

1日の実習日誌の記録に2～4時間程度の学修が必要である。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

実習幼稚園からの評価を開示する。

使用教科書

	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	―	―	―	―
2				
3				

使用教科書備考

なし

参考書・参考資料等

幼稚園教育要領

実務経験のある教員の略歴と教育内容

三島裕一氏は、24年間の国語教師の経験をもとに、『言葉』、『保育内容総論』、『保育内容（言葉）』等の科目や教育実習に向けた読む力、書く力などについて指導を行う。また、12年間の公立小中学校での管理職、8年間の公立幼稚園長の経験を生かし、『教育経営論』等の科目において、幼稚園等の経営の実際をもとに、具体的・実践的な授業を行う。

その他

・１年次開講の卒業必修科目、幼稚園教諭免許必修科目・選択必修科目を単位取得済みであること。
・但し、特段の理由がある場合は、保育学科教務委員会の審査を経て特別に履修を許可することがある。
＊本科目は、幼稚園教諭二種免許の「教職に関する科目」である。

授業計画

第 1回　幼稚園教育実習では、15日間で以下の内容を学ぶ、観察実習における視点の理解
第 2回　一日の保育の流れの理解
第 3回　保育内容の理解
第 4回　幼稚園教諭の職務の理解
第 5回　実習日誌の適切な記録
第 6回　参加実習の基本的な理解
第 7回　幼児理解
第 8回　幼稚園の社会的意義の理解
第 9回　園の教育目標の理解
第10回　指導技術の習得
第11回　責任実習に向けての準備とまとめ
第12回　幼稚園教諭に求められる資質の理解
第13回　指導案の作成・教材研究
第14回　指導案に基づいた保育の実践（研究保育）
第15回　教育観の確立

成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（%）	0	30	40	0	30	100

成績評価の基準（ルーブリック）

到達度	秀逸	優秀	良好	最低限
授業の到達目標に対する到達度の目安	本学で学んできた幼稚園教育に関する様々な理論や知識、技能等を基盤として、幼稚園において実際に幼児と遊びや活動、生活を一緒に過ごしながら、幼児期にふさわしい教育についての理解を深め、教員としての資質能力を身に付けるとともに、それらを他者に詳細な適切な情報として伝え、学び続ける保育者として学びの具体策を検討できる。	本学で学んできた幼稚園教育に関する様々な理論や知識、技能等を基盤として、幼稚園において実際に幼児と遊びや活動、生活を一緒に過ごしながら、幼児期にふさわしい教育についての理解を深め、教員としての資質能力を身に付けるとともに、それらを他者に適切な情報として伝えることができる。	本学で学んできた幼稚園教育に関する様々な理論や知識、技能等を基盤として、幼稚園において実際に幼児と遊びや活動、生活を一緒に過ごしながら、幼児期にふさわしい教育についての理解を深め、教員としての資質能力を身に付ける。	本学で学んできた幼稚園教育に関する様々な理論や知識、技能等を基盤として、幼稚園において実際に幼児と遊びや活動、生活を一緒に過ごしながら、幼児期にふさわしい教育についての理解を深め、教員としての資質能力を断片的であるが身に付いている。
該当DPに対する到達度の目安	保育者の社会的使命を理解し、地域の特性の的確に把握し子育て環境を分析し、保育・子育て支援に必要な専門的知識・技術を身につけることができ、子どもの成長を促す的確・詳細な情報の収集と他者への発信と課題解決に向け継続的に努力することができる。	保育者の社会的使命を理解し、地域の特性の的確に把握し子育て環境を分析し、保育・子育て支援に必要な専門的知識・技術を身につけることができ、子どもの成長を促す的確な情報の収集と他者への発信と課題解決に向け継続的な努力をすることができる。	保育者の社会的使命を理解し、地域の特性の的確に把握し子育て環境を分析し、保育・子育て支援に必要な専門的知識・技術を身につけることができ、子どもの成長を促す情報の収集と他者への発信ができる。	保育者の社会的使命を理解し、地域の特性の的確に把握し子育て環境を分析し、保育・子育て支援に必要な専門的知識・技術を身につけられず、子どもの成長を促す情報の収集や他者への発信を行うことが難しい。

年度	2019	学科	保育学科	ナンバリング科目コード	35410	ICT活用	―
授業科目名	保育・教職実践演習					実務教員	○
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等	教育実践に関する科目						
配当年次	２年	期間	後期	必修区分	保幼		
授業形態	演習	単位数	2	担当形態	複数		
教員	保育学科教員						
該当ディプロマ・ポリシー ＤＰ項目番号	DP1,2,3,4,5,6,7,8,9 知識・技能(DP1～3)、思考力・判断力・表現力(DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力(DP7～9)						

授業のテーマ及び到達目標

1. 本学における教育課程の全体を通して、保育士及び幼稚園教諭として必要な保育に関する専門的知識及び技術、幅広く深い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観等が習得、形成されたか、自らの学びを振り返り把握する。
2. 保育実習・教育実習を通じた自らの体験や収集した情報に基づき、保育・教育に関する今日の社会的状況等の課題について現状を分析し、その課題への対応として保育士及び幼稚園教諭の職務内容、子どもに対する責任、倫理、子どもやその家庭の理解、職員間の連携、関係機関との連携等、保育・教育の現場、地域、社会に求められることは何か、多様な視点から考察する力を習得する。
3. 1及び2を踏まえ、自己の課題を明確化し、保育・教育の実践に際して必要となる基礎的な資質・能力の定着をさせる。
   ①保育・教職に関する科目横断的な学習能力を習得することができる。
   ②保育に関する現代的課題について、現状分析、考察、検討を行うことができる。
   ③保育の現代的課題に対する問題解決のための対応、判断方法等について学びを深めることができる。
   ④これまでの自らの学びを振り返り、保育者としての必要な知識・技能を修得したことを確認した上で、保育者としての自己課題を明確にすることができる。

授業の概要

この授業では、これまでの学修の集大成として既習科目を複合させ保育者として必要な資質能力について確実に身に付けるとともに、その資質能力の全体像を確認することを目的としている。すなわち、これまでの学習を踏まえて、保育士・幼稚園教諭として必要な知識技能を修得したことを確認する。具体的内容として、①保育者としての責任感、使命感の再確認、②保育者に必要な社会性、対人関係能力の向上、③子ども理解、学級経営に関する理解、④保育内容の指導力のさらなる向上をめざす。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

事前学習:これまで学んできた保育・教職に関する各々の科目がどのようにつながるか、授業と法区実習、教育実習を振り返り、この授業で習得すべき資質能力、知識・技術は何かを把握しておくこと。
事後学習:指導案立案、レポート作成等は授業では時間的に不足するため、授業の空き時間、放課後を利用してグループで協議し早めに取り組むこと。

標準学修時間の目安

次回の講義までに予習・復習を含めて4時間の学修が望ましい。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

課題(指導案やレポート等)提出期限後の授業でコメントを付した課題を返却する。

使用教科書

	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	なし	－	－	－
2				
3				

使用教科書備考

幼稚園指導要領、保育所保育指針、幼稚連携型認定こども園教育・保育要領、その他に授業中に適宜資料を配布する。

参考書・参考資料等

なし

実務経験のある教員の略歴と教育内容

家村昭矩氏は、児童自立支援施設（10年）、児童相談所、心身障害者総合相談所等（22年間）、保育士養成校（短大）教員の勤務経験を活かした指導を行う。岡崎圭子氏は、長きに渡り函館市役所で勤務し、子ども未来部長職の経歴からと保育士資格を取得したことにより、保育について幅広い知識を持っている。この経験から的確な指導をおこなうことができる。

その他

本科目は、幼稚園教諭二種免許の「教育実践に関する科目」、「保育士資格必修科目」である。

授業計画

第 1回　保育・教育に関する科目横断的な学習能力の習得を目指して
　　～これまでの学修を振り返ることの意義～
第 2回　保育士・幼稚園教諭の意義と役割
　　～使命感、責任感 、倫理、教育的愛情を中心に～（後半：グループ討論）
第 3回　保育士・幼稚園教諭に求められる社会性と対人関係 能力（後半：グループ討論）
第 4回　幼児理解に基づく学級経営の実際（後半：グループ 討論）
　　～「幼児理解」での学びを振り返って～
第 5回　保育や子育て家庭の理解、職員間の連携、関係機関との連携
　　～少子化への対応、長時間保育と子どもの発達～
第 6回　保育の現代的課題の問題発見① 虐待問題：函館児童相談所職員による問題提起等
第 7回　場面別グループ学習①：指導案づくり
　　～実習指導を振り返って～
第 8回　保育・子育ての現代的課題の分析、考察、検討①
　　～虐待問題と世代間連鎖：問題解決のための対応～
第 9回　保育の現代的課題の問題発見② 小学校との連携：函館市教育委員会の講話
第10回　場面別グループ学習②指導案の再検討
　　～実習指導を振り返って～
第11回　保育・子育ての現代的課題の分析、考察、検討②
　　～小１プロブレムがおこる背景と問題解決のための対応～
第12回　模擬保育ロールプレーイング①親子遠足場面
　　～保育内容の指導力の更なる向上にむけたグループ討議～
第13回　模擬保育ロールプレーイング②避難訓練場面
　　～保育内容の指導力の更なる向上にむけたグループ討議～
第14回　模擬保育ロールプレーイング③運動会練習場面
　　～保育内容の指導力の更なる向上にむけたグループ討議～
第15回　資質能力の確認と自己課題の明確化
　　～学びの振り返り、教職カルテ、必要な知識技能修得の確認 ～

【学生に対する評価】
レポート課題（30%）、指導案の作成（30%）、グループ発表（20%）、授業態度、グループ討議における積極性（20%）

成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（%）	0	0	60	0	40	100

成績評価の基準（ルーブリック）

到達度	秀逸	優秀	良好	最低限
授業の到達目標に対する到達度の目安	学修の集大成として既習科目と複合させ、保育者として必要な資質能力を確実に身に付ける。特に、保育者としての責任感・使命感、保育者に必要な社会性・対人関係能力、子ども理解・学級経営等を他者に詳細かつ適切な情報として伝えることができる。	学修の集大成として既習科目と複合させ、保育者として必要な資質能力を確実に身に付ける。特に、保育者としての責任感・使命感、社会性・対人関係、子ども理解・学級経営について理解し、他者に適切な情報として伝えることができる。	保育者として必要な資質能力を確実に身に付ける。また、保育者としての責任感・締め有漢、社会性・対人関係、子ども理解・学級経営について理解している。	保育者として必要な資質能力を確実に身に付ける。また、保育者としての責任感・使命感、社会性・対人関係、度も理解・学級経営について断片的であるが理解している。
該当DPに対する到達度の目安	学修の集大成として既習科目と複合させ、保育者として必要な資質能力、さらには、保育者としての責任感・使命感、社会人力・コミュニケーション力を身に付けると同時に関連する情報の継続的な収集と他者への発信力を身に付けている。	学修の集大成として既習科目と複合させ、保育者として必要な資質能力、さらには、保育者としての責任感・使命感、社会人力・コミュニケーション力を身に付け、より詳細な情報の収集と他者への発信に向けて努力することができる。	学修の集大成として既習科目と複合させ、保育者として必要な資質能力、さらには、保育者としての責任感・使命感、社会人力・コミュニケーション力を身に付け、ある程度の情報の収集と他者への発信ができる。	学修の集大成として既習科目と複合させ、保育者として必要な資質能力、さらには、保育者としての責任感・使命感、社会人力・コミュニケーション力が身につかず、他者へ発信を行うことがほとんどできない。

年度	2019	学科	保育学科	ナンバリング科目コード	36140	ICT活用	―
授業科目名	レクリエーション指導法					実務教員	―
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	２年	期間	後期	必修区分	レ		
授業形態	講義	単位数	2	担当形態	単独		
教員	松本　伸吾						
該当ディプロマ・ポリシー ＤＰ項目番号	DP5,8 知識・技能(DP1～3)、思考力・判断力・表現力(DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力(DP7～9)						

授業のテーマ及び到達目標

・レクリエーションにおける、基本的な支援の基礎を理解する。
・コミュニケーション技術や集団を対象としたレクリエーション・ワークの技術を身に付ける。
・日本レクリエーション協会公認指導者のレクリエーション・インストラクター資格取得に必要な基礎理論を身に付ける。

授業の概要

レクリエーションにおける基本的な支援の基礎を理解し、コミュニケーション技術や集団を対象としたレクリエーション・ワークの技術を身に付け、楽しさをとおした心の元気づくりのプログラムを立案し、実践力を身に付ける。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

・授業にて配布される資料を熟読すると共に、予習復習をして基礎となる理論をしっかりと身につけること。
・授業の他にも地域社会における様々なレクリエーション活動に目を向け、レクリエーション活動への理解を深めることやレクリエーション活動を体験することが望ましい。

標準学修時間の目安

１回の講義あたり予習・復習を含めて4時間程度の学修が必要である。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

課題ごとにレポートを提出し、講義内容の理解に努める。

使用教科書

	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	日本レク協会教本	日本レクリエーション協会	日本レク協会	978-4-931180-95-6
2				
3				

使用教科書備考

楽しさをとおした心の元気づくり　レクリエーション支援の理論と方法

参考書・参考資料等

なし

実務経験のある教員の略歴と教育内容

実務経験のある教員に該当しない。

その他

なし

授業計画

第 1回　オリエンテーション・レクリエーション支援とは、レクリエーション・インストラクターの２つの役割
第 2回　楽しさをとおした心の元気づくりと対象者の心の元気
第 3回　元気と地域のきずな
第 4回　コミュニケーションと信頼関係づくりの理論
第 5回　良好な集団づくりの理論
第 6回　自主的・主体的に楽しむ力を育む理論
第 7回　リスク・マネージメントの方法
第 8回　レクリエーション活動の安全行動と留意点
第 9回　個々人のアセスメントに基づいたプログラム
第10回　市民を対象とした事業の作り方とイベントの応用
第11回　プログラムの立案
第12回　レクリエーション支援のプログラムの立案方法
第13回　レクリエーション支援のプログラムの立案
第14回　対象に合わせたレク・ワークの基本技術
第15回　対象に合わせたレク・ワークの段階的アレンジ技術、まとめ

成績評価の方法 (試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（%）	0	30	60	0	10	100

成績評価の基準（ルーブリック）

到達度	秀逸	優秀	良好	最低限
授業の到達目標に対する到達度の目安	レクリエーションにおける基本的な支援を理解し、ホスピタリティやアイスブレーキング等の技法を活かすことができ、レクリエーション活動の楽しさや有用性を理解し活動に活かすことができる。	レクリエーションにおける基本的な支援を理解し、ホスピタリティやアイスブレーキング等の技法を理解し、レクリエーション活動の楽しさを活動に活かすことができる。	レクリエーションにおける基本的な支援を理解し、レクリエーション活動の楽しさを活動に活かすことができる。	レクリエーションにおける基本的な支援の理解が十分でなく、レクリエーション活動の楽しさを活動に十分に活かすことができない。
該当DPに対する到達度の目安	身に付けた知識と技能を活かし、対象者に合わせた心の元気づくりをアレンジし自己評価して改善していくと共に、身に付けたコミュニケーション力を活かし、他者と協力して課題に取り組むことができる。	身に付けた知識と技能を活かし、対象者に合わせた心の元気づくりをアレンジしていくと共に、身に付けたコミュニケーション力を活かし、他者と協力して課題に取り組むことができる。	身に付けた知識と技能を活かし、対象者に合わせた心の元気づくりを実践していくと共に、身に付けたコミュニケーション力を活かし課題に取り組むことができる。	身に付けた知識と技能を活かし、対象者に合わせた心の元気づくりを実践していくことが十分できず、身に付けたコミュニケーション力を十分に活かすことができない。

年度	2019	学科	保育学科	ナンバリング科目コード	36340	ICT活用	―
授業科目名	レクリエーション現場実習					実務教員	―
科目	専門教育科目						
施行規則に定める科目区分または事項等							
配当年次	２年	期間	その他	必修区分	レ		
授業形態	実験・実習	単位数	1	担当形態	複数		
教員	松田　賢一／山下　真由美						
該当ディプロマ・ポリシー ＤＰ項目番号	DP5,8 知識・技能(DP1～3)、思考力・判断力・表現力(DP4～6)、コミュニケーション力・社会人力(DP7～9)						

授業のテーマ及び到達目標

1.健康づくり、介護予防に関わる事業を説明できる。
2.社会参加を促進する事業を説明できる。
3.青少年の健全育成、子育て支援に関わる事業を説明できる。
4.地域づくり、コミュニケーションづくりに関わる事業を説明できる。
5.生涯学習、生涯スポーツの進行に関わる事業を説明できる。
6.地域文化、生涯スポーツの進行に関わる字義用を説明できる。

授業の概要

レクリエーション・インストラクター資格取得の為の必修科目である。レクリエーション活動が実際に行われている現場において、実際に指導する上で必要となる様々な記述や配慮事項、運営方法等を総合的に学習する。具体的には、地域等で開催されているレクリエーションの事業について理解し、参加した事業について参加者、スタッフ、運営責任者それぞれの立場から分析し、より良い事業にするためのアイディアを生み出すことができるようになることを目指す。

授業外に行うべき学習（予習・復習、準備学習）

予習：レクリエーション・インストラクター取得関連科目で学んだ内容が本実習で必要とされる。
復習：:実際に現場に出て実習を行ってきた後、振り返りの時間として、自己の行動等の改善点・反省点を随時まとめること。

標準学修時間の目安

1回の報告書（レポート)作成に、1～2時間程度の学習が必要になる。

課題（試験やレポート等）のフィードバック

模範的なレポートを研究室において開示する。

使用教科書

	教科書名	著者名	出版社名	ISBN
1	なし	－	－	－
2				
3				

使用教科書備考

なし

参考書・参考資料等

必要がある場合は、プリントを適宜配布する。

実務経験のある教員の略歴と教育内容

実務経験のある教員に該当しない。

その他

指定されたレクリエーション関連事業および関連大会に必ず出席し、そのレポートを提出することが評価の対象となる。関連事業並びに関連大会については、別途知らせる。

授業計画

第 1回　ガイダンス、現場実習の留意点
第 2回　レクリエーション現場実習について
第 3回　事業参加の目的と実施形態
第 4回　現場実習参加への用意・準備
第 5回　行事運営の流れ
第 6回　コミュニケーション・ワーク
第 7回　ホスピタリティー・トレーニングの実践
第 8回　レクリエーション支援のプログラム立案
第 9回　レクリエーション支援のプログラム評価
第10回　レクリエーション支援のプログラムの改善法
第11回　行事企画のプロセスとポイント
第12回　対象者の把握(アセスメント)
第13回　事業評価について　レクリエーション支援の実施
第14回　事業の実施について
第15回　同協会加盟団体が主催する事業に参加

成績評価の方法(試験項目)	筆記(定期試験・小テスト)	口述・実技等	論文(レポート・課題等)	その他の試験	学習意欲等	合計
配分割合（%）	0	0	80	0	20	100

成績評価の基準（ルーブリック）

到達度	秀逸	優秀	良好	最低限
授業の到達目標に対する到達度の目安	レクリエーション活動が実際に行われている現場において実際に指導する上で必要となる技術や配慮事項、運営方法等を総合的に学び適切な対処法を検討することができる。	レクリエーション活動が実際に行われている現場において実際に指導する上で必要となる技術や配慮事項、運営方法等を総合的に学びそれらを他者に適切に伝えることができる。	レクリエーション活動が実際に行われている現場において実際に指導する上で必要となる技術や配慮事項、運営方法等を総合的に学び理解している。	レクリエーション活動が実際に行われている元はにおいて実際に指導する上で必要となる技術や配慮事項、運営方法等を断片的であるが理解している。
該当DPに対する到達度の目安	レクリエーション活動が実際に行われている現場において実際に指導する上で必要となる技術や配慮事項、運営方法等を他者への発信力を身に付けている。	レクリエーション活動が実際に行われている現場において実際に指導する上で必要となる技術や配慮事項、運営方法等を課題解決に向けて、努力することができる。	レクリエーション活動が実際に行われている現場において実際に指導する上で必要となる技術や配慮事項、運営方法等他者への発信ができる。	レクリエーション活動が実際に行われている現場において実際に指導する上で必要となる技術や配慮事項、運営方法等他者へ発信を行うことが殆どできない。